

研 究 編

第 1 章 研究抄録関係

第 2 章 研究発表関係

第1章 研究抄録関係

1. 重点プロジェクト研究

1 がんゲノム予防医療プロジェクト

<研究課題> 1-(1)

大規模病院疫学研究を基盤とした遺伝性腫瘍のリスク群における個別化予防を志向したエビデンス創出研究

Evidence-generating research aimed at individualized prevention of cancers in high-risk groups with hereditary cancer syndromes based on a large-scale hospital-based cohort study

<研究者氏名>

所属部 分子遺伝学分野

研究者氏名 井本逸勢

共同研究者 田近正洋*、原 和生、清水泰博*、伊藤誠二、小森康司、岩田広治*、鈴木史朗、山口 類、松尾恵太郎、伊藤秀美 (*コ・リーダー)

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

目的：遺伝要因としていわゆる遺伝性腫瘍症候群の原因遺伝子変異を含む表現型への寄与度が大きい稀なバリエーションに関して、集団内での頻度、がんの浸透率や悪性度などとの関連、環境要因との相互作用などを明らかにすることが、ハイリスクグループの把握と医療やライフスタイルでの介入による個別化予防の社会実装を可能にすることに大きく貢献できる。しかし、国内には、どの情報を基に対象の層別化を行いどのようなアプローチで介入することががんの重症化や死亡の減少につながるかというがん予防のエビデンス創出に有用な、詳細な疫学情報と疾患情報に紐付けされた大規模ゲノムデータベースが存在しない。

本研究では、研究課題1-2)「大規模病院疫学研究をベースとした環境要因・遺伝要因を用いた散発性がんの個別化予防を志向したエビデンスの創出研究」(リーダー：松尾恵太郎分野長)、研究課題4-1)「愛知県のがん対策、医療評価と将来予測のための、生活習慣情報、社会経済的情報、医療情報の連結データベースの構築と活用」(リーダー：伊藤秀美分野長)の2つのプロジェクトと共に、愛知県がんセンター大規模病院疫学コホート(HERPACC)参加者を対象に、病院・研究所が一体となって、遺伝性・散発性に関わらず横断的ながん予防のエビデンス創出に資する詳細な疫学情報と疾患情報に紐付けされた大規模ゲノムデータベースの基盤を構築し、研究リソースとしてシェアすることを目標とする。目標達成による成果をもとにそれぞれの個別研究が進むことで、県民だれもが、がんになりにくく、なっても早く治せて早く社会復帰でき、健康に活躍できる時間を長く持てる愛知県を社会で実現することを目的とする。

方法、進捗状況と考察：2年目の研究項目である、胃がん、膵がん、卵巣がん、前立腺がん患者コホートの計1023検体とそれに対する対照非がん者の1327検体を選択し、生殖細胞系列の34遺伝子の標的リシーケンスを実施した。具体的には、①解析対象症例の選択と解析用ゲノムDNA検体の準備、②解析対象がん者の臨床・疫学情報の収集、③ Multiplex PCRによるライブラリ作成実施、④次世代シーケンサーによるライブラリのシーケンス実施とデータ収集を完了し、データのアノテーション、キュレーションまで行なった。これまで、リシーケンスに関しては全研究項目について予定どおり進捗している。

さらに、ゲノムスクリーニング以外のハイリスク群抽出方法に関する臨床的なアプローチとして、愛知県がんセンター初診患者の間診票を用いたスクリーニングも2年目に入っている。2020年度は、4200名(2020年4月1日～2021年3月16日)を対象に間診票情報を用いた遺伝性腫瘍疑い患者のスクリーニングを行い、2235人が拾い上げられ、診療情報から遺伝カウンセリング紹介勧奨者の絞込みにより154名(初診患者中3.7%、拾い上げ患者中6.9%)が勧奨対象者として抽出され、ほぼ予測された数(3.5%)が抽出できていると考えられた。

成果：本研究課題と研究課題1-2)(リーダー：松尾恵太郎分野長)で得られる情報を基盤の一部に展開する個別研究として、日本医療研究開発機構(AMED)革新的がん医療実用化研究事業(令和2～4年)に、「がんリスクに対する環境要因・遺伝要因の公衆衛生的インパクトを評価する大規模分子疫学研究(研究代表者：松尾恵太郎分野長)が採択され、分担研究者として参加中である。また、本課題に関連して、疾患関連バリエーションの論文発表の際における国際的な記載法の遵守についての国際共同声明に関する論文、ならびにヒト疾患で検出されたバリエーションの病原性を確定する機能解析法に関する論文を発表した。

<研究課題> 1-(2)

大規模病院疫学研究をベースとした環境要因・遺伝要因を用いた散発性がんの個別化予防を志向したエビデンスの創出研究

A project constructing of evidences for individualized cancer prevention of sporadic cancers using environmental and genetic information based on a large-scale hospitable-based epidemiological research at Aichi Cancer Center.

<研究者氏名>

所属部 がん予防研究分野

研究者氏名 松尾恵太郎

共同研究者 伊藤秀美、井本逸勢、細野祥之、春日井由美子

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

(目的)

遺伝性腫瘍を除く散発性のがんの予防には、がん罹患リスクを下げるための1次予防、がん死亡リスクを下げるための2次予防(検診)、がん再発・副作用等の予防を目指す3次予防がある。統合的ながん予防を実践するためには、この三種類の予防を意識した統合的な研究を実施する必要がある。

本邦におけるがん予防エビデンスは、環境情報あるいは遺伝子情報の一方のみに基づく研究が殆どで、両者を組み合わせた形の予防エビデンスの構築には程遠い。国際的には、両者を組み合わせた予防への試みが為されている。我々は、愛知県がんセンター病院初診患者を対象に、網羅的に実施した疫学調査(HERPACC)を基に、飲酒という特定の環境要因に注目し、その遺伝的背景との組合せによる予防効果を1～3次予防の観点から頭頸部・食道・胃・大腸・膵臓・乳腺の診療科との連携により追及してきた実績がある(Matsuo et al. Carcinogenesis 2001, 2006, 2013等)。飲酒以外のリスク要因にも同様のアプローチを個別に実施している。ただし、網羅的遺伝情報と環境要因との組み合わせた検討は、まだ端緒に手を付けたのみである(Sueta A et al. Breast Cancer Res Treat 2012, Abe M et al. J Cancer Res Clin Oncol 2017, Koyagani et al. Eur J Cancer Prev 2017)。本プロジェクトでは、HERPACCの疫学調査資料、試料を元に大規模な分子疫学的な検討を行い、各種散発性のがんに対する個別化予防につながるエビデンスの構築を目的とする。

(方法)

2001年～2013年に実施されたHERPACC研究に基づき、遺伝子解析、検査情報を含む臨床情報とのリンケージに関する同意をし、且つ詳細な疫学情報の得られた25,407名の参加者から選択する。うち、非がん者13,814名(ゲノムスキャン未7,949名、以下()内は同じ)、胃がん1,480名(773)、大腸がん1,144名(588)、食道がん659名(385)、膵臓がん386名(71)、頭頸部がん877名(480)、乳がん1,217名(257)、肺がん(1,418名(943))が主たる研究の対象である。また、2017年11月より検体収集が開始されたがんバイオバンク愛知の参加者(2018年7月より疫学情報も収集、年4～5000名収集見込み)も検証用の対象者として含める予定である。バイオバンク対象者も遺伝子解析に関する同意を取得済である。非がん対照者に関しては、各がん症例と性・年齢等をマッチングした4,500名程度をランダムサンプリングする。これらのデータを用い、症例対照研究を実施し、エビデンスの構築を図る。

(進捗状況)

ゲノムスキャンの進捗に関しては、非がん者13,814名6,439名、胃がん1,480名中1,369名、大腸がん1,144名(588)、食道がん659名(385)、膵臓がん386名(71)、頭頸部がん877名(480)、乳がん1,217名中1,089名、肺がん1,418名中950名がスキャンを終えている。

現在、国立がん研究センター、名古屋大学、東北大学、岩手医科大学、京都大学との連携により、日本人の飲酒行動を決める遺伝子座に関する全ゲノム関連解析研究GWASのMeta-

analysisを実施している。ALDH2のrs671遺伝子型で層別する事により、アルコール代謝関連酵素の遺伝子座を含む新たな遺伝子座を見出している。現在これらの再検を大阪大学・東大・理化学研究所と実施している。また、新たな遺伝子多型に関して機能の探索を行っている。今後飲酒関連がんにおいて、新規の遺伝子座がリスクに環境要因を含めてどのように影響を与えるかを明らかにする予定である。

(考察)

飲酒関連がんは、遺伝子環境要因交互作用が明らかに認められるがん種であり、今回の発見が個別化予防に資するエビデンスとなる事が期待される。HERPACCの情報を元に、更に国内外の研究チームと連携することで所期の目的を達成する事ができると考えられる。

2 がん超精密医療プロジェクト

<研究課題> 2-(1)

分子標的治療薬に対する耐性機序解明に関わる基盤形成

Molecular and cellular biology tissue culture core project to interrogate the mechanism of resistance to molecular targeted therapy

<研究者氏名>

所属部 がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

研究者氏名 衣斐寛倫

共同研究者 室 圭、樋田豊明、青木正博、松下博和

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

分子標的治療は、主にドライバー遺伝子異常に対する治療薬であり、がん薬物療法において頻用されている。また、近年次世代シーケンサー(NGS)解析の臨床応用に伴い、固形腫瘍において頻度の低いドライバー遺伝子異常が発見され、発見された異常に対する標的薬が奏効することが明らかとなってきた。さらに、頻度の低い遺伝子異常を網羅的に検討するため、がん遺伝子パネル検査が開発され、実地臨床でも使用されている。本課題では、生検・手術検体よりオルガノイドライブラリーを作成する。オルガノイド作成の対象となるのは、大腸がん手術症例、分子標的薬耐性症例(主に肺がん)、治験薬耐性例、遺伝子パネル検査で特徴的な異常を示した後に治療上の理由で生検が行われる症例である。大腸がんについては、手術検体の全エクソームシーケンス解析結果に基づき、患者特異的かつクロソナルな16の体細胞変異を選定しctDNA解析を行い、術後再発モニタリングを行う臨床試験(CIRCULATE-JAPAN)に登録された症例を対象とする。大規模試験に登録され臨床情報などが豊富な症例、および特徴的な遺伝子異常・臨床経過を示す症例のオルガノイドから、細胞株・ゼノグラフトを作成し解析することで新規治療開発につなげる。CIRCULATE-JAPANは令和2年5月より試験が開始され、当院は9月16日に一例目の登録を行った。9月16日より3月31日までに39例が登録され、このうち腫瘍のサイズが小さく余剰検体が取得

できなかった4例を除く35例でRNA-seqが可能な検体を取得し、シーケンス解析を行った。オルガノイドについては、21例の作成に成功し、凍結保存した。また、当センターより登録された症例と、試験全体の症例について統合解析を行い、本来検出されるべき術前 ctDNA が陰性の症例について、細胞内で活性化するシグナルと、腫瘍微小環境において特徴的にみられる免疫細胞の特定を行った。今後、作成したオルガノイドライブラリーを用い、術前 ctDNA 陰性の原因、術後補助療法感受性・抵抗性因子の解明を行い、腫瘍の状態をより正確に評価する手法の開発につなげる予定である。

<研究課題> 2-(2)

難治癌 PDX モデルのライブラリー整備とその多層オミクス解析による統合データ基盤構築

Establishment of multi-omics database for PDX models of refractory cancer

<研究者氏名>

所属部 分子診断 TR 分野

研究者氏名 田口 歩

共同研究者 原 和生、清水泰博、樋田豊明、黒田浩章、堀尾芳嗣、田近正洋、伊藤誠二、小森康司、安部哲也、夏目誠治、細田和貴、松下博和、衣斐寛倫、山口 類

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

肺癌、膵癌、胆道癌などに代表される難治癌は、早期診断が困難であり、診断された時には現行の治療法では治療しがたいほどに進行していることが多い。次世代シーケンシングなどの解析手法の進歩によって、難治癌の分子生物学的な知見は集積しつつあるものの、有効な診断・治療法の開発には至っておらず、革新的なアプローチによって、難治癌の克服に取り組む必要がある。

本プロジェクトでは、難治癌 PDX 腫瘍の多層オミクス解析によって、ゲノム解析だけでは得られない、新規の情報に基づく革新的な難治癌の診断・治療法の開発を目指すとともに、多層分子プロファイルと膨大な臨床データ、さらにそれらのバイオインフォマティクス解析まで統合した、難治癌オミクスデータベースの構築を行う。

令和2年度は、難治癌の中でも最も予後が悪い膵癌を中心に、転移性大腸癌、肺癌、胃癌、肝臓癌、食道癌、骨軟部腫瘍、胆道癌を対象として、総計112例のPDXモデルと19例のPDC作成に成功した。現在までに、膵癌39例、同一症例から原発巣と肝転移巣のPDXモデル作成が可能であった大腸癌1例について、RNAシーケンス解析、サーフェスオーム解析、リン酸化プロテオーム解析が完了した。膵癌PDCについても6例でRNAシーケンス解析とサーフェスオーム解析を行った。またPDX腫瘍を用いたHLAリガンドーム解析のプロトコル開発を完了した。

令和3年度では、①難治癌PDXモデルライブラリーの作成とオミクス解析の継続、②HLAリガンドームに基づく革新的

癌抗原同定パイプラインの構築と、③膵癌PDCを用いた薬剤感受性予測法の開発に重点を置いて研究を進める。

3 がん免疫ゲノムプロジェクト

<研究課題> 3-(1)

ネオアンチゲンを標的としたがんワクチン療法の開発
Development of cancer vaccine targeting neoantigen

<研究者氏名>

所属部 腫瘍免疫制御 TR 分野

研究者氏名 松下博和

共同研究者 黒田浩章、藤原 豊、堀尾芳嗣、山口 類、衣斐寛倫、田口 歩、岡村文子、花井信広、井本逸勢、籠谷勇紀、細田和貴、高橋祐介

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

免疫系の有望な標的抗原として、遺伝子変異由来の新生抗原(ネオアンチゲン)が注目されている。免疫チェックポイント阻害剤(ICI)の奏効率は20%前後に過ぎないが、免疫抑制の解除のみならず、ネオアンチゲンに対する免疫応答を積極的に強化することで、さらに治療効果が得られる可能性がある。本課題では、有効なネオアンチゲンワクチンを開発することを目的とする。

ネオアンチゲンを標的としたがんワクチンを実施する上で重要なことは、①有望な標的ネオアンチゲンを選出すること、また、②がんワクチン、ICI及びその併用治療を含む免疫療法の適応症例を適切に選択することである。

まず②においては、肺癌113例の次世代シーケンスのデータを用いて、腫瘍免疫微小環境(TIME)を、腫瘍、免疫応答、免疫抑制の三つの要素に分けて評価する新しいスコアリング法(TIME score)を開発した。The Cancer Genome Atlas (TCGA)のデータを用いて、この方法が肺がんの予後予測に有用である可能性を示した。またメラノーマのICI治療コホートを使用し、治療効果予測にも有効である可能性を示した。

①においては、より正確なネオアンチゲン予測アルゴリズムを開発するべく、日本電気株式会社(NEC)と共同で人工知能(AI(グラフベース関係性学習))を活用して変異由来のがん抗原を予測し、その抗原に対する腫瘍浸潤リンパ球(TIL)の免疫応答性を検証した。また、腫瘍内のCD8陽性T細胞をシングルセル解析し、遺伝子発現とT細胞受容体(TCR)解析の結果から、腫瘍特異的なCD8陽性T細胞サブグループを同定し、そのT細胞が認識する抗原を同定する方法を開発中である。

今後、抗原同定システムをさらに発展させるために、ハイスループットなT細胞-抗原スクリーニングを実施していく。さらに、創薬の出口戦略を見据え、ネオアンチゲンのRNAワクチン開発に向けた研究を着手する予定である。

<研究課題> 3-(2)

遺伝子改変による腫瘍浸潤T細胞の改良技術構築と難治性がんを標的としたキメラ抗原受容体T細胞療法の新規開発

Development of genetically modified tumor-infiltrating T cell therapy with improved function and chimeric antigen receptor-engineered T cell therapy against refractory cancer

<研究者氏名>

所属部 腫瘍免疫応答研究分野

研究者氏名 籠谷勇紀

共同研究者 松下博和、鈴木史朗、細田和貴、山本一仁

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

がん抗原を認識するT細胞を体外で準備して、患者に輸注することでがん細胞を特異的に攻撃させる養子免疫療法は、キメラ抗原受容体(chimeric antigen receptor: CAR)やT細胞受容体を導入して抗腫瘍T細胞を作製する遺伝子改変T細胞療法と、腫瘍に浸潤するリンパ球(tumor infiltrating lymphocyte: TIL)を体外で増幅させて患者に輸注するTIL療法に大別される。CD19に対するCAR-T細胞療法がB細胞性腫瘍に顕著な臨床効果を示したことから注目されているが、固形腫瘍に対する同治療法の効果は不十分である。またTIL療法では客観的な有効性を示す臨床データが得られていない。治療効果が得られない主要原因の1つとして、輸注T細胞の機能低下(疲弊)や終末分化の進行が挙げられる。特にTILは体内で既に持続的抗原刺激を受けて終末分化状態に至ったT細胞集団であることから、治療効果を高めるための改変が必須であるが、機能向上につながる具体的な鍵分子・遺伝子は同定されていない。同時に、CAR-T細胞療法においては、T細胞の質の向上とは別に特異的で有効性の高い新規抗原の同定が求められている。がん細胞で高発現している表面抗原分子は、多くの先行研究によって網羅的に調べられていることから、これまで検討されていない分子群に着目する必要がある。

これらの背景に基づき、本プロジェクトでは以下の研究遂行を目標とした。

①腫瘍浸潤T細胞における長期生存能の再獲得・疲弊解除に関わる遺伝子修飾法の開発

我々がこれまでの探索で同定してきた、T細胞の転写ネットワーク改変を通じて長期生存能を向上させるための遺伝子改変方法を終末分化状態にあるTIL検体で行い、分化・疲弊状態からの脱却が可能であるか検討を進めた。また、これまでに得ている知見を端緒としてT細胞の機能低下に関わる分子機構の解明をより詳細に進め、疲弊・終末分化に関わる鍵分子を転写経路・遺伝子レベルで具体的に明らかにするための研究を進めた。これらを標的としたT細胞の遺伝子改変がTILの機能向上につながることを示し、臨床応用に向けた基盤的知見を構築することを目的とした。

②難治性がんに対する新規表面抗原を標的としたCAR-T細胞の開発

これまでに標的抗原として十分に探索されていない分子Aに着目して、新規CAR遺伝子の開発を進めた。これにより作製したCAR-T細胞が、同抗原を発現するがん細胞において客

観的な抗腫瘍効果を誘導できることを示すことを目的とした。

①については具体的に標的とする遺伝子を複数同定したほか、そのうちの一部についてはTILにおける遺伝子修飾によりT細胞の未分化性が亢進することを確認した。②においても、分子Aに対するモノクローナル抗体の取得、CAR遺伝子の合成を行い、がん細胞に対する細胞傷害効果を示した。これらの研究成果は学術論文としてまとめ、現在学術誌に投稿中である。

4 がん情報革命プロジェクト

<研究課題> 4-(1)

愛知県のがん対策、医療評価と将来予測のための、生活習慣情報、社会経済的情報、医療情報の連結データベースの構築と活用

Development and utilization of linkage database of official information of cancer incidence and death, lifestyle, socioeconomic, health and medicine for evaluation and prediction of cancer control and quality of medical care in Aichi prefecture

<研究者氏名>

所属部 がん情報・対策研究分野

研究者氏名 伊藤秀美

共同研究者 古平 毅、樋田豊明、伊藤誠二、清水泰博、小森康司、原 和生、田近正洋、黒田浩章、岩田広治、山口 類、松尾恵太郎

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

[1] がん予防協同プロジェクト

愛知県内の公的情報や医療情報を、地理的に連結させたビッグデータの基盤を構築し、愛知県のがん予防、がん医療に資する研究を推進している。創出される情報あるいは結果をがん対策の現場である愛知県や県内の市町村、がん医療の現場である地域がん診療連携拠点病院へ還元することで、愛知県全体のがん予防やがん医療の向上に役立てることが可能となる。

一般公開されている国勢調査情報はe-stat「政府統計の窓口」より情報を抽出し、特定健診情報を含むNDB情報、人口動態調査死亡情報は厚生労働省へ、がん登録情報は愛知県へ提供申請を行い、情報提供を受けた。これらの情報それぞれが持つ町域毎の観測数を、町域ポリゴンと学区ポリゴンを用いて面積按分して学区別の該当数を求めた上で、学区別に以下の指標を算出し、視覚化した。①アウトカム：愛知県がん登録情報と人口動態調査死亡情報を用い、標準化罹患・死亡比(Standardized incidence & mortality rate: SIR/SMR)と標準化罹患比の経験的ベイズ推定量(Empirical bayes SIR/SMR: EBSIR/EBSMR)(全がん 部位別、男女計)を算出した。②社会経済的指標：地理的剥奪指標(Areal deprivation index: ADI); 国勢調査情報(該当数と人口)から算出した、高齢者夫婦世帯割合、高齢者単身世帯割合、母子世帯割合、賃貸住宅居住割合、サービス・販売業割合、農業割合、ブルーカラー

割合失業割合を用いて算出し、さらに人口のばらつきを考慮して相対的な剥奪水準の位置として0から1に標準化した。また、e-stat上の国勢調査情報より人口密度を抽出した。③特定健診情報から喫煙、飲酒、肥満、運動習慣等の生活習慣情報を抽出し、喫煙率、飲酒率、肥満率、運動習慣率を求めた後、標準化該当比をそれぞれ算出した。

次に、Flex scan法による空間集積性の評価を行った。がん罹患が集積する9つのクラスターが同定され、それらは名古屋市周辺に分布していた。関連解析は、がん罹患と貧困度の関連についてモデリングをパイロット的に実施した。また、地域ごとの介入ポイントを探索するための方法としてマルチレベル解析を検討している。

がんのアウトカムやリスク要因に関する情報提供について、市町村が希望する還元方法に関するアンケート調査を行った。その結果、希望する地理的単位は市町村ならびに保健指導単位である小学校区単位が上位を占めた。また、がん罹患・死亡、リスク行動の分布、がん診断時の進行度とがん検診受診状況との関連解析結果、がん罹患者の年齢分布、がん診断時の進行度(5大部位別)、進行度とがん死亡との関連解析結果、5大部位別予後情報、貧困などの社会経済的指標、がん罹患予測についての情報を希望する市町村が多かった。さらに、研究協力の希望のある3市町村から意見を求め、結果解釈や還元方法の検討を行っている。

[2] 拠点病院プロジェクト

愛知県がんセンターが都道府県がん診療連携拠点病院として主催する協議会を通じ、厚生労働省が指定する愛知県内の19の地域がん診療連携拠点病院と愛知県が指定する8の愛知県がん診療拠点病院に本プロジェクトへの協力を求め、すべての医療機関から協力が得られることとなった。令和3年の協議会で公表、還元する予定の「院内がん登録でみる愛知県のがん診療(施設別集計)」の内容を検討し、すでに愛知県へ還元されている拠点病院の2011-15年までの匿名化院内がん登録情報を利用し、すべての施設に共通フォーマットで集計することとなった。また、さら2016年以降の診断症例の匿名化院内がん登録情報や匿名化DPC情報を収集する仕組みを整えた。

<研究課題> 4-(2)

がんゲノム医療の精密化に資する人工知能を活用した情報解析基盤の構築

Developments of information analysis platform powered by AI for cancer precision medicine

<研究者氏名>

所属部 システム解析学分野
研究者氏名 山口 類
共同研究者 井本逸勢、室 圭、衣斐寛倫

[目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等]

本研究の目的は、愛知県がんセンターにおいてがんゲノム医療の精緻化に資する人工知能(AI)を活用した最先端の情報

解析基盤を構築し、他の重点課題とのシナジーを図りながら病院と研究所が一体となった総合がんセンター機能の強化を進め、その成果を実際の医療現場へ還元していくことである。開発する情報解析基盤は、主に二つのパートからなる。具体的には、がんゲノム医療の現場で大きな課題となっている患者固有のゲノム変異情報の解釈システム開発することである、またその元となるシーケンスデータをスーパーコンピュータ(スパコン)上で高精度かつ高速に解析する情報解析基盤システムの開発である。

本研究は、2020年6月に採択され、研究開発をスタートしている。情報解析基盤システムのうち、シーケンスデータの高速解析システムについては、まず、遺伝発現解析パイプライン等の各種解析パイプラインの中で利用するアルゴリズムの選定を行った。大量のデータ活用する上で、パイプラインの共通化は重要な課題である。例えば、RNA-seqデータであっても、異なるアルゴリズムで解析された結果同士を直接比較するのは難しい。当プロジェクトや他のプロジェクトをデータを統一した方式で、解析して蓄積しておけば、異なるデータセットを横断的に比較しながら解析を行うことができる。更に、蓄積されたデータに対して、ブラウザからアクセスしグラフィカルインターフェースにより、サンプル情報にアクセスしたり、探索的解析を行うことのできる情報マネジメントシステムのプロトタイプの開発も進めた。現在のところ、FASTQC等の各種QC情報や、遺伝子変異情報、遺伝子発現情報にアクセスできるようになっており、更にGUIを用いて、遺伝子発現データの散布図やヒートマップを作成しインタラクティブに探索的解析を行うことができるようになっている。

またAIを用いた、患者固有情報解析システムとしては、主に家系図AIシステム実現のために要素技術の開発を行った。ここでは、家系図情報を蓄積して、ゲノム情報を含む臨床情報と紐づけることで、例えば、家系内の未発症の方のリスク予測や、新たな、遺伝性腫瘍に関わる変異の予測を行うことを狙っている。愛知県がんセンターのエキスパートパネルの場面では、患者さん手書きの家系図情報が供覧され、遺伝性腫瘍の疑いを判断する上で、大変重要な情報をもたらすことを目の当たりにしてきた。しかし、これらの手書きのデータは、通常、再活用されることはない。なぜなら、コンピュータで取り扱うことが可能なデジタル化された構造情報となっていないからである。そのためには、スキャンされた画像から、どの要素がどのように繋がっているかというグラフ情報に変換することを意味するが、人間には簡単な作業であっても、コンピュータには非常に難しい問題である。様々な手法を検討した結果、現在、VectorNetというDeep Neural Networkモデルを用いている。その結果、家系図の手書き画像から、線分要素を推定し、分割可能なベクトル画像に変換することに成功している。その結果、手書きの家系図情報から、数学的に操作可能なグラフ構造データを得ることに近づいた状況あり、次年度以降の開発へつながっている。

2. 研究所における研究

がん情報・対策研究分野

<研究課題> 1

- (主 題) がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録の資料を活用した、がんの流行と転帰の分析研究
- (副 題) 住民ベースのがん登録情報の活用した頭頸部がんの経年変化の検討

<研究者氏名>

伊藤秀美、川北大介¹⁾、尾瀬 功、谷山祐香里、松田智大²⁾
松尾恵太郎

【目的・概要・進捗状況】

頭頸部がんの罹患の経年変化を観察すると、発展途上国で口腔がんの増加傾向がある。近年、欧米の先進国ではヒトパピローマウイルス感染による中咽頭がんの発生率が増加している。しかし、日本では亜部位別の頭頸部がん罹患経年変化を評価した研究はほとんどない。したがって、我々は、住民ベースのがん登録データを用いて、日本における亜部位別の頭頸部がん罹患について1993年から2015年までの経年変化を評価した。

対象は、Monitoring Cancer Incidence in Japan (MCIJ) プロジェクトにデータを提供している都道府県のうち、精度基準を満たし観察期間のデータが揃っている19都道府県の住民ベースのがん登録に登録されている1993 - 2015年に診断された頭頸部がん患者である。口唇、口腔、唾液腺、鼻咽頭、中咽頭、下咽頭、喉頭、鼻腔および副鼻腔、中耳、およびこれらに分類されない頭頸部がんの罹患数と年齢調整罹患率を推計した。また経年変化を、Joinpoint regression 解析により評価した。

男女ともに、唾液腺がんと下咽頭がんは増加傾向にあった[唾液腺:男性では年変化率 (Annual Percent Change, APC) が3.1% (95% CI; 2.5% -3.7%)、女性ではAPC 4.0% (95% CI、3.2% -4.7%)];下咽頭:男性では1993年から2009年までの間のAPCが5.6% (95% CI; 5.0% -6.3%)、および2009年から2015年までの間のAPCが2.1% (95% CI、0.2% -4.0%)で、女性では観察期間中一貫してAPCが3.2% (95% CI; 2.6% -3.8%)であった。さらに、男性の中咽頭がんでは増加傾向を示し[APC 5.2% (95% CI、4.8% -5.6%)],喉頭がんでは女性で増加傾向を示していた (APC 2.4%、95% CI、1.3% -3.6%)。

【今後の方向】

本研究のように、悉皆性の高い住民ベースの情報を活用し亜部位別に頭頸部がんの罹患の経年変化を観察した研究はない。観察された経験変化に影響を及ぼす要因などを考察し、頭頸部がんの予防に役立てる。

¹⁾ 名古屋市立大学、²⁾ 国立がん研究センター

<研究課題> 2

- (主 題) 記述疫学研究に基づくがん情報の整備と発信
- (副 題) 愛知県内の公的情報を活用した地理的連結データベースならびに院内がん登録情報とDPC情報の連結データベース構築

<研究者氏名>

川勝雪乃¹⁾、川浦正規、谷山祐香里、小柳友理子、伊藤秀美

【目的・概要・進捗状況】

愛知県内の公的情報や医療情報を、地理的に連結させたビッグデータの基盤を構築し、愛知県のがん予防、がん医療に資する研究を推進している。創出される情報あるいは結果をがん対策の現場である愛知県や県内の市町村、がん医療の現場である地域がん診療連携拠点病院へ還元することで、愛知県全体のがん予防やがん医療の向上に役立てることが可能となる。

愛知県の保健医療に関わるがん登録情報、人口動態調査死亡情報、特定健診情報、国勢調査情報を収集し、がん罹患・死亡や、これらのアウトカムに影響を与える要因の愛知県内の格差を学校区別に評価している。それぞれの情報を学校区別に指標化し、愛知県の地図上に格差を視覚化した。さらにはがん罹患・死亡についてはFlex scan法により集積性の検定を行った。地域ごとに取り組むべきがん対策の優先順位付けに役立てるため、これらの指標の関連を評価するため、マルチレベル解析や媒介分析等を用いたモデリングの検討を行っている。

【今後の方向】

研究成果をがん対策の現場である市町村やがん医療の現場である地域がん診療連携拠点病院に還元することで、前者はそれぞれの市町村ごとに特徴あるがん対策の実施に資することができ、後者は自施設の医療レベルの把握をしたり患者さんに適切な情報を提供したりすることに役立てることができる。さらに後者については、結果を各施設で共有することによりベンチマークとしての活用できるであろう。

今後は、有効な還元方法について協力市町村と共同して取り組み、市町村が利用しやすいインタラクティブな情報還元ツールを開発する。また院内がん登録情報については、各施設でDPC情報と個別連結させた上で匿名化した情報を愛知県がんセンターに集約して、医療レベルの格差に関して要因探索をする。また、個別情報のシェアリングの仕組みを整えるために課題の洗い出しを開始する。

¹⁾ レジデント

がん予防研究分野

<研究課題> 1 - 1

- (主 題) 各種 がんに対する分析疫学的解析による、がんリ

スクと繋がる遺伝的・環境的要因、並びにその組合わせ効果の解明

(副題) アジア人における膵臓がんリスク関連遺伝子座を探索する全ゲノム関連解析

<研究者氏名>

林 櫻松¹⁾、中柝昌弘²⁾、細野祥之、伊藤秀美、春日井由美子、衣斐寛倫、井本逸勢、菊地正悟¹⁾、松尾恵太郎

【目的・概要・進捗状況】

先行して行った膵臓がんに関する結果を記す。我々はHERPACCに加え、愛知医大、名古屋大学、東京大学、理化学研究所、国立がん研究センター、大阪大学、南カリフォルニア大学、イェール大学で実施されている膵臓がんに関する研究を統合し、大規模な全ゲノム関連解析 (GWAS) のメタ解析研究を実施した。約 4000 名の膵臓がん患者と約 41,500 名の非がんの方を対象の検討により、16 番染色体に位置する GP2 (glycoprotein2) 遺伝子上に存在する遺伝子多型 rs78193826 が膵臓がんリスクと関連することを世界で初めて明らかにした (Lin et al. Nature Communication 2020)。この遺伝子多型はアミノ酸配列変化を伴い、GP2 タンパクの働きが変化による膵臓がんリスク上昇が考えられる。この遺伝子多型は日本人を含む東アジア人で認められ一方、西洋人ではほとんど存在せず、東アジアにおける膵臓がんリスクと関連する事が示唆される。

さらに、細胞株を用いた実験により、膵臓がん組織で高頻度に認められる K-ras 遺伝子変異の際に発現が下がる遺伝子群が、本遺伝子多型を導入した場合にも同様に発現が下がることが示され、GP2 遺伝子多型が K-ras 遺伝子変異と同様のメカニズムで膵臓がんの易罹患性につながる可能性が示唆された。

【今後の方向】

膵臓がんのみならず、アジア人特異的なリスク関連リスク遺伝子座が存在する可能性があり、今後がん種横断的に検討していく必要がある。

¹⁾ 愛知医科大学、²⁾ 名古屋大学

<研究課題> 1-2

(主題) 各種がんに対する分析疫学的解析による、がんリスクと繋がる遺伝的・環境的要因、並びにその組合わせ効果の解明

(副題) 飲酒の乳がん罹患リスクに与える影響

<研究者氏名>

岩瀬まどか¹⁾、小柳友理子、伊藤秀美、井上真奈美²⁾、松尾恵太郎

【目的・概要・進捗状況】

欧米の研究では、アルコール摂取が乳がんの発生率を高めると報告されてるが、アジアの人口におけるアルコールと乳がんとの関連の証拠は不十分である。ベースライン時と診断時の閉

経状態による分類とアルコール (頻度と量の両方) と乳がんリスクとの関連を評価するために、日本で実施された 8 つの大規模な一般人を対象とした前向きコホート研究のプール分析を実施した。ハザード比 (HR) と 95% 信頼区間を個々のコホートで計算され、変量効果モデルを使用して統合した。158,164 人の対象者の 2,369,252 人年の追跡により、2,208 人の乳がん症例が新たに診断された。アルコール摂取は、ベースライン時点で未閉経の女性の乳がんリスクと有意な関連を認め (非飲酒者と比較した通常飲酒者:HR 1.37, 1.04-1.81, $\geq 23\text{g/d}$:HR 1.74, 1.25-2.43, 傾向 P 値 = 0.017)、また診断時に閉経前であった女性でも同様であった (非飲酒者と比較した 23g/d 以上:HR 1.89, 1.04-3.43, 傾向 P 値 = .032)。対照的に、かなりの数の被験者と長い追跡期間にもかかわらず、ベースライン時または診断時に閉経後の女性では有意な関連は見られなかった。私たちの結果は、西洋諸国での以前の研究と同様に、アルコール摂取が頻度・量ともにアジアの閉経前乳がんの危険因子であることを明らかにした。閉経後女性における明関連の欠如は、アジアでのより大規模な調査による検証が必要である。

【今後の方向】

プール解析を含めた大規模な疫学研究は、これまで明らかで無かった要因を浮き上がらせる。今後も同様のアプローチにより、がん予防に必要なエビデンスの構築を行う必要がある。

¹⁾ リサーチレジデント、²⁾ 国立がん研究センター

<研究課題> 1-3

(主題) 分析疫学的解析による各種がんのリスク要因の遺伝的背景の解明

(副題) ライフコースにおける Body Mass Index に影響を与える遺伝子多型の影響の検討

<研究者氏名>

岩瀬まどか、尾瀬 功、伊藤秀美、小柳友理子、鶴飼知嵩、春日井由美子、若井建志¹⁾、松尾恵太郎

【目的・概要・進捗状況】

肥満は、がんを含むさまざまな健康問題の危険因子である。ゲノムワイド関連研究 (GWAS) により BMI に関連する多数の独立した遺伝子座が特定されてきた。しかし、これらのほとんど研究はヨーロッパ人を対象としており、他の民族のライフコース全体にわたる遺伝的影響に関する証拠はない。本研究では、日本多施設共同コホート研究に登録された 11,586 人の日本人を対象に横断研究を実施し、282 の GWAS で同定された一塩基多型と 3 つの BMI 関連特性 (現在の BMI、20 歳時の BMI、および BMI 変化) との関連を多変量線形回帰モデルを使用して検討した。FTO、BDNF、TMEM18、HS6ST3、および BORCS7 内またはその近くの BMI と 11 の多型の間に有意な関連 ($P < 0.05 / 282 = 1.77 \times 10^{-4}$) が見つかった。現在の BMI と BMI 変化では同様の遺伝子座が関連を示したが、20 歳時 BMI では異なっていた。FTO のそれらはすべての BMI

特性に関連していたが、TMEM18とHS6SR3のそれらは20歳時BMIにのみ関連していた。食事のエネルギー摂取量をさらに調整した後も、FTO遺伝子座とBMIの関連性は認められた。ヨーロッパ人で発見されたBMI関連遺伝子座は日本人集団でも同定された。さらに、BMIに対する各遺伝子座の影響がライフコース全体で異なる可能性があり、この変動は、異なる経路を介したBMIに対する個々の遺伝子の異なる影響によって引き起こされる可能性があることを示唆すると考えられる。

【今後の方向】

乳がんの飲酒発がんに関する国内のエビデンスは少なく、更なる検討を進める必要がある。

¹⁾ 名古屋大学

＜研究課題＞ 1-4

（主題） 各種がんに対する分析疫学的解析による、がんリスクと繋がる遺伝的・環境的要因、並びにその組み合わせ効果の解明

（副題） 症例対照研究による消化器がんリスクに対する社会経済的要因の影響の検討

＜研究者氏名＞

川勝雪乃¹⁾、小柳友理子、尾瀬 功、春日井由美子、山口類、伊藤秀美、松尾恵太郎

【目的・概要・進捗状況】

世界的には社会経済的地位（SES）とがんリスクとの関連に関する報告されているが、日本での検討はほとんど為されていない。SESと消化管がんリスクとの関連を評価するために、3188例の頭頸部がん、食道がん、胃がん、および結腸直腸がんの症例対照研究を実施した。SES指標として、教育歴並びに地域剥奪指数（ADI）を採用した。関連の検討は、潜在的な交絡因子を調整した条件付きロジスティックモデルに行なった。既知のがんの危険因子を考慮した後も、教育レベルは頭頸部癌、胃癌、および結腸直腸癌と線形の逆相関を示した。中学校の教育を受けた人々と比較して、高等教育を受けた人々は、統計的に有意に低い癌リスクを示した（頭頸部0.43（95%CI:0.27-0.68）、胃0.52（0.38-0.69）、結腸直腸0.52（0.38-0.71））。教育レベルのこれらの結果と同様、五分位のADIは頭頸部、食道、および胃の癌と正の関連を示しました（傾向P値：頭頸部0.035、食道0.02、胃p=0.013）。ヘリコバクターピロリ感染症および/または萎縮性胃炎の状態をさらに調整すると、ADIと胃がんリスクとの正の関連性が失われた。SESの低下は、日本における消化器がんのリスクの増加と関連しており、対象集団のがん予防政策において考慮されるべきである。

【今後の方向】

単一の曝露要因のみならず、複数の曝露要因の組合わせた発がんへの影響を明らかにする事は、現実的な予防を考える上で

重要である。

¹⁾ リサーチレジデント

＜研究課題＞ 2

（主題） 各種がんに対する分析疫学的解析による、がんリスクと繋がる遺伝的・環境的要因、並びにその組み合わせ効果の解明研究の結果に基づく個別化予防プログラムの開発

＜研究者氏名＞

松尾恵太郎、尾瀬 功、春日井由美子、岩瀬まどか、川勝雪乃、小柳友理子、伊藤秀美、井本逸勢

【目的・概要・進捗状況】

愛知県がんセンター大規模病院疫学研究HERPACCをベースに、日本医療研究開発機構研究費、重点プロジェクト研究費による研究結果と連動させながら、頭頸部・食道・胃・大腸・膀胱・肺・造血器腫瘍に関して、環境要因、遺伝子多型、遺伝性腫瘍原因遺伝子変異の単独、あるいは組み合わせ効果の大きさと、人口寄与危険度の大きさを評価し、生涯リスクの推計などを通じた予防プログラムの開発に取り組んでいる。各評価において、がん情報・対策研究分野や分子遺伝学分野と連携し、より精度が高く、応用性の高いものを目指す。

【今後の方向】

現プロジェクトを継続していく。

分子遺伝学分野

＜研究課題＞ 1

（主題） 生殖細胞系列変異のがん発症に及ぼす影響の解明と発がんリスクフィードバック法の開発・評価

（副題） 日本人卵巣がんにおけるBRCA1/2遺伝子の病的バリエーションの検出

＜研究者氏名＞

阿部彰子¹⁾、河本知大¹⁾、増田清士²⁾、井本逸勢

【目的・概要・進捗状況】

国内の遺伝性腫瘍の原因遺伝子の病的バリエーションの保有者頻度やがん発症の浸透率、病態などは、未だデータが少なく、診療やサーベイランスに関するガイドライン、ガイダンスも未整備のものが多く。われわれは徳島大学病院の婦人科においてフォローされる卵巣がん患者全例に説明の上、研究参加に同意が得られ適格基準を満たした患者123名を対象にBRCA1/2の遺伝学的検査を実施し病態との関連を解析した。BRCA1/2の病的バリエーションの検出率は19例（15.2%）で、BRCA1が6例、BRCA2が13例であった。BRCA1/2病的バリエーション陽性例は、高異型度漿液性がん、進行例、血縁者に関連腫瘍の発症がある

例に多かったが、*BRCA1/2* 病的バリエーション陽性例の半数で明確な家族歴はなかった。さらに、*BRCA1/2* 病的バリエーション陽性例は、陰性例に比べて有意に長い無増悪生存期間を示したが、全生存期間では差がなかった。

【今後の方向】

日本でも人口集中地域である東京（慶應大学病院）と人口減少地域である徳島（徳島大学病院）の、サンプリングバイアスが比較的少ないと考えられる2つの卵巣癌患者コホートを対象にした生殖細胞系列の遺伝子バリエーション解析により、欧米での報告と変わらない頻度で*BRCA1/2*の病的バリエーションを検出した。重点プロジェクト研究で行う愛知県がんセンターの病院コホート（HERPACC）を対象にした症例対象研究により、卵巣がんにおける*BRCA1/2*を含めた遺伝性腫瘍症候群原因遺伝子の病的バリエーションの解析を行っており、他の関連がん種も含めて、臨床的特徴の解明を進めていきたい。

¹⁾ 徳島大・医学部、²⁾ 川崎医大

<研究課題> 2

（主眼） ヒトがん関連遺伝子に検出される機能不明バリエーションの病的意義の解明

（副眼） がん進展に関連する *ADAMI7* 遺伝子のバリエーションの病的意義を判定する機能解析 パイプラインの構築

<研究者氏名>

河本知大¹⁾、増田清士²⁾、井本逸勢

【目的・概要・進捗状況】

ADAMI7 遺伝子の産物は、tumor necrosis factor- α 変換酵素（TACE）としても知られ、80種類以上細胞表面分子およびサイトカインのタンパク質分解性エクストドメインシエディング活性を持ち、生理機能に関与するのみならず、炎症反応やがんをはじめとする疾患の病態に関与する。特にがんの領域では活性の亢進が様々な機序によりがんの進展に関与し、かつ細胞膜上に分布することから、分子標的薬として機能性抗体などの開発が行われている。一方で、*ADAMI7*の生殖細胞系列での完全な機能喪失変異（常染色体劣性）が、先天的に皮膚や腸での炎症の異常が生じる neonatal inflammatory skin and bowel disease1（NISBD1）の原因になることが知られていたが、既知の病的バリエーションは遺伝子発現が完全に失われるナンセンス変異や遺伝子欠失であり、多種類が報告されているミスセンスのバリエーションの病原性は適当なヒト *ADAMI7* の機能評価系がなかったため報告がなかった。臨床的に皮膚と腸管の異常な炎症が見られた新生児の約 5,000 遺伝子のパネルシーケンスにより検出した *ADAMI7* の複合ヘテロ接合ミスセンスバリエーションの病原性を評価するため、機能喪失している証拠を得られる機能評価系を構築した。ヒト *ADAMI7* は、大腸菌内で安定に保持されない塩基配列であることからクローニングが困難であることも機能評価が難しい原因であったため、アミノ酸配列は保

存したまま塩基配列を最適化する人工遺伝子を合成した。この発現ベクターと分解活性を検出する人工基質の発現ベクターを培養細胞に形質導入し、酵素活性を評価したところ、2つのミスセンスバリエーションは完全に機能を消失していることがわかった。更に、細胞表面での局在の評価系も新たに構築し、局在はこれらの変異で影響を受けないことを証明することで、変異によるジスルフィド結合の消失がタンパクの立体構造を変化させ酵素活性が消失する可能性まで示すことができた。この結果は、国際専門誌 Scientific Reports に報告した。

【今後の方向】

公共データベースで、生殖細胞系列あるいは体細胞（がん）で報告されるミスセンスバリエーションの病原性を定量的に評価し、NISBD1の診断ならびにがんの臨床病態との関連を明らかにできる可能性がある。定量は、活性の消失、低下、上昇のいずれも検出できる可能性があり、がんの病態解明から分子標的治療薬の有効例を層別化できるコンパニオン診断に応用できる可能性がある。

¹⁾ 徳島大・医学部、²⁾ 川崎医大

がん病態生理学分野

<研究課題> 1-1

（主眼） がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明
（副眼） 腸管腫瘍形成における MyD88 経路の役割の解析

<研究者氏名>

梶野リエ、藤下晃章、武藤 誠¹⁾、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

がん抑制遺伝子である *Apc* 遺伝子に変異を持つ遺伝子改変マウス（以下 *Apc* 変異マウス）では、APCの機能欠損の結果 Wnt 経路が恒常的に活性化し、腸管に腺腫性ポリープを発症する。我々は、*Apc* 変異マウスの腸管ポリープの成長に関わる因子を探索、同定し、その役割を解明することにより、大腸がんの治療標的候補を得ることを目的として研究を進めてきた。これまでに、我々は、IL-1 β シグナル伝達経路の主要なアダプター因子である MyD88 の機能を腸管上皮特異的に欠損させると *Apc* 変異マウスにおける腸管ポリープ形成数が減少すること、そしてこのポリープ数の減少は細胞増殖の抑制とアポトーシスの亢進によることを示唆する結果を得た。MyD88の機能欠損によるアポトーシスは、腸管腫瘍上皮細胞では誘導されるが、正常腸管上皮細胞では誘導されなかったことから、MyD88の機能欠損が *Apc* に変異を持つ細胞のみを死滅させる、いわゆる合成致死を誘導する可能性が示された。この合成致死の分子機序について検討した結果、MyD88の下流で NF- κ B 経路が関与することを見出した。以上の成果を論文発表した（Kajino-Sakamoto R, et al : *Oncogene* 40, 408-420, 2021）。また、MyD88が *Apc* 変異以外の大腸がん関連遺伝子変異を併せ持つ腸管腫瘍細胞の生育にも関与するかどうか、マウス大腸腫瘍オ

ルガノイドを用いて検討したところ、MyD88の機能欠損による大腸腫瘍オルガノイドの生育抑制効果は、併せ持つ遺伝子変異の種類により大きく異なることを示唆する結果を得た。

【今後の方向】

MyD88の機能抑制によるマウス大腸腫瘍オルガノイドの生育抑制効果の違いについて、その違いを生み出す分子機序を調べる。また、MyD88の機能抑制による*Apc*変異細胞の合成致死の分子機序についての詳細な解析を継続し、大腸がんの治療標的としての妥当性を評価する。

¹⁾ 京大・先端医療研究開発機構

<研究課題> 1-2

(主題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明
(副題) 腸管腫瘍の悪性化におけるmTORC1経路の役割の解析

<研究者氏名>

藤下晃章、三城恵美、梶野リエ、新聞秀一¹⁾、曾我朋義²⁾、武藤 誠³⁾、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

家族性大腸腺腫症のマウスモデルである*Apc*変異マウスは良性の腺腫性ポリープを発症し、さらに*Smad4*遺伝子のヘテロ接合変異を併せ持つ*cis-Apc/Smad4*マウスは、局所浸潤性の腸がんを発症する。*cis-Apc/Smad4*マウスの腺がんの浸潤はmTORC1阻害薬everolimusおよびmTORキナーゼ阻害薬AZD8055に対して抵抗性である。これまでに、トランスクリプトーム解析、メタボローム解析、プロテオーム解析を実施し、mTOR阻害薬抵抗性腺がん組織においてヒスタミンおよびその代謝産物である1-メチルヒスタミンの蓄積を認め、mTOR阻害薬とヒスタミンH1およびH2受容体拮抗薬の併用投与により腺がん浸潤が抑制されることを見出した。また、質量顕微鏡を用いた解析により、mTOR阻害薬抵抗性腺がん組織において、ヒスタミンを含有する細胞集団が腺がん浸潤部に集積していること、これらの細胞集団は、c-Kit陰性でF4/80陽性であったことから、マクロファージであることを明らかにした。本年度は、大腸がん臨床検体におけるヒスタミンとマクロファージの関連について検討した。大腸がん手術検体のヒスタミン濃度を測定し、ヒスタミン濃度が高い検体と低い検体について、組織マクロファージ・単球のマーカーであるCD68の免疫染色を行ったところ、CD68陽性細胞はヒスタミン濃度や浸潤の有無に関わりなく一様に存在していた。一方、公共の大腸がん遺伝子発現データベースを用いた解析から、ヒスタミン関連遺伝子とM2マクロファージのマーカーであるCD163の発現との間に強い相関が認められた。そこでCD163の免疫染色を行ったところ、大腸がん組織中のCD163陽性細胞は、浸潤部に集積し、ヒスタミン濃度が高い症例で多く検出される傾向を認めた。

【今後の方向】

大腸がん組織中のヒスタミン濃度やCD163陽性細胞の多寡と、大腸がんの再発や治療抵抗性、予後などの関連について検証していく予定である。

¹⁾ 大阪大・工学研究科

²⁾ 慶應大・先端生命科学研究所

³⁾ 京大・先端医療研究開発機構

<研究課題> 2-1

(主題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索
(副題) 大腸がん自然発症・転移モデルを用いた転移メカニズムの解明と治療標的の同定

<研究者氏名>

藤下晃章、三城恵美、梶野リエ、小島 康、山口 類、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

転移を伴う大腸がんの予後は悪く、新機軸の転移予防・治療法の開発が求められている。各国で網羅的なゲノム変異解析・発現解析などが行われているが、転移の分子機序解明には至っていない。我々は、腸管に浸潤性腺がんを100%の頻度で発症し、約20%のマウスで肝臓への転移が認められる、大腸がんの自然発症・自然転移モデルの作出に成功した。このマウスモデル(CKPSマウス)では、安定型β-catenin(Wnt経路活性化)と活性型Krasの発現、そしてp53とSmad4の欠失が腸管上皮細胞特異的に誘導される。CKPSマウスの肝転移巣では、原発巣と酷似した腺管構造と間質反応を伴う浸潤の様子が保たれており、大腸がん臨床検体ともよく似た組織像を示す。これまでにCKPSマウスの肝転移巣について全エクソームシーケンス解析およびRNAseq解析を実施しており、肝転移巣では上記4遺伝子以外に悪性化進展への関与が疑われる遺伝子変異は認められず、遺伝子発現パターンも原発巣と転移巣に大きな差は認められなかった。

本年度は、CKPSマウスの大腸がん原発巣と肝転移巣について比較プロテオミクスを用いて転移に特徴的なタンパクの同定を行った。肝転移巣において大腸がん幹細胞マーカーであるALCAM(CD166)やPROM1(CD133)の発現が増加していたことから、免疫染色によりこれらタンパクの局在を検証したところ、PROM1は原発巣および転移巣の腺がん上皮細胞で均一に認められたのに対し、ALCAMは原発巣浸潤部や肝転移巣の腺がん上皮細胞の一部に局在していた。CKPSマウス由来大腸がん細胞株であるCKPS細胞においてCRISPR-Cas9によりALCAM、PROM1をノックアウトしたところ、スフェロイド形成能および脾注肝転移モデルによる肝転移巣形成能が低下したことから、これら大腸がん幹細胞マーカー分子が転移能にも寄与する可能性が示された。

【今後の方向】

現在ALCAMやPROM1の発現制御機構や転移能に関与す

る機序の解析を実施する予定。大腸がんのがん幹細胞性維持に関わる他のタンパクやシグナル経路の探索も行いたい。

<研究課題> 2-2

(主題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索
(副題) トランスポゾンを用いた大腸がん転移制御因子の同定

<研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、小島 康、山口 類、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

大腸がんの治療成績は、検出技術の発達や外科的切除・化学療法の進歩により顕著に向上しているものの、転移を伴う大腸がんについては依然として治療が困難なことが多い。我々は最近、自然発生した大腸がんが20%の頻度であるが肝臓へ転移する自然転移モデルマウス（CKPSマウス）の開発に成功した（前項）。このCKPSマウスは100%の頻度で腸管に浸潤性の腺がんを発症するが、同腹仔でも転移する個体とそうでない個体が認められたことから、転移には遺伝子変異以外に更なる要因が必要である可能性が示唆される。本研究では、大腸がんの転移を制御する遺伝子を個体レベルで探索するために、PiggyBac トランスポゾンを用いた機能的スクリーニングを実施している。このPiggyBac トランスポゾンには近傍の遺伝子を活性化または機能喪失させる配列が組み込まれており、大腸がんの発生に伴いトランスポゾンが移動する。トランスポゾン非導入CKPSマウスと比較して、トランスポゾンを導入したCKPSマウスでは肝転移の頻度がおよそ2倍（約40%）に上昇することを見出した。トランスポゾンの挿入部位には転移を調節する遺伝子が存在している可能性が高いことから、この挿入部位を同定する手法としてSemiquantitative transposon insertion site sequencing (Qiseq) を既に実施している。本年度は、Qiseqにより得られたトランスポゾン挿入部位の近傍遺伝子の情報から、転移に関与する分子の絞り込みを続けた。まず、本スクリーニング手法の妥当性を検証するため、既に転移への関与が報告されている分子を探したところ、肝転移巣から採取したサンプルでは受容体型チロシンキナーゼ *Ddr1* 遺伝子の近傍にトランスポゾンが多数挿入されていた。トランスポゾンは *Ddr1* 遺伝子の発現を促進させる方向で挿入されており、転移巣での発現上昇への関与が示唆された。そこで、転移性大腸がん細胞株のCKPS細胞においてCRISPR-Cas9により *Ddr1* 遺伝子をノックアウトしたところ、脾臓肝転移モデルにおける肝転移巣形成能が低下したことから、本スクリーニングの妥当性を確認できた。

【今後の方向】

引き続き挿入部位の近傍遺伝子の探索を行い、絞り込んだ候補因子が転移に関与するかどうかCKPS細胞を用いた検証作業を行う予定である。

<研究課題> 2-3

(主題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索
(副題) 新規大腸がん転移抑制遺伝子 *HNRNPLL* の機能解析

<研究者氏名>

佐久間圭一朗、佐々木英一¹⁾、細田和貴¹⁾、小森康司²⁾、清水泰博²⁾、谷田部恭³⁾、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

前年度に引き続き、我々が独自に同定した新規大腸がん転移抑制遺伝子 *HNRNPLL* に関して、以下の課題に取り組んだ。

① *CTNND1* isoform 3A の機能解析

前年度までに、*HNRNPLL* によって選択的スプライシングを受ける遺伝子として *CTNND1* を新たに同定し、上皮間葉転換 (epithelial-mesenchymal transition : EMT) 下では、*HNRNPLL* の発現減少に伴い *CTNND1* isoform 3A の発現量が増加することを見出した。今年度は、大腸がん細胞の浸潤転移における *CTNND1* isoform 3A の役割を検討した。同分子はEMTを起こした細胞のleading edgeに局在し、そこで細胞骨格タンパクと特異的に結合することを見出した。

② 大腸がん細胞のEMTに伴う *HNRNPLL* の発現減少のメカニズムの解明

前年度に引き続き、*HNRNPLL* 遺伝子の転写調節機構の解明に取り組んだ。結果、転写因子SP1とSP3が *HNRNPLL* の基本転写量を規定し、転写因子MYBが *HNRNPLL* の転写を促進することを見出した。そして、EMT下では、MYBの発現が減少することで、*HNRNPLL* の転写が抑制されることが明らかとなった。以上の研究成果の論文投稿準備を進めている。

【今後の方向】

- ① 大腸がん細胞のleading edgeに局在する *CTNND1* isoform 3A の機能解明を継続する。
- ② 論文を投稿し、査読結果に適宜対応する。

¹⁾ 遺伝子病理診断部

²⁾ 消化器外科部

³⁾ 国立がん研究センター中央病院・病理診断科

<研究課題> 2-4

(主題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索
(副題) 高転移性肺がん細胞における一次線毛下流シグナル経路の役割の解明

<研究者氏名>

佐久間圭一朗、佐々木英一¹⁾、細田和貴¹⁾、谷田部恭²⁾、小木曾昇³⁾、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

前年度に引き続き、肺腺がん細胞の一次線毛の発現制御分子として同定した *KATNAL2* の機能解析を継続した。ヒト肺腺がん細胞株 A549 の *KATNAL2* 遺伝子をCRISPR-Cas9でノック

クアウトしたクローンの作成に成功し、その表現型を様々な実験により検討中である。また、KATNAL2の結合分子から機能にアプローチする目的で、FLAG-KATNAL2を強制発現したA549の免疫沈降での共沈産物を質量分析し、同定されたタンパクについて、結合の検証を進めている。

一方、生体レベルのKATNAL2の機能を解明するため、国立長寿医療研究センターとの共同研究により、KATNAL2コンディショナルノックアウトマウスの作出を進めている。

【今後の方向】

引き続き、肺腺がん細胞におけるKATNAL2の機能解明ならびにマウス作出を継続する。

¹⁾ 遺伝子病理診断部

²⁾ 国立がん研究センター中央病院・病理診断科

³⁾ 国立長寿医療研究センター・実験動物管理室

＜研究課題＞ 3

（主眼） がん悪液質の病態生理解明と治療戦略の基盤構築

（副眼） マウスモデルを用いた網羅的解析

＜研究者氏名＞

小島 康、三城恵美、藤下晃章、梶野リエ、曾我朋義¹⁾、武藤 誠²⁾、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

がん悪液質は、腫瘍の病期とは必ずしも関係なく発症し、筋肉萎縮を伴う進行性の体重減少を主徴とする。筋肉萎縮は、がん患者のPerformance Status (PS)、Quality of Life (QOL)を著しく低下させ、抗がん治療の障害になる。がん悪液質の病態解明は遅れており、治療法も殆ど進歩していない。

我々は、悪液質の病態解明と治療法の基盤構築を目指して、悪液質マウスモデルの解析に取り組んでいる。現在、主に2種類の悪液質モデルマウスを用いている。1つは、*cis-Apc/Smad4* 変異マウスで、14週齢から悪液質様病態を呈して衰弱し、数日で瀕死の状態に至る。衰弱個体の肉眼解剖所見では、骨格筋の萎縮、白色脂肪組織の萎縮、脾腫が特徴的である。もう1つは、ヒトメラノーマSEKI細胞をヌードマウスに移植する悪液質モデルで、移植後2～3週間で著名な骨格筋萎縮、脂肪組織萎縮を伴う高度な悪液質を発症する。

これまでに、我々は、上記の2種類の悪液質モデルマウスの肝臓および骨格筋に対してメタボローム解析およびプロテオーム解析を実施して悪液質に関連性の高い変化をそれぞれ見出していた。昨年度は、臨床血液検体を用いたパイロット解析を継続して、マウスモデルから同定された悪液質診断および治療関連因子の絞り込み作業を継続した。結果、複数の有力な診断・治療因子候補を絞り込むことができた。

【今後の方向】

臨床的外挿性が有望視された診断・治療因子候補に関して、マウスを用いた検証によってその意義をより明らかにする。ま

た得られた知見をもとに、多くの臨床検体を用いた本格的な検証解析の準備を進める。

¹⁾ 慶應大・先端生命科学研究所

²⁾ 京大・先端医療研究開発機構

分子腫瘍学分野

＜研究課題＞ 1

（主眼） 悪性中皮腫の発がん機序の解明と細胞生物学的研究

（副眼） 悪性中皮腫細胞におけるNF2-Hippoシグナル伝達経路異常の解析

＜研究者氏名＞

赤尾 謙¹⁾、佐藤龍洋、関戸好孝

【目的・概要・進捗状況】

悪性中皮腫は胸膜あるいは腹膜に存在する中皮から発生する腫瘍で、アスベスト曝露によって引き起こされる極めて予後不良の腫瘍である。診断時には既に進行していることが多く、現在、有効な標準治療法は確立していない。他の高頻度に発症する腫瘍に比べて、その分子病態の解析は極めて遅れており新規の診断法や分子標的治療法の開発への大きな障壁となっている。がん抑制遺伝子異常としては、CDKN2A, NF2, BAP1 遺伝子の高頻度不活化変異が認められるが、がん遺伝子変異は稀である。NF2 遺伝子産物（転写産物はMerlinと呼ばれる）は細胞内の増殖抑制性のHippo（ヒッポ）シグナル伝達系を制御し、転写コアクチベーターであるYAP/TAZの活性を抑制する。悪性中皮腫細胞はNF2やHippoシグナル伝達系の構成因子をコードするLATS2遺伝子等の変異により約70%の症例でYAP/TAZが恒常的に活性化していることを当分野では明らかにしてきた。さらに、YAP/TAZはサイクリンD1、結合組織成長因子(CTGF)、インターロイキン1 beta 遺伝子を転写亢進することにより、中皮細胞に悪性形質を賦与することも明らかにしてきた。

昨年度、ヒト患者由来の悪性中皮腫細胞株パネル30株および不死化中皮細胞株4株を用い、最近開発されたYAP/TAZ阻害剤（TEAD阻害剤）に対する感受性について検討を開始したが、その解析をさらに継続した。NF2-Hippo経路が破綻した細胞株で、予想通りYAP/TAZ阻害剤に高度に感受性を示す細胞株が認められた一方、予想に反して低感受性を示す細胞株も存在した。それぞれの群から細胞株3-4株を選択し、詳細に検討を行った。その結果、YAP/TAZが転写亢進に関わる遺伝子群の発現が、高感受性株に比べ低感受性株ではYAP/TAZ阻害剤による抑制効果が低いことが示唆された。さらに、網羅的RNAシーケンス解析を行い、GSEA解析等を行ったところ、低感受性株では幾つかの細胞内シグナル伝達系の活性化が亢進していることが示唆された。特に、mTOR経路が亢進していることが示唆されたため、低感受性株にmTOR阻害剤を投与したところ、著明な細胞増殖抑制効果が認められた。これらの結果は、NF2-Hippo経路が破綻している中皮腫細胞株に

対して YAP/TAZ 阻害剤を投与しても、ある細胞グループでは別の細胞内シグナル伝達系が代償することにより、細胞の生存・増殖が維持されることを強く示唆した。

昨年度から、高感受性細胞株 MSTO-211H 株、NCI-H2052 株に対して YAP/TAZ 阻害剤を低濃度より曝露し、耐性株の樹立を試みていたが、段階的に薬物濃度を上昇させて、約 100 倍の濃度でも増殖が維持される獲得耐性株の樹立に成功した。

【今後の方向】

本研究の予備的な結果から悪性中皮腫細胞が呈する YAP/TAZ 阻害剤に対する感受性・耐性に関する研究を進めていく上で、幾つかの重要な知見が得られた。さらに、獲得耐性株が樹立できたことも非常に意義のあることと考えられた。今後、本研究が推進されることにより、悪性中皮腫に対する新たな治療戦略が構築される可能性が強く示唆された。

1) リサーチレジデント

<研究課題> 2

- (主眼) 細胞特性に基づくがんの新規診断法・治療法の開発研究
- (副眼) SmgGDS は悪性胸膜中皮腫の新たな治療標的として有望である

<研究者氏名>

佐藤龍洋、関戸好孝

【目的・概要・進捗状況】

悪性中皮腫はアスベスト曝露を主原因とする難治性の希少がんである。大規模ゲノム解析により、CDKN2A, BAP1, NF2 といったがん抑制遺伝子の異常が悪性中皮腫では主体となっており、反対にがんの増殖・悪性化を促進するドライバー遺伝子の変異は稀であることが明らかとなった。既存の分子標的薬はほとんどがドライバー遺伝子変異を標的とすることから、悪性中皮腫に対して新たな治療標的の同定が強く求められている。我々は悪性中皮腫において高活性化している mTORC1 シグナル伝達経路に着目し、その原因とこれを標的とした新たな治療戦略の可能性について検討した。

TCGA データベースを悪性中皮腫の遺伝子発現パターンを解析したところ、約 4 割の患者において mTORC1 活性化に関連する遺伝子群の発現変動を見出した。これらの遺伝子発現変動が見られる患者群の予後を検討したところ、その他の患者群と比較して極めて予後不良であった。これらの結果から、mTORC1 活性化が悪性中皮腫の進展に強く関与することが示唆された。次に、mTORC1 活性化に関与する分子として同定した SmgGDS に着目し、これが mTORC1 活性化が見られる悪性中皮腫の治療標的となるか検討した。SmgGDS をノックダウンしたところ、mTORC1 経路の抑制が見られ、PTEN 欠損により mTORC1 が高活性化した中皮腫細胞株において増殖が有意に抑制された。また、この細胞株を胸腔に移植したモデルマウスにおいても増殖抑制効果を示したことから、

SmgGDS が悪性胸膜中皮腫の新たな治療標的となることが示唆された。最後に、SmgGDS が mTORC1 活性を調節する分子機構について解析を行った。SmgGDS は mTORC1 活性化因子である Rheb に結合するタンパク質として同定してきたことから、Rheb の活性阻害を介した mTORC1 阻害機構が予測された。しかし、SmgGDS をノックダウンした細胞から Rheb を精製したところ、その活性はコントロール細胞と同程度であったことから、SmgGDS は Rheb の活性に影響を与えないことが示唆された。さらに解析を行ったところ、SmgGDS をノックダウンした細胞では Rheb の細胞内局在が変化することに気がついた。細胞内成分を分画したところ、コントロール細胞では Rheb は細胞質画分に多く存在するのに対し、SmgGDS ノックダウン細胞では膜画分に強く濃縮した。また、SmgGDS と強く結合する Rheb 変異体はほとんど膜画分に局在しなかった。これらの結果から、SmgGDS は Rheb の局在を調節することで mTORC1 の活性を制御することがわかった。

【今後の方向】

mTORC1 は悪性中皮腫以外の種々のがんでは活性化していることが知られている。今回同定した SmgGDS がこれらのがんに対しても治療標的となるか検討する必要がある。また、SmgGDS と Rheb の結合部位を同定し、これを阻害することでがんの増殖を抑制することが可能か検討する。これらの検討により、mTORC1 活性化を示すがんに対する新たな治療戦略の提案を目指す。

システム解析学分野

<研究課題> 1

- (主眼) 統計的モデリングおよび深層学習を活用したがんゲノムデータ解析法の開発研究
- (副眼) 複数領域シーケンスデータからの変異検出法の理論的解析、およびアテンションメカニズムを用いた深層学習モデルによるナノポアシーケンシングデータ塩基決定法の開発

<研究者氏名>

山口 類、森山卓也¹⁾、小西寛城¹⁾、石川俊平²⁾、井元清哉¹⁾、宮野 悟³⁾

【目的・概要・進捗状況】

次世代シーケンサーに代表される計測技術の発展により、DNA をはじめする様々な生体分子のシーケンスデータが患者個人のレベルで得られるようになってきている。それらのデータから、がんのゲノムデータに含まれる患者固有変異を正確に検出し、最適な治療法の選択や、がんの複雑なシステムの理解へつなげるためには、データ解析の手法が重要である。我々は、そのためにベイズ統計モデルと深層学習モデルによる二種のモデル化手法によるデータ解析手法の開発を行っている。

これまで、個人の複数領域もしくは時点のゲノム情報を統合した高精度変異検出手法を開発してきたが、本年度は、同手法

の改良を進めると共に、高精度変異検出にいたる理由および条件について理論的考察を進め、論文として発表した。

また深層学習に基づく、ナノポアシーケンスデータからの塩基決定法（ベースコーラー）の開発を行った。これまで主流となっている、ショートリードシーケンスデータに加えて、ロングリードシーケンスデータを生成することのできる、ナノポアシーケンスの開発が進んでいる。その原理はタンパク質の微細な孔（ポア）を DNA のシングルストランドが通過する際に、通過する塩基の種類に応じて変化するイオン電流の強弱により、塩基のシーケンスを検出するものであるが、まだショートリードシーケンスデータからのデータに比べてエラーが多いことが問題となっている。この電流時系列からのベースコールに対して、近年、深層ニューラルネットワークモデルを用いた手法の開発が進んでいる。その問題に対してこれまで、URnano という手法を開発してきた。その中では URnet という新たなネットワーク構造を提案している。本年度は、また別の方式として、エンコーダー・デコーダーモデルに単調アテンションメカニズムを組み込んだモデル（Halcyon）を開発し、既存の手法と比較を行い、良好な性能を得ることを示した。

【今後の方向】

深層学習モデルに基づくナノポアベースコール手法は、DNA の塩基だけでなく、その上の修飾情報も取得できる。現在開発している方法を、その問題への適用を進める予定である。また、上記で考案してきているネットワークモデルは、長い系列データの変化点を見出す問題への拡張が考えられ、ゲノムのコピー数変化を検出する手法としても有望であるため、その問題への適用を進める予定である。

- 1) 東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター
- 2) 東京大学大学院医学系研究科衛生学分野
- 3) 東京医科歯科大学 M&D データ科学センター

<研究課題> 2

- (主 題) 臨床シーケンスへ向けたがん変異およびシステム変調情報の解釈・翻訳法の研究
- (副 題) 個別化遺伝子ネットワークからの情報抽出法の研究

<研究者氏名>

山口 類、Park Heewon¹⁾、丸橋弘治¹⁾、宮野 悟¹⁾

【目的・概要・進捗状況】

がんゲノムパネル検査が 2019 年より保険適用となり、がんゲノム医療が本格化している。我々は、近未来の、全ゲノムシーケンスおよび複数オミックスデータの統合解析に基づく、がん臨床シーケンスの実現に向けた情報解析基盤技術の開発を進めている。本年は、遺伝子発現データを統合した個別化情報抽出のための手法の開発を進めた。

計測技術の発展により、網羅的な遺伝子発現データを個人ごとに得られるようになってきているが、個々の遺伝子の発現状態だけでなく、それらの遺伝子間の制御関係をネットワークの形

で推定することができれば有用である。しかし、一人のデータからだけで、個人ごとのネットワークを推定することは困難である。我々は、これまでサンプル間の類似度情報を用いた重みづけと、L1 正則化に基づく個別化ネットワーク推定手法を開発してきている。その一方で、二万遺伝子からなるネットワーク構造は可視化すら難しく、それらのネットワークが、数百から数千のサンプルから得られたところで、そこから重要な部分構造を見出すことは、人間の手では著しく困難である。そこで、その困難を克服し、個人ごとに得られる遺伝子ネットワーク等の高次元データセットから、個人間の異質性および類似性を考慮した上で、薬剤感受性等の予測に有用な情報を人間に理解可能な形で抽出するための説明可能 AI の手法の開発を進めた。

【今後の方向】

これまで、細胞株を対象として、上皮間葉転換 (EMT) に関わる遺伝子発現を指標として細胞株間の類似度を用いて、ネットワークの推定を行ってきた、これらは二次元のテンソル情報としてみなすことができる。類似度の指標の多次元化を進め、さらにより高次のテンソル情報から、人間にとって意味のある情報を抽出できる方法へ手法を発展させていく予定である。

- 1) 東京医科歯科大学 M&D データ科学センター

腫瘍制御学分野

<研究課題> 1-1

- (主 題) がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用
- (副 題) 脂質ラフトによるシグナル分子の空間的制御とがん進展

<研究者氏名>

青木玲奈、上原 了、疋田智也、小根山千歳

【目的・概要・進捗状況】

最初に同定されたがん原遺伝子産物であるチロシンキナーゼ c-Src は、様々ながんにおいて発現や活性の亢進が認められる。しかし腫瘍組織においても src 遺伝子自体の変異はほとんど見られず正常型として発現している。即ち細胞には Src の恒常性を維持し、不要な Src シグナルの伝播を阻止する巧妙な分子メカニズムがあり、その破綻ががん進展に深く関わっていると示唆されるが、その詳細は未だ明らかとなっていない。私たちは昨年度までに、がんにおける異常な Src シグナルが、非受容体型チロシンキナーゼ Fer により中継される新たなメカニズムを見出した。Fer の制御機構の破綻とがん進展との関わりを解明するために、Fer 結合分子のプロテオミクス解析を行ない、見出した 9 種の分子について Fer との結合を確認することにより、4 種の Fer 制御因子候補を同定し、それらが Fer の下流でがんシグナルを伝播する新規基質であることを示した。

臨床検体を用いた組織染色などによって、新規がん治療標的

として Fer が有望であることが示唆されたため、Fer に結合する低分子化合物をスクリーニングし、ヒット化合物についてがん抑制作用や正常細胞への毒性、さらに Fer の機能阻害作用を解析した。その結果、12 万化合物から 26 種のヒット化合物を取得し、バリデーションを行った結果、4 種の Fer 選択的機能阻害剤候補を見出すことができた。

【今後の方向】

4 種の阻害剤のうち、最も薬効が高かった 1 種について構造展開を行い、よりがん増殖抑制作用が高く細胞毒性の低い化合物の取得をめざす。

<研究課題> 1-2

(主題) がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用

(副題) 3' UTR を介した遺伝子発現制御とがん進展

<研究者氏名>

上原 了、宮田真美子、渡邊理沙代、小根山千歳

【目的・概要・進捗状況】

遺伝子発現において、蛋白質に翻訳されるコーディング領域の下流には、3' 非翻訳領域 (3' UTR) と呼ばれる蛋白質に翻訳されない部位がある。この領域は microRNA との相互作用を通じて、翻訳産物 (蛋白質) の発現を制御する重要な機能を持つと考えられている。私たちはこれまでの研究で、様々ながん関連遺伝子が 3' UTR における microRNA との相互作用によって発現制御され、その破綻による発現亢進ががん悪性化に繋がることを見出してきた。がん関連遺伝子は様々なメカニズムによって発現が亢進し機能を発揮すると考えられているが、3' UTR を介した発現制御は microRNA を介したメカニズム以外にはほとんど知られていない。これまでの研究において、がん細胞の生存・運動に重要な Rictor 遺伝子の発現を 3' UTR を介して抑制する低分子化合物を 3 万化合物からスクリーニングし、さらにがん増殖抑制能を有する 4 種の化合物を見出した。そこで、がん関連遺伝子の 3' UTR を介した新たな発現制御メカニズムを解明するため、今年度はヒット化合物のうち薬効の最も高かった化合物について標的蛋白質候補を探索し、有望な標的蛋白質を同定した。また、ヒット化合物の生体における作用を解析し、薬物毒性の見られない投与量において顕著に担がんマウスにおける腫瘍形成を抑制することを明らかにした。

【今後の方向】

Rictor 遺伝子の発現を抑制する化合物の作用や標的タンパク質の詳細な解析を通して、3' UTR を介した遺伝子発現制御メカニズムを明らかにする。

<研究課題> 2-1

(主題) 細胞間コミュニケーションを介したがん進展メカニズムの解明

(副題) エクソソームの形成制御とがん進展

<研究者氏名>

疋田智也、三谷文美絵¹⁾、宮田真美子、青木玲奈、上原 了、渡邊理沙代、小根山千歳

【目的・概要・進捗状況】

エクソソームは、内部にタンパク質や RNA 分子を含む直径 40-150 nm 程度の膜小胞で、細胞から能動的に分泌され、不要物の排出に関わる他、体内を循環して他の細胞に取り込まれることで、細胞間コミュニケーションを担うと考えられている。がん細胞においては、エクソソーム形成・放出が亢進していることが知られており、ニッチ形成を介して転移やその臓器指向性にも関与するなど多様な機能が明らかとなりつつある。しかし、がん細胞におけるエクソソームの形成や分泌の亢進メカニズムについてはほとんど明らかとなっていない。私たちはこれまでに、様々ながん種で活性化している Src シグナルのエクソソーム産生への関与について解析してきた。その結果、エクソソーム粒子の形成に関わる Alix の機能が Src との結合を介して亢進し、エクソソームの分泌を促進するメカニズムを解明してきた。さらに今年度は、Src の下流で増殖シグナルに関わる MAPK の活性化がエクソソーム分泌促進するメカニズムを明らかにした。詳細な解析の結果、MAPK の活性化によって細胞内のリソソームの活性化が抑制され、エクソソーム形成の元となる多胞性エンドソームの分解が促進することにより、エクソソームの分泌が亢進することを明らかとした。

【今後の方向】

がん特異的なエクソソーム形成・分泌メカニズムを詳細に解析する。またそれらのメカニズムが機能しているがん種を明らかにし、メカニズムを基としたエクソソーム分泌阻害剤の探索・作用機序解明を行う。

¹⁾ 連携大学院生 (名古屋市立大学大学院薬学研究所)

<研究課題> 2-2

(主題) 細胞間コミュニケーションを介したがん進展メカニズムの解明

(副題) がん細胞由来エクソソームの体内動態解析

<研究者氏名>

疋田智也、宮田真美子、三谷文美絵¹⁾、小根山千歳

【目的・概要・進捗状況】

前項で述べたように、エクソソームはニッチ形成を介してがんの転移やその臓器指向性への関与が示唆されているが、実際の生体内における振る舞いには不明な点が多い。そのため、エクソソームの長期体内動態の解明が望まれている。これまでの研究で、エクソソームマーカーをルシフェラーゼ標識することによって生じた発光エクソソームを検出する方法を開発し、移植されたがん細胞から長期的に分泌されるエクソソームが集積

する組織・細胞の同定が可能となった。今年度はこの方法を発展させ、生きたままの状態を経時的にエクソソームの生体内動態・組織集積性などをモニターできる方法を開発し、生体においてがん細胞から分泌されるエクソソームの体内動態及び集積組織を明らかにすることができた。この方法を用いて、エクソソーム分泌抑制作用を有する Src 阻害剤 dasatinib の効果を担がんマウスにおいて解析することを試みたところ、血中や集積組織におけるがん細胞由来エクソソーム量の顕著な低下を確認することに成功した。これらの結果から、私たちが開発した系はエクソソームの体内動態解析やエクソソーム阻害薬の生体評価モデルとして有用であることを明らかとした。

【今後の方向】

開発した系を用いて、2-1 で見出したエクソソーム制御因子や阻害剤の生体評価を行ない、生体内におけるエクソソームの機能解析に役立てる。

¹⁾ 連携大学院生（名古屋市立大学大学院薬学研究所）

腫瘍免疫応答研究分野

<研究課題> 1-1

- (主 題) 遺伝子改変による養子免疫療法の改良開発
(副 題) エピジェネティクス改変による疲弊を起さない抗腫瘍 T 細胞の開発

<研究者氏名>

籠谷勇紀、吉川聡明、呉 智聞¹⁾

【目的・概要・進捗状況】

本研究は、がん細胞を認識・攻撃できる抗腫瘍 T 細胞を体外で準備して、患者に輸注することで治療を行う養子免疫療法の改良に関する開発研究である。本課題では特に、クロマチン開閉状態の修飾を通じて細胞の性質を広範に制御するエピジェネティック遺伝子に着目した抗腫瘍 T 細胞の修飾により、T 細胞機能を高めることを目的としている。これまでに T 細胞の機能改変につながる複数のエピジェネティック遺伝子を同定しており、治療効果の改善につながる非臨床データを得た。

【今後の方向】

同定された標的遺伝子の修飾を組み合わせることで、さらに T 細胞の機能を高めることを目指す。また得られた成果は知財申請、学術誌での発表を行うほか、臨床応用に向けてバイオ企業との共同研究体制を構築することを目指す。

¹⁾ リサーチレジデント

<研究課題> 1-2

- (主 題) 遺伝子改変による養子免疫療法の改良開発
(副 題) サイトカインシグナルの制御による治療効果改善、

副作用予防を両立した抗腫瘍 T 細胞の開発

<研究者氏名>

籠谷勇紀、吉川聡明、呉 智聞¹⁾

【目的・概要・進捗状況】

本研究は、がん細胞を認識・攻撃できる抗腫瘍 T 細胞を体外で準備して、患者に輸注することで治療を行う養子免疫療法の改良に関する開発研究である。本課題では特に、T 細胞機能に中心的に関わるサイトカインシグナルの制御を通じて、T 細胞の抗腫瘍効果増大、及び過剰な活性化に伴う副反応の低減を目指して研究を進めた。これまでに特定のサイトカインシグナルを活性化できる遺伝子修飾方法を開発し、知財申請に向けてデータを蓄積している。

【今後の方向】

開発した遺伝子修飾方法により作製された抗腫瘍 T 細胞が、治療効果、安全性の双方において優れることを示した上で、知財申請、学術論文としての発表を進める。また臨床応用に向けてバイオ企業との共同研究体制を構築することを目指す。

¹⁾ リサーチレジデント

<研究課題> 2

- (主 題) 免疫療法抵抗性に関わる腫瘍細胞特性の解明

<研究者氏名>

籠谷勇紀、吉川聡明、呉 智聞¹⁾

【目的・概要・進捗状況】

T 細胞による細胞傷害活性に対する感受性はがん細胞の種類によって大きく異なることが知られている。この分子機序を解明するために多数のがん細胞株を準備し、感受性データの取得を進めた。これまでに 90 種類程度の細胞についてのデータを蓄積し、抵抗性に関わる分子機序の一端を明らかにした。

【今後の方向】

免疫療法抵抗性に関わる因子を修飾することで、T 細胞療法の治療効果改善につながることを示す非臨床データを取得することを目指す。得られた成果は知財申請の後、学術論文としての発表を進める。

¹⁾ リサーチレジデント

腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野

<研究課題> 1

- (主 題) がん免疫編集のメカニズムの解明
(副 題) 肺癌における新しい腫瘍免疫微小環境の評価法の開発

<研究者氏名>

篠原周一¹⁾、高橋祐介、岡村文子、山口 類、黒田浩章、
松下博和

【目的・概要・進捗状況】

腫瘍免疫微小環境 (TIME) をより良く理解することが、予後および治療効果予測バイオマーカーの開発につながると考えられる。しかし、TIME を構成する腫瘍細胞、免疫細胞、および局所免疫抑制因子間の複雑な相互作用を包括的に評価する方法はほとんど開発されていない。我々は、これらの三つの因子に基づく新しいスコアリングシステム (TIME score) を、肺癌 113 例の RNA-seq と全エクソームシーケンスのデータを用いて確立した。TIME score は、T-score (腫瘍因子)、I-score (抗腫瘍免疫因子)、そして S-score (免疫抑制因子) から成る。組織学的タイプ、ドライバー変異、腫瘍浸潤リンパ球、および突然変異由来のネオアンチゲンに対する免疫応答/免疫編集が肺癌患者の TIME スコアに影響を及ぼすことを示した。肺癌 990 例の TCGA データセットを用いた予後解析では T、I、S-score はいずれも独立した予後因子となり、8つのグループ (G1-8) で予後が層別された。さらに、TIME スコアが、黒色腫患者における抗 PD-1 療法の有効性を予測することを示した。このスコアリングシステムは、肺癌患者の予後予測や治療戦略に役立つと考えられる。

【今後の方向】

バルクの RNA 発現をもとに開発した TIME score をさらに発展させるために、腫瘍の免疫組織学的解析や T 細胞のシングルセル解析等の詳細な検討を行う。得られたデータから、肺癌において ICI のみで効果が期待できる症例の選択、さらには ICI とがんワクチンを含む他の治療との併用で効果が期待できる症例の選択に役立つ可能性がある。

¹⁾ 任意研修生

<研究課題> 2

(主題) 腫瘍特異抗原の同定と免疫応答の解析
(副題) p53 変異抗原特異的 T 細胞の誘導

<研究者氏名>

岡村文子、高橋祐介、松下博和

【目的・概要・進捗状況】

免疫チェックポイント阻害剤を用いた治療において、がんが保有する変異抗原 (ネオアンチゲン) に由来するエピトープを認識する CTL が、がんの治療に有効であることが明らかになってきた。がんだけが有するネオアンチゲンの免疫原性が一般的に高く、臨床効果が得られていることからネオアンチゲンを標的とする免疫療法が注目されている。しかしながら、がん細胞における変異は個々の患者において様々であり、ネオアンチゲンの探索も個別に行う必要がある。一方で、がんに共通する変異が存在することから、共通ネオアンチゲンを標的として、個

別にネオアンチゲンを探索する時間や手間を省略したがん免疫療法も広がりを見せている。

がん抑制遺伝子であり、がんにおいて高い頻度で遺伝子が変異している TP53 遺伝子のタンパク質を標的としたがん免疫療法の開発を行うために、昨年度は p53 変異抗原特異的 T 細胞の誘導を行った。TP53 遺伝子内の DNA 結合領域に様々ながんで見られる変異のホットスポットに含まれる既知のネオアンチゲンを対象とした。健康人由来ナイーブ CD8⁺ T 細胞を複数回刺激した。2 人の健康人検体で様々な条件のもと刺激したところ、1 人の健康人検体で特異的な T 細胞応答を誘導することができた。今年度はこれらの T 細胞から特異的 T 細胞を分取して、T 細胞受容体 (TCR) 遺伝子の解析を行った。また一部特異的なクローンを得ることができ、クローンの TCR 遺伝子の解析も行った。TCR 遺伝子は塩基配列を調べて、a 鎖遺伝子および b 鎖遺伝子の同定を行った。これにより、TCR がどのくらい同じものが取れているかなどを判別し、異なる TCR のクローニングを行いレトロウイルスベクターに組み込んでプラスミドを作製した。作出したプラスミドを、TCR を発現しない Jurkat 細胞に導入したところ、それぞれの TCR タンパク質の発現を確認することができた。

【今後の方向】

得られた TCR 遺伝子の特異性を確認できた後に、HLA 拘束性、エピトープ配列の同定を行っていく予定である。野生型配列を認識せず、変異配列だけを認識できるような TCR であれば、改変を行い、高親和性化を行っていく予定である。さらには、TCR 移入 T 細胞治療の開発を行っていく予定である。

<研究課題> 3

(主題) ネオアンチゲンを標的としたがん免疫療法の開発
(副題) 肺癌個別化がんワクチンの研究開発

<研究者氏名>

高橋祐介、篠原周一¹⁾、小室裕康¹⁾、松井琢哉¹⁾、杉田裕介²⁾、
岡村文子、山下慶子³⁾、山口 類、田口 歩、松下博和

【目的・概要・進捗状況】

がん免疫療法の中で、免疫抑制解除型の免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) の開発は一定の成功を収めたものの、その治療効果は一部の症例に限られている。これまで、遺伝子変異由来のネオアンチゲンに対する免疫応答が ICI の効果の鍵を握ることを示唆するデータが報告されてきた。したがって、免疫抑制の解除に加え、ネオアンチゲンに対する免疫応答を増強するがん免疫療法を開発できれば、治療効果を引き上げられる可能性がある。有効ながん免疫療法を実施していく上で重要なことは、①強い免疫応答を引き起こしうる有望なネオアンチゲンの選定と、② ICI、がんワクチン及びその併用治療を含むがん免疫療法の適応症例の適切な選択にある。②については上述の TIME score が、がんワクチンの候補症例の選択に有用である可能性を示した。①については、より正確なネオアンチゲン予測アルゴリズムを開発するべく、日本電気株式会社 (NEC)

と共同で人工知能（AI（グラフベース関係性学習））を活用したネオアンチゲンの予測を行っている。そして、予測された抗原に対する免疫応答性を患者由来の腫瘍浸潤リンパ球（TIL）を用いて検証している。LK084 症例で、AI で予測された2個のネオアンチゲンに対する免疫反応性を確認している。引き続き、他の症例についても同様の検討を行う。また、腫瘍内のCD8陽性T細胞をシングルセル解析し、遺伝子発現とT細胞受容体（TCR）の解析結果から、腫瘍特異的なCD8陽性T細胞サブグループを同定し、そのT細胞が認識する抗原を同定する新たな方法を開発中である。

【今後の方向】

抗原同定システムをさらに発展させるために、ハイスループットなT細胞-抗原スクリーニングを実施していく。さらに、創薬の出口戦略を見据え、ネオアンチゲンのRNAワクチン開発に向けた研究を着手する予定である。

- 1) 任意研修生、2) リサーチレジデント、
3) AI Drug Development Division, NEC Corporation

分子診断トランスレーショナルリサーチ分野

<研究課題> 1

- （主題） がんの診断・治療個別化に有用な血液バイオマーカーの探索
（副題） 大腸癌の早期診断を目指した血液バイオマーカーの探索同定

<研究者氏名>

田口 歩、阿部雄一、森 治樹¹⁾

【目的・概要・進捗状況】

我が国において、大腸癌の罹患者数は増加傾向で、約15万人と全がんの中で最多であり、また死亡者数も5万人超と肺癌について2番目に多い。大腸癌の5年相対生存率は、局所限局症例では95%以上と非常に良い一方で、局所限局症例の占める割合は全体の約40%に過ぎず、その診断の遅れが問題となっている。大腸癌を早期発見するためのスクリーニングとして、免疫法便潜血検査が行われている。便潜血検査は、受診者の負担が低く、また大腸癌による死亡率を減少させることが証明されているが、疑陽性率が高く、その陽性的中率はわずか5%前後であること、また早期大腸癌に対する感度も約50%と低いことから、より精度が高い早期診断法の開発が急務である。

血液バイオマーカーは、簡便かつ低侵襲、低コストで高スループットな診断法であり、癌の早期診断やスクリーニングにおいて有望である。本研究では、臨床上有用な診断精度を持つ、高リスク大腸腺腫・早期大腸癌の血液診断バイオマーカーの探索を目指して、高リスク大腸腺腫・早期大腸癌患者から採取された血漿検体を用いて、血中タンパクと自己抗体の網羅的かつ高深度なプロファイリングを行う。

令和2年度は、大規模分画による高深度血漿タンパク解析か

ら同定された、大腸癌早期診断バイオマーカー候補について、アッセイの開発と初期検証を行い、いくつかのバイオマーカーについては、大腸癌患者由来の血液において、健常者に比較して有意に高値であることが検証できた。また、血漿タンパク解析に並行して、液体クロマトグラフィーを応用した抗原-自己抗体のハイスループットな高感度プロファイリング法を開発した。

【今後の方向】

当分野ではマスマスペクトロメトリーを導入予定であり、血漿タンパク解析と自己抗体プロファイリングのさらなる高感度化とその統合的な解析により、癌関連タンパクの血中ダイナミクスを捉える。また、初期検証で有意に差があったバイオマーカーについては、便潜血陽性例から収集された血液検体、大腸癌診断前に収集された血液検体を用いてさらに検証する。

- 1) リサーチレジデント

<研究課題> 2

- （主題） 網羅的分子プロファイリングによるがんの分子病態の解明と新規治療標的分子の探索
（副題） 空間プロテオミクスによる大腸がん転移の分子機構解明とがん治療への応用

<研究者氏名>

田口 歩、阿部雄一、森 治樹¹⁾

【目的・概要・進捗状況】

遠隔転移を伴わないStage I～Ⅲの大腸癌に対する標準治療は、外科的切除と領域リンパ節郭清であり、リンパ節転移を有するStage Ⅲであっても、5年生存率は約70%と比較的予後良好である。その一方で、遠隔転移を有するStage Ⅳ大腸癌の5年生存率は約20%と非常に予後が悪い。Stage Ⅳにおいても、遠隔転移も含めて完全切除が可能であれば外科的切除の適応となり、例えば、肝転移に対して根治的切除を行った場合の5年生存率は、約40%と報告されている。しかし、肝転移切除後の再発は、残肝再発が約50%、次いで肺転移が20～30%と多く、大腸癌の生存率向上のためには、再発・転移の制御が極めて重要であると考えられる。次世代シーケンシングなどの解析手法の進歩によって、ゲノム情報を中心に転移性大腸癌の分子生物学的な知見は集積しつつあるものの、有効な治療法の開発には至っておらず、革新的なアプローチによって、転移性大腸癌の克服に取り組む必要がある。

我々は、大腸癌を含む代表的なヒト癌細胞株を用いて、細胞表面タンパク質や核タンパク質、分泌タンパク質など、空間的なタンパク質プロファイリングに重点を置いた網羅的プロテオーム解析を行ってきた。この空間プロテオーム解析を臨床検体に応用することによって、ゲノム、トランスクリプトーム解析だけでは得られない新たな視点から大腸癌転移の分子機構を解明し、革新的な治療法の開発につなげることで大腸癌転移の克服を目指す、というのが本研究の出発点であった。

日常診療においては、我々の強みである空間プロテオーム解析に十分な大きさを持つ腫瘍検体が分子生物学的解析に供される機会は極めて少なく、この点を克服するために、マウス大腸癌細胞株 CT26 を同系のマウスに同所性（盲腸）に移植し、形成された原発巣と転移巣を採取して繰り返し同系同所性に移植する in vivo selection 法を用いて、高肝転移性亜株（CT26-L6）、高リンパ節転移性亜株（CT26-LN6）、高腹膜播種性亜株（CT26-P6）、低転移性亜株（CT26-N5）を樹立した。CT26-L6、CT26-LN6、CT26-P6 は、CT26-N5 に比較して、腫瘍の増殖に有意な差はないものの、CT26-L6 は 8 匹中 5（62.5%）匹のマウスで肝転移を起し、CT26-LN6、CT26-P6 はそれぞれリンパ節転移、腹膜播種を高頻度に起こした。また in vitro において、各高転移性亜株は、CT26-N5 に比較して遊走能、浸潤能が有意に亢進していた。この in vitro モデルを用いて、細胞表面タンパクを中心とする空間プロテオーム解析とリン酸化タンパク解析を行った。特に高腹膜播種性亜株（CT26-P6）において、非常に高い発現を示す転移関連分子を同定し、現在その機能と制御機構を解析している。

【今後の方向】

高肝転移性亜株、高リンパ節転移性亜株についても一群の興味深い転移関連分子候補を同定しており、機能解析を進める。特に肝転移については、同一症例の原発巣、肝転移巣から樹立したペア PDX モデルの多層オミクスデータと統合解析を行い、大腸癌転移の制御法開発を目指す。

¹⁾ リサーチレジデント

がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

<研究課題> 1

- （主題） 各種固形腫瘍に対する新規分子標的治療開発
（副題） 大腸がんの変異・発現・血中 ctDNA の統合解析による新規分子標的の同定

<研究者氏名>

衣斐寛倫、足立雄太、西岡由希、山口 類、井本逸勢

【目的・概要・進捗状況】

大腸がんによる死亡者数は年間 5 万人程度で、男性のがん死亡の第 3 位、女性では第 1 位の原因である。大腸がんの術後再発メカニズムの解明および新規治療開発のため、切除可能大腸がんの手術検体よりオルガノイドの作成を行うとともに、腫瘍検体の全エクソームシーケンス解析とそれに基づいて患者個別に設定された対象遺伝子の ctDNA 解析、腫瘍検体の RNA シーケンス解析のデータを統合解析し、新たな標的分子の同定と治療開発につなげる。本研究は、多施設共同臨床試験であり、当院のデータと試験全体のデータの統合解析を行っている。

【今後の方向】

ctDNA 解析結果と臨床病理学的背景の関わり、ctDNA 解析

結果により判定される術後補助療法に対する感受性と発現プロファイルの相関などの解析により標的分子の選定を進める。

<研究課題> 2

- （主題） 承認済み分子標的薬における初期・獲得耐性機序の解明・克服
（副題） KRAS G12C 阻害薬の初期獲得耐性の解明とその克服

<研究者氏名>

衣斐寛倫、足立雄太、築瀬正伍、春日夏実

【目的・概要・進捗状況】

固形腫瘍において、KRAS 遺伝子は高頻度に変異を認めるが、有効な治療法が存在しないため新たな治療開発が急務である。KRAS 変異にはいくつかのホットスポットが存在し、そのうち 12 番目のアミノ酸であるグリシンがシステインに変異する KRAS G12C 変異は、肺がんの 45%、大腸がんの 23% に存在することが知られている。近年、KRAS G12C 変異タンパクを特異的に阻害する薬剤が開発され、早期臨床試験で有効性を認め、2021 年 3 月本邦でも承認申請された。我々は、KRAS G12C 変異を有するがん細胞株の解析から、KRAS タンパクの発現が KRAS G12C 阻害薬の感受性に関与することを見出した。また、KRAS タンパクの発現は、腫瘍の上皮間葉移行状態に関連しており、腫瘍細胞が間葉系の性質を獲得することにより KRAS G12C 阻害薬に耐性となることを明らかにした (Adachi et al. Clin. Cancer Res. 2020)。

【今後の方向】

KRAS の他の部位に対する特異的阻害薬も開発が進んでいることから、KRAS G12C 阻害薬は、今後の KRAS 変異腫瘍に対する治療のモデルケースとなることが考えられる。現在、上皮間葉移行状態以外の KRAS G12C 阻害薬の初期・獲得耐性機序や、上皮間葉移行状態が誘導されるメカニズムについても検討を進めており、これらの原因が明らかにされることにより、KRAS 阻害薬の効果が期待される患者の同定や、効果が期待できない患者に対する併用療法などの新たな治療選択の提示につなげたい。

第2章 研究発表関係

1. 学会等における研究発表テーマ調べ（総長・副総長）

総長

- 001 梶野泰祐, 高橋 隆: A novel long non-coding RNA, TILR, suppresses apoptosis by inhibiting p53 expression. 第79回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [シンポジウム]

副総長

- 001 榑野正人, 土岐祐一郎: 「命と向き合う外科医 (1): 手術でしか救えない命—外科手術の限界への挑戦— (消化器・乳腺・内分泌・一般外科領域) . 第120回日本外科学会定期学術集会, 2020, (横浜市), [司会]
- 002 榑野正人, 遠藤 格: 肝門部領域胆管癌の切除境界例とは. 第56回日本胆道学会学術集会, 2020, (福岡市), [司会]
- 003 糸井隆夫, 榑野正人: 臓器別シンポジウム 12 肝門部領域胆管がんの治療戦略. 第58回日本癌治療学会, 2020, (京都市), [司会]
- 004 二村雄次, 榑野正人: 総合企画 02 肝門部領域胆管癌に対する拡大手術. 第82回日本臨床外科学会, 2020, (大阪市), [特別演題]
- 005 江畑智希, 遠藤 格, 榑野正人: ビデオシンポジウム 03 肝門部領域胆管癌の術式選択と治療成績. 第82回日本臨床外科学会, 2020, (大阪市), [特別発言]

2. 学会等における研究発表テーマ調べ（病院）

消化器内科部

- 001 **Hara K**: Is ERCP replaceable with EUS?. FUJI ENDOSCOPIC FORUM, 2020, (インド), [特別講演]
- 002 **Hara K**: ERCP is always better than EUS-BD?. TDDW 2020, 2020, (台湾), [特別講演]
- 003 **Hara K**: LIVE DEMO III. EUS Summit 2020, 2020, (韓国), [司会]
- 004 **原 和生**: 胆道系疾患に対する Interventional EUS. 第31回日本消化器内視鏡学会東海セミナー, 2020, (名古屋), [講演]
- 005 **原 和生**: 膵疾患に対する内視鏡診断と治療. 第44回日本消化器内視鏡学会セミナー, 2020, (東京), [講演]
- 006 **原 和生**: Fielder18 が導く新たな世界. 第99回日本消化器内視鏡学会総会, 2020, (京都), [講演]
- 007 **原 和生**: モーニングセミナー5. 第99回日本消化器内視鏡学会総会, 2020, (京都), [司会]
- 008 **原 和生**: ミニワークショップ9 難渋する胆道ドレナージの工夫. 第56回日本胆道学会学術集会, 2020, (福岡), [座長]
- 009 **原 和生**: ゲノム時代における胆膵内視鏡の役割. 第43回日本消化器病学会北陸支部教育講演会, 2020, (福井), [特別講演]
- 010 **原 和生**: シンポジウム2 胆膵. 第63回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2020, (名古屋), [座長]
- 011 **原 和生**: NET 講演会 in AICHI, 2020, (名古屋), [座長]
- 012 **原 和生**: アサヒDICカンファレンス, 2021, (名古屋), [座長]
- 013 **原 和生**: EUS-FNA-FNB 遺伝子パネル検査. FNA Masters, 2021, (名古屋), [講演]
- 014 **原 和生**: ゲノム診療時代の胆膵内視鏡の役割. 第37回京滋消化器内視鏡治療勉強会, 2021, (名古屋), [特別講演]
- 015 **原 和生**: EUS-BD の現状と今後の展望. 第15回伯出讚備胆膵治療内視鏡ワークショップ, 2021, (名古屋), [特別講演]
- 016 **原 和生**: がんゲノム診療時代の胆膵内視鏡の役割. 第46回鳥城消化器カンファレンス, 2021, (岡山), [特別講演]
- 017 **水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 原 和生**: 膵神経内分泌腫瘍 (pancreatic neuroendocrine neoplasms, PanNENs) に対する薬物療法の最新知見. 第8回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会, 2021, (横浜), [シンポジウム]
- 018 **水野伸匡**: 「膵炎・膵切除後のサポータティブケア」特別発言1 内科医の立場から. 第51回日本膵臓学会大会, 2021, (神戸), [メディカルスタッフセッション]
- 019 **羽場 真, 原 和生, 清水泰博**: IPMN に対する最新の外科治療戦略 IPMN 浸潤癌を適切に診断するための術前診断法. JDDW2020, 2020, (神戸), [ワークショップ]
- 020 **羽場 真, 原 和生, 清水泰博**: IPMN の経過観察中に
おける通常型膵癌発症リスクの検討と膵嚢胞専門外来の試み. 第106回日本消化器病学会総会, 2020, (広島), [ワークショップ]
- 021 **羽場 真, 原 和生, 清水泰博, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 孝田博輝, 宮野 亮, 千田嘉毅, 夏目誠治, 奥野正隆, 細田和貴**: IPMN 併存浸潤性膵管癌の臨床的特徴と治療方針. 第51回日本膵臓学会大会, 2021, (神戸), [一般口演]
- 022 **桑原崇通**: 超音波内視鏡画像を用いた膵疾患に対する AI 診断の取り組み. 第3回ビッグデータ・AI 研究会, 2021, (東京), [招待講演]
- 023 **桑原崇通, 原 和生, 清水泰博**: 膵疾患診断 AI の有効性と学習効率化への取り組み. JDDW2020, 2020, (神戸), [特別企画]
- 024 **桑原崇通, 原 和生, 清水泰博**: Usefulness of Deep Learning Analysis for the Diagnosis of Malignancy in IPMN. JDDW2020, 2020, (神戸), [ワークショップ]
- 025 **桑原崇通, 羽場 真, 清水泰博**: AI を用いた次世代の内視鏡診療 人工知能を用いた膵疾患診断の有用性. 第99回日本消化器内視鏡学会総会, 2020, (京都), [パネルディスカッション]
- 026 **桑原崇通, 原 和生, 清水泰博**: Deep learning を用いた膵腫瘍良悪性診断. 第51回日本膵臓学会大会, 2021, (神戸), [シンポジウム]
- 027 **桑原崇通, 原 和生, 清水泰博**: IPMN 良悪性診断における deep learning の有用性. 第106回日本消化器病学会総会, 2020, (広島), [シンポジウム]
- 028 **桑原崇通, 原 和生**: 膵疾患における人工知能を用いた超音波内視鏡画像解析. 日本超音波医学会第93回学術集会, 2020, (web), [一般演題]
- 029 **奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生**: 胆膵治療内視鏡診療におけるトラブルシューティング EUS-guided hepatico enterostomy におけるトラブルシューティング 留置スネアを用いた Cowboy method. 第99回日本消化器内視鏡学会総会, 2020, (京都), [パネルディスカッション]
- 030 **奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生**: 抗血栓薬服用者に対する胆膵内視鏡のマネジメント 抗血栓薬服用患者における EUS-guide biliary drainage(EUS-BD). 第99回日本消化器内視鏡学会総会, 2020, (京都), [ワークショップ]
- 031 **奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生**: 治療内視鏡における抗血栓薬内服患者のリスクマネジメント 抗血栓薬服用者における EUS-guide biliary drainage(EUS-BD) の安全性. 第106回日本消化器病学会総会, 2020, (広島), [パネルディスカッション]
- 032 **奥野のぞみ, 水野伸匡, 原 和生**: ゲノム診療の膵癌臨床への応用 当院における膵癌ゲノム診療の現状と課題. 第51回日本膵臓学会大会, 2021, (神戸), [ワークショップ]
- 033 **宮野 亮, 奥野のぞみ, 原 和生**: 当院における自己免疫性膵炎の特徴. 第106回消化器病学会総会, 2020, (広島),

[一般口演]

- 034 宮野 亮, 桑原崇通, 原 和生, 孝田博輝, 奥野のぞみ, 羽場 真, 水野伸匡: 胆管挿管困難例における経膵管口プレカット法の有用性と安全性. 第99回日本消化器内視鏡学会総会, 2020, (京都), [一般口演]
- 035 宮野 亮, 奥野のぞみ, 原 和生, 孝田博輝, 桑原崇通, 羽場 真, 水野伸匡: 術前進展度診断に苦慮した肝内胆管癌の1例. 第56回日本胆道学会学術集会, 2020, (福岡), [一般口演]
- 036 宮野 亮, 桑原崇通, 孝田博輝, 奥野のぞみ, 羽場 真, 水野伸匡, 原 和生: 当院における遠隔転移を有する膵神経内分泌腫瘍に対するストレプトゾシンの使用経験. 第51回日本膵臓学会大会, 2021, (神戸), [ワークショップ]
- 037 宮野 亮, 桑原崇通, 原 和生: Relationship between Autoimmune Pancreatitis and Cancer. JDDW2020, (神戸), [ワークショップ]
- 038 宮野 亮, 田中 努, 田近正洋, 大西祥代, 山田啓策, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 丹羽康正: Helicobacter pylori 既感染を背景にしたABC分類A群由来胃癌の外科切除例における長期予後. 第17回日本消化器学会総会学術集会, 2021, (大阪), [一般口演]
- 039 宮野 亮, 桑原崇通, 原 和生: 消化器領域から見たIgG4関連疾患研究の進歩 当院における自己免疫性膵炎と悪性腫瘍合併に関する検討. 第106回日本消化器病学会総会, 2020, (広島), [ワークショップ]
- 040 柳井谷駿史, 奥野のぞみ, 文原大貴, 宮野 亮, 羽場 真, 桑原崇通, 水野伸匡, 原 和生, 出井秀幸, 前田真吾, 川勝章司, 清水泰博, 加藤省一, 細田和貴: 自己免疫性膵炎の経過中に合併したIgG4関連胆膵炎の1例. 第63回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2020, (名古屋), [口演]
- 041 田近正洋, 原 和生, 丹羽康正: 遺伝性大腸腫瘍に対する診断と治療 家族性大腸腺腫症における術後サーベイランスの検討. JDDW2020, 2020, (神戸), [シンポジウム]
- 042 大西祥代, 田近正洋, 丹羽康正, 田中 努, 平山 裕, 原和生, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 孝田博輝, 宮野 亮: 大腸T1癌のリンパ節転移のリスク因子の検討. 第99回日本消化器内視鏡学会総会, 2020, (京都), [口演]
- 043 田中 努, 田近正洋, 平山 裕, 大西祥代, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 羽場 真, 孝田博輝, 宮野 亮, 丹羽康正: Helicobacter pylori 既感染を背景にしたABC分類A群由来胃癌の臨床病理学的検討. 第106回日本消化器病学会総会, 2020, (広島), [ポスター]
- 044 田中 努, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 羽場 真, 孝田博輝, 宮野 亮, 原 和生, 田近正洋, 丹羽康正: 早期胃癌ESD症例のH. pylori除菌療法後に発見された異時性胃癌の検討. JDDW2020, 2020, (神戸), [ポスター]
- 045 栗田裕介, 小林規俊, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 羽場 真, 千田嘉毅, 夏日誠治, 奥野正隆, 長谷川 翔, 佐藤高光, 細野邦広, 本間祐樹, 松山隆生, 窪田賢輔, 中島 淳, 市川靖史, 遠藤 格, 清水泰博, 原 和生: 遠隔

転移を有する膵NENに対する治療選択 膵神経内分泌腫瘍における再導入も含めたエベロリムス投与・減量切除は有効か?. 第51回日本膵臓学会大会, 2021, (神戸), [ワークショップ]

内視鏡部

- 001 Morizane C, Ueno M, Ioka T, Tajika M, Ikeda M, Yamaguchi K, Hara H, Yabusaki H, Miyamoto A, Iwasa S, Muto M, Takashima T, Minashi K, Komatsu Y, Nishina T, EguchiNakajima T, Sahara T, Funasaka S, Yashiro M, Furuse J: Clinical update of plasma and tumor-based genomic analyses in expansion part of phase 1 study of selective FGFR inhibitor E7090. ESMO Asia 2020, 2020, (Singapore), [Poster]
- 002 M A Shah, Kojima T, D Hochhauser, P Enzinger, J Raimbourg, A Hollebecque, F Lordick, S B Kim, Tajika M, H T Kim, A C Lockhart, H T Arkenau, F El Hajbi, P Pfeiffer, P Bhagia, Z A Cao, J Lunceford, S Suryawanshi, M Ayers, M Marton, Kato K: Association of T-Cell-Inflamed Gene Expression Profile and PD-L1 Status With Efficacy of Pembrolizumab in Patients With Esophageal Cancer From KEYNOTE-180. SITC2020, 2020, (Wisconsin), [Poster]
- 003 Matsubara Y, Masuishi T, Ogata T, Nakazawa T, Kato K, Nozawa K, Narita Y, Honda K, Bando H, Kadowaki S, Ando M, Tajika M, Muro K: Impact of omitting fluorouracil from FOLFIRI plus bevacizumab as second-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer patients. ASCO-GI 2021, 2021, (San Francisco), [Poster]
- 004 Matsubara Y, Bando H, Ogata T, Nakazawa T, Kato K, Nozawa K, Narita Y, Honda K, Masuishi T, Kadowaki S, Ando M, Tajika M, Muro K, Ebi H: Angiogenesis-related factors associated with nivolumab efficacy after ramucirumab therapy in advanced gastric cancer. JSMO2021, 2021, (Osaka), [Poster]
- 005 田近正洋, 原 和生, 丹羽康正: 遺伝性大腸腫瘍に対する診断と治療 家族性大腸腺腫症における術後サーベイランスの検討. JDDW2020, 2020, (神戸), [シンポジウム]
- 006 田中 努, 田近正洋, 平山 裕, 大西祥代, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 羽場 真, 孝田博輝, 宮野 亮, 丹羽康正: Helicobacter pylori 既感染を背景にしたABC分類A群由来胃癌の臨床病理学的検討. 第106回日本消化器病学会総会, 2020, (広島), [ポスター]
- 007 田中 努, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 羽場 真, 孝田博輝, 宮野 亮, 原 和生, 田近正洋, 丹羽康正: 早期胃癌ESD症例のH. pylori除菌療法後に発見された異時性胃癌の検討. JDDW2020, 2020, (神戸), [ポスター]
- 008 田中 努: 消化管4. 第243回日本内科学会東海地方会, 2021, (三重), [座長]

- 009 大西祥代, 田近正洋, 丹羽康正: 大腸 T1 癌治療後の転移・再発と至適サーベイランス 当院における T1 大腸癌の転移・再発の現状. 第 106 回日本消化器病学会総会, 2020, (広島), [ワークショップ]
- 010 大西祥代, 田近正洋, 丹羽康正, 田中 努, 平山 裕, 原和生, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 孝田博輝, 宮野 亮: 大腸 T1 癌のリンパ節転移のリスク因子の検討. 第 99 回日本消化器内視鏡学会総会, 2020, (京都), [口演]
- 011 大西祥代, 田近正洋, 丹羽康正: 高齢食道癌患者に対する術前加療を含めた外科手術の妥当性の検討. JDDW2020, 2020, (神戸), [統合プログラム]
- 012 大西祥代, 田近正洋, 田中 努, 檜垣榮治, 細井敬泰, 安部哲也, 丹羽康正: 高齢者食道扁平上皮癌患者の術前化学療法の有用性と体組成異常が予後に与える影響. 第 74 回日本食道学会学術集会, 2020, (徳島), [ポスター]
- 013 大西祥代, 田近正洋, 水野伸匡, 桑原崇通, 稲葉吉隆, 室圭, 丹羽康正: Prognostic impact of sarcopenic obesity after neoadjuvant chemotherapy in elderly patients with esophageal carcinoma. 第 18 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (大阪), [口演]
- 014 山田啓策, 田中 努, 田近正洋: 消化管 咽頭表在癌に対する消化器内科・頭頸部外科合同 ESD/ELPS の有用性. 第 63 回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2020, (名古屋), [ポスター]
- 015 末永泰人, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 清水泰博, 田近正洋: 当センターにおける直腸カルチノイド 76 例の検討. 第 75 回消化器外科学会総会, 2020, (和歌山), [ポスター]
- 016 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 鳥山和浩, 田近正洋, 丹羽康正, 清水泰博: [大腸] 早期大腸癌に対する診断と治療 T1 大腸癌の診断と治療における腫瘍占拠部位の意義. 第 75 回消化器外科学会総会, 2020, (和歌山), [パネルディスカッション]
- 017 末永泰人, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 大内 晶, 清水泰博, 田近正洋, 田中 努, 大西祥代, 山田啓策, 細田和貴: 直腸 NEN に対する治療の適応と工夫 直腸 NETG1/G2 の治療方針に関する検討. 第 75 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2020, (神奈川), [ワークショップ]
- 018 能澤一樹, 舩石俊樹, 熊西亮介, 中澤泰子, 緒方貴次, 松原裕樹, 加藤恭子, 成田有季哉, 本多和典, 坂東英明, 門脇重憲, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭: 切除不能大腸癌一次化学療法中の悪液質が生存に与える影響. 第 58 回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [一般口演]
- 019 尾瀬 功, 伊藤秀美, 伊藤誠二, 小森康司, 田中 努, 田近正洋, 春日井由美子, 松尾恵太郎: 胃がん・大腸がん サバイバーの治療後のうつと関連する社会的・経済的要因の探索. 第 31 回日本疫学会学術総会, 2021, (佐賀), [一般口演]
- 020 宮野 亮, 田中 努, 田近正洋, 大西祥代, 山田啓策, 原和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 羽場 真, 文原大貴, 柳井谷駿史, 丹羽康正: Helicobacter pylori 既感

染を背景にした ABC 分類 A 群由来胃癌の外科切除例における長期予後. 第 17 回日本消化管学会総会学術集会, 2021, (大阪), [一般口演]

呼吸器内科部

- 001 *Garon B. E, Heist S. R, Seto T, Han Ji-Y, Reguart N, Groen J. M, Tan D. SW, Hida T, Jonge M. JA, Orlov S. V, Smit E. F, Souquet P-J, Vansteenkiste J, Mouhaer S. L, Robeva A, Waldron-Lynch M, Giovannini M, Worf J*: Capmatinib in METex14-mutated (mut) advanced non-small cell lung cancer (NSCLC): Results from the phase II GEOMETRY mono-1 study, including efficacy in patients (pts) with brain metastases (BM). AACR, 2020, (San Diego), [Oral]
- 002 *Oya Y, Yoshida T, Yamaguchi T, Kuroda H, Shimizu J, Horio Y, Matsushita H, Hida T*: High Serum Interleukin 6 Level Associates with Early Death after initiation of treatment with PD-1 inhibitor in advanced NSCLC. AACR, 2020, (San Diego), [poster]
- 003 *Jassem J, Herbst R. S, Marinis D. F, Cadranet J, Csozsi T, Casado D. I, Chen G, Syrigos K, Cortinavis D, Hida T, Mocchi S, Phan S, Euquist I, Patel H, Villalobos M, Wen X, Deng Y, Kuriki H, Soigel D, Giaccone G*: IMpower110: clinical safety in a Phase 3 study of atezolizumab (atezo) monotherapy vs platinum-based chemotherapy (chemo) in first-line non-small cell lung cancer (NSCLC). ASCO, 2020, (Chicago), [Oral]
- 004 *Tan D. S-W, Leighl N. B, Yang J. C-H, Riely G. J, Sequist L. V, Toyozawa R, Wolf J, Font E. F, Kim S-W, Aix S. P, Smit E. F, Hida T, Grohe C, Ghebremariam S, O'Sullivan-D. L, Belli R, Giovannini M, Kim D-W*: Naxartinib (EGF816) in patients with treatment-naive EGFR-mutant non-small cell lung cancer (NSCLC): updated phase II results. ASCO, 2020, (Chicago), [poster]
- 005 *Yoshida T, Nishio M, Kumagai T, Hida T, Toyozawa R, Shimokawazi T, Goto K, Nakagawa K, Ohe Y, Yamamoto N, Kudou K, Asato T, Zhang P, Seto T*: Brigatinib in Japanese ALK positive NSCLC patients previously treated with ALK Tyrosine Kinase Inhibitors: J-ALTA. ASCO, 2020, (Chicago), [poster]
- 006 *Saito G, Oya Y, Taniguchi Y, Kawachi H, Fujimoto D, Matsumoto H, Iwasawa S, Suzuki H, Niitsu T, Miyauchi E, Yokoi T, Mitsui M, Uenami T, Sakata Y, Arai D, Okada A, Hara S, Teraoka S, Kokubo M*: Real-world survey of pneumonitis / radiation pneumonitis among locally advanced NSCLC with chemoradiotherapy after the approval of durvalumab: A multicenter retrospective cohort study (HOPE-005/CRIMSON). ASCO, 2020, (Chicago), [poster]
- 007 *Saito G, Oya Y, Taniguchi Y, Kawachi H, Fujimoto D, Matsumoto H, Iwasawa S, Suzuki H, Niitsu T, Miyauchi*

- E, Yokoi T, Mitsui M, Uenami T, Sakata Y, Arai D, Okada A, Hara S, Teraoka S, Kokubo M* : Real-world survey of pneumonitis / radiation pneumonitis among locally advanced NSCLC with chemoradiotherapy after the approval of durvalumab : A multicenter retrospective cohort study (HOPE-005/CRIMSON) . ASCO, 2020, (Chicago), [poster]
- 008 *Shimizu J, Akamatsu H, Murakami H, Harada H, Hayashi H, Daga H, Hasegawa Y, Kim Y. H, Kato T, Tokunaga S, Nishimura Y, Yamamoto N, Nakagawa K* : A single-arm phase II study of gefitinib with concurrent thoracic radiotherapy in unresectable locally-advanced non-small cell lung cancer patients with EGFR mutation. West Japan Oncology Group 6911L. ESMO, 2020, (Madrid), [Oral]
- 009 *Lee J-S, Sugawara S, Kang J-H, Kim H. R, Inui N, Hida T, Lee K. H, Yoshida T, Tanaka H, Yang C-T, Nishio M, Ohe Y, Tamura T, Yamamoto N, Yu C-J, Akamatsu H, Namba Y, Sumiyoshi N, Nakagawa K* : Randomized phase III trial of nivolumab in combination with carboplatin, paclitaxel, and bevacizumab as first-line treatment for patients with advanced or recurrent non-squamous non-small cell lung cancer (NSCLC). ESMO, 2020, (Madrid), [Oral]
- 010 *Hayashi H, Okada M, Kijima T, Aoe K, Kato T, Fujimoto N, Nakagawa K, Takeda Y, Hida T, Kanai K, Jun H, Namba Y, Ohe Y* : Three-year Follow-up Results of the MERIT Trial : a Japanese Phase 2 Study of Nivolumab in Malignant Pleural Mesothelioma. ESMO, 2020, (Madrid), [miniOral]
- 011 *Mazieres J, rittmeyer A, Gadgeel S, Hida T, Gandara D. R, Cortinovic D. L, Barlesi F, Yu W, Matheny C, Ballinger M, Park K* : Four-Year Survival in Randomised Phase II (POPLAR) and Phase III (OAK) Studies of Atezolizumab vs Docetaxel in Pre-treated NSCLC. ESMO, 2020, (Madrid), [poster]
- 012 *Vansteenkiste J, Smit E. F, Groen H. J. M, Garon E. B, Heist R. S, Hida T, Nishio M, Kokowski K, Grohe C, Reguart N, Mansfield A. S, Robeva A, Ghebremaream S, Waldron-Lynch M, Akimov M, Nwana N, Giovannini M, Wolf J* : Capmatinib in patients with METex14-mutated advanced non-small cell lung cancer (NSCLC) who received prior immunotherapy : the phase 2 GEOMETRY mono-1 study. ESMO, 2020, (Madrid), [poster]
- 013 *Tan D. S, Ahn M-J, Chiu C-H, Ohe Y, Loong H. HF, Chee E. C, Kim D-W, Takeda M, Li Y-C, Cheng A, Hida T, Kim D-W, Nogami N, Su W-C, Tanaka H, Osborne S, Freund R, Chen D, Seto T* : Efficacy and safety of entrectinib in an Asian population with NTRK fusion-positive (fp) solid tumours or ROS1-fp NSCLC. ESMO Asia, 2020, (Singapore), [Oral]
- 014 *Hirashima T, Yoh K, Saka H, Kurata T, Ohe Y, Hida T, Mellemaard A, Verheijen R. B, Ou X, Hayama M, Sugibayashi K* : Geoffrey Oxnard Ph1b study of savolitinib ± osimertinib in Japanese patients (pts) with advanced solid malignancies & EGFRm NSCLC : TATTON Part C. ESMO Asia, 2020, (Singapore), [Poster]
- 015 *Mazieres J, Rittmeyer A, Gadgeel S, Hida T, Gandara D. R, Cortinovic D. L, Barlesi F, Yu W, Matheny C, Ballinger M, Park K* : Four-year survival in randomised phase II (POPLAR) and phase III (OAK) studies of atezolizumab vs docetaxel in pre-treated NSCLC. IASLC, 2020, (Singapore), [Poster]
- 016 *Heist R. S, Vansteenkiste J, Smit E. F, Groen H. J. M, Garon E, Hida T, Nishio M, Kokowski K, Grohe C, Reguart N, Mansfield A. S, Robeva A, Ghebremariam S, Waldron L. M, Akimov M, Nwana N, Giovannini M, Wolf J* : Phase 2 GEOMETRY Mono-1 study : Capmatinib in patients with METex14-mutated advanced non-small cell lung cancer who received prior immunotherapy. IASLC, 2020, (Singapore), [Poster]
- 017 高橋孝輔, 伊藤健太郎, 室谷健太, 朝田和博, 奥野元保, 木村智樹, 久保昭仁, 須田隆文, 谷口浩和, 畑地 治, 進藤 丈, 國井英治, 吉田達哉, 今泉和良, 樋田豊明 : どのような症例にEGFR-TKIのrechallengeを行うべきか? 効果予測因子の検討. 第60回日本呼吸器学会学術講演会, 2020, (神戸), [ポスター]
- 018 山口哲平, 大矢由子, 古田裕美, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明 : 動物用駆虫薬フェンベンダゾールの内服により肝障害を認めた肺腺癌の1例. 第60回日本呼吸器学会学術講演会, 2020, (神戸), [ポスター]
- 019 三角祐生, 下川恒生, 岡本浩明, 細見幸生, 田中洋史, 岡本 勇, 安宅信二, 後藤功一, 樋田豊明, 久保田馨, 中川和彦, 横山琢磨, 山本信之, 大江裕一郎 : OCOG1201 / TORG1528 参加施設データが示唆する、日本高齢者進展型小細胞肺癌患者脆弱性について. 第60回日本呼吸器学会学術講演会, 2020, (神戸), [ポスター]
- 020 豊澤 亮, 西尾誠人, 吉田達哉, 熊谷 融, 樋田豊明, 下川路伊亮, 後藤功一, 大江裕一郎, 瀬戸貴司, 山本信之, 工藤健太郎, 朝戸臣敬, Zhang P, 中川和彦 : Brigatinib in Japanese ALK+NSCLC patients previous treated with ALK TKI : J-ALTA. 第61回日本肺癌学会学術集会, 2020, (岡山), [口演]
- 021 山口哲平, 清水淳市, 大矢由子, 古田裕美, 渡辺尚宏, 堀尾芳嗣, 樋田豊明 : プラチナ+ PEM + Pembrolizumabによる薬剤性肺炎発症と肺のCTの繊維化所見の関連性. 第61回日本肺癌学会学術集会, 2020, (岡山), [口演]
- 022 大矢由子, 山口哲平, 清水淳市, 渡辺尚宏, 堀尾芳嗣, 黒田浩章, 細田和貴, 樋田豊明 : 免疫チェックポイント阻害薬+化学療法における治療効果予測因子の検討. 第61回日本肺癌学会学術集会, 2020, (岡山), [口演]
- 023 清水淳市, 古田裕美, 大矢由子, 山口哲平, 渡辺尚宏, 堀尾芳嗣, 黒田浩章, 稲葉吉隆, 細田和貴, 樋田豊明 : 胸部神経内分泌腫瘍に対するソマトスタチン受容体新シグラーフィ어의経験. 第61回日本肺癌学会学術集会, 2020, (岡山), [ポスター]

- 024 堀尾芳嗣, 真砂勝泰, 藤田史郎, 古田裕美, 大矢由子, 山口哲平, 渡辺尚宏, 清水淳市, 山門享一郎, 細田和貴, 樋田豊明: 術後 16.5 年後再発した ALK 転座陽性の縦隔紡錘細胞肉腫の 1 例. 第 61 回日本肺癌学会学術集会, 2020, (岡山), [ポスター]
- 025 *Goto K, Ohe Y, Hida T, Tanaka H, John T, Kim S-W, Lee J-S, Shu C. A, Kim A-W, Ramirez S. V, Spira A. I, Sabari J. K, Lee C. K, Thayu M, Knoblauch R. E, Cho B. C, Park K*: Amivantamab(JNJ-61186372), an EGFR-MET bis-specific antibody, for EGFR Exon20ins-mutated NSCLC. 第 61 回日本肺癌学会学術集会, 2020, (岡山), [口演]
- 026 *Hayashi H, Okada M, Kijima T, Aoe K, Kato T, Fujimoto N, Nakagawa K, Takeda Y, Hida T, Kanai K, Hirano J, Namba Y, Ohe Y*: Three-year Follow-up Results of the MERT Trial: a Japanese Phase 2 Study of Nivolumab in MPM. 第 61 回日本肺癌学会学術集会. 2020, (岡山), [口演]
- 027 下川路伊亮, 片山量平, 吉田達哉, 熊谷 融, 樋田豊明, 豊澤 亮, 後藤功一, 中川和彦, 大江裕一郎, 山本信之, 朝戸臣敬, 平岡 圭, 張 平寛, 西尾誠人: Brigatinib activity in alectinib-resistant ALK-positive NSCLC according to ALK plasma mutation status from J-ALTA trial. 第 18 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (京都), [口演]
- 028 後藤功一, 樋田豊明, 船見宣之, 岩沢遼太, 三田祥子, 山下愛未, 今中啓一郎, 木谷 純子, 大江裕一郎: Safety and Tolerability of Lazertinib and in Combination with Amivantamab in advanced EGFR-mutated Japanese NSCLC. 第 18 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (京都), [口演]
- 029 突田容子, 山本貴也, 宮内栄作, 馬屋原博, 秦 明登, 竹田雄一郎, 中山秀次, 田中 智, 内田純二, 白井 一裕, 豊田達也, 田宮基裕, 森本将裕, 大矢由子, 古平 毅, 神宮啓一, 杉浦久敏: A retrospective study of chemoradiotherapy with intensity-modulated radiotherapy for unresectable stage III NSCLC. 第 18 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (京都), [口演]
- 030 大矢由子, 藤本大智, 三浦 理, 吉村憲一, 和久田一茂, 横山俊秀, 横井 崇, 朝尾哲彦, 田宮基裕, 中村 敦, 吉岡弘鎮, 原谷浩二, 秦 明登, 原 聡志, 益田 武, 高濱隆幸, 中島和寿, 富井啓介, 山本信之: Safety and efficacy of the combination of platinum, pemetrexed, and pembrolizumab in chemo-naïve patients with NSCLC. 第 18 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (京都), [口演]
- 031 赤松弘朗, 戸井之裕, 藤本大智, 立原素子, 古屋直樹, 大谷咲子, 清水淳市, 片上信之, 東 公一, 三浦奈央子, 西野和美, 原 聡志, 寺岡俊輔, 森田智視, 中川和彦, 山本信之: Rand-phase 2 study of osimertinib +/- Bev in advanced lung adenocarcinoma patients with EGFR T790M mutation (West Japan Oncology Group 8715L) 第 18 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (京都), [口演]
- 032 堀尾芳嗣: 気管支動脈注入と放射線治療で寛解が得られている左下葉小細胞肺癌部切後の左主気管支腔内ポリープ状転移再発の 1 症例. 第 18 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (京都), [ポスター]
- 033 下村一景, 室谷健太, 大矢由子, 山口哲平, 古田裕美, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 稲熊一英, 黒田浩章, 樋田豊明, 梶田正樹: Impact of Systemic Corticosteroids for irAEs on Clinical Outcome of PD-1 inhibitors in Patients with NSCLC. 第 18 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (京都), [ポスター]

血液・細胞療法部

- 001 *Kanda J, Hayashi H, Ruggeri A, Kimura F, Volt F, Takahashi S, Kako S, Tozatto-Maio K, Yanada M, Sanz G, Uchida N, Angelucci E, Kato S, Mohty M, Forcade E, Tanaka M, Sierra J, Ohta T, Saccardi R, Fukuda T, Ichinohe T, Kimura T, Rocha V, Okamoto S, Nagler A, Atsuta Y, Gluckman E*: The impact of GVHD on outcomes after adult single cord blood transplantation in European and Japanese populations: the EUROCORD/ALWP WBMT and JSHCT/JDCHCT collaborative study: The 47th Annual Meeting of the EBMT, March 2021, (Virtual), [Oral]
- 002 *Yanada T*: Refinement of indications for allo-HCT during CR1 in AML: The 25th Annual Congress of the Asia Pacific Blood and Marrow Transplantation, October 2020, (Virtual), [Oral]
- 003 *Isobe M, Konuma T, Masuko M, Uchida N, Miyakoshi S, Sugio Y, Eto T, Tanaka M, Matsushashi Y, Hattori N, Onizuka M, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M*: Single cord blood transplantation for acute myeloid leukemia patients aged 60 years or older: a retrospective study of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation: The 25th Congress of the EHA, June 2020, (Virtual), [Oral]
- 004 *Fuse K, Masuko M, Mizuno S, Harada K, Uchida N, Doki N, Fukuda T, Tanaka M, Ozawa Y, Ikegame K, Eto T, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M*: Significance of Marker Chromosome on the Outcome of Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation for AML: The 62nd Annual Meeting of American Society of Hematology, December 2020, (Virtual), [Poster]
- 005 *Courtney D. DiNardo, MD, Brian A. Jonas, Vinod Pullarkat, Michael J Thirman, Jacqueline S Garcia, Andrew H. Wei, Hartmut Döhner, Pierre Fenaux, Christian Recher, Marina Konopleva, Walter Fiedler, Elisabeth Koller, Violaine Havelange, Andre C. Schuh, Jordi Esteve, Jianxiang Wang, Radovan Vrhovac, Roman Hajek, Kimmo Porkka, Arpad Illes, Ofir Wolach, Attilio Olivieri, Kazuhito Yamamoto, Jun-Ho Jang, Gunnar Juliusson, Vladimir Vorobyev, Su-Peng Yeh, Muhit Ozcan, Wan-Jen Hong, Ying Zhou, Jalaja Potluri, Keith W. Pratz*: A Randomized, Double-blind, Placebo-controlled Study of Venetoclax with Azacitidine

- vs Azacitidine in Treatment-naïve Patients with Acute Myeloid Leukemia Ineligible for Intensive Therapy : VIALE-A. The 25th Annual Congress of European Hematology Association (EHA), 2020, (Frankfurt, Germany), [Oral]
- 006 **Kobayashi T, Yamamoto K, Kagami Y, Machida R, Miyazaki K, Nakamura S, Kuroda J, Maruyama D, Nagai H** : UTILITY OF THE KYOTO PROGNOSTIC INDEX IN HIGHER-RISK DIFFUSE LARGE B-CELL LYMPHOMA PATIENTS TREATED WITH UPFRONT AUTOLOGOUS STEM CELL TRANSPLANTATION : A SUPPLEMENTARY ANALYSIS OF JCOG0908. The 25th Annual Congress of European Hematology Association (EHA), 2020, (Frankfurt, Germany), [e-Poster]
- 007 **Courtney D. DiNardo, Brian A. Jonas, Vinod Pullarkat, Michael J Thirman, Jacqueline S Garcia, Andrew H. Wei, Hartmut Döhner, Pierre Fenaux, Christian Recher, Marina Konopleva, Walter Fiedler, Elisabeth Koller, Violaine Havelange, Andre C. Schuh, Jordi Esteve, Jianxiang Wang, Radovan Vrhovac, Roman Hajek, Kimmo Porkka, Arpad Illes, Ofir Wolach, Attilio Olivieri, Kazuhito Yamamoto, Jun-Ho Jang, Gunnar Juliusson, Vladimir Vorobyev, Su-Peng Yeh, Muhit Ozcan, Wan-Jen Hong, Ying Zhou, Jalaja Potluri, Keith W. Pratz** : A RANDOMIZED, DOUBLE-BLIND, PLACEBO-CONTROLLED STUDY OF VENETOCLAX WITH AZACITIDINE VS AZACITIDINE IN TREATMENT-NAÏVE PATIENTS WITH ACUTE MYELOID LEUKEMIA INELIGIBLE FOR INTENSIVE THERAPY-VIALE-A. The Society of Hematology and Oncology (SOHO), 2020 (Virtual : Huston, Texas, USA), [Poster]
- 008 **Keith W. Pratz, Panayiotis Panayiotidis, Christian Recher, Xudong Wei, Brian A. Jonas, Pau Montesinos, Vladimir Ivanov, Andre Schuh, Courtney DiNardo, Jan Novak, Vlatko Pejisa, Don Stevens, Su-Peng Yeh, Inho Kim, Mehmet Turgut, Nicola Fracchiolla, Kazuhito Yamamoto, Yishai Ofran, Andrew H. Wei, Cat N. Bui, Katy Benjamin, Rajesh Kamalakar, Jalaja Potluri, Wellington Mendes, Jacob Devine, Walter Fiedler** : Delays in Time to Deterioration of HRQoL Observed in Patients With Acute Myeloid Leukemia Receiving Venetoclax in Combination with Azacitidine or in Combination With Low-Dose Cytarabine. The 62nd Annual Meeting of American Society of Hematology, 2020, (San Diego, California, USA), [Oral]
- 009 **Keith Pratz, Courtney DiNardo, Dominik Selleslag, Junmin Li, Kazuhito Yamamoto, Marina Konopleva, Andrew McDonald, Sunil Babu, Don Stevens, Hagop Kantarjian, Fabiola Traina, Adriano Venditti, Jiri Mayer, Melissa Montez, Giridharan Ramsingh, Huan Jin, William Ainsworth, Yinghui Duan, Anders Svensson, Michael Werner, Jalaja Potluri, Brian A. Jonas** : Cytopenia Management in Patients with Newly Diagnosed Acute Myeloid Leukemia Treated with Venetoclax Plus Azacitidine in the VIALE-A Study. The 62nd Annual Meeting of American Society of Hematology, 2020, (San Diego, California, USA), [Poster]
- 010 **山本一仁, 安藤 潔, 丸山 大, 清原英司, 照井康仁, 福原規子, 宮垣朝光, 川井英嗣, 戸倉新樹, 坂田麻実子, 五十嵐忠彦, 黒田純也, 藤田二郎, 内田俊樹, 石川隆之, 米倉健太郎, 加藤光次, 中西 正, 仲井健也, 松永吏紗, 飛内賢正** : 再発または難治性の末梢性および皮膚 T 細胞性リンパ腫の日本人患者を対象とした、E7777 の第 2 相試験. 第 82 回日本血液学会学術集会総会, 2020, (京都), [口演]
- 011 **柴山浩彦, 頼 晋也, 伊豆津宏二, 山口素子, 瀧澤 淳, 黒田純也, 石川隆之, 加藤光次, 末廣陽子, 福原規子, 大嶺 謙, 後藤秀樹, 山本一仁, 兼村信宏, 上田恭典, 石澤賢一, 熊谷匡也, 川崎温子, 齋藤智久, 橋詰美里, 照井康仁** : r/r DLBCL でのポラツズマブ ベドチンとベンダムスチン、リツキシマブ併用試験 : P-DRIVE. 第 82 回日本血液学会学術集会総会, 2020, (京都), [口演]
- 012 **内田圭一, 加藤春美, 柳田正光, 田地浩史, 齋藤統子, 上田格弘, 加藤省一, 山本一仁** : ベンダムスチン併用療法をうけた未治療濾胞性リンパ腫におけるリンパ球推移の評価. 第 82 回日本血液学会学術集会総会, 2020, (京都), [口演]
- 013 **内田圭一, 加藤春美, 柳田正光, 田地浩史, 齋藤統子, 上田格弘, 加藤省一, 山本一仁** : 未治療濾胞性リンパ腫に対する OB 療法または O-CHOP 療法の毒性プロファイルの検討. 第 82 回日本血液学会学術集会総会, 2020, (京都), [口演]
- 014 **上田格弘, 内田圭一, 齋藤統子, 加藤春美, 柳田正光, 田地浩史, 加藤省一, 山本一仁** : 愛知県がんセンターにおける古典的ホジキンリンパ腫患者の治療成績. 第 82 回日本血液学会学術集会総会, 2020, (京都), [口演]
- 015 **古林 勉, 山本一仁, 鏡味良豊, 町田龍之介, 宮崎香奈, 中村栄男, 黒田純也, 丸山 大, 永井宏和** : 高リスクびまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫に対する Kyoto Prognostic Index の有用性 : JCOG0908 副次的解析. 第 82 回日本血液学会学術集会総会, 2020, (京都), [口演]
- 016 **永井宏和, 安藤 潔, 遠西大輔, 柴山浩彦, 鈴宮淳司, 山本一仁, 市川 聡, 加藤光次, 熊谷匡也, Priti Patel, 飯泉桜, 林 暢哉, 川住 恒, 伊豆津宏二** : 進行期 B 細胞性腫瘍の日本人患者を対象とした acalabrutinib の第 I 相試験. 第 82 回日本血液学会学術集会総会, 2020, (京都), [口演]
- 017 **宮本憲一, 福島健太郎, 柴山浩彦, 細野奈穂子, 山内高弘, 片桐誠一郎, 後藤明彦, 森下喬允, 柳田正光, 山本一仁, 藤島直仁, 高橋直人, 小笠原励起, 近藤 健, 宇津欣和, 青墳信之, 白杵憲祐, 小野孝明, 古林 勉, 黒田純也, 堀口拓人, 井山 諭, 福原 傑, 伊豆津宏二, 神原悠輔, 江口基紀, 湯田淳一郎, 山内寛彦, 南 陽介** : 多施設共同観察研究 HM screen Japan 01 の中間解析結果. 第 82 回日本血液学会学術集会総会, 2020, (京都), [口演]

- 018 福島健太郎, 柴山浩彦, 宮本憲一, 細野奈穂子, 山内高弘, 片桐誠一郎, 後藤明彦, 森下喬允, 柳田正光, 山本一仁, 藤島直仁, 高橋直人, 小笠原励起, 近藤 健, 宇津欣和, 青墳信之, 臼杵憲祐, 小野孝明, 古林 勉, 黒田純也, 堀口拓人, 井山 諭, 福原 傑, 伊豆津宏二, 神原悠輔, 江口基紀, 湯田淳一郎, 山内寛彦, 南 陽介: 急性骨髄性白血病における Flt3 変異の重要性: HM-SCREEN 01 試験の中間解析より. 第 82 回日本血液学会学術集会総会, 2020, (京都), [口演]
- 019 小野孝明, 高橋直人, 木崎昌弘, 川口辰哉, 鈴木律朗, 山本一仁, 大西一功, 直江知樹, 松村 到: 年齢自体の因子は慢性骨髄性白血病の生命予後に影響しない. 第 82 回日本血液学会学術集会総会, 2020, (京都), [口演]
- 020 柳田正光, 福田隆浩, 田中正嗣, 太田秀一, 遠矢 嵩, 森毅彦, 内田直之, 小澤幸泰, 中前博久, 神田善伸, 一戸辰夫, 熱田由子, 矢野真吾: 急性骨髄性白血病高齢者に対する強度減弱型前 処置による同種造血細胞移植の長期成績: 第 82 回日本血液学会学術集会総会 2020, (京都), [口演]
- 021 宮本憲一, 福島健太郎, 柴山浩彦, 細野奈穂子, 山内高弘, 片桐誠一郎, 後藤明彦, 森下喬允, 柳田正光, 山本一仁, 藤島直仁, 高橋直人, 小笠原励起, 近藤 健, 宇津欣和, 青墳信之, 臼杵憲祐, 小野孝明, 古林 勉, 黒田純也, 堀口拓人, 井山 諭, 福原 傑, 伊豆津宏二, 神原悠輔, 江口基紀, 湯田淳一郎, 山内寛彦, 南 陽介: 多施設共同観察研究 HM screen Japan 01 の中間 解析結果: 第 82 回日本血液学会学術集会総会 2020, (京都), [口演]
- 022 福島健太郎, 柴山浩彦, 宮本憲一, 細野奈穂子, 山内高弘, 片桐誠一郎, 後藤明彦, 森下 喬允, 柳田正光, 山本一仁, 藤島直仁, 高橋直人, 小笠原励起, 近藤 健, 宇津欣和, 青墳信之, 臼杵憲祐, 小野孝明, 古林 勉, 黒田純也, 堀口拓人, 井山 諭, 福原 傑, 伊豆津宏二, 神原悠輔, 江口基紀, 湯田淳一郎, 山内寛彦, 南 陽介: 急性骨髄性白血病における Flt3 変異の重要性: HM-SCREEN 01 試験の中間解析より: 第 82 回日本血液学会学術集会総会 2020, (京都), [口演]
- 023 宮尾康太郎, 寺倉精太郎, 木村文彦, 小沼貴晶, 宮村耕一, 柳田正光, 賀古真一, 森島聡子, 内田直之, 土岐典子, 小澤幸泰, 福田隆浩, 田中正嗣, 澤 正史, 高田 覚, 衛藤徹也, 木村貴文, 一戸辰夫, 熱田由子, 諫田淳也: 7/8 アリル一致非血縁骨髄移植と臍帯血移植治療成績の最新の比較検討: 第 82 回日本血液学会学術集会総会 2020, (京都), [口演]
- 024 布施香子, 増子正義, 内田直之, 土岐典子, 福田隆浩, 田中正嗣, 小澤幸泰, 池亀和博, 衛藤徹也, 神田善伸, 一戸辰夫, 熱田由子, 柳田正光: 急性骨髄性白血病の移植成績に及ぼすマーカー染色体の意義: 第 82 回日本血液学会学術集会総会 2020, (京都), [口演]
- 025 小沼貴晶, 諫田淳也, 鍬塚八千代, 柳田正光, 近藤忠一, 平林茂樹, 賀古真一, 赤星 佑, 内田直之, 土岐典子, 小澤幸泰, 田中正嗣, 衛藤徹也, 澤 正史, 吉岡 聡, 木村貴文, 神田善伸, 福田隆浩, 熱田由子, 木村文彦: 移植細胞ソース別の急性白血病に対する GVL 効果: 第 82 回日本血液学会学術集会総会 2020, (京都), [口演]
- 026 加藤春美, 坂田(柳元)麻実子, 横山雅大, 酒井リカ, 仲里朝周, 前田嘉信, 吉原 哲, 麻奥英, 丸山 大: 再発・難治性末梢性 T 細胞リンパ腫患者を対象としたプララトレキサートとロイコボリン併用の第 2 相臨床試験 第 82 回日本血液学会学術集会 2020, (京都), (WEB), [口演]
- 027 永井宏和, 加藤春美, 伊豆津宏二, 安藤 潔, 五十嵐忠彦, 和泉 透, 大橋靖雄, 石澤賢一, 飛内賢正: 未治療 B 細胞性非ホジキンリンパ腫患者に対してリツキシマブの 90 分間投与を検討する国内臨床第 II 相試験 第 82 回日本血液学会学術集会 2020(京都), (WEB), [口演]
- 028 山本一仁: 好中球減少中の感染症対策と化学療法におけるサポータイブケア. 第 10 回若手臨床血液学セミナー 2020, (WEB), [口演]
- 029 山本一仁: Highlight of the Day ~血液~. 第 18 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (京都), (WEB), [口演]
- 030 柳田正光, 小沼貴晶, 水野昌平, 佐分利益穂, 篠原明仁, 田中正嗣, 丸毛敦史, 澤 正史, 内田直之, 小澤幸泰, 鬼塚真仁, 吉岡 聡, 中前博久, 近藤忠一, 木村貴文, 諫田淳也, 福田隆浩, 熱田由子, 仲宗根秀樹, 矢野真吾: AML 第 1 寛解期移植における非再発死亡予測モデルの構築: 第 43 回日本造血細胞移植学会総会 2021, (東京), [口演]
- 031 上田格弘, 小沼貴晶, 青木 淳, 高橋 聡, 小澤幸泰, 森毅彦, 太田秀一, 衛藤徹也, 高田 覚, 吉岡 聡, 白鳥聡一, 賀古真一, 福田隆浩, 鬼塚真仁, 神田善伸, 熱田由子, 柳田正光: AML 患者への骨髄破壊的同種造血幹細胞移植における TBI 分割回数への予後への影響: 第 43 回日本造血細胞移植学会総会 2021, (東京), [口演]
- 032 山崎 聡, 森 甚一, 諫田淳也, 今橋伸彦, 内田直之, 土岐典子, 田中正嗣, 片山雄太, 衛藤徹也, 小澤幸泰, 高田 覚, 鬼塚真仁, 日野雅之, 神田善伸, 福田隆浩, 熱田由子, 柳田正光: AML に対する非血縁ドナーからの同種造血幹細胞移植: 第 43 回日本造血細胞移植学会総会 2021, (東京), [口演]
- 033 諫田淳也, 林 裕美, *Ruggeri A*, 木村文彦, *Volt F*, 高橋聡, 賀古真一, *Karina T*, 柳田正光, *Guillermo Sanz*, 内田直之, *Emanuele A*, 加藤せい子, *Mohamad M*, *Edouard F*, 田中正嗣, *Jorge Sierra*, 太田貴徳, *Riccardo S*, 福田隆浩, 一戸辰夫, 木村貴文, *Vanderson R*, 岡本真一郎, *Arnon N*, 熱田由子, *Eliane G*: 欧州および日本における GVHD が成人単一臍帯血移植成績に及ぼす影響の比較: 第 43 回日本造血細胞移植学会総会 2021, (東京), [口演]

薬物療法部

- 001 *Yagisawa M, Nakamura Y, Yoshino T, Komatsu Y, Kadowaki S, Muro K, Sunakawa Y, Satoh T, Nishina T, Esaki T, Fujii Si, Ono H, Tomita D, Fujishiro N, Hirano N, Fuse N, Sato A, Ogawa G, Nomura S, Taniguchi H*: A basket trial of trastuzumab deruxtecan, a HER2-targeted antibody-drug

- conjugate, for HER2-amplified solid tumors identified by circulating tumor DNA analysis (HERALD trial). ASCO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 002 **Kim SY, Lee JS, Kang J, Morita S, Park YS, Sakamoto J, Muro K, Xu Rh, Kim TW** : Differential association of proton pump inhibitors with efficacy of capecitabine and 5-fluorouracil in metastatic colorectal cancer : A post-hoc analysis from AXEPT phase III trial. ASCO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 003 **Klempner SJ, Wainberg ZA, Muro K, Chao J, Catenacci DVT, Ajani JA, Batran SEA, Toms N, Knoderer H, Wei R, Liepa AM, Chatterjee A, Ohtsu A** : Impact of frontline doublet versus triplet therapy on clinical outcomes : Exploratory analysis from the RAINBOW study. ASCO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 004 **Shitara K, Özgüroğlu M, Bang YJ, Bartolomeo MD, Mandalà M, Ryu Mh, Vivaldi C, Olesinski T, Chung HC, Muro K, Cutsem EV, Kobie J, Cristescu R, Garg DA, Lu J, Shih CS, Adelberg D, Cao ZA, Fabrizio D, Fuchs CS** : The association of tissue tumor mutational burden (tTMB) using the Foundation Medicine genomic platform with efficacy of pembrolizumab versus paclitaxel in patients (pts) with gastric cancer (GC) from KEYNOTE-061. ASCO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 005 **Fuchs CS, Özgüroğlu M, Bang YJ, Bartolomeo MD, Mandalà M, Ryu Mh, Fornaro L, Olesinski T, Caglevic C, Chung HC, Muro K, Cutsem EV, Elme A, Patience PCT, Chau I, Ohtsu A, Bhagia P, Wang A, Shih CS, Shitara K** : Pembrolizumab versus paclitaxel for previously treated patients with PD-L1-positive advanced gastric or gastroesophageal junction cancer (GC) : Update from the phase III KEYNOTE-061 trial. ASCO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 006 **Machida N, Okumura T, Kishimoto J, Boku N, Nishina T, Suyama K, Ohde Y, Shinozaki K, Baba H, Tokunaga S, Kawakami H, Tsuda T, Kotaka M, Okuda H, Yasui H, Denda T, Yamazaki K, Hironaka S, Muro K, Hyodo I** : Phase II trial of adjuvant mFOLFOX6 after metastasectomy for pulmonary metastasis of colorectal cancer : WJOG5810G. ASCO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 007 **Fuchs CS, Özgüroğlu M, Bang YJ, Bartolomeo MD, Mandalà M, Ryu Mh, Vivaldi C, Olesinski T, Caglevic C, Chung HC, Muro K, Cutsem EV, Kobie J, Cristescu R, Garg DA, Lu J, Shih CS, Adelberg D, Cao ZA, Shitara K** : The association of molecular biomarkers with efficacy of pembrolizumab versus paclitaxel in patients with gastric cancer (GC) from KEYNOTE-061. ASCO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 008 **Kawabata R, Sakamoto Y, Inoue E, Ishiguro A, Akamaru Y, Kito Y, Takahashi M, Matsuyama J, Yabusaki H, Makiyama A, Suzuki T, Tsuda M, Yasui H, Kawakami H, Matoba R, Muro K, Nakajima TE, Ichikawa W, Fujii M, Sunakawa Y** : Tumor response and growth rate of nivolumab treatment in advanced gastric cancer : Real-world data from a large observational/translational study. JACCRO GC-08 (deliver trial). ASCO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 009 **Nakamura Y, Taniguchi H, Bando H, Esaki T, Komatsu Y, Kato K, Takahashi N, Kagawa Y, Kato T, Nishina T, Satoh T, Oki E, Sunakawa Y, Shiozawa M, Yamamoto Y, Kawakami H, Denda T, Ohtsu A, Yoshino T** : Utility of circulating tumor DNA (ctDNA) versus tumor tissue genotyping for enrollment of patients with metastatic colorectal cancer (mCRC) to matched clinical trials : SCRUM-Japan GI-SCREEN and GOZILA combined analysis. ASCO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 010 **Ohba A, Nakamura Y, Taniguchi H, Ikeda M, Bando H, Mizuno N, Kato K, Morizane C, Nishina T, Ueno M, Furuse J, Hara H, Denda T, Kawakami H, Esaki T, Moriawaki T, Yasui H, Komatsu Y, Yoshino T, Ohtsu A** : Utility of circulating tumor DNA (ctDNA) versus tumor tissue clinical sequencing for enrolling patients (pts) with advanced non-colorectal (non-CRC) gastrointestinal (GI) cancer to matched clinical trials : SCRUM-Japan GI-SCREEN and GOZILA combined analysis. ASCO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 011 **Yuki S, Bando H, Tsukada Y, Inamori K, Komatsu Y, Homma S, Uemura M, Kato T, Kotani D, Fukuoka S, Nakamura N, Fukui M, Wakabayashi M, Kojima M, Togashi Y, Sato A, Nishikawa H, Ito M, Yoshino T** : Short-term results of VOLTAGE-A : Nivolumab monotherapy and subsequent radical surgery following preoperative chemoradiotherapy in patients with microsatellite stable and microsatellite instability-high locally advanced rectal cancer. ASCO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 012 **Inamori K, Togashi Y, Bando H, Tsukada Y, Suzuki A, Suzuki Y, Kotani D, Fukuoka S, Kojima M, Fukui M, Yuki S, Komatsu Y, Homma S, Uemura M, Kato T, Ito M, Nishikawa H, Yoshino T** : Translational research of voltage-A1 : Efficacy predictors of preoperative chemoradiotherapy and subsequent nivolumab monotherapy in patients with microsatellite-stable locally advanced rectal cancer. ASCO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 013 **Ogata T, Narita Y, Kumanishi R, Nakazawa T, Matsubara Y, Nozawa K, Kato K, Honda K, Masuishi T, Bando H, Kadowaki S, Ando M, Tajika M, Muro K** : Clinical impact of oral intake on second-line treatment of advanced gastric cancer. ASCO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 014 **Siena S, Bartolomeo MD, Raghav KPS, Masuishi T, Loupakis F, Kawakami H, Yamaguchi K, Nishina T, Fakih M, Elez E, Rodriguez J, Ciardiello F, Saxena K, Yamamoto E, Bako E, Okuda Y, Shahidi J, Grothey A, Yoshino T** : A phase II, multicenter, open-label study of trastuzumab deruxtecan (T-DXd; DS-8201) in patients (pts) with HER2-expressing metastatic colorectal cancer (mCRC) : DESTINY-CRC01. ASCO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 015 **Yoshikawa S, Yamazaki N, Kiyohara Y, Nozawa K, Fukuda H,**

- Shibata T, Hasegawa A, Takahashi M, Masuishi T, Kawazoe A, Hamaguchi T, Tsushima T, Machida R, Kikuchi K, Nakai Y, Takatsuka S, Nisina T, Mizutani H, Takashima A** : The skin types closely related to development of the facial acneiform rash and the therapeutic effects of EGFR inhibitors in RAS wild-type metastatic colorectal cancer : Ancillary analysis of FAEISS study. ASCO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 016 **Mitani S, Kato K, Daiko H, Nozaki I, Kojima T, Yano M, Nakagawa S, Ueno M, Watanabe M, Tsunoda S, Abe T, Kadowaki S, Kadota T, Fukuda H, Machida R, Kitagawa Y** : Second primary malignancies in patients with clinical T1bN0 esophageal squamous cell carcinoma after definitive therapies : Supplementary analysis of the JCOG trial, JCOG0502. ASCO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 017 **Yamazaki K, Masuishi T, Tsushima T, Muro K, Yasui H, Mori K, Taniguchi H** : phase Ib study of irinotecan, bevacizumab and biweekly trifluridine/tipiracil in patients with metastatic colorectal cancer refractory to fluoropyrimidine and oxaliplatin : Preliminary report of MODURATE study. ESMO-GI, 2020, (Virtual), [Poster]
- 018 **Nakajima H, Kotani D, Oki E, Kato T, Shinozaki E, Sunakawa Y, Bando H, Yamazaki K, Yuki S, Yoshino T, Yamanaka T, Ohta T, Taniguchi H, Kagawa Y** : REMARRY and PURSUIT trials : Liquid biopsy-guided re-challenge of anti-EGFR monoclonal antibody for patients with RAS/BRAF V600E wild-type metastatic colorectal cancer. ESMO-GI, 2020, (Virtual), [Poster]
- 019 **Ogata T, Narita Y, Kumanishi R, Nakazawa T, Matsubara Y, Kato K, Nozawa K, Honda K, Masuishi T, Bando H, Kadowaki S, Ando M, Tajika M, Muro K** : Clinical impact of oral intake in third-line treatment for advanced gastric cancer. ESMO-GI, 2020, (Virtual), [Poster]
- 020 **Muro K** : Checkpoint Inhibition in Esophageal and Metastatic Gastric Cancer. ESMO-GI, 2020, (Virtual) [keynote lecture]
- 021 **Masuishi T** : A multicenter phase II study of eribulin in patients with BRAF V600E mutant metastatic colorectal cancer : BRAVERY study (EPOC1701). ESMO-GI, 2020, (Virtual) [Sort Oral]
- 022 **Nakazawa T, Narita Y, Kumanishi R, Ogata T, Matsubara Y, Nozawa K, Kato K, Honda K, Masuishi T, Bando H, Kadowaki S, Ando M, Hara K, Tajika M, Muro K** : Systemic chemotherapy for previously treated metastatic small bowel adenocarcinoma. ESMO-GI, 2020, (Virtual), [Poster]
- 023 **Izawa N, Ohta S, Kadowaki S, Kajiwara T, Minashi K, Sunakawa Y, Muro K, Nishina T, Hironaka S, Yamanaka T, Nakajima T, Kawakami Y** : Angiogenesis-related factors and clinical outcomes in combination therapy with paclitaxel (PTX), ramucirumab (RAM) plus nivolumab (Nivo) for advanced gastric cancer (AGC). ESMO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 024 **Boku N, Yamaguchi K, Muro K, Yoshida K, Baba H, Tanaka S, Akamatsu A, Sano T** : Real-world nivolumab safety data from 650 patients with unresectable advanced or recurrent gastric cancer that had progressed after cancer chemotherapy : Summary of post-marketing surveillance in Japan. ESMO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 025 **Kawakami T, Yamazaki K, Go H, Masuishi T, Kawamoto Y, Kato K, Kumanishi R, Sawada K, Shirasu H, Yuki S, Yamamoto K, Yamanaka T, Komatsu Y, Muro K, Yasui H** : The impact of late-line treatment on overall survival (OS) from the initiation of first-line chemotherapy (CT) for patients (pts) with metastatic colorectal cancer (mCRC) : Updated analysis. ESMO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 026 **Boku N, Ryu MH, Oh D, Oh SC, Chung HC, Lee K, Omori T, Shitara K, Sakuramoto S, Chung IJ, Yamaguchi K, Kato K, Sym SJ, Kadowaki S, Tsuji K, Chen J, Bai L, Chen L, Kang Y** : Nivolumab plus chemotherapy versus chemotherapy alone in patients with previously untreated advanced or recurrent gastric/gastroesophageal junction(G/GEJ) cancer : ATTRACTION-4(ONO-4538-37) study. ESMO, 2020, (Virtual), [Presidential Symposium]
- 027 **Tsukada Y, Nishizawa Y, Akagi Y, Koda K, Ohue M, Shinto E, Nishikawa S, Hanai T, Sasaki T, Nishizawa Y, Ikeda K, Bando H, Yamanaka T, Yoshino T, Saito N, Ito M** : Upfront chemotherapy vs. surgery for very low lying locally advanced rectal cancer without preoperative chemoradiation : The NAIR phase II/III trial. ESMO, 2020, (Virtual), [Poster]
- 028 **Muro K** : Biomarker of gastroesophageal cancer : What's standard of care and what's on the horizon?. ESMO, 2020, (Virtual), [Special Symposium]
- 029 **Yoshino T, Siena S, Di Bartolomeo M, Raghav K, Masuishi T, Loupakis F, Kawakami H, Yamaguchi K, Nishina T, Fakih M, Elez E, Rodriguez J, Ciardiello F, Saxena K, Yamamoto E, Kobayashi K, Bako E, Okuda Y, Grothey A** : A phase II, multicenter, open-label study of trastuzumab deruxtecan (T-DXd; DS-8201) in patients with HER2-expressing metastatic colorectal cancer (mCRC) : DESTINY-CRC01. ESMO ASIA, 2020, (Virtual), [Oral]
- 030 **Muro K** : Pre-, peri- and postoperative treatment : A three-way tie for resectable gastric cancer. ESMO Asia, 2020, (Virtual), [Educational session]
- 031 **Bando H, Kotani D, Kotaka M, Kawazoe A, Masuishi T, Satake H, Taniguchi H, Yamazaki K, Yamanaka T, Oki E, Yoshino T, Muro K, Komatsu Y, Kato T, Tsuji A** : Quadruplet regimen with capecitabine, irinotecan, oxaliplatin, and bevacizumab in chemo-naïve patients with metastatic colorectal cancer : Results from the safety lead-in of QUATTRO-II study. ASCO-GI, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 032 **Matsubara Y, Masuishi T, Ogata T, Nakazawa T, Kato K,**

- Nozawa K, Narita Y, Honda K, Bando H, Kadowaki S, Ando M, Tajika M, Muro K : Impact of omitting fluorouracil from FOLFIRI plus bevacizumab as second-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer patients. ASCO-GI, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 033 Yoshino T, Uetake H, Tsuchihara K, Shitara K, Yamazaki K, Watanabe J, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Mori I, Yamanaka K, Hihara M, Soeda J, Yamanaka T, Akagi K, Ochiai A, Muro K : PARADIGM study : A multicenter, randomized, phase III study of mFOLFOX6 plus panitumumab or bevacizumab as first-line treatment in patients with RAS (KRAS/NRAS) wild-type metastatic colorectal cancer. ASCO-GI, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 034 Nakamura Y, Fujisawa T, Kadowaki S, Takahashi N, Goto M, Yoshida K, Kawakami T, Esaki T, Oki E, Nishida N, Nishina T, Komatsu Y, Ohta T, Kuramoto N, Horasawa S, Sakamoto Y, Taniguchi H, Yoshino T : Characteristics of genomic alterations in circulating tumor DNA (ctDNA) in patients (Pts) with advanced gastrointestinal (GI) cancers in nationwide large-scale ctDNA screening : SCRUMJapan Monstar-Screen. ASCO- GI, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 035 Inamori K, Togashi Y, Bando H, Tsukada Y, Fukuoka S, Suzuki A, Suzuki Y, Kotani D, Kojima M, Fukui M, Yuki S, Komatsu Y, Homma S, Taketomi A, Uemura M, Kato T, Ito M, Nishikawa H, Yoshino T : Translational research of VOLTAGE-A : Efficacy predictors of preoperative chemoradiotherapy and consolidation nivolumab in patients with both microsatellite stable and microsatellite instability-high locally advanced rectal cancer. ASCO-GI, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 036 Yamamoto Y, Tsukada Y, Kuwata T, Kojima M, Hiraoka Y, Taniguchi H, Bando H, Yoshioka T, Sasaki T, Nishizawa Y, Ikeda K, Akagi K, Yoshino T, Ito M : Evaluating the clinical utility of universal screening to identify Lynch syndrome in stage III/III colorectal cancer patients : A prospective observational study in Japan. ASCO-GI, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 037 Yuki S, Nakamura Y, Taniguchi H, Denda T, Nishina T, Hamamoto Y, Hara H, Esaki T, Kawakami H, Takashima A, Satoh T, Sunakawa Y, Masuishi T, Shinozaki E, Moriwaki T, Miki I, Shitara K, Yoshino T : Expression of PD-L1 and PD-L2 in colorectal cancer (CRC) : A post-hoc integrated analysis of SCRUM-Japan GI-SCREEN CRC. ASCO-GI, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 038 Sunakawa Y, Matoba R, Inoue E, Sakamoto Y, Kawabata R, Ishiguro A, Akamaru Y, Kito Y, Takahashi M, Matsuyama J, Yabusaki H, Makiyama A, Suzuki T, Tsuda M, Yasui H, Kawakami H, Muro K, Eguchi Nakajima T, Ichikawa W, Fujii M : Genomic pathway of gut microbiome to predict efficacy of nivolumab in advanced gastric cancer : DELIVER trial (JACCRO GC-08). ASCO-GI, 2021, (Virtual), [Oral Abstract Session]
- 039 Kato K, Doki Y, Ura T, Hamamoto Y, Kojima T, Tsushima T, Hironaka S, Hara H, Satoh T, Iwasa S, Muro K, Yasui H, Minashi K, Yamaguchi K, Ohtsu A, Kitagawa Y : Nivolumab in advanced esophageal squamous cell carcinoma (ATTRACTION-1/ONO-4538-07) : Minimum of five-year follow-up. ASCO-GI, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 040 Arai H, Inoue E, Yamaguchi K, Boku N, Hara H, Nisina T, Tsuda M, Shitara K, Shinozaki K, Nakamura S, Hyodo I, Muro K, Sasako M, Terashima M, Eguchi Nakajima T : Clinical implication of using up both fluoropyrimidine (FU) and paclitaxel (PTX) in patients with severe peritoneal metastases (SPM) of gastric cancer (GC). ASCO-GI, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 041 Matsubara Y, Bando H, Ogata T, Nakazawa T, Kato K, Nozawa K, Narita Y, Honda K, Masuishi T, Kadowaki S, Ando M, Tajika M, Muro K, Ebi H : Angiogenesis-related factors associated with nivolumab efficacy in patients with advanced gastric cancer after refractory or intolerant to ramucirumab-based therapy. ASCO-GI, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 042 Yamamoto S, Kato K, Daiko H, Kojima T, Hara H, Abe T, Tsubosa Y, Kawakubo H, Fujita T, Fukuda T, Kadowaki S, Tsushima T, Hamamoto Y, Nagashima K, Aoki K, Mizoguchi Y, Kitano S, Yachida S, Shiba S, Kitagawa Y : FRONTIER : A feasibility trial of nivolumab with neoadjuvant CF or DCF therapy for locally advanced esophageal carcinoma (JCOG1804E)—The short-term results of cohort A and B. ASCO-GI, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 043 Chin K, Kato K, Cho BC, Takahashi M, Okada M, Lin C-Y, Kadowaki S, Ahn M-J, Hamamoto Y, Doki Y, Yen C-C, Kubota Y, Kim S-B, Hsu C-H, Holtved E, Xynos I, Matsumura Y, Takazawa A, Kitagawa Y : Three-year follow-up of ATTRACTION-3 : A phase III study of nivolumab (Nivo) in patients with advanced esophageal squamous cell carcinoma (ESCC) that is refractory or intolerant to previous chemotherapy. ASCO-GI, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 044 朴 成和, 山口研成, 室 圭, 吉田和弘, 馬場秀夫, 田中慎治, 赤松あゆみ, 佐野 武 : 胃癌患者 650 例におけるニボルマブの使用成績調査. 第 58 回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [一般口演]
- 045 Muro K, Shitara K, Bang Y-J, Chung H, Chen J-S, Kher U, Shah S, Yamaguchi K : Pembrolizumab for PD-L1-Positive Advanced Gastric/Gastroesophageal Junction Cancer in the KEYNOTE-059, KEYNOTE-061, and KEYNOTE-062 Studies. 第 58 回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [一般口演]
- 046 吉野孝之, 加藤健志, 江崎泰斗, 高島淳生, 塩澤 学, 中島貴子, 竹内伸司, 佐藤太郎, 小松嘉人, 室 圭 : BRAF V600E 変異転移性大腸がんにおける En-corafenib ±

- Binimetinib+Cetuximab 併用療法. 第 58 回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [一般口演]
- 047 賀川義規, 舛石俊樹, 三島沙織, 白数洋充, 安藤幸滋, 結城敏志, 奥山浩之, 室 圭, 吉野孝之, 山崎健太郎, 沖英次, 小松嘉人, 辻 晃仁: FOLFIRI+ ラムシルマブ療法におけるインフュージョンリアクションの頻度に関する検討. 第 58 回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [一般口演]
- 048 赤羽和久, 岩田広治, 山室 理, 室 圭, 室田かおる, 高原悠子: がん患者の両立支援の取組みについて「がん就労を考える会」の活動を通して考察する. 第 58 回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [一般口演]
- 049 杉山圭司, 白石和寛, 宮崎麻衣, 佐藤真利子, 西堀理香, 宇田裕聡, 末永雅也, 北川智余恵, 室 圭: 局所進行・遠隔転移 (limited metastasis) を有する胃癌に対する導入 FLOT 療法. 第 58 回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [ポスター]
- 050 坂東英明: 胃がん薬物療法の現状と将来展望. 第 58 回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [教育セッション]
- 051 坂東英明: 治療シークエンス: その重要性と患者選択について. 第 58 回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [学術セミナー]
- 052 舛石俊樹, *Salvatore Siena, Maria Di Bartolomeo, Kanwal Pratap Singh Raghav, Fotios Loupakis*, 川上尚人, 山口研成, 仁科智裕, *Marwan Fakih, Elena Elez, Javier Rodriguez, Fortunato Ciardiello*, 小林孝二郎, *Axel Groth*, 吉野孝之: HER2 発現の転移性大腸癌患者を対象とした T-DXd の多施設共同第 II 相試験. 第 58 回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [ワークショップ]
- 053 蜂谷 修, 石神浩徳, 大森 健, 小寺泰弘, 藪崎 裕, 福島亮治, 今野元博, 門脇重憲, 富田寿彦, 秀村晃生, 有上貴明, 廣野靖夫, 辻 靖, 楠本哲也, 北山丈二: 腹膜播種陽性胃癌に対する経静脈・腹腔内併用化学療法 -10 余年間の成果-. 第 58 回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [ワークショップ]
- 054 加藤恭子, 川上武志, 舛石俊樹, 川本泰之, 郷 洋文, 熊西亮介, 澤田憲太郎, 結城敏志, 山本紘司, 安井博史, 小松嘉人, 室 圭, 山中竹春, 山崎健太郎: 切除不能大腸癌における一次化学療法開始からの生存期間に対する後方治療の影響. 第 58 回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [一般口演]
- 055 能澤一樹, 舛石俊樹, 熊西亮介, 中澤泰子, 緒方貴次, 松原裕樹, 加藤恭子, 成田有季哉, 本多和典, 坂東英明, 門脇重憲, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭: 切除不能大腸癌一次化学療法中の悪液質が生存に与える影響. 第 58 回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [一般口演]
- 056 松原裕樹, 舛石俊樹, 緒方貴次, 熊西亮介, 中澤泰子, 加藤恭子, 能澤一樹, 成田有季哉, 本多和典, 坂東英明, 門脇重憲, 安藤正志, 室 圭: RAS/BRAF 遺伝子型と原発部位を考慮した切除不能大腸癌 2 次治療の予後因子解析. 第 58 回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [一般口演]
- 057 室 圭: 胃がん・食道がんにおける薬物療法最前線. JDDW2020 北陸支部例会, 2020, (福井), [ランチョンセミナー]
- 058 室 圭: バイオマーカーの臨床的意義. JDDW, 2020, (神戸), [サテライトシンポジウム]
- 059 室 圭: stage IVa 食道癌の治療選択 導入化学療法か CRT か. 食道学会, 2020, (徳島), [ディベートセッション]
- 060 室 圭: わが国における食道癌周術期治療の変遷と海外の動向. 食道学会, 2020, (徳島), [基調講演]
- 061 室 圭: 食道がん薬物療法の新展開～がん免疫療法時代の潮流～. 食道学会, 2020, (徳島), [共催セミナー]
- 062 室 圭: 大腸癌薬物療法 個別化治療の進歩～使い慣れた抗 EGFR 抗体薬を今一度、考える～. 大腸癌研究会, 2021, (東京), [共催セミナー]
- 063 門脇重憲: 甲状腺がんに対する分子標的治療薬 - シーケンシャル治療の重要性 -. 第 32 回 日本内分泌外科学会, 2020, (Virtual), [ランチョンセミナー]
- 064 河上 裕, 伊澤直樹, 大多茂樹, 門脇重憲, 三梨桂子, 仁科智裕, 山中竹春, 中島貴子: 胃がん免疫療法におけるバイオマーカーの可能性. 第 18 回日本臨床腫瘍学会, 2021, (Virtual), [シンポジウム]
- 065 加藤恭子, 本多和典, 中澤泰子, 緒方貴次, 松原裕樹, 能澤一樹, 成田有季哉, 舛石俊樹, 坂東英明, 門脇重憲, 安藤正志, 室 圭: Association between time-to-treatment initiation and clinical outcome in cancer of unknown primary. 第 18 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ポスターセッション]
- 066 山口真澄, 坂東英明, 衣斐寛倫, 澤上智子, 佐野雄三, 高畑知帆子, 戸崎加奈江, 能澤一樹, 柴田典子, 細田和貴, 山口 類, 高磯伸枝, 福江美咲, 井本逸勢: 愛知県がんセンターにおけるがんゲノムプロファイリング検査効率化への取り組み. 第 18 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ミニオーラル]
- 067 坂東英明: 局所進行直腸癌に対する術前化学放射線療法とニボルマブ逐次併用の有効性と安全性. 第 18 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [シンポジウム]
- 068 稲守宏治, 富樫庸介, 坂東英明, 塚田祐一郎, 福岡聖大, 鈴木絢子, 鈴木 稜, 小谷大輔, 小嶋基寛, 福井 誠, 結城敏志, 小松嘉人, 本間重紀, 武富紹信, 植村 守, 加藤健志, 伊藤雅昭, 西川博嘉, 吉野孝之: Efficacy Predictors of Preoperative CRT and Con-solidation Nivolumab in Patients with Locally Ad-vanced Rectal Cancer. 第 18 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ポスターセッション]
- 069 古田光寛, 川上武志, 舛石俊樹, 川本泰之, 郷 洋文, 白数洋充, 加藤恭子, 熊西亮介, 松原裕樹, 中野真太郎, 澤田憲太郎, 結城敏志, 山本紘司, 安井博史, 小松嘉人, 室 圭, 山中竹春, 山崎健太郎: Efficacy of mono- and doublet-chemotherapy for vulnerable patients with metastatic colorectal cancer (mCRC). 第 18 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ミニオーラル]
- 070 原田一顕, 川上武志, 舛石俊樹, 川本泰之, 郷 洋文, 加藤恭子, 熊西亮介, 結城敏志, 山本紘司, 安井博史, 小

- 松嘉人, 室 圭, 山中竹春, 山崎健太郎: The impact of Neutrophil/lymphocyte ratio(NLR) on overall survival for patients with metastatic colorectal cancer. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ポスターセッション]
- 071 佐竹悠良, 小谷大輔, 小高雅人, 川添彬人, 舛石俊樹, 坂東英明, 谷口浩也, 山崎健太郎, 山中竹春, 沖 英次, 吉野孝之, 室 圭, 小松嘉人, 加藤健志, 辻 晃仁: First-line CAPOXIRI+Bevacizumab for Metastatic Colorectal Cancer: Results from the Safety Lead-In (QUATTRO-II study). 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ミニオーラル]
- 072 石黒 敦, 井上永介, 坂本康寛, 川端良平, 赤丸祐介, 木藤陽介, 高橋正純, 松山 仁, 藪崎 裕, 牧山明資, 鈴木崇久, 津田政広, 安井久見, 川上尚人, 的場 亮, 室 圭, 中島貴子, 市川 度, 藤井雅志, 砂川 優: Survival time of nivolumab treatment in advanced gastric cancer from real-world data of the DE-LIVER trial (JACCRO GC-08). 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [口演]
- 073 伊澤直樹, 西尾和人, 舛石俊樹, 高橋直樹, 庄司広和, 山本祥之, 松本俊彦, 杉山圭司, 梶原猛史, 奥田博介, 青松直撥, 川上尚人, 江崎泰斗, 成田有季哉, 原 浩樹, 砂川 優, 朴 成和, 森脇俊和, 中島貴子, 室 圭: Gene profiling of circulating tumor DNA (ctDNA) in RAS wild-type mCRC patients who are refractory to anti-EGFR antibody. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ミニオーラル]
- 074 八木澤允貴, 中村能章, 吉野孝之, 小松嘉人, 門脇重憲, 室 圭, 砂川 優, 佐藤太郎, 仁科智裕, 江崎泰斗, 藤井誠志, 小野宏美, 淺野雅俊, 藤城法子, 平野奈美, 布施望, 佐藤暁洋, 小川岳人, 野村尚吾, 谷口浩也: 血中循環腫瘍 DNA で HER2 遺伝子増幅が検出された切除不能固形がん患者を対象とする DS-8201a 療法の多施設共同臨床第 II 相試験. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ミニオーラル]
- 075 川上尚人, 小松嘉人, 藪崎 裕, 原 浩樹, 平田賢郎, 平野秀和, 町田 望, 牧山明資, 門脇重憲, 杉本直俊, 津田政弘, 茶山一彰, 江崎泰斗, 廣中秀一, 室 圭: MSI-H 進行胃癌に対する 1 次治療としてのニボルマブと低容量イピリムマブ併用の第 II 相試験 (NO LIMIT 試験). 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ポスターセッション]
- 076 室 圭: 日本臨床腫瘍学会における会員委員会の活動に関して. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 日本臨床腫瘍学会会員委員会・キャリアエンパワーメント委員会合同企画医療従事者のキャリア形成における問題点と学会の役割, 2021, (Virtual), [口演]
- 077 室 圭: がん悪液質の新たな展開～アナモレリンの果たす役割～. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [イブニングセミナー]
- 078 室 圭: 胃癌薬物療法: 来し方行く末. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [メディカルセミナー]
- 079 原 浩樹, *Kojima T, Tsuji A, Yasui H, Muro K, Satoh T, Ogata T, Ishihara R, Goto M, Shirong Han, Sakata T, Yatsuzuka N, Doi T, Kato K*: First-Line Pembrolizumab+Chemotherapy for Advanced Esophageal Carcinoma in Global and Japanese Patients: KEYNOTE-590. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [Presidential Session]
- 080 小寺泰弘, 三島沙織, 西山博之, 馬場英司, 室 圭, 吉野孝之: 希少癌 (希少フラクション) 診療ガイドラインの現状と展望. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, ガイドライン委員会企画 (成人小児ガイドライン) 成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療のガイドライン (第2版) の概要, 2021, (Virtual), [口演]
- 081 *Shitara K, Yung-Jue B, Hyun CC, Eric VC, Charles F, Jeeyun L, Keun-Wook L, Muro K, Min-Hee R, Zev Wainberg, Joseph C, Z. Alexander C, Razvan C, David A, Deepti A-G, Julie K, Sukrut S, Chie-Schin S, Pooja B, Josep T*: Association of TMB With Efficacy of Pem-brolizumab in Patients With Gastric or Gastroesophageal Junction Cancer. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [口演]
- 082 小森 梓, 廣中秀一, 川上尚人, 山崎健太郎, 室 圭, *WJOG13320GPS 研究グループ*: 未治療切除不能進行・再発胃癌に対するマイクロサテライト不安定性を評価する観察研究 (WJOG13320GPS) 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [口演]
- 083 川上武志, 舛石俊樹, 川本泰之, 郷 洋文, 松原裕樹, 加藤恭子, 熊西亮介, 中野真太郎, 原田一顕, 結城敏志, 白数洋充, 安井博史, 小松嘉人, 室 圭, 山中竹晴, 崎健太郎: Risk factors for the sequential therapy in late-line treatment for metastatic colorectal cancer (mCRC). 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ミニオーラル]
- 084 大西祥代, 田近正洋, 水野伸匡, 桑原崇通, 稲葉吉隆, 室 圭, 丹羽康正: Prognostic impact of sarcopenic obesity after neoadjuvant chemotherapy in elderly patients with esophageal carcinoma. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ミニオーラル]
- 085 室 圭: The latest treatment strategy for GI cancers, focused on MSI-High Cancers. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [イブニングセミナー]
- 086 室 圭: 下部消化管 (大腸癌) 2. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ミニオーラル]
- 087 室 圭: 大腸癌の個別化治療～今知っておくべきポイントとは～. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [イブニングセミナー]
- 088 室 圭: 結腸・直腸癌薬物療法における Best Practice(谷口浩也), BRAF 遺伝子変異を有する結腸・直腸癌に対する治療戦略 (吉野孝之). 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [メディカルセミナー]
- 089 室 圭: 進行再発大腸癌における最適な一次・二次治療を考える～個別化医療を踏まえて～. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [メディカルセミナー]

- 090 室 圭：食道がん薬物治療のエビデンス～ニボルマブを中心に～. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [メディカルセミナー]
- 091 松原裕樹, 坂東英明, 緒方貴次, 中澤泰子, 加藤恭子, 能澤一樹, 成田有季哉, 本多和典, 舩石俊樹, 門脇重憲, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭, 衣斐寛倫: Angiogenesis-related factors associated with nivolumab efficacy after ramucirumab therapy in advanced gastric cancer. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ミニオーラル]
- 092 松原裕樹, 本多和典, 緒方貴次, 中澤泰子, 加藤恭子, 能澤一樹, 成田有季哉, 舩石俊樹, 坂東英明, 門脇重憲, 安藤正志, 室 圭: わが国における固形癌に対する承認薬剤の薬価と有効性の検討. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ミニオーラル]
- 093 松原裕樹, 舩石俊樹, 緒方貴次, 中澤泰子, 加藤恭子, 能澤一樹, 成田有季哉, 本多和典, 坂東英明, 門脇重憲, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭: Impact of omitting fluorouracil from FOLFIRI plus bevacizumab in second-line treatment of metastatic colorectal cancer. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ミニオーラル]
- 094 成田有季哉: 免疫チェックポイント阻害薬の臨床課題. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [シンポジウム]
- 095 舩石俊樹, 藤澤孝夫, 高橋直樹, 後藤昌弘, 吉田和弘, 川上武史, 江崎泰斗, 沖 英次, 佐藤太郎, 仁科智裕, 小松嘉人, 太田高志, 倉本尚美, 洞澤智至, 坂本泰理, 中村能章, 谷口浩也, 吉野孝之: Genomic Alterations in Circulating Tumor DNA (ctDNA) in Advanced Gastrointestinal Cancers: SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [Presidential Session]
- 096 結城敏志, 中村能章, 谷口浩也, 傳田忠道, 仁科智裕, 浜本康夫, 原 浩樹, 江崎泰斗, 川上尚人, 高島淳生, 佐藤太郎, 岡野尚弘, 砂川 優, 舩石俊樹, 篠崎英司, 森脇俊和, 三木いずみ, 設楽紘平, 吉野孝之: Expression of PD-L1 and PD-L2 in colorectal cancer (CRC): A post-hoc integrated analysis of SCRUM-Japan GI-SCREEN CRC. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [口演]
- 097 佐藤太郎, 舩石俊樹, 藤澤孝夫, 高橋直樹, 後藤昌弘, 吉田和弘, 川上武史, 江崎泰斗, 沖 英次, 仁科智裕, 小松嘉人, 太田高志, 倉本尚美, 洞澤智至, 坂本泰理, 中村能章, 谷口浩也, 吉野孝之: A multicenter phase II study of eribulin in BRAF V600E mutant metastatic colorectal cancer: BRAVERY study (EPOC1701). 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ミニオーラル]
- 098 中澤泰子, 門脇重憲, 緒方貴次, 松原裕樹, 能澤一樹, 加藤恭子, 成田有季哉, 本多和典, 舩石俊樹, 坂東英明, 安藤正志, 花井信広, 樋田豊明, 室 圭: First-line treatment with doxorubicin plus cisplatin in patients with recurrent or metastatic adenoid cystic carcinoma. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ポスターセッション]
- 099 能澤一樹, 服部正也, 高塚大輝, 阪本翔子, 遠藤由香, 堀澤七恵, 尾崎友理, 杉野香世子, 片岡愛弓, 安立弥生, 小谷はるる, 吉村章代, 澤木正孝, 岩田広治: Clinical impact of next-generation sequencing in patients with breast cancer: A single institute study. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ポスターセッション]
- 100 山中隆司, 藤澤孝夫, 内藤陽一, 服部正也, 増田慎三, 山下年成, 能澤一樹, 深澤陽子, 八十島宏行, 松原由佳, 向原 徹, 大谷陽子, 洞澤智至, 倉本尚美, 坂本泰理, 中村能章, 谷口浩也, 吉野孝之, 岩田広治: Genomic Landscape of Circulating Tumor DNA(ctDNA) in Patients with Advanced Breast Cancer: SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [口演]
- 101 尾崎友理, 澤木正孝, 服部正也, 吉村章代, 小谷はるる, 安立弥生, 片岡愛弓, 杉野香世子, 堀澤七恵, 遠藤由香, 能澤一樹, 阪本翔子, 高塚大輝, 岩田広治: The decision of adjuvant treatment using OncotypeDX and outcome in early breast cancer patients. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ミニオーラル]
- 102 門脇重憲: 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [Presidential Session]
- 103 門脇重憲, 藤澤孝夫, 佐竹悠良, 洞澤智至, 倉本尚美, 坂本泰理, 中村能章, 谷口浩也, 吉野孝之, 岡野 晋: Circulating Tumor DNA (ctDNA) Genotyping of Advanced Head and Neck (HN) Cancers: SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ミニオーラル]
- 104 門脇重憲, 中澤泰子, 緒方貴次, 松原裕樹, 能澤一樹, 加藤恭子, 成田有季哉, 本多和典, 舩石俊樹, 坂東英明, 安藤正志, 花井信広, 室 圭: Second-line systemic therapy in patients with re-current or metastatic adenoid cystic carcinoma. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ミニオーラル]
- 105 河上 裕, 伊澤直樹, 大多茂樹, 門脇重憲, 三梨桂子, 仁科智裕, 山中竹春, 中島貴子: 胃がん免疫療法におけるバイオマーカーの可能性. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [シンポジウム]
- 106 仁科智裕, 陳 勁松, 高島淳生, 三梨桂子, 門脇重憲, 伊澤直樹, 天貝賢二, 町田 望, 後藤昌弘, 多久佳成, 石塚直樹, 高張大亮: A phase II study of trastuzumab with S-1 plus ox-alipatin for HER2-positive gastric cancer (HIGH-SOX): final report. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ミニオーラル]
- 107 門脇重憲: 頭頸部癌2. 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Virtual), [ミニオーラル]
- 108 室 圭: 進行・再発胃癌のContinuum of Care. 第93回日本胃癌学会総会, 2021, (Virtual), [スポンサードシンポジウム]
- 109 室 圭: 胃癌治療新時代を迎えて. 第93回日本胃癌学会

- 総会, 2021, (Virtual), [スポンサーードシンポジウム]
- 110 室 圭: 胃癌薬物療法の最新知見 2021. 第 93 回日本胃癌学会総会, 2021, (Virtual), [ランチョンセミナー]
- 111 川上尚人, 小松嘉人, 藪崎 裕, 原 浩樹, 平田賢郎, 平野秀和, 町田 望, 牧山明資, 門脇重憲, 杉本直俊, 津田政広, 茶山一彰, 江崎泰斗, 廣中秀一, 室 圭: MSI-H 進行胃癌に対する 1 次治療としてのニボルマブと低容量イピリムマブ併用の第 II 相試験 (NO LIMIT 試験). 第 93 回日本胃癌学会総会, 2021, (Virtual), [パネルディスカッション]
- 112 小森 梓, 廣中秀一, 川上尚人, 山崎健太郎, 室 圭: 未治療切除不能進行・再発胃癌に対するマイクロサテライト不安定性を評価する観察研究 (WJOG13320GPS). 第 93 回日本胃癌学会総会, 2021, (Virtual), [口演]
- 113 伊澤直樹, 東風 貢, 門脇重憲, 川端良平, 高橋孝夫, 辻晃仁, 原 浩樹, 中村将人, 森脇俊和, 砂川 優, 市川度, 藤井雅志: 進行再発胃癌に対する bi-weekly ナブパクリタキセル+ラムシルマブ併用療法の試み. 第 93 回日本胃癌学会総会, 2021, (Virtual), [ワークショップ]
- 114 *Aizawa M, Ishigami H, Omori T, Kodera Y, Yabusaki H, Fukushima R, Imano M, Kadowaki S, Tomita T, Hidemura A, Arigami T, Hirono Y, Tsuji Y, Kusumoto T, Kitayama J*: Multimodal-therapy with intraperitoneal chemotherapy for gastric cancer with peritoneal metastasis. 第 93 回日本胃癌学会総会, 2021, (Virtual), [シンポジウム]
- 115 *Boku B, Min-Hee Ryu, Do-Youn Oh, Sang Cheul Oh, Hyun Cheol Chung, Keun-Wook Lee, Omori T, Shitara K, Sakuramoto S, Ik-Joo Chung, Yamaguchi K, Kato K, Sun Jin Sym, Kadowaki S, Tsuji K, Jen-Shi Chen, Li-Yuan Bai, Li-Tzong Chen, Yoon-Koo Kang*: First-line nivolumab with chemotherapy in patients with gastric or gastroesophageal junction cancer. 第 93 回日本胃癌学会総会, 2021, (Virtual), [アンコール発表]

臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 加藤省一: EBV 関連リンパ増殖異常症の鑑別と病理 B 細胞リンパ増殖性疾患を中心に. 第 23 回日本血液病理研究会, 2020, (名古屋), [シンポジウム]
- 002 細田和貴: 乳腺細胞診. 2020 年度東海連合会細胞診基礎講習会, 2020, (名古屋), [口演]
- 003 佐々木英一: 呼吸器細胞診 I. 2020 年度東海連合会細胞診基礎講習会, 2020, (名古屋), [口演]
- 004 藤田奈央, 近藤吉起, 植田菜々絵, 岡田恭孝, 羽根田正隆, 加藤省一, 佐々木英一, 細田和貴: 神経内分泌への分化を伴う子宮頸部微小浸潤腺癌の 1 例. 第 61 回日本臨床細胞学会総会春季大会, 2020, (Web), [示説]
- 005 藤田奈央, 近藤吉起, 植田菜々絵, 小林雅子, 岡田恭孝, 羽根田正隆, 藤田泰子, 加藤省一, 佐々木英一, 細田和貴: 腺細胞診における EUS-FNA の現状—当院における ROSE の取り組みを中心に—. 第 59 回日本臨床細胞学会

- 秋季大会, 2020, (横浜), [口演]
- 006 尾関順子: 血液検査で出会うピットフォール. 令和 2 年度愛臨技スキルアップ研修会, 2020, (愛知), [口演]
- 007 早川英樹: 消去法について. 2020 年度輸血研究班 2 月研究会, 2020, (愛知), [口演]

頭頸部外科部

- 001 花井信広, 鈴木秀典, 西川大輔, 別府慎太郎, 寺田星乃, 澤部 倫: 頭頸部がんを見逃さないために〜がん専門病院の立場から〜. 第 44 回愛知県耳鼻咽喉科地方部会学術講演会, 2020, (Web 開催), [パネルディスカッション]
- 002 花井信広: 免疫チェックポイント阻害薬使用のポイントー再発転移頭頸部がんにどのレジメンを用いるか?ー. オブジーボ 50min レクチャー, 2020, (Web 開催), [講演]
- 003 花井信広: 再発転移頭頸部癌に対する治療戦略 再発転移頭頸部癌がん治療の考え方. 第 44 回日本頭頸部癌学会, 2020, (Web 開催), [ランチョンセミナー]
- 004 花井信広: 化学放射線治療後の救済手術としての頸部郭清術. 第 44 回日本頭頸部癌学会, 2020, (Web 開催), [学術セミナー]
- 005 花井信広: 頭頸部癌診療の質を高める超音波診断学ー頭頸部外科医による超音波診断のすすめー. 第 44 回日本頭頸部癌学会, 2020, (Web 開催), [シンポジウム司会]
- 006 寺田星乃: 超音波診断を通じた頭頸部外科医としてのキャリアアップ. 第 44 回日本頭頸部癌学会, 2020, (Web 開催), [シンポジウム]
- 007 横田知哉, 花井信広, 清水 康, 假谷 伸, 安松隆治, 藤井 隆, 藤原彰訓, 山田孝之, 本間明宏: 再発転移頭頸部癌に対するニボルマブの多施設共同観察研究のサブグループ解析. 第 44 回日本頭頸部癌学会, 2020, (Web 開催), [口演]
- 008 鈴木秀典, 寺田星乃, 西川大輔, 小出悠介, 長谷川泰久, 花井信広: 臨床的リンパ節転移の無い大唾液腺癌における Lymph node density の予後予測に関する価値. 第 44 回日本頭頸部癌学会, 2020, (Web 開催), [ポスター]
- 009 後藤聖也, 鈴木秀典, 西川大輔, 別府慎太郎, 澤部 倫, 寺田星乃, 花井信広: 放射線治療後に生じた喉頭壊死症例の検討. 第 44 回日本頭頸部癌学会, 2020, (Web 開催), [口演]
- 010 別府慎太郎, 花井信広, 鈴木秀典, 西川大輔, 澤部 倫, 寺田星乃, 甕 里紗, 後藤聖也, 村嶋明大: 遊離再建手術を施行した 80 歳以上の後期高齢者の実際. 第 37 回東海頭頸部腫瘍研究会, 2020, (Web 開催), [口演]
- 011 西川大輔, 鈴木秀典, 別府慎太郎, 寺田星乃, 澤部 倫, 甕 里紗, 後藤聖也, 村嶋明大, 花井信広: ニボルマブ治療における好酸球スコアの有用性. 第 37 回東海頭頸部腫瘍研究会, 2020, (Web 開催), [口演]
- 012 花井信広: Update of Treatment for TC. Thyroid Cancer Clinical Seminar, 2020, (Web 開催), [司会]
- 013 花井信広: 耳鼻咽喉科におけるこれからの免疫・分子標

- 的療法 免疫チェックポイント阻害薬. 第 121 回日本耳鼻咽喉科学会学術講演会, 2020, (Web 開催), [シンポジウム]
- 014 鈴木秀典, 寺田星乃, 西川大輔, 別府慎太郎, 小出悠介, 花井信広: 大唾液腺癌における 18F-フルオロデオキシグルコース集積は, 病理学的病期を調整しても生存を予測する. 第 121 回日本耳鼻咽喉科学会学術講演会, 2020, (Web 開催), [口演]
- 015 大塚倫之, 清水 康, 花井信広, 假谷 伸, 安松隆治, 横田知哉, 塚原清彰, 安藤瑞生, 羽生健司, 上田 勉, 平川仁, 山田智美, 山田孝之, 本間明宏: 実臨床下での頭頸部癌患者に対するニボルマブの有効性と安全性, 2年フォローアップ. 第 58 回日本癌治療学会学術集会, 2020, (Web 開催), [口演]
- 016 山崎知子, 清田尚臣, 田原 信, 藤井博文, 三谷浩樹, 岩江信法, 丸尾貴志, 小野澤祐輔, 花井信広, 小川武則, 門田伸也, 古平 毅, 水澤純基, 中村健一, 林 隆一: 局所進行頭頸部癌術後補助化学放射線療法の第 II/III 相試験 (JCOG1008). 第 58 回日本癌治療学会学術集会, 2020, (Web 開催), [口演]
- 017 花井信広: 頸部郭清術・愛知県がんセンター方式 - メスの体得から white surgery -. 群馬県頭頸部癌治療セミナー, 2020, (Web 開催), [特別講演]
- 018 花井信広: 頸部郭清術・愛知県がんセンター方式 - メスの体得から white surgery -. 第 14 回九州頭頸部癌フォーラム, 2020, (福岡), [特別講演]
- 019 花井信広: 頭頸部外科医の実施する系統的頸部郭清 (合併症の予防を含む). 第 53 回日本内分泌外科学会学術大会, 2020, (Web 開催), [シンポジウム]
- 020 花井信広: KEYNOTE-048 試験を踏まえたペムプロリズマブの臨床応用. Oncology Web Symposia for Head & Neck Cancer, 2020, (Web 開催), [講演]
- 021 寺田星乃, 下出祐造, 古川まどか, 佐藤雄一郎, 花井信広: 超音波検査による化学放射線療法後の頸部リンパ節診断に関する検討. 頭頸部超音波研究会, 2020, (Web 開催), [講演]
- 022 西川大輔: 当院の Data から考える免疫チェックポイント阻害剤の実力. Wakayama Head and Neck cancer Meeting, 2020, (Web 開催), [講演]
- 023 花井信広: 頭頸部腫瘍 1. 第 82 回耳鼻咽喉科臨床学会, 2020, (京都), [座長]
- 024 花井信広: 器機の取り扱いについて アキラルックス® とレーザー照射による治療. 第 1 回講習会, 2020, (京都), [講師]
- 025 西川大輔: 器機の取り扱いについて. 頭頸部イルミノックス治療講演会, 2020, (京都), [講演]
- 026 別府慎太郎: 頸部郭清 (手術) のビデオ撮影の方法論. 令和 2 年度 頸部郭清講習会, 2021, (Web 開催), [講演]
- 027 花井信広: 治療戦略を立てる上で重要なエビデンスとは. 頭頸部癌がん免疫ショートレクチャー, 2021, (名古屋), [講演]
- 028 西川大輔: 器機の取り扱いについて. 頭頸部イルミノックス治療講習会, 2021, (名古屋), [講演]
- 029 花井信広: 頭頸部癌に対するがん免疫療法 ~ 実臨床における治療選択 ~. 第 8 回西日本中部地区頭頸部腫瘍研究会, 2021, (Web 開催), [特別講演]
- 030 花井信広: 器機の取り扱いについて. 頭頸部イルミノックス治療講演会, 2021, (広島), [講演]
- 031 花井信広: 頭頸部癌免疫療法の最新の話. がん診療連携拠点病院研修会, 2021, (Web 開催), [講演]
- 032 花井信広: 頭頸部イルミノックス治療の概要と実施までのプロセス. 頭頸部イルミノックス治療 Web 講演会, 2021, (Web 開催), [講演]
- 033 西川大輔: Real World Data から考える免疫チェックポイント阻害剤の実力. 頭頸部癌診療 Seminar, 2021, (名古屋), [講演]
- 034 花井信広: 頭頸部癌に対するがん免疫療法 ~ EBM を正しく理解し実践する ~. Head & Neck Immunology Seminar, 2021, (Web 開催), [特別講演]
- 035 花井信広: 頭頸部がんに対する免疫チェックポイント阻害薬, 分子標的薬, 殺細胞性抗がん薬の使い分け ~ KEYNOTE048 データをふまえて ~. 頭頸部癌治療セミナー, 2021, (Web 開催), [講演]

形成外科部

- 001 *Takanari K, Nakamura Y, Uchibori T, Nakamura R, Ebisawa K, Kambe M, Urakawa H, Nishida Y, Kamei Y*: A Novel Technique to Lengthen the Reverse Latissimus Dorsi Muscle Flap Arc. The 63rd Annual Meeting of Japan Society for Plastic and Reconstructive Surgery International session, 2020, (Nagoya), [Free Paper]
- 002 *Takanari K, Uchibori T, Nakamura Y, Kambe M, Maruo T, Fujimoto Y, Iwami K, Fujii M, Kamei Y*: Omental flap with seromuscular patch for mid-skull base and concomitant sphenoid sinus wall defect reconstruction. 15th Asian-Oceanian International Congress on Skull Base Surgery, 2020, (Fukushima), [Free Paper]
- 003 中村亮太, 兵藤伊久夫, 加藤真帆, 姜 成樹, 丸山陽子, 奥村誠子, 高成啓介, 亀井 譲: 当院での舌垂全摘後再建における腹直筋皮弁の厚さと術後合併症に関する検討. 第 44 回日本頭頸部癌学会, 2020, (大阪), [一般口演]
- 004 高成啓介, 中村亮太, 姜 成樹, 丸山陽子, 加藤真帆, 奥村誠子, 神戸未来, 亀井 譲, 丸尾貴志, 藤本保志: 上顎再建後の体重変化と皮弁の体積の関係 第 44 回日本頭頸部癌学会, 2020, (大阪), [一般口演]
- 005 姜 成樹, 高成啓介, 中村亮太, 奥村誠子, 丸山陽子, 加藤真帆, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 当院における咽喉食摘後・遊離空腸弁全壊死例の検討. 第 44 回日本頭頸部癌学会, 2020, (大阪), [一般口演]
- 006 高成啓介, 神戸未来, 内堀貴文, 中村 優, 落合美奈, 鈴木寛久, 大石真由美, 蛭沢克己, 亀井 譲: 軟組織による上顎再建後の二次修正におけるわれわれの工夫. 第 63 回日本形成外科学会総会・学術集会, 2020, (名古屋), [シン

- ポジウム]
- 007 内堀貴文, 高成啓介, 蛭沢克己, 神戸未来, 中村 優, 鈴木寛久, 大石真由美, 亀井 譲: 有癭性膿胸に対する再建術後の長期経過. 第 63 回日本形成外科学会総会・学術集会, 2020, (名古屋), [シンポジウム]
- 008 中村 優, 高成啓介, 伊藤弘幸, 大石真由美, 蛭沢克己, 神戸未来, 内堀貴文, 亀井 譲: 今日から出来る! AI を利用した画像診断モデルの作成. 第 63 回日本形成外科学会総会・学術集会, 2020, (名古屋), [パネルディスカッション]
- 009 中村亮太, 兵藤伊久夫, 加藤真帆, 姜 成樹, 丸山陽子, 奥村誠子, 高成啓介, 亀井 譲: 頭頸部再建における筋体温存遊離腹直筋皮弁採取方法の検討. 第 63 回日本形成外科学会総会・学術集会, 2020, (名古屋), [一般口演]
- 010 奥村誠子, 丸山陽子, 高成啓介, 他: 両側乳癌における一側温存手術、対側全摘・再建症例の検討. 第 63 回日本形成外科学会総会・学術集会, 2020, (名古屋), [一般口演]
- 011 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 姜 成樹, 加藤真帆, 高成啓介, 亀井 譲: 拡大広背筋皮弁による 1 次乳房再建における術後背部漿液腫対策の検討. 第 63 回日本形成外科学会総会・学術集会, 2020, (名古屋), [一般口演]
- 012 姜 成樹, 高成啓介, 中村亮太, 奥村誠子, 丸山陽子, 加藤真帆, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 当院における背部軟部悪性腫瘍切除後の広背筋皮弁による再建法についての検討. 第 63 回日本形成外科学会総会・学術集会, 2020, (名古屋), [一般口演]
- 013 小林沙彩, 姜 成樹, 中村亮太, 丸山陽子, 奥村誠子, 高成啓介, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 上顎全摘後二次硬性再建の経験. 第 63 回日本形成外科学会総会・学術集会, 2020, (名古屋), [一般口演]
- 014 奥村誠子, 丸山陽子, 高成啓介, 他: 遊離腹部穿通枝皮弁による乳房再建後の 2 次修正に対する検討. 第 8 回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 2020, (岡山), [一般口演]
- 015 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 姜 成樹, 加藤真帆, 高成啓介, 亀井 譲: 拡大広背筋皮弁による 1 次乳房再建後の整容性における長期経過検討. 第 8 回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会, 2020, (岡山), [一般演題]
- 016 姜 成樹, 高成啓介, 中村亮太, 奥村誠子, 丸山陽子, 加藤真帆, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 拡大広背筋皮弁および遊離腹直筋皮弁の皮弁採取部における closed incision NPWT の有効性に関する比較検討. 第 8 回日本オンコプラスチックサージャリー学会, 2020, (岡山), [一般口演]
- 017 加藤真帆, 奥村誠子, 姜 成樹, 中村亮太, 丸山陽子, 高成啓介: 片側乳房再建後対側乳癌発症例の対側手術における検討. 第 8 回日本オンコプラスチックサージャリー学会, 2020, (岡山), [一般口演]
- 018 高成啓介, 中村亮太, 姜 成樹, 丸山陽子, 加藤真帆, 奥村誠子, 花井信広, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 遊離皮弁による頭頸部再建症例におけるリスク因子と合併症についての検討. 第 29 回日本形成外科学会基礎学術集会, 2020, (横浜), [一般口演]
- 019 奥村誠子, 丸山陽子, 高成啓介, 他: 両側乳癌における一側温存手術、対側全摘・再建症例の検討. 第 28 回乳癌学会学術総会, 2020, (名古屋), [ポスター]
- 020 奥村誠子: 整容性と根治性を目指した局所治療 (温存、全切除、再建). 第 28 回乳癌学会学術総会, 2020, (名古屋), [パネルディスカッション]
- 021 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 姜 成樹, 加藤真帆, 高成啓介, 亀井 譲: 異時両側乳癌に対する腹部皮弁による 1 次 1 期再建と 1 次 2 期再建の比較検討. 第 27 回日本乳癌学会学術総会, 2020, (愛知), [ポスター口演]
- 022 奥村誠子: 乳房再建の最先端教えて. 第 28 回乳癌学会学術総会, 2020, (名古屋), [Patient Advocacy Program]
- 023 高成啓介, 中村亮太, 奥村誠子, 丸山陽子, 神戸未来, 丸尾貴志, 西尾直樹, 藤本保志, 岩味健一郎, 藤井正純, 亀井 譲: 患者 QOL を支える再建: 側頭骨亜全摘後の顔面神経再建における機能予後の検討. 第 32 回日本頭蓋底外科学会, 2020, (福岡), [シンポジウム]
- 024 高成啓介, 奥村誠子, 丸山陽子, 中村亮太, 姜 成樹, 加藤真帆, 中村 優, 内堀貴文, 神戸未来, 蛭沢克己, 亀井 譲, 西田佳弘, 夏目敦至: 神経線維腫症 1 型患者における顔面病変の治療. 第 38 回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2020, (東京), [シンポジウム]
- 025 高成啓介, 李 宇, 中村 優, 内堀貴文, 神戸未来, 蛭沢克己, 中村亮太, 奥村誠子, 丸山陽子, 姜 成樹, 加藤真帆, 亀井 譲: 末梢神経再建における人工神経の活用方法 - Short Gap Interposition (SGI) 法の基礎と臨床. 第 47 回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2020(福岡), [スポンサードシンポジウム]
- 026 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 姜 成樹, 加藤真帆, 高成啓介, 亀井 譲: Free-MS2 TRAM flap による 1 次乳房再建後の整容性における長期経過検討. 第 47 回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2020, (福岡), [一般演題]
- 027 中村亮太, 高成啓介, 加藤真帆, 姜 成樹, 丸山陽子, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 上甲状腺動脈を移植床血管として使用することによる術後甲状腺機能に与える影響の検討. 第 47 回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2020, (北九州), [一般口演]
- 028 姜 成樹, 高成啓介, 中村亮太, 奥村誠子, 丸山陽子, 加藤真帆, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 遊離皮弁による頭頸部再建症例におけるリスク因子と合併症についての検討. 第 47 回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2020, (北九州), [一般口演]
- 029 加藤真帆, 高成啓介, 姜 成樹, 中村亮太, 丸山陽子, 奥村誠子: 当院における遊離空腸移植後の嚥下機能についての検討. 第 47 回日本マイクロサージャリー学会, 2020, (北九州), [一般演題]
- 030 姜 成樹, 高成啓介, 中村亮太, 奥村誠子, 丸山陽子, 加藤真帆, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 遊離腹直筋皮弁における closed incision NPWT の有効性についての検討. 第 12 回日本創傷外科学会, 2020, (徳島), [一般演題]

- 031 高成啓介, 中村亮太, 加藤真帆, 姜 成樹, 丸山陽子, 奥村誠子, 亀井 讓: Back-wall first technique による動脈吻合の knack and pitfalls. 第 26 回日本形成外科手術手技学会, 2021, (東京), [ビデオシンポジウム]
- 032 中村亮太, 高成啓介, 加藤真帆, 姜 成樹, 丸山陽子, 奥村誠子, 亀井 讓: modified spiral interrupted suturing technique を用いた内頸静脈端側吻合の有用性. 第 26 回日本形成外科手術手技学会, 2021, (東京), [一般口演]
- 033 加藤真帆, 高成啓介, 姜 成樹, 中村亮太, 丸山陽子, 奥村誠子: 前外側大腿皮弁の筋膜上採取の経験. 第 26 回日本形成外科手術手技学会, 2021, (東京), [一般演題]

呼吸器外科部

- 001 坂倉範昭, 仲田健男, 白井 俊, 仲西慶太, 松井拓哉, 黒田浩章: 対面モニターを用いた「開胸視野アプローチ」によるロボット肺切除—開胸手術, 胸腔鏡手術との整合性を探る. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2020, (東京), [ワークショップ]
- 002 坂倉範昭, 仲田健男, 仲西慶太, 松井拓哉, 白井 俊, 黒田浩章: Transmanubrial アプローチ変法によるパンコースト型肺癌の根治的放射線療法後の再発病変サルベージ切除. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2020, (東京), [ワークショップ]
- 003 坂倉範昭, 仲田健男, 白井 俊, 高原弘知, 高橋祐介, 黒田浩章: 対面モニターを用いた「開胸視野アプローチ」によるロボット肺区域切除—インドシアニンググリーン静注と Firefly モードの活用—. 第 73 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2020, (名古屋), [ロボット手術手技研究会]
- 004 坂倉範昭, 仲田健男, 松井拓哉, 仲西慶太, 白井 俊, 高原弘知, 高橋祐介, 黒田浩章: A nightmare : 巨大縦郭原発非セミノーマ胚細胞腫瘍の切除中, 右室流出路すぐの肺動脈幹から大出血, 心臓外科医は不在! 第 73 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2020, (名古屋), [特別企画]
- 005 坂倉範昭, 仲田健男, 白井 俊, 高原弘知, 高橋祐介, 黒田浩章: 対面モニターと垂直ポート配置を用いた「開胸視野アプローチ」法によるロボット肺区域切除の実際. 第 13 回日本ロボット外科学会, 2020, (福岡), [一般口演]
- 006 仲田健男, 内藤由美子, 白井 俊, 松井琢哉, 仲西慶太, 大矢由子, 高橋祐介, 坂倉範昭, 黒田浩章: 胸腔鏡下肺切除術後における術当日離床についての検討 - 早期ドレーン抜去・早期退院を目指して -. 第 37 回日本呼吸器外科学会, 2020, (東京), [デジタルポスター]
- 007 仲田健男, 高原弘知, 白井 俊, 大矢由子, 高橋祐介, 坂倉昭範, 黒田浩章: 左 S6 肺区域切除術における fissureless technique の実際. 第 73 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2020, (愛知), [デジタルポスター]
- 008 仲田健男, 白井 俊, 高橋祐介, 坂倉昭範, 黒田浩章: Impact of early chest tube removal following thoroscopic right upper lobectomy. 第 33 回日本内視鏡外科学会総会, 2021, (神奈川), [デジタルポスター]

- 009 高橋祐介, 鈴木繁紀, 濱田賢一: I 期非小細胞肺癌切除例におけるサルコペニアの術後短期および長期成績における意義. 第 37 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2020, (東京), [一般口演]
- 010 白井 俊, 松井琢哉, 仲西慶太, 大矢由子, 仲田健男, 坂倉範昭, 黒田浩章: Single port VATS による左 S9+S10 区域切除の 1 例. 第 37 回日本呼吸器外科学会総会, 2020, (東京), [要望演題]

乳腺科部

- 001 Schmid P, Cortes J, Robson M. E, Iwata H, Hegg R, Nechaeva M, Xu B, Verma S, Haddad V, Imedio R, Schiavon G, Foxley A, Park Y. H. : A phase III trial of capivasertib and paclitaxel in first-line treatment of patients with metastatic triple-negative breast cancer (CAPItello290). 2020 ASCO, 2020, (virtual), [poster]
- 002 Takada M, Imoto S, Ishida T, Ito Y, Iwata H, Masuda N, Mukai H, Saji S, Ikeda T, Haga H, Saeki T, Aogi K, Sugie T, Ueno T, Ohno S, Ishiguro H, Kanbayashi C, Miyamoto T, Ohashi Y, Toi M : Estimation of absolute benefit of S-1 postoperative therapy for ER-positive, HER2-negative breast cancer : Exploratory analysis of the phase III potent trial. 2020 ASCO, 2020, [virtual], [poster]
- 003 Cortes J, Cescon D. W, Rugo H. S, Nowecki Z, Im S, Yusof M. M, Gallardo C, Lipatov O, Barrios C. H, Holgado E, Iwata H, Masuda N, Otero M. T, Gokmen E, Loi S, Guo Z, Zhao J, Aktan G, Karantza V, Schmid P : KEYNOTE-355 : Randomized, double-blind, phase III study of pembrolizumab + chemotherapy versus placebo + chemotherapy for previously untreated locally recurrent inoperable or metastatic triple-negative breast cancer. 2020 ASCO, 2020(virtual), [poster]
- 004 Harbeck N, Zhang H, Barrios C. H, Saji S, Jung K. H, Hegg R, Koehler A, Sohn J, Iwata H, Telli M. L, Ferrario C, Punie K, Penault-Llorca F, Patel S, Duc A. N, Liste-Hermoso M, Maiya V, Molinero L, Chui S. Y, Mittendorf E. A. : Impassion031 : results from a Phase3 study of neoadjuvant atezolizumab + chemotherapy in early triple-negative breast cancer. ESMO congress, 2020, (virtual), [oral]
- 005 Emens L. A, Molinero L, Adams S, Rugo H. S, Schneeweiss A, Dieras V, Iwata H, Barrios C. H. , Nechaeva M, Winer E. P, Chand C. W, Chui S. Y, Schmid P, Loi S : Tumour mutational burden and clinical outcomes with first-line Atezolizumab and nab-Paclitaxel in triple-negative breast cancer : Exploratory analysis of the Phase III impassion 130 trial. ESMO congress, 2020, (virtual), [oral]
- 006 Iwata H : Patient-reported outcomes of switch maintenance endocrine therapy following induction chemotherapy versus continuation of chemotherapy in ER-positive HER2-negative metastatic breast cancer

- patients : a randomized, open-label, phase 2 clinical trial. ESMO congress, 2020, (virtual), [poster]
- 007 **Emens L. A, Adams S, Barrion C. H, Dieras V, Iwata H, Loi S, Rugo H. S, Schneeweiss A, Winer E. P, Patel S, Henschel V, Wat A, Kaul M, Molinero L, Chui S. S, Schmid P** : Impassion130 : final OS analysis from the pivotal Phase III study of atezolizumab + nab-paclitaxel vs placebo + nab-paclitaxel in previously untreated locally advanced or metastatic triple-negative breast cancer. ESMO congress, 2020, (virtual), [poster]
- 008 **Rugo H. S, Cristofanilli M, Loibl S, Hartbeck N, DeMichele A, Iwata H, Park Y. H, Brufsky A, Puyana K, Thall P, Huang X, McRoy L, bananis E, Turner N** : Prognostic factors for overall survival in patients with hormone receptor-positive/human epidermal growth factor receptor 2-negative advanced breast cancer : analysis from PALOMA-3. ESMO congress, 2020, (virtual), [oral]
- 009 **Iwata H** : Survival improvements with medicine Alpelisib, together with Fulvestrant, in people with HR+, HER2-, PIK3CA-mutated advanced breast cancer. ESMO congress, 2020, (virtual), [oral]
- 010 **Powell C, Camidge D, Modi S, Qin A, Taitt C, Lee C, Hackshaw M, Singh J, Iwata H** : Risk factors for interstitial lung disease in patients treated with Trastuzumab Deruxtecan from two interventional studies. ESMO congress, 2020, (virtual), [oral]
- 011 **Krop I, Yonemori K, Takahashi S, Inoue K, Nakayama T, Iwata H, Toyama T, Yamamoto Y, Takahashi M, Osaki A, Saji S, Sagara Y, O'shaughnessy J, Traina T, Ohwada S, Qi Z, Qiu Y, Onuma H, Sharma O, Mekan SF, Masuda N** : Safety and efficacy results from the Phase 1/2 study of U-1402, a human epidermal growth factor receptor 3 (HER3)-directed antibody drug conjugate (ADC), in patients with HER3-expressing metastatic breast cancer (MBC). San Antonio Breast Cancer Symposium, 2020, (virtual), [oral]
- 012 **Mayer I, Faroki A, Rugo H. S, Iwata H, Ciruelos E, Campone M, Loibl S, Conte P, Juric D, Ghaznawi F, Lorenzo I, Hu H, Gaudenzi F, Andre F** : Early intervention for and management of alpelisib (ALP)-induced hyperglycemia : case studies from the Phase III SOLAR-1 trial. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2020, (virtual), [oral]
- 013 **Ciruelos E. M, Loibl S, Mayer I. A, Campone M, Rugo H. S, Arnedos M, Iwata H, Conte P, Andre F, Reising A, Ma C, Miller M, Babbar N, Juric D** : Clinical outcomes of alpelisib plus fulvestrant in hormone receptor-positive, human epidermal growth factor receptor 2-negative advanced breast cancer with PIK3CA alterations detected in plasma ctDNA by next-generation sequencing : biomarker analysis from the SOLA-1 study. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2020, (virtual), [oral]
- 014 **Yamamoto Y, Iwata H, Taira N, Masuda N, Takahashi M, Yoshinari T, Ueno T, Toyama T, Yamanaka T, Takano T, Kashiwaba M, Tsugawa K, Hasegawa Y, Tamura K, Tada H, Hara F, Saji S** : A randomized open-label, phase III trial of pertuzumab re-treatment in HER2⁺positive, locally advanced/metastatic breast cancer patients previously treated with pertuzumab, trastuzumab, and chemotherapy : The Japan breast cancer research group-M05 (PRECIOUS) study. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2020, (virtual), [poster]
- 015 **Rugo H. S, Schmid P, Cescon D. W, Nowecki Z, Im S, Yusof MM, Gallardo C, Lipatov O, Barrios C. H, Perez-Garcia J, Iwata H, Masuda N, Otero M. T, Gokmen E, Loi S, Guo Z, Zhao J, Karantzava V, Aktan G, Cortes J** : Additional efficacy endpoints from the Phase3 keynote-355 study of Pembrolizumab + chemotherapy versus Placebo + chemotherapy as first-line therapy for locally recurrent inoperable or metastatic triple-negative breast cancer (mTNBC). San Antonio Breast Cancer Symposium, 2020, (virtual), [oral]
- 016 **Loi S, Schmid P, Cescon D. W, Winer E. P, Toppmeyer D. L, Rugo H. S, DeLaurentis M, Nanda R, Iwata H, Awada A, Tan A. R, Saigato R, Karantzava V, Jelinic P, Huang L, Ristescu R, Annamalai L, Yearley J, Adams S** : Association between biomarkers and response to Pembrolizumab in patients with metastatic triple-negative breast cancer : exploratory analysis from keynote-086. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2020, (virtual), [oral]
- 017 **Emens L. A, Molinero L, Adams S, Rugo H. S, Schneeweiss A, Dieras V, Iwata H, Barrios C. H, Winer E. P, Chang C-W, Chui S. Y, Schmid P, Loi S** : Genomic profiling and clinical outcomes with first-line Atezolizumab and nab-Paclitaxel in triple-negative breast cancer : An exploratory analysis from the Phase III Impassion130 trial. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2020, (virtual), [oral]
- 018 **Modi S, Saura C, Yamashita T, Park Y. H, Kim S-B, Tamura K, Andre F, Iwata H, Ito Y, Tsurutani J, Sohm J, Denduluri N, Perrin C, Aogi K, Tokunaga E, Im S-A, Lee K. S, Hurvitz S. A, Cortes J, Lee C, Liu Y, Zhang L, Shahidi J, Yver A, Baselga J, Krop I. E.** : Updated results from destini-breast01, a Phase2 trial of Trastuzumab Deruxtecan (T-DXd) in HER2-positive metastatic breast cancer. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2020, (virtual), [oral]
- 019 **Holmes F. A, Moy B, Delaloge S, Chia S, Ejlertsen B, Mansi J, Iwata H, Gnani M, Byuyse M, Barrios C, Silovski T, Separovic R, Bashford A, Guerrero-Zotano A, Denduluri N, Patt D, Gokmen E, Gore I, Smith J, Bryce R, Xu F, Wong A, Martin M, Chan A** : Continued efficacy of neratinib in patients with HER2-positive early-stage breast cancer : Final overall survival analysis from the randomized Phase3 ExteNET trial. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2020, (virtual), [poster]
- 020 **Sawaki M, Nakagawa K, Tsuchiya T, Hirano T, Laurent**

- T, Iwata H**: A Real-world Analysis of Treatment Patterns for HR+/HER2- Metastatic/advanced Breast Cancer Patients Prescribed with Palbociclib Based on Administrative Claim Database Study in Japan. 58th Annual Meeting of Japan Society of Clinical Oncology, 2020, (京都), [oral]
- 021 **Kotani H**: Luminal typed metastatic breast cancer with HER2 mut responded by everolimus plus exemestane and following lapatinib. 58th Annual Meeting of Japan Society of Clinical Oncology, 2020, (京都), [poster]
- 022 **Ozaki Y**: The decision of adjuvant treatment using Oncotype DX and outcome in early breast cancer patients. 58th Annual Meeting of Japan Society of Clinical Oncology, 2020, (京都), [oral]
- 023 **Hattori M**: Case Discussion. Best of SABCS Kyoto 2021, 2021, (virtual), [Panel]
- 024 **Sawaki M**: Global standard for Breast Surgery and Evaluation of Surgical Margin. International video session. 第28回日本乳癌学会学術総会, 2020, (Web), [口演]
- 025 **Ozaki Y**: Our attempt to support patients' decision making using breast conserving surgery simulator. 第28回日本乳癌学会学術総会, 2020, (Web), [ポスター]
- 026 **Hattori M, Novick D, Takaura K, Tanizawa Y, Sakaguchi S, Monistrol-Mula A, Ohnishi A, Iwata H**: 日本におけるHR陽性HER2陰性進行再発乳癌の予後因子: システムティックレビュー. 第28回日本乳癌学会学術総会, 2020, (Web), [ポスター]
- 027 **澤本正孝**: 教育セミナー. HER2阻害薬による心毒性の特徴と対応. 第3回日本腫瘍循環器学会, 2020, (Web), [口演]
- 028 **澤本正孝**: 教育セミナー. 乳癌総論、HBOC乳癌の臨床的特徴. 日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療精度機構, 2020, (Web), [口演]
- 029 **澤本正孝**: 問診・病歴の取り方、治療のプランニング、乳癌以外の悪性腫瘍、良性疾患の治療. 日本乳癌学会第9回乳腺専門医セミナー, 2020, (Web), [口演]
- 030 **澤本正孝, 山田顕光, 清水千佳子, 宮下美香, 本間尚子, 平 成人**: 第24回日本乳癌学会班研究 高齢者乳がんの特徴と治療のあり方、支援に向けた研究 (班研究報告). 第28回日本乳癌学会学術総会, 2020, (Web), [口演]
- 031 **吉村章代**: 遺伝性乳がん卵巣がん症候群 (HBOC). 第28回日本乳癌学会学術総会, 2020, (Web), [口演]
- 032 **安立弥生**: 術後内分泌療法省略へ向けた、ホルモン受容体陽性HER2陰性乳癌非内分泌療法症例の検討. 第28回日本乳癌学会学術総会, 2020, (Web), [ポスター]
- 033 **安立弥生**: NCD乳癌登録を用いたInvasive lobular carcinomaのサブタイプ別の予後に関する研究. 第28回日本乳癌学会学術総会, 2020, (Web), [口演]
- 034 **堀澤七恵**: HER2低発現を含んだ新しいサブタイプの分布と予後. 第28回日本乳癌学会学術総会, 2020, (Web), [ポスター]
- 035 **吉村章代**: 当院における遺伝性乳癌卵巣癌症候群 (HBOC) が確定した乳癌既発症者に対する予防的介入の実施状況. 日本人類遺伝学会第65回大会, 2020, (Web), [口演]
- 036 **安立弥生**: がんゲノムプロファイリング検査のGermline findingsへの対応と課題について. 日本人類遺伝学会第65回大会, 2020, (Web), [口演]
- 037 **片岡愛弓**: コンパニオン診断と確定診断目的におけるBRACAnalysis検査提案から実施までの期間の比較検討. 日本人類遺伝学会第65回大会, 2020, (Web), [口演]
- 038 **杉野香世子**: 乳癌既発症 HBOC 症例におけるリスク低減手術の適応に関する検討. 日本人類遺伝学会第65回大会, 2020, (Web), [ポスター]
- 039 **堀澤七恵**: 多科参加型遺伝性腫瘍タスクフォース構築後のサーベイランスの現状と今後の課題-Li-Fraumeni 症候群-. 日本人類遺伝学会第65回大会, 2020, (Web), [一般公演]
- 040 **尾崎友理**: 遺伝性乳癌卵巣癌症候群の確定診断目的にBRACAnalysis検査を施行し、病的バリエーションを認めなかった症例への対応. 日本人類遺伝学会第65回大会, 2020, (Web), [ポスター]
- 041 **遠藤由香**: 多科連携でHBOCの両側乳癌手術とリスク低減卵管卵巣切除術を同時に施行した1例. 日本人類遺伝学会第65回大会, 2020, (Web), [ポスター]
- 042 **小谷はるる**: HER2陽性乳癌に対する治療の最適化HER2陽性脳転移に対する後方視的検討と新規アプローチ. 第82回日本臨床外科学会総会, 2020, (Web), [口演]
- 043 **片岡愛弓**: 豊胸術後乳癌におけるセンチネルリンパ節生検の有用性. 第8回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会, 2020, (岡山), [口演]
- 044 **杉野香世子**: 尿崩症の原因として遺伝性疾患との鑑別を要した乳がん下垂体転移の1例. 第27回日本乳癌学会中部地方会, 2020, (Web), [口演]
- 045 **尾崎友理**: 乳房再建術施行時における生検痕切除の意義についての検討. 第27回日本乳癌学会中部地方会, 2020, (Web), [ポスター]
- 046 **遠藤由香**: 乳癌の腋窩リンパ節転移との鑑別を要した壊死性リンパ節炎の1例. 第27回日本乳癌学会中部地方会, 2020, (Web), [ポスター]
- 047 **高塚大輝**: 診断と術式選択に苦慮した巨大乳腺葉状腫瘍の1例. 第27回日本乳癌学会中部地方会, 2020, (Web), [スライド]

消化器外科部

- 001 **Komori K, Suda H, Kinoshita T, Oshiro T, Ouchi A, Kunitomo A, Ito S, Abe T, Shimizu Y**: Combined radical resection of external iliac artery with axillo-femoral bypass in the treatment for local recurrence after lateral lymph node dissection in lower rectal cancer. DDW2020 KOBE 第28回日本消化器関連学会週間, 2020, (神戸), [示説]
- 002 **Komori K**: Our procedure of total pelvic exenteration

- combined with sacral resection. The 30th Biennial Congress of ISUCRS 2020, 2020, (横浜), [一般演題]
- 003 **Ouchi A** : Current status and issues concerning universal tumor screening for Lynch syndrome at a Japanese cancer center. The 30th Biennial Congress of ISUCRS 2020, 2020, (横浜), [一般演題]
- 004 **Komori K, Takii Y, Mizusawa J, Shiozawa M, Ohue M, Nishimura Y, Ikeda S, Takiguchi N, Kobatake T, Kanemitsu Y** : 大腸癌切除における適切な手順に関するランダム化比較試験 (JCOG1006, NTIT study) の成績 . A RCT of conventional technique vs. no-touch isolation for tumor resection with colon cancer. 第75回日本消化器外科学会総会, 2020, (和歌山), [シンポジウム]
- 005 **Toyama H, Takahashi S, Morinaga S, Shimizu Y, Nakamori S, Hishinuma S, Takakura N, Takayama W, Hirano S, Uesaka K** : Final results of JASPAC05 : neoadjuvant S-1 and concurrent radiotherapy followed by surgery in borderline resectable pancreatic cancer. 第32回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2021, (東京), [パネル]
- 006 **Nakamura T, Sugiura T, Fukutomi A, Asakura H, Takeda Y, Yamamoto K, Toyama H, Sato S, Matsumoto I, Takahashi S, Morinaga S, Yoshida M, Sakuma Y, Iwamoto H, Shimizu Y, Uesaka K** : Results of randomized phase II trial of chemoradiotherapy with S-1 versus combination chemotherapy with gemcitabine and S-1 as neoadjuvant treatment for resectable pancreatic cancer (JASPAC 04). 第32回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2021, (東京), [パネル]
- 007 **Natsume S, Shimizu Y, Senda Y, Okuno M** : Safety and significance of conversion surgery for unresectable pancreatic cancer. 第32回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2021, (東京), [ワークショップ]
- 008 **Okuno M, Shimizu Y, Senda Y, Natsume S** : Treatment strategy and results of main duct IPMN. 第32回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2021, (東京), [ワークショップ]
- 009 **Ito S, Kobayashi D, Hayashi N, Tanaka Y, Koike S, Okumura N, Watanabe T, Inaoka K, Inagaki K, Yamanaka M, Tanabe H, Kodera Y** : Short-term outcome of multi-institutional prospective phase II trial of conversion surgery. CCOG1403. 第93回日本胃癌学会総会, 2021, (大阪), [パネル]
- 010 **Nakanishi K, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto J, Ishigure K, Murai T, Asada T, Shimizu D, Tanaka C, Fujiwara M, Kodera Y** : Microscopic Positive Margin After Gastrectomy Increases . Recurrences of Gastric Cancer. 顕微鏡的断腸陽性が予後に与える影響. 第93回日本胃癌学会総会, 2021, (大阪), [一般演題]
- 011 **Ishigami H, Yamashita H, Kodera Y, Imano M, Fukushima R, Fukagawa T, Yabusaki H, Ito S, Kitayama J, Yamaguchi H, Oba K, Seto Y** : Phase III trial to evaluate intraperitoneal chemotherapy in type 4 gastric cancer : PHOENIX-GC2 trial. 第93回日本胃癌学会総会, 2021, (大阪), [その他]
- 012 **Misawa K, Kurokawa Y, Mizusawa J, Takiguchi S, Doki Y, Makino S, Choda Y, Takeno A, Tokunaga M, Sano T, Sasako M, Yoshikawa T, Terashima M** : Negative impact of intraoperative bleeding on long-term outcome after gastrectomy for gastric cancer. cT3/T4 胃癌術後長期成績における予後不良因子としての術中出血量 : JCOG1001 試験副次解析. 第93回日本胃癌学会総会, 2021, (大阪), [示説]
- 013 **Abe T** : Robot-assisted thoracoscopic esophagectomy for esophageal cancer : Short-term outcomes. 第33回日本内視鏡外科学会総会, 2021, (横浜), [示説]
- 014 **Misawa K** : Analysis of intraoperative laparoscopic images using AI to support laparoscopic gastrectomy. 第33回日本内視鏡外科学会総会, 2021, (横浜), [一般演題]
- 015 **Kinoshita T** : Laparoscopic CME and optimal D3 lymph node dissection for right-sided colon cancer. 第33回日本内視鏡外科学会総会, 2021, (横浜), [示説]
- 016 **Okuno M** : Outcomes of three surgical techniques of laparoscopic spleen-preserving distal pancreatectomy. 第33回日本内視鏡外科学会総会, 2021, (横浜), [一般演題]
- 017 **檜垣栄治, 安部哲也, 細井敬泰, 長尾拓哉, 清水泰博** : 胸腔鏡下食道切除術の安全性と適応基準. 第63回関西胸部外科学会, 2020, (米子), [パネル]
- 018 **桑原崇通, 原 和生, 清水泰博** : IPMN 良悪性診断における deep learning の有用性. 第106回日本消化器病学会総会, 2020, (広島), [シンポジウム]
- 019 **羽場 真, 原 和生, 清水泰博** : IPMN の経過観察中における通常型膵癌発症リスクの検討と膵嚢胞専門外来の試み. 第106回日本消化器病学会総会, 2020, (広島), [ワークショップ]
- 020 **小森康司, 須田久雄, 神谷信次, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 長尾拓哉, 國友愛奈, 清水泰博** : 直腸癌術後局所再発に対する腋窩動脈-大腿動脈バイパス術+外腸骨動脈合併切除を施行した1例. 第106回日本消化器病学会総会, 2020, (広島), [示説]
- 021 **里井壯平, 山本智久, 内田一茂, 藤井 努, 浅野賢道, 村上義昭, 五十嵐久人, 江口英利, 黒木 保, 清水泰博, 谷眞至, 丹野誠志, 辻 喜久, 廣岡芳樹, 正 宗淳, 下川敏雄, 山上裕樹, 岡崎和一** : 80歳以上高齢者切除可能・境界型膵癌患者の至適治療法: 切除か化学療法か? - 多施設共同研究からの提言-. 第120回日本外科学会定期学術集会, 2020, (東京), [パネル]
- 022 **佐藤 敏, 神田光郎, 伊藤誠二, 望月能成, 寺本 仁, 石樽 清, 村井敏文, 浅田崇洋, 石山聡治, 松下英信, 清水大, 宮田一志, 小林大介, 田中千恵, 深谷昌秀, 小池聖彦, 藤原道隆, 小寺泰弘** : 胃癌における術前血清腫瘍マーカーの再発予測としての至適カットオフ値の検討. 第120回日本外科学会定期学術集会, 2020, (東京), [一般演題]
- 023 **莊加道太, 神田光郎, 伊藤誠二, 望月能成, 寺本 仁, 石樽 清, 村井俊文, 浅田崇洋, 石山聡治, 松下英信, 田中**

- 千恵, 小林大介, 藤原道隆, 室谷健太, 小寺泰弘: 多施設共同胃癌データベースを利用した胃切除術後肺炎発症に関する予測因子の検討. 第120回日本外科学会定期学術集会, 2020, (東京), [一般演題]
- 024 中西香企, 神田光郎, 伊藤誠二, 望月能成, 寺本 仁, 石樽 清, 村井俊文, 浅田崇洋, 石山聡治, 松下英信, 清水大, 田中千恵, 小林大介, 藤原道隆, 室谷健太, 小寺泰弘: 幽門側胃切除術後の再建法が術後合併症に及ぼす影響 - B-1法とR-Y法の比較 -. 第120回日本外科学会定期学術集会, 2020, (東京), [一般演題]
- 025 篠塚高宏, 村井俊文, 望月能成, 神田光郎, 伊藤誠二, 寺本 仁, 石樽 清, 浅田崇洋, 石山聡治, 小寺泰弘: 高齢者胃癌患者におけるD2リンパ節郭清の予後に対する有用性の検討. 第120回日本外科学会定期学術集会, 2020, (東京), [一般演題]
- 026 小森康司, 須田久雄, 中井洋佑, 神谷信次, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 長尾拓哉, 国友愛奈, 清水泰博: 局所再発に対する外腸骨動脈合併切除+腋窩動脈-大腿動脈バイパス術-手術の要点とトラブルシューティング-. 第120回日本外科学会定期学術集会, 2020, (東京), [示説]
- 027 大城泰平, 小森康司, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 大内 晶, 国友愛奈, 沖 哲, 高野仁, 末永泰人, 前田真吾, 出井秀幸, 清水泰博: [あり] 下部直腸癌に対する予防的側方郭清188症例の検討. 第120回日本外科学会定期学術集会, 2020, (東京), [その他]
- 028 安部哲也, 檜垣栄治, 細井敬泰, 長尾拓哉, 小森康司, 伊藤誠二, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 奥野正隆, 清水泰博: 局所進行食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術の成績と手術手技. 第120回日本外科学会定期学術集会, 2020, (東京), [ワークショップ]
- 029 深川剛生, 石上浩徳, 大森 健, 小寺泰弘, 藪崎 裕, 福島亮治, 今野元博, 三澤一成, 富田寿彦, 秀村晃生, 有上貴明, 天貝賢二, 辻 靖, 楠本哲也, 岸 健太郎, 上田修吾, 伏田幸夫, 今村和弘, 緒方杏一, 北山丈二: Surgical outcomes for advanced gastric cancer with peritoneal metastases after intraperitoneal and systemic chemotherapy. 腹膜播種を伴う進行胃癌症例に対する腹腔内投与を伴う全身化学療法後の外科手術の成績. 第120回日本外科学会定期学術集会, 2020, (東京), [シンポジウム]
- 030 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 清水泰博: cT4大腸癌に対する骨盤内臓全摘術の治療成績の検討. 第120回日本外科学会定期学術集会, 2020, (東京), [示説]
- 031 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 大城泰平, 檜垣栄治, 細井敬泰: 局所進行膵癌の浸潤動脈別長期予後 化学療法後 conversion surgery を目指した腹腔動脈系と上腸間膜動脈系の比較. 第120回日本外科学会定期学術集会, 2020, (東京), [一般演題]
- 032 出井秀幸, 夏目誠治, 千田嘉毅, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 大城泰平, 檜垣栄治, 細井敬泰, 清水泰博: 80歳以上高齢者膵癌症例の検討~術式から見た適応と限界~. 第120回日本外科学会定期学術集会, 2020, (東京), [示説]
- 033 奥野正隆, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 大城泰平, 檜垣栄治, 細井敬泰: IPMNにおける術中膵断端迅速病理診断結果に基づく追加切除の治療成績. 第120回日本外科学会定期学術集会, 2020, (東京), [一般演題]
- 034 大内 晶, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 吉村真弓, 細田和貴, 中西速夫, 清水泰博: 腹腔内洗浄液中の遊離癌細胞探索による大腸癌手術での癌細胞散布の可能性の検討. 第120回日本外科学会定期学術集会, 2020, (東京), [一般演題]
- 035 国友愛奈, 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 細井敬泰, 奥野正隆, 檜垣栄治, 大城泰平, 夏目誠治, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 4型胃癌に対する脾摘及び脾門部リンパ節郭清の意義に対する検討. 第120回日本外科学会定期学術集会, 2020, (東京), [一般演題]
- 036 奥野正隆, 清水泰博, 夏目誠治: T1乳頭部癌切除術の検討. 第56回日本胆道学会学術集会, 2020, (福岡), [パネル]
- 037 小森康司: 第56回日本腹部救急医学会総会, 2020, (名古屋), [座長]
- 038 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 清水泰博: 多様な合併症を呈した直腸癌骨盤内局所再発(頻回手術)症例の1例. 第56回日本腹部救急医学会総会, 2020, (名古屋), [一般演題]
- 039 安部哲也: 第58回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [座長]
- 040 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 国友愛奈, 沖哲, 末永泰人, 前田真吾, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 当院における拡大手術の工夫-仙骨合併切除骨盤内臓器全摘術(TPES)-. 第58回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [ワークショップ]
- 041 細井敬泰, 安部哲也, 檜垣栄治, 長尾拓哉, 清水泰博: 高齢者食道癌に対する鏡腔鏡下食道切除術の成績. 第73回日本胸部外科学会定期学術集会, 2020, (名古屋), [パネル]
- 042 伊藤誠二: 第82回日本臨床外科学会総会, 2020, (大阪), [座長]
- 043 小森康司: 第82回日本臨床外科学会総会, 2020, (大阪), [座長]
- 044 三澤一成: 第82回日本臨床外科学会総会, 2020, (大阪), [座長]
- 045 金光幸秀, 清水泰博, 志田 大, 大植雅之, 小森康司, 塩見明生, 塩澤 学, 渡邊 純, 須藤 剛, 絹笠祐介, 瀧井康公, 伴登宏行, 小島誉也: 大腸癌転移切除後患者を

- 対象とした補助化学療法(mFOLFOX6)と手術単独を比較したランダム化第Ⅱ/Ⅲ相試験結果: JCOG0603. 第82回日本臨床外科学会総会, 2020, (大阪), [シンポジウム]
- 046 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 川勝章司, 清水泰博: 当科における仙骨合併切除骨盤内臓器全摘術(TPES)の術式と成績. 第82回日本臨床外科学会総会, 2020, (大阪), [ビデオ]
- 047 安部哲也, 檜垣栄治, 細井敬泰, 長尾拓哉, 小森康司, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 奥野正隆, 大内 晶, 川勝章司, 清水泰博: 高度局所進行食道癌に対する導入 docetaxel+cisplatin+5-fluorouracil 療法後 conversion surgery の長期成績. 第82回日本臨床外科学会総会, 2020, (大阪), [ワークショップ]
- 048 沼田佳久, 安部哲也, 檜垣栄治, 細井敬泰, 長尾拓哉, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 奥野正隆, 川勝章司, 清水泰博: 頸部食道癌の鎖骨上リンパ節(104LN) 転移症例における予後の検討. 第82回日本臨床外科学会総会, 2020, (大阪), [一般演題]
- 049 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 大内 晶, 川勝章司, 清水泰博: 転移陽性例に対する最適なアプローチ～開腹手術の立場から～. 第82回日本臨床外科学会総会, 2020, (大阪), [シンポジウム]
- 050 奥野正隆, 清水泰博, 夏目誠治, 川勝章司, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 大城泰平, 檜垣栄治, 大内 晶, 細井敬泰, 柳野正人: 膈癌手術における膈断端迅速病理診断陽性例に対する追加切除の意義. 第82回日本臨床外科学会総会, 2020, (大阪), [一般演題]
- 051 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 川勝章司, 清水泰博: 進行下部直腸癌における側方郭清の可能性と限界. 第82回日本臨床外科学会総会, 2020, (大阪), [一般演題]
- 052 沖 哲, 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 川勝章司, 清水泰博: 大腸癌卵巣転移切除の治療成績の検討. 第82回日本臨床外科学会総会, 2020, (大阪), [一般演題]
- 053 末永泰人, 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 川勝章司, 清水泰博: サルコペニアが骨盤内臓器全摘術の短期成績に与える影響. 第82回日本臨床外科学会総会, 2020, (大阪), [ワークショップ]
- 054 國友愛奈, 大城泰平, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 川勝章司, 清水泰博: 右側進行結腸癌に対するD3郭清(Henle trunk 周囲の郭清主義を中心に). 第82回日本臨床外科学会総会, 2020, (大阪), [パネル]
- 055 伊藤誠二: JDDW 2020 KOBE 第28回日本消化器関連学会週間, 2020, (神戸), [座長]
- 056 小森康司: JDDW 2020 KOBE 第28回日本消化器関連学会週間, 2020, (神戸), [座長]
- 057 桑原崇通, 原 和生, 清水泰博: 膈疾患診断 AI の有効性と学習効率化への取り組み. JDDW2020KOBE 第28回日本消化器関連学会週間, 2020, (神戸), [その他]
- 058 羽場 真, 原 和生, 清水泰博: IPMN 浸潤癌を適切に診断するための術前診断法. JDDW2020 KOBE 第28回日本消化器関連学会週間, 2020, (神戸), [ワークショップ]
- 059 呂 成九, 神田光郎, 伊藤誠二, 望月能成, 寺本 仁, 石樽 清, 浅田崇洋, 石山聡治, 松下英信, 清水 大, 田中千恵, 小池聖彦, 藤原道隆, 小寺泰弘: 多施設共同データベース解析による術前 CONUTscore の Stage II /III 胃癌術後予後予測マーカーとしての有用性の検討. JDDW 2020 KOBE 第28回日本消化器関連学会週間, 2020, (神戸), [示説]
- 060 小森康司: 第75回日本大腸肛門病学会学術集会, 2020, (横浜), [座長]
- 061 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 國友愛奈, 沖 哲, 末永泰人, 前田真吾, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 川勝章司, 清水泰博: 当院における仙骨合併切除骨盤内臓器全摘術(TPES)の手術と工夫. 第75回日本大腸肛門病学会学術集会, 2020, (横浜), [示説]
- 062 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 大内 晶, 川勝章司, 國友愛奈, 沖 哲, 末永泰人, 前田真吾, 清水泰博: 右側結腸癌に対するCME+D3郭清. Techniques of CME+D3 lymph node dissection for right colon cancer. 第75回日本大腸肛門病学会学術集会, 2020, (横浜), [シンポジウム]
- 063 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 田近正洋, 大西祥代, 室 圭, 坂東英明, 細田和貴, 井本逸勢, 高磯伸枝, 清水泰博: 当院のリンチ症候群に対するユニバーサルスクリーニングの現状と課題. Current status and issues concerning universal tumor screening for Lynch syndrome. 第75回日本大腸肛門病学会学術集会, 2020, (横浜), [ワークショップ]
- 064 末永泰人, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 大内 晶, 清水泰博, 田近正洋, 田中 努, 大西祥代, 山田啓策, 細田和貴: 直腸NETG1/G2の治療方針に関する検討. Risk factor for lymph node metastasis and optimal surgical indication with rectal NETG1/G2. 第75回日本大腸肛門病学会学術集会, 2020, (横浜), [ワークショップ]
- 065 國友愛奈, 木下敬史, 大内 晶, 大城泰平, 小森康司: 下部進行直腸癌に対する手術～開腹手術の立場から～. Open surgery for advanced low rectal cancer. 第75回日本大腸肛門病学会学術集会, 2020, (横浜), [シンポジウム]
- 066 前田真吾, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 小島 瞳, 佐々木照美, 安形真由美: ストーマ合併症を低減するための手術手技と工夫 Surgical procedure for

- diverting loop ileostomy to reduce stoma complications. 第75回日本大腸肛門病学会学術集会, 2020, (横浜), [パネル]
- 067 三澤一成: 機械学習・人工知能を用いた胃がん手術支援技術の研究開発と、その先にある未来の医療と手術. 第29回日本コンピューター外科学会大会, 2020, (伊勢原), [シンポジウム]
- 068 林 雄一郎, 三澤一成, 森 健策: 深層学習を用いた腹腔鏡映像解析に基づく位置計測装置を用いないナビゲーションシステムの開発. 第29回日本コンピューター外科学会大会, 2020, (伊勢原), [シンポジウム]
- 069 盛満慎太郎, 山本翔太, 小澤卓也, 北坂孝幸, 林 雄一郎, 小田昌宏, 伊藤雅昭, 竹下修由, 三澤一成, 森 健策: Dilated convolution を用いた腹腔鏡動画からの血管領域抽出における空間情報利用に関する検討. 第29回日本コンピューター外科学会大会, 2020, (伊勢原), [一般演題]
- 070 檜垣栄治, 安部哲也, 細井敬泰, 長尾拓哉, 伊東直哉, 清水泰博: 食道癌根治術後の早期肺炎は周術期予防的抗菌薬 (ABPC/SBT) で制御しうるか. 第33回日本外科感染症学会総会, 2020, (東京), [一般演題]
- 071 安部哲也, 檜垣栄治, 細井敬泰, 長尾拓哉: 胸骨柄V字切開の食道癌手術における有用性とその応用. 第74回日本食道学会学術集会, 2020, (徳島), [一般演題]
- 072 細井敬泰, 安部哲也, 檜垣栄治, 長尾拓哉, 清水泰博: 食道癌根治切除後の再発に対する手術成績の検討. 第74回日本食道学会学術集会, 2020, (徳島), [その他]
- 073 檜垣栄治, 安部哲也, 細井敬泰, 長尾拓哉, 門脇重憲, 清水泰博: UICC8thcStage4 食道癌に対する術前DCF療法の有用性. 第74回日本食道学会学術集会, 2020, (徳島), [示説]
- 074 長尾拓哉, 安部哲也, 細井敬泰, 檜垣栄治, 清水泰博: ICG 蛍光法による胃管血流評価の有用性. 第74回日本食道学会学術集会, 2020, (徳島), [示説]
- 075 清水泰博: 第75回日本消化器外科学会総会, 2020, (和歌山), [座長]
- 076 伊藤誠二: 第75回日本消化器外科学会総会, 2020, (和歌山), [座長]
- 077 小森康司: 第75回日本消化器外科学会総会, 2020, (和歌山), [座長]
- 078 安部哲也, 檜垣栄治, 細井敬泰, 長尾拓哉, 小森康司, 伊藤誠二, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 切除不能進行食道癌に対する Conversion Surgery における胸腔鏡下食道切除術の成績とその手術手技. 第75回日本消化器外科学会総会, 2020, (和歌山), [パネル]
- 079 細井敬泰, 安部哲也, 檜垣栄治, 長尾拓哉, 清水泰博: 術前骨格筋量低下が食道癌術後の短期成績に与える影響. 第75回日本消化器外科学会総会, 2020, (和歌山), [一般演題]
- 080 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 清水泰博: 80歳以上の高齢者 Stage I ~ III 直腸癌切除症例の検討. 第75回日本消化器外科学会総会, 2020, (和歌山), [一般演題]
- 081 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 大城泰平: 進行膵癌に対する conversion surgery の意義 R1 切除、早期死亡例の反省を踏まえて. 第75回日本消化器外科学会総会, 2020, (和歌山), [一般演題]
- 082 出井秀幸, 夏目誠治, 千田嘉毅, 奥野正隆, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 清水泰博: 大腸癌同時性両葉多発肝転移に対する conversion surgery ~ 肝切除により得られる Chemo-Vacation 期間 ~. 第75回日本消化器外科学会総会, 2020, (和歌山), [一般演題]
- 083 檜垣栄治, 安部哲也, 細井敬泰, 長尾拓哉, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 胸部食道癌根治切除術において術後 SSI を減らすために有効な予防的抗菌薬の選択. 第75回日本消化器外科学会総会, 2020, (和歌山), [一般演題]
- 084 奥野正隆, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史: IPMN 術後再発リスク因子の検討. 第75回日本消化器外科学会総会, 2020, (和歌山), [一般演題]
- 085 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 鳥山和浩, 田近正洋, 丹羽康正, 清水泰博: T1 大腸癌の診断と治療における腫瘍占拠部位の意義. 第75回日本消化器外科学会総会, 2020, (和歌山), [パネル]
- 086 沖 哲, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 肥満患者に対する腹腔鏡下結腸・直腸切除術. 第75回日本消化器外科学会総会, 2020, (和歌山), [一般演題]
- 087 末永泰人, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 清水泰博, 田近正洋: 当センターにおける直腸カルチノイド76例の検討. 第75回日本消化器外科学会総会, 2020, (和歌山), [一般演題]
- 088 長尾拓哉, 安部哲也, 檜垣栄治, 細井敬泰, 伊藤誠二, 小森康司, 清水泰博: 根治的放射線療法後の胸腔鏡下食道切除術の治療成績. 第75回日本消化器外科学会総会, 2020, (和歌山), [一般演題]
- 089 國友愛奈, 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 夏目誠治, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: リンパ節郭清効果 index から見る4型胃癌における脾摘及び脾門部リンパ節郭成の意義の検討. 第75回日本消化器外科学会総会, 2020, (和歌山), [一般演題]
- 090 檜垣栄治, 安部哲也, 長尾拓哉, 細井敬泰, 奥野正隆, 大城泰平, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 食道癌根治術の術後合併症を予測するための術前の栄養/炎症マーカーの検討. 日本外科代謝栄養学会第57回学術集会, 2020, (名古屋), [ワークショップ]
- 091 清水泰博, 肘岡 範, 廣野誠子, 金 俊文, 大塚隆生, 菅野 敦, 越田真介, 花田敬士, 北野雅之, 井上宏之, 糸井隆夫, 植木敏晴, 柳澤昭夫, 山上裕機, 杉山政則, 岡崎和一: IPMN の癌予測モデルの作成と多数例での評価. 第51回日本膵臓学会大会, 2021, (神戸), [その他]
- 092 廣野誠子, 清水泰博, 大塚隆生, 金 俊文, 原 和生, 菅

- 野 敦, 越田真介, 花田敬士, 北野雅之, 井上宏之, 糸井隆夫, 植木敏晴, 脇岡 範, 柳澤昭夫, 中村雅史, 岡崎和一, 山上裕樹: IPMN 国際診療ガイドライン 2017 における IPMN 切除後フォローアップ法の検証. 第 51 回日本膵臓学会大会, 2021, (神戸), [パネル]
- 093 羽場 真, 原 和生, 清水泰博, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 孝田博輝, 宮野 亮, 千田嘉毅, 夏目誠治, 奥野正隆, 細田和貴: IPMN 併存浸潤性膵管癌の臨床的特徴と治療方針. 第 51 回日本膵臓学会大会, 2021, (神戸), [一般演題]
- 094 江口英利, 山上裕樹, 海野倫明, 水間正道, 濱田 晋, 五十嵐久人, 黒木 保, 里井壯平, 清水泰博, 谷 眞至, 丹野誠志, 廣岡芳樹, 藤井 努, 正宗 淳, 水元一博, 糸井隆夫, 江川新一, 児玉裕三, 田中雅夫, 下瀬川 徹, 岡崎和一: 若年で発症した膵癌症例の臨床像-日本膵臓学会膵癌登録データによる解析-. 第 51 回日本膵臓学会大会, 2021, (神戸), [その他]
- 095 藤井 努, 土田浩喜, 水間正道, 里井壯平, 江口英利, 五十嵐久人, 北野雅之, 黒木 保, 清水泰博, 谷 眞至, 丹野誠志, 辻 喜久, 廣岡芳樹, 正宗 淳, 海野倫明, 山上裕樹, 岡崎和一: 切除膵癌における腹腔洗浄細胞診の意義の検討~日本膵臓学会プロジェクト研究結果より. 第 51 回日本膵臓学会大会, 2021, (神戸), [その他]
- 096 里井壯平, 杉浦禎一, 福富 晃, 外山博近, 平野 聡, 松本逸平, 高橋進一郎, 森永聡一郎, 吉田真誠, 佐久間康成, 清水泰博, 上坂克彦: 切除可能膵癌の術前 S-1 併用放射線療法とゲムシタピン +S-1 療法の第 2 比較試験. 第 51 回日本膵臓学会大会, 2021, (神戸), [シンポジウム]
- 097 里井壯平, 山本智久, 内田一茂, 藤井 努, 金 俊文, 浅野賢道, 花田敬士, 糸井隆夫, 五十嵐久人, 江口英利, 黒木 保, 清水泰博, 谷 眞至, 丹野誠志, 辻 喜久, 廣岡芳樹, 正宗 淳, 下川敏雄, 山上裕樹, 岡崎和一: 80 歳以上高齢者膵癌に対する治療法-日本膵臓学会アンケート調査-. 第 51 回日本膵臓学会大会, 2021, (神戸), [その他]
- 098 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 奥野正隆, 原 和生: 切除不能膵癌に対する conversion surgery の意義と課題. 第 51 回日本膵臓学会大会, 2021, (神戸), [ワークショップ]
- 099 栗田裕介, 小林規俊, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 羽場 真, 千田嘉毅, 夏目誠治, 奥野正隆, 長谷川 翔, 佐藤高光, 細野邦広, 本間祐樹, 松山隆生, 窪田賢輔, 中島 淳, 市川靖史, 遠藤 格, 清水泰博, 原 和生: 膵神経内分泌腫瘍における再導入も含めたエベロリムス投与・減量切除は有効か?. 第 51 回日本膵臓学会大会, 2021, (神戸), [ワークショップ]
- 100 奥野正隆, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治: IPMN2017 年国際ガイドラインにおける high-risk stigmata に対する手術適応の検証. 第 51 回日本膵臓学会大会, 2021, (神戸), [パネル]
- 101 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 國友愛奈, 前田真吾, 末永康人, 沖 哲: T2 下部直腸癌における側方リンパ節転移の実際: TME のみで十分か?. 第 94 回大腸癌研究会, 2021, (東京), [示説]
- 102 有竹 典, 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣榮治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 筑紫 聡, 佐々木英一, 清水泰博: 左側結腸間膜に発生した骨外性 Ewing 肉腫の 1 例. 第 55 回愛知臨床外科学会, 2021, (名古屋), [一般演題]
- 103 小森康司: 大腸癌術後局所再発に対する頻回手術症例における合併症及び安全性に関する検討. 第 17 回日本消化管学会総会学術集会, 2021, (大阪), [シンポジウム]
- 104 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 國友愛奈, 沖哲, 末永康人, 前田真吾, 安形真由美, 佐々木照美, 小島瞳: 直腸癌骨盤内臓器全摘術後の尿管回腸導管吻合部狭窄に対し, 回腸尿管にて再造設術を施行した 1 例. 第 38 回日本ストーマ排泄リハビリテーション学会総会, 2021, (福岡), [一般演題]
- 105 前川厚子, 夏目尚実, 榊原由美子, 平野明美, 柴田佳久, 小森康司, 丸田守人, 後藤百万: オストメイトのケア実践に関わる看護職、介護職と主任ケアマネ研修会 in 愛知の運営. 第 38 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2021, (福岡), [一般演題]
- 106 三澤一成: 第 33 回日本内視鏡外科学会総会, 2021, (横浜), [座長]
- 107 小森康司: 高度局所進展を呈するステージ IV 大腸癌開腹手術. 第 33 回日本内視鏡外科学会総会, 2021, (横浜), [ワークショップ]
- 108 安部哲也: 世界に先駆けた 8K 映像技術-未来のスタンダードを目指して-. 第 33 回日本内視鏡外科学会総会, 2021, (横浜), [その他]
- 109 沼田佳久: 当院における単孔式腹腔鏡下大網充填術を施行した 1 例. 第 33 回日本内視鏡外科学会, 2021, (横浜), [示説]
- 110 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也: 大腸癌局所再発に対する頻回手術後腸穿孔の検討. 第 57 回日本腹部救急医学会総会, 2021, (横浜), [一般演題]

整形外科部

- 001 藤原那沙, 濱田俊介, 吉田雅博, 筑紫 聡: 手部発生の腱鞘巨細胞腫における術後再発のリスク要因. 第 63 回日本手外科学会学術集会, 2020, (オンライン), [口演]
- 002 中村 優, 高成啓介, 蛭沢克己, 内堀貴文, 神戸未来, 落合美奈, 鈴木寛久, 浜田俊介, 亀井 讓, 西田佳弘: 当院における肩・上腕の骨・軟部腫瘍切除後の再建症例に対する術後患肢機能の検討. 第 63 回日本手外科学会学術集会, 2020, (オンライン), [口演]
- 003 西田佳弘, 浜田俊介, 酒井智久, 清水光樹, 小池 宏, 伊藤 鑑, 浦川 浩, 新井英介, 生田国大: 骨・軟部腫瘍治療 30 年-治療法はどう変わったか- デスマイド腫瘍に対する診療の進歩. 第 93 回日本整形外科学会学術総会 2020, (オンライン), [口演]
- 004 筑紫 聡, 吉田雅博, 濱田俊介, 藤原那沙, 細田和貴: 上腕骨遠位骨巨細胞腫の肺転移悪性化の一例. 第 53 回日本

- 整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2020, (オンライン), [口演]
- 005 筑紫 聡, 吉田雅博, 濱田俊介, 藤原那沙, 西田佳弘: 高悪性度軟部肉腫切除縁と放射線治療の有効性に関して(粘液型脂肪肉腫、円形細胞肉腫を除く)浸潤性軟部腫瘍に対する補助放射線療法の意義. 第53回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2020, (オンライン), [口演]
- 006 吉田雅博, 筑紫 聡, 濱田俊介, 藤原那沙, 安藤正志: 血管肉腫の臨床学的特徴. 第53回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2020, (オンライン), [口演]
- 007 濱田俊介, 藤原那沙, 吉田雅博, 本多和典, 安藤正志, 筑紫 聡: 縦隔発生肉腫に対する当院の治療実態. 第53回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2020, (オンライン), [口演]
- 008 生田国大, 西田佳弘, 筑紫 聡, 小澤英史, 浦川 浩, 酒井智久, 小池 宏, 石黒直樹: 四肢体幹発生の脱分化型脂肪肉腫の臨床学的特徴と治療成績. 第53回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2020, (オンライン), [口演]
- 009 西田佳弘, 濱田俊介, 酒井智久, 小池 宏, 清水光樹, 伊藤 鑑, 生田国大: 腹腔外発生デスマイド診療ガイドライン査定委員会: 世界、日本の診療ガイドラインに基づくデスマイド型線維腫症に対する薬物治療. 第53回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2020, (オンライン), [口演]
- 010 筑紫 聡, 吉田雅博, 濱田俊介, 藤原那沙: 高齢者軟部肉腫に対する術前IMRTの治療戦略. 第135回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 2020, (オンライン), [口演]
- 011 吉田雅博, 筑紫 聡, 濱田俊介, 藤原那沙: 膝関節周囲の嚢胞性病変に対する手術治療について. 第135回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 2020, (オンライン), [口演]
- 012 濱田俊介, 藤原那沙, 吉田雅博, 筑紫 聡: 転移性骨腫瘍と鑑別を要する過形成骨髄の画像所見と患者要因. 第135回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 2020, (オンライン), [口演]
- 013 藤原那沙, 濱田俊介, 吉田雅博, 筑紫 聡: がん患者におけるランマーク中止後の多発椎体骨折に関する調査. 第135回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 2020, (オンライン), [口演]
- 014 生田国大, 大田剛広, 筑紫 聡, 小澤英史, 山田健志, 中島浩敦, 濱田俊介, 細野幸三, 西田佳弘: β -TCP配向連通多孔体を用いた骨腫瘍切除後欠損部再建 多施設前向き共同研究の中間成績. 第35回日本整形外科学会基礎学術集会, 2020, (オンライン), [口演]
- 015 伊藤 鑑, 濱田俊介, 酒井智久, 清水光樹, 生田国大, 小池 宏, 張 佳瑞, 大河原美静, 大野欽司, 西田佳弘: デスマイド増殖抑制効果を有するオフラベル薬剤の特定と薬効評価. 第35回日本整形外科学会基礎学術集会, 2020, (オンライン), [口演]
- 016 濱田俊介, 藤原那沙, 吉田雅博, 筑紫 聡: 転移性骨腫瘍に対する針生検の有効性. 第58回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [口演]

- 017 藤原那沙, 濱田俊介, 吉田雅博, 筑紫 聡: がん患者におけるランマーク中止後の多発椎体骨折に関する調査. 第58回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [口演]
- 018 吉田雅博, 筑紫 聡, 濱田俊介, 藤原那沙: 神経内分泌腫瘍(カルチノイド)における転移性骨腫瘍の特徴. 第58回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [口演]
- 019 筑紫 聡: 腫瘍用人工関節の治療成績. 第47回日本股関節学会学術集会, 2020, (三重), [口演]
- 020 筑紫 聡: AYA世代の肉腫診療. 第11回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2021, (オンライン), [口演]
- 021 筑紫 聡: 軟骨肉腫の実診療-central atypical cartilaginous tumour/chondrosarcoma, grade1. 第40回日本画像医学会学術集会, 2021, (オンライン), [口演]
- 022 筑紫 聡: 悪性骨軟部腫瘍の診断治療の実際(CPC2例). 第18回日本臨床腫瘍学会合同シンポジウム, 2021, (オンライン), [症例検討司会]
- 023 筑紫 聡: 悪性軟部腫瘍における効果予測因子の検討. 第4回日本サルコーマ治療研究学会学術集会, 2021, (オンライン), [口演]

リハビリテーション部

- 001 吉田雅博, 杉浦英志: 癌化学療法における薬剤性心筋症に対する臨床的特徴とリハビリテーション治療の効果. 第57回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2020, (オンライン), [口演]
- 002 吉田雅博, 岡田貴士, 菱田愛加, 杉山純也, 西田佳弘: 術前がん患者における呼吸機能評価と身体機能評価の関連性について. 第57回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2020, (オンライン), [口演]
- 003 高津 淳, 檜垣栄治, 藤枝裕倫: 食道癌根治術後における嚥下リハビリテーションの効果に関する検討～言語聴覚士の立場から～. 第5回食道週期管理セミナー, 2021, (東京), [一般口頭演題]
- 004 伊藤敬太, 伊坪浩幸, 中嶋誠也, 前田明弘, 山崎康司, 南島翔太, 高津 淳, 吉田雅博: がんリハビリテーションに対する当院の取り組み. 第9回日本がんリハビリテーション研究会, 2021, (愛知), [特別ポスター企画1]
- 005 山崎康司, 中嶋誠也, 清水泰博, 吉田雅博: 75歳以上消化器がん患者の2ステップ値と歩行能力との関係. 第9回日本がんリハビリテーション研究会, 2021, (愛知), [一般演題(口演)]
- 006 南島翔太: 進行期がん患者のADLと活動～作業療法士の視点から～. 第9回日本がんリハビリテーション研究会, 2020, (愛知), [シンポジウム]
- 007 前田明弘, 吉田雅博, 灰本章一: 胸椎転移性脊椎腫瘍により下部体幹麻痺を呈した1症例. 第3回愛知がん・リハビリテーション医学研究会講演会, 2021, (愛知), [症例検討 テーマ: 骨転移, (口演)]

泌尿器科部

- 001 関戸 翔, 小倉友二, 曾我倫久人: 当科における腎腫瘍に対するロボット支援下腎部分切除術の有用性の検討 第34回泌尿器内視鏡学会総会, 2020, (岡山), [口演]
- 002 関戸 翔, 小倉友二, 曾我倫久人, 景山拓海: 内分泌併用放射線治療後に神経内分泌化をきたした前立腺癌に対して化学療法が奏功した1例 第285回日本泌尿器科学会東海地方会, 2020, (名古屋), [口演]

婦人科部

- 001 西野翔吾, 坪内寛文, 坂田 純, 森 正彦, 高磯伸枝, 福江美咲, 井本逸勢, 鈴木史朗: 当院における遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)患者に対するリスク低減卵巣卵巣摘出術(RRSO)の取り組み. 第112回愛知県産科婦人科学会学術講演会, 2020, (名古屋), [口演]
- 002 安部正和, 庄子忠宏, 西川伸道, 平嶋泰之, 岡本愛光, 齋藤達憲, 大石徹郎, 永瀬 智, 森 正彦, 井ノ口侑毅, 上浦祥司, 杉山 徹: プラチナ抵抗性再発卵巣がんにおける単剤±ベバシズマブ継続使用の第II相比較試験. 第58回日本癌治療学会学術集会, 2020, (京都), [口演]
- 003 森 正彦, 坂田 純, 坪内寛文, 茂木一将: 術前化学療法を行った子宮頸部原発Ewing肉腫の一例. 第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2021, (オンライン), [ポスター]
- 004 坂田 純, 茂木一将, 坪内寛文, 森 正彦: 再発卵巣癌維持療法としてのオラパリブの長期反応に関連する臨床的要因の検討. 第62回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2021, (オンライン), [口演]

脳神経外科部

- 001 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 粟屋堯之, 赤堀 翔: 不安定性を呈する脊椎転移に対する治療戦略. NAGOYA Spinal Surgery Forum 2021, 2021, (名古屋), [一般講演]
- 002 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 粟屋堯之, 赤堀 翔: 頭蓋頸椎移行部不安定性を呈する骨転移に対する外科治療. 第55回日本脊髄障害医学会, 2020, (横浜), [一般口演]
- 003 灰本章一, 田中 寛, 西村由介, 永島吉孝, 粟屋堯之, 赤堀 翔, 服部和良: 脊椎転移に対するseparation surgeryと体幹部定位放射線治療(SBRT)による複合治療. 第79回日本脳神経外科学会総会, 2020, (岡山), [一般口演]
- 004 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 粟屋堯之, 安藤 遼, 赤堀 翔, 服部和良: Surgical treatment for bone metastasis affecting the craniovertebral junction. 第35回日本脊髄外科学会, 2020, (横浜), [一般口演]
- 005 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 粟屋堯之, 赤堀 翔, 服部和良: Early surgical intervention for patients with impending paralysis induced by spinal metastasis. 第35回日本脊髄外科学会, 2020, (横浜), [一般口演]

- 006 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 伊藤 洋, 服部和良: 高度脊椎不安定性を呈する頸胸椎移行部脊椎転移に対する外科治療. 第22回東海脳神経外科領域痛みの研究会, 2020, (名古屋), [一般口演]

放射線診断 I V R部

- 001 Hasegawa T: Preoperative lung nodule marking using radiopaque dye material. 15th Annual Scientific Meeting of Asia Pacific Society of Cardiovascular And Interventional Radiology (APSCVIR) 2021, (Web), [Oral presentation]
- 002 Inaba Y, Aramaki T, Sone M: Establishment of evidence in palliative interventional radiology Palliative IR. 15th Annual Scientific Meeting of Asia Pacific Society of Cardiovascular And Interventional Radiology (APSCVIR) 2021, (Web), [Oral presentation]
- 003 Inaba Y: INR & Miscellaneous. 15th Annual Scientific Meeting of Asia Pacific Society of Cardiovascular And Interventional Radiology (APSCVIR) 2021, (Web), [Moderator]
- 004 村田慎一: 胆道IVR Case Based Discussion. 第49回日本IVR学会, 2020, (Web), [講演]
- 005 長谷川貴章: 骨腫瘍に対するアブレーション治療. 第49回日本IVR学会, 2020, (Web), [講演]
- 006 佐藤洋造: IVR医が知っておくべき抗がん剤の知識 動注薬剤を中心に. 第49回日本IVR学会, 2020, (Web), [講演]
- 007 長谷川貴章: がん専門病院におけるIVR医の役割と面白さ. 第49回日本IVR学会, 2020, (Web), [口演]
- 008 Hasegawa T: Preoperative lung nodule marking using radiopaque dye material. 第49回日本IVR学会, 2020, (Web), [講演]
- 009 稲葉吉隆: 2017-2019 広報・渉外委員会の活動. 第49回日本IVR学会, 2020, (Web), [講演]
- 010 長谷川貴章, 佐藤洋造, 黒田浩章, 坂倉範昭, 茶谷祥平, 村田慎一, 山浦秀和, 加藤弥菜, 女屋博昭, 稲葉吉隆: 多発肺転移に対する外科切除と経皮的ラジオ波焼灼術のハイブリッド治療の治療成績. 第49回日本IVR学会, 2020, (Web), [口演]
- 011 茶谷祥平, 長谷川貴章, 加藤省一, 村田慎一, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 山本一仁, 稲葉吉隆: 悪性リンパ節に対する画像誘導下針生検の検討 外科的生検との比較. 第49回日本IVR学会, 2020, (Web), [口演]
- 012 古谷勇一郎, 服部寿史, 浅井 翼, 安部忠臣, 岩政裕昭, 松島 秀, 稲葉吉隆: 放射線防護用滅菌ドレープの基礎的研究. 第49回日本IVR学会, 2020, (Web), [ポスター]
- 013 稲葉吉隆: 動注化学療法 re-visit. 第49回日本IVR学会, 2020, (Web), [座長]
- 014 茶谷祥平, 佐藤洋造, 村田慎一, 長谷川貴章, 山浦秀和, 夏目誠治, 千田嘉毅, 清水泰博, 稲葉吉隆: 膝頭十二指

- 腸切除術後の胆管空腸吻合部縫合不全に対する経皮的拳上空腸盲端部アプローチによる胆管ドレナージを施行した4例. 第38回日本Metallic Stents & Grafts 研究会, 2020, (Web), [口演]
- 015 佐藤洋造, 茶谷祥平, 原 和生, 奥野のぞみ, 羽場 真, 村田慎一, 長谷川貴章, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆: 肝門部胆管閉塞に対する6mm径の経皮用胆管カバードステントの使用経験. 第38回日本Metallic Stents & Grafts 研究会, 2020, (Web), [口演]
- 016 稲葉吉隆: 鎖骨下静脈からの中心静脈ポート設置. 第82回日本臨床外科学会, 2020, (Web), [口演]
- 017 稲葉吉隆: がん免疫治療をどう臨床導入するのか?. IVR科医のためのがん免疫療法 Web Seminar, 2020, (Web), [司会]
- 018 稲葉吉隆: NETの画像診断について. NET Web Academy in Aichi, 2020, (Web), [講演]
- 019 稲葉吉隆: Intermediate-stage HCCに対する治療戦略-TACEと薬物療法の立ち位置は?. 東海HCC Meeting, 2020, (Web), [座長]
- 020 佐藤洋造: Intermediate-stage HCCに対する治療戦略-TACEと薬物療法の立ち位置は?. 東海HCC Meeting, 2020, (Web), [講演]
- 021 佐藤洋造, 下平政史, 保本 卓, 児玉芳尚, 正田哲也, 稲葉吉隆, 山門享一郎: 治療抵抗性の肝転移に対する球状塞栓物質を用いた肝動脈塞栓療法 他施設共同第II相試験. 第56回日本肝癌研究会, 2020, (Web), [口演]
- 022 佐藤洋造, 茶谷祥平, 原 和生, 奥野のぞみ, 羽場 真, 村田慎一, 長谷川貴章, 塚本裕一, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆: 肝門部胆管閉塞に対する6mm径の経皮用胆管カバードステントの使用経験. 第67回中部・第68回関西IVR研究会, 2021, (Web), [口演]
- 023 茶谷祥平, 佐藤洋造, 村田慎一, 長谷川貴章, 塚本裕一, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 清水泰博, 稲葉吉隆: 膵頭十二指腸切除術後の胆管空腸吻合部縫合不全に対する経皮的拳上空腸盲端部アプローチによる胆管ドレナージを施行した4例. 第67回中部・第68回関西IVR研究会, 2021, (Web), [口演]
- 024 稲葉吉隆: Intermediate stage HCCに対する内科的治療戦略. 肝細胞癌治療 Web Conference, 2021, (Web), [司会]
- 025 稲葉吉隆: DEB-TACEの極意. Hepatocellular Carcinoma Clinical Conference, 2021, (Web), [座長]
- 026 稲葉吉隆, 岩間功訓, 浅井 翼, 宮村廣樹, 町田政憲, 吉原晃生, 月井亮太, 茶谷祥平, 長谷川貴章, 村田慎一, 加藤弥菜, 佐藤洋造, 山浦秀和, 女屋博昭: 神経内分泌腫瘍診断におけるソマトスタチン受容体シンチグラフィの有用性. 日本核医学会第91回中部地方会, 2021, (Web), [口演]
- 027 町田政憲, 山浦秀和, 月井亮太, 吉原晃生, 茶谷祥平, 長谷川貴章, 村田慎一, 加藤弥菜, 佐藤洋造, 女屋博昭, 稲葉吉隆: 胃管挿入中に発症した気腫性胃炎に1例. 第123回名古屋レントゲンカンファレンス, 2021, (Web), [口演]

放射線治療部

- 001 Nagata J, Yasui K, Omachi C, Shimizu H, Aoyama T, Ogawa S, Ouchi K, Ichihara M, Hayashi N: Investigation of Radiophotoluminescent Glass Dosimeter Response for Therapeutic Proton Beam Dosimetry. JSRT-JSMP Joint International Session, 2020, (横浜 WEB), [口演]
- 002 Tanaka T, Wakabayashi K, Koide Y, Aoyama T, Shimizu H, Abe S, Adachi S, Oshima Y, Takase Y, Kosai Y, Miyauchi, R, Tachibana H, Kodaira T: A multi-center contouring study of spinal cord comparing MRI and myelo-CT fusion. 62th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, 2020, (マイアミ WEB), [ポスター]
- 003 Wakabayashi K, Koide Y, Nakashima T, Nishimura S, Aoyama N, Miyauchi, R, Tanaka H, Tachibana H, Kodaira T: Combined clinical and radiomic features model for prediction of pain relief in palliative radiotherapy for spine metastases. 62th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, 2020, (マイアミ WEB), [ポスター]
- 004 Ota Y, Kodaira T, Shimokawa M, Fujii H, Nakashima T, Monden N, Yokota T, Homma A, Ueda S, Uno T, Itami J, Noda S, Nishimura Y, Someya M, Kobayashi M, Atsuro T, Yorozu A, Onishi H, Akimoto T: Observational study of radiotherapy plus cetuximab in patients with LA-SCCHN: JROSG12-2. ESTRO 2020, 2020, (オーストリア WEB), [ポスター]
- 005 Yokota T, Ota Y, Fujii H, Kodaira T, Shimokawa M, Nakashima T, Monden N, Homma A, Ueda S, Akimoto T: Real-world clinical outcomes and prognostic factors in Japanese patients with recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of head and neck treated with chemotherapy plus cetuximab: A prospective observation study (JROSG12-2), 2020 ESMO congress, 2020, (スペイン WEB), [ポスター]
- 006 Shimizu H, Sasaki K, Aoyama T, Kitagawa T, Iwata T, Fukuma H, Tachibana H, Kodaira T: Performance evaluation of the twist-correction system for head and neck radiotherapy driven by remote control. Joint AAPM/COMP Virtual Meeting, 2020 Joint AAPM/COMP Virtual Meeting, 2020, (フランス WEB), [ポスター]
- 007 Shimizu H, Sasaki K, Aoyama T, Hiroyuki T, Tanaka H, Koide Y, Iwata T, Tomoki K, Kodaira T: Examination of the best head tilt angle for parotid gland preservation in whole-brain radiotherapy using four-field box technique. 2020 Joint AAPM/COMP Virtual Meeting, 2020, (フランス WEB), [ポスター]
- 008 清水秀年: 放射線治療(画像誘導放射線治療1). 第76回日本放射線技術学会総会学術大会, 2020, (横浜 WEB), [座長]

- 009 古平 毅：ラディザクトで拡大する 高精度放射線治療の可能性。第44回日本頭頸部癌学会, 2020, (大阪 WEB), [企業協賛セミナー]
- 010 古平 毅：シンポジウム 10 舌がんに対する小線源治療は生き残れるか。第44回日本頭頸部癌学会, 2020, (大阪 WEB), [座長]
- 011 太田陽介, 古平 毅, 藤井博文, 下川元継, 中島寅彦, 門田伸也, 横田知哉, 本間明宏, 上田真也, 秋元哲夫：日本人の頭頸部癌患者における Cetuximab を含む治療の観察研究 (JROSG12-2). ~局所進行例に対する BRT ~. 第44回日本頭頸部癌学会, 2020, (大阪 WEB), [口演]
- 012 横田知哉, 太田陽介, 藤井博文, 古平 毅, 下川元継, 中島寅彦, 門田伸也, 本間明宏, 上田真也, 秋元哲夫：日本人再発転移頭頸部癌に対する Cetuximab 併用化学療法 of 観察研究 (JROSG12-2). 第44回日本頭頸部癌学会, 2020, (大阪 WEB), [口演].
- 013 村上直也, 森 泰昌, 町田龍之介, 古平 毅, 伊藤芳紀, 鹿間直人, 石倉 聡, 小西浩司, 松本康男, 村上祐司, 中村直樹, 山下英臣, 萬 篤憲, 吉村通央, 井上浩一, 野崎美和子, 西村恭昌, 伊丹 純, 加賀美芳和：T1-2N0M0 声門癌における EpCAM と放射線治療の予後に関する研究：JCOG0701A2. 第44回日本頭頸部癌学会, 2020, (大阪 WEB), [口演]
- 014 立花弘之, 田中 寛, 小出雄太郎, 古平 毅：頭頸部癌治療における放射線粘膜炎重篤化抑制を目的とした特製アミノ酸配合物併用の長期成績。第44回日本頭頸部癌学会, 2020, (大阪 WEB), [口演]
- 015 清水秀年：「Ⅲ期肺癌における IMRT の実際」手術不能Ⅲ期肺癌治療を考える会～肺癌治療における新たな取り組みと IMRT の可能性～. 第76回日本放射線技術学会総会学術大会, 2020, (大阪 WEB), [講演]
- 016 古平 毅：Radiation Therapy Planning. 名古屋 Panel Discussion, 2020, (名古屋), [口演]
- 017 古平 毅：Session2 放射線治療 . 第37回頭頸部腫瘍研究会, 2020, (名古屋), [座長]
- 018 古平 毅：Work shop Multidisciplinary therapy for head and neck cancer. 第33回日本放射線腫瘍学会, 2020, (北海道 WEB), [座長]
- 019 古平 毅：Role for photon-Radiotherapy. 第33回日本放射線腫瘍学会, 2020, (北海道 WEB), [演者]
- 020 清水秀年：「愛知県がんセンター病院におけるⅢ期肺癌 VMAT の治療計画」. 日本放射線腫瘍学会第33回学術大会, 2020, (北海道 WEB), [講演]
- 021 田中 寛, 青山貴洋, 清水秀年, 立花弘之, 小出雄太郎, 宮内理世, 阿部壯一郎, 若林 紘平, 香西由加, 足達 崇, 大島幸彦, 古平 毅：A multi-center contouring study of spinal cord comparing MRI and myelo-CT fusion. 第33回日本放射線腫瘍学会, 2020, (北海道 WEB), [演者]
- 022 若林紘平, 小出雄太郎, 宮内理世, 田中 寛, 立花弘之, 古平 毅：Radiomics 特徴量を用いた有痛性骨転移に対する緩和的放射線治療の効果予測。第33回日本放射線腫瘍学会, 2020, (北海道 WEB), [演者]
- 023 青山貴洋, 清水秀年, 宇都甲一郎, 荏原充宏, 北川智基, 鈴木耕次郎, 古平 毅：放射線治療用固定具のための融点が46℃の熱可塑性シートの開発。第33回日本放射線腫瘍学会, 2020, (北海道 WEB), [演者]
- 024 北川智基, 青山貴弘, 清水秀年, 齊藤泰紀, 岡本千鶴, 古平 毅：小照射野用検出器の感度補正係数における汎用性の評価。第33回日本放射線腫瘍学会, 2020, (北海道 WEB), [演者]
- 025 玉利慶介, 永田 靖, 宇野 隆, 古平 毅, 溝脇尚志, 塩山善之, 大西 洋, 小川和彦：全国の放射線治療部門への COVID-19 の影響についての定期アンケート調査。第33回日本放射線腫瘍学会, 2020, (北海道 WEB), [演者]
- 026 平田岳郎, 古平 毅, 中島良太, 中村聡明, 小川和彦：要望演題 アフターコロナの放射線治療 頭頸部癌。第33回日本放射線腫瘍学会, 2020, (北海道 WEB), [演者]
- 027 立花弘之：令和2年度がん看護ジェネラリスト研修「放射線治療」。愛知県がんセンター国際医学交流センターメインホール, 2020, (名古屋), [講演]
- 028 立花弘之：あいちキャンサーネットワーク「放射線治療」。2020, (名古屋 WEB), [講演]
- 029 古平 毅：頭頸部癌に対する放射線治療の現状と展望。札幌医科大学腫瘍診療センター講演会, 2021, (北海道 WEB), [講演]
- 030 青山貴洋：令和2年度日本放射線技術学会中部支部研究会 Web セミナー, 2021, (名古屋 WEB), [座長]
- 031 Tahara M, Kiyota N, Fujii H, Yamazaki T, Mitani H, Iwae S, Fujimoto Y, Onozawa Y, Hanai N, Ogawa T, Hara H, Monden N, Shimura E, Minami S, Fujii T, Tanaka K, Kodaira T, Mizusawa J, Nakamura K, Hayashi R：Phase II/III Trial of Post-operative Chemoradiotherapy Comparing 3-Weekly Cisplatin with Weekly Cisplatin in High-risk Patients with Squamous Cell Carcinoma of the Head and Neck (JCOG1008). 第17回日本臨床腫瘍学会, 2021, (京都 WEB), [口演]
- 032 Yokota T, Ota Y, Fujii H, Kodaira T, Shimokawa M, Nakashima T, Monden N, Homma A, Ueda S, Akimoto T：Real-world clinical outcomes and prognostic factors in Japanese patients with recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of head and neck treated with chemotherapy plus cetuximab：A prospective observation study (JROSG12-2). 第17回日本臨床腫瘍学会, 2021, (京都 WEB), [口演]
- 033 古平 毅：Ⅲ期肺癌に対する放射線治療 免疫チェックポイント阻害剤時代に必要な治療技術。第8回放射線治療技術研究会, 2021, (名古屋 WEB), [口演]
- 034 清水秀年：「IGRT のタスクワークと IGRT アンケート調査の結果」。第26回徳島放射線治療研究会, 2021, (徳島 WEB), [講演]
- 035 古平 毅：パネルディスカッション 高齢者喉頭癌の治療戦略 高齢者に対する喉頭癌の放射線治療。第33回日本喉頭科学会, 2021, (横浜 WEB), [口演]
- 036 古平 毅, 立花弘之, 小出雄太郎, 宮内理世, 若林紘平,

清水秀年, 青山貴洋, 曾我倫久人: 特別企画1 前立腺癌 IMRT/VMAT におけるマージン設定 / 線量分布と長期アウトカム愛知県がんセンターの前立腺 IMRT 症例の治療成績の検討. 第 34 回日本高精度外部照射部会学術大会, 2021, (京都 WEB), [口演]

- 037 青山貴洋: 「愛知県がんセンターにおける PlanIQ の活用方法」. SunNuclear ウェビナー, 2021, (名古屋 WEB), [講演]

緩和ケア部

- 001 Ryo Yamamoto, Jun Nagayama, Keichi Uemura, Satofumi Shimoyama, and Yoshiyuki Kizawa: Outcome Evaluation of a Nationwide Palliative Care Education Program for Primary Palliative Care EAPC World Research Congress, 2020, (Online), [ポスター]
- 002 山本 亮, 永山 淳, 上村恵一, 木澤義之, 下山理史: 新指針緩和ケア研修会前後での多職種も含めた緩和ケアの知識・困難感の変化. 第 25 回日本緩和医療学会学術大会, 2020, (Online), [ポスター]
- 003 下山理史: 緩和ケア. 第 28 回日本乳がん学会学術総会, 2020, (Online), [教育講演]

精神腫瘍科部

- 001 小森康永: シシリー・ソングラスと三枚の絵、がんにくらしを考える会 年次大会, 2021, (オンライン), [特別講演]

看護部

- 001 井上さよ子: コンサルテーション論. 日本赤十字豊田看護大学, 2020, (愛知), [講師]
- 002 井上さよ子: 緩和ケア論. 人間環境大学, 2020, (愛知), [講師]
- 003 高知知帆子: 患者さんにききました、生の声、～ホルモン療法のマネジメント. 第 28 回日本乳癌学会学術総会メディカルスタッフセッションパネリスト, 2021, (愛知), [講師]
- 004 高知知帆子: 化学療法中の外来乳がん患者さんに対するサポートの実際. NPO 法人愛知がんセンターネットワーク主催「がん治療の実際を知ろう! 第 2 回乳がん」, 2021, (愛知), [講師]
- 005 澤上智子: チーム医療の中の専門看護師認定看護師の役割について. 椋山女学園大学看護理, 2020, (愛知), [講師]
- 006 宮谷美智子: がん化学療法と看護～患者のライフスタイルの支援～. 愛知県看護協会研究会, 2020, (愛知), [講師]
- 007 宮谷美智子: がん化学放射線療法を受ける患者に対する看護～化学療法の立場から～, 日総研出版, 2020, (愛知), [講師]

- 008 宮谷美智子: 患者の生活と支援体制について～アピアランスケア 事例を通して必要な看護支援を考える～. がん看護ジェネラリスト研修, 2020, (愛知), [講師]
- 009 高木礼子: がん治療の実際を知ろう! 第 2 回乳がん. NPO 法人愛知がんセンターネットワーク主催, 2020, (愛知), [講師]
- 010 高木礼子: 再発乳がん患者のがん化学療法副作用マネジメント～セルフケア支援に焦点をあてて～. 第 35 回日本がん看護学会教育セミナー, 2021, (愛知), [講師]
- 011 青山寿昭: 摂食嚥下障害. なごやナースキャリアサポートセンター在宅介護職員研修会, 2021, (愛知), [講師]
- 012 柴田亜弥子: がん看護援助論: がん患者の家族の特徴と看護. 愛知県立大学看護学部大学院看護学研究科大学院非常勤講師, 2020, (愛知), [講師]
- 013 柴田亜弥子: 最新医療と看護. 愛知県立大学看護学部大学院非常勤講師, 2020, (愛知), [講師]
- 014 中島貴子: がん性疼痛に対する治療と看護. 認定看護師教育課程「がん性疼痛看護」分野, 2020, (愛知), [講師]
- 015 中島貴子: がん基礎研修「がん放射線療法看護」. 小牧市民病院, 2020, (愛知), [講師]
- 016 佐々木照美: ストマ・褥瘡の管理と処置. 令和 2 年度再就業のための実務研修 (看護職カムバック研修・5 日間集中コース), 2020, (名古屋), [講師]
- 017 向井未年子: チームでかかわる OIC 治療～看護師としてできること～. シオノギ Web セミナー, 2020, (愛知), [講師]
- 018 向井未年子: 令和 2 年度厚生労働省委託事業「人生の最終段階における医療体制整備事業」本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会. 神戸大学, 2020, (愛知), [講師]
- 019 向井未年子: がん看護論「オンコロジック・エマージェンシー」. 名古屋市立大学大学院, 2020, (愛知), [講師]
- 020 向井未年子: 特別講演「愛知県がんセンター緩和ケアチームの現状と課題」. 第 6 回北陸緩和医療研究会総会, 2021, (福井), [講師]
- 021 向井未年子: 都道府県指導者養成研修 (緩和ケアチーム研修企画). 国立がん研究センター, 2021, (東京 Web), [講師]
- 022 山口真由美: クリティカルケアにおける看護の専門性. 愛知県立看護大学成人看護学総合実習, 2020, (愛知), [臨床講義]
- 023 西尾里美: 健康障害論Ⅱ血液造血器. 聖隷クリストファー大学看護学部, 2021, (静岡), [講師]
- 024 西尾里美: コンサルテーション論, 愛知県立大学大学院看護学研究科, 2020, (愛知), [講師]
- 025 福嶋敬子: メディカルスタッフセッション教育講演, 第 49 回日本 IVR 学会総会, 2020, (兵庫), [座長]
- 026 福嶋敬子: 地域連携室から見た HPN の現状と課題 C V ポートセミナー「～Next Stage 新しい合併症対策に向けて～」. コビディエンス, 2021, (愛知), [講師]
- 027 永田智子: がん看護. 愛知県看護協会 訪問看護職員養成講習会, 2020, (愛知), [講師]

- 028 永田智子：緩和ケア。緩和ケアボランティア養成講座 第6期(全10回), 一般社団法人あしたの葉, 2020, (三重), [講師]
- 029 永田智子：在宅医療病態論。訪問看護認定看護師教育課程 愛知県看護協会, 2020, (愛知), [講師]
- 030 永田智子：がん性疼痛緩和における非薬物的アプローチ。愛知県看護大学がん性疼痛看護認定看護師教育課程, 2020, (愛知), [講師]
- 031 永田智子：研修緩和ケア② 消化器症状のマネジメント。愛知県がんセンターがん看護ジェネラリスト, 2020, (愛知), [講師・ファシリテーター]
- 032 藤下 礼：緩和ケアについて。名古屋医専 疼痛専攻, 2020, (愛知), [講師]
- 033 八重樫裕：摂食嚥下障害看護における看護の専門性とNST チームでの役割。愛知県看護大学 (ビデオ撮影), 2020, (愛知), [講師]
- 034 山田健司：対象の理解II 手術療法。愛知県がんセンター看護実践研修②, 2020, (愛知), [講師]
- 035 千種智之：感染対策。愛知県カムバック研修, 2020, (愛知), [講師]
- 036 千種智之：感染対策。愛知県防災局 防災ボランティア研修, 2020, (愛知), [講師]
- 037 千種智之：感染対策。愛知県防災局 防災V C Oレベルアップ講座, 2021, (愛知), [シンポジスト]
- 038 千種智之：感染対策。愛知県新任医療監査員研修, 2020, (愛知), [講師]
- 039 千種智之：感染対策。栄養管理課学生実習, 2020, (愛知), [講師]
- 040 久保 知：がん放射線療法の治療計画管理における看護。東京医療保健大学放射線看護研修センター, 2020, (東京), [講師]

薬剤部

- 001 **Kazuhiro S, Kenta M, Yuko O** : Impact of Systemic Corticosteroids for irAEs on Clinical Outcome of PD-1 inhibitors in Patients with NSCLC, the Japanese Society of Medical Oncology Annual Meeting, 2021, (Online), [Poster Discussion]
- 002 前田章光, 稲葉吉隆, 保坂彰子, 長谷川貴章, 長谷川彩子, 稲熊一英, 梶田正樹：エピルピシンを用いた肝動脈化学塞栓療法実施施設におけるIVR室の抗がん剤汚染状況。第30回日本医療薬学会年会, 2020, (名古屋), [ポスター]
- 003 前田章光：私にもできる抗がん薬(メトトレキサート)の投与設計。第37回日本TDM学会・学術総会, 2020, (名古屋), [ベイシック教育]
- 004 前田章光：癌症例対応をWS形式で検討。第37回日本TDM学会・学術総会, 2020, (名古屋), [ベイシック教育]

3. 学会等における研究発表テーマ調べ（研究所）

がん情報・対策研究分野

- 001 碓井喜明：日米における多発性骨髄腫の死亡率・罹患率の経年変化。日本がん登録協議会第29回学術集会, 2020, (栃木), [受賞口演]
- 002 Kawakatsu Y, Koyanagi Y, Otani T, Taniyama Y, I Oze, Matsuo K, Takahashi K, Yamaguchi R, I, to H: Socioeconomic inequalities in cancer incidence: Data from a population-based cancer registry in Aichi, Japan. 第79回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [ポスター]
- 003 谷山祐香里, 尾瀬 功, 小柳友理子, 伊藤ゆり, 松田智大, 松尾恵太郎, 伊藤秀美: 治療の進歩に伴う非小細胞肺癌の予後の変化の推定: 住民ベースのがん登録情報を用いた記述疫学研究. 第31回 日本疫学会学術総会, 2020, (佐賀), [口演]

がん予防研究分野

- 001 Matsuo K: Introduction of mediation analysis utilizing genetic information in cancer epidemiological study. 第79回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [口演]
- 002 Lin Y, Nakatochi M, Hosono Y, Ito H, Kamatani Y, Imoto I, Iwasaki M, Kadowaki T, Ishii H, Wakai K, Yoshida T, Matsuda F, Kubo M, Kikuchi S, Matsuo K: GP2 variants are associated with pancreatic cancer risk: from GWAS association to function. 第79回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [口演]
- 003 Kasugai Y, Kohmoto T, Ito H, N. Koyanagi Y, Usui Y, Oze I, Taniyama Y, Iwase M, Iwata H, Imoto I, Matsuo K: Germline pathogenic variants and the risk of breast cancer in Japanese women: from the HERPACC studies. 第79回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [口演]
- 004 尾瀬 功: 食道がん・頭頸部がんの疫学研究. 第31回日本疫学会学術総会, 2020, (佐賀), [口演]
- 005 中山昌喜, 中柄昌弘, 河村優輔, 山本 健, 中岡博史, 清水聖子, 小山晃英, 栗木清典, 大山博司, 島ノ江千里, 釜野桜子, 前原一輝, 桐原真奈, 獄崎俊郎, 松尾恵太郎, 鈴木貞夫, 若井建志, 岡田隋象, 四ノ宮成祥, 松尾洋孝: 病型特異的な痛風関連遺伝子と適応進化の評価: 臨床診断された痛風症例のゲノムワイド関連解析から. 第31回日本疫学会学術総会, 2020, (佐賀), [口演]
- 006 尾瀬 功, 伊藤秀美, 伊藤誠二, 小森康司, 田中 努, 田近正洋, 春日井由美子, 松尾恵太郎: 胃がん・大腸がんサバイバーの治療後のうつと関連する社会的・経済的要因の探索, 2020, (佐賀), [口演]

分子遺伝学分野

- 001 井本逸勢: がんゲノム医療の現況—がん遺伝子パネル検査と遺伝性腫瘍診療—. 第44回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2020, (沖縄), [シンポジウム]
- 002 井本逸勢: がんゲノムプロファイリング検査における Germline findings. 第44回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2020, (沖縄), [シンポジウム]
- 003 松下洋輔, 小松正人, 清谷一馬, 吉丸哲郎, 新沼 猛, 鈴木 拓, 本田純子, 井本逸勢, 丹黒 章, 三好康雄, 笹三徳, 片桐豊雅: 新規癌抑制遺伝子 SALL3 はトリプルネガティブ乳癌の薬剤抵抗性に関与する. 第79回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [口演]
- 004 春日井由美子, 河本知大, 伊藤秀美, 小柳友理子, 碓井喜明, 尾瀬 功, 谷山祐香里, 岩瀬まどか, 岩田広治, 井本逸勢, 松尾恵太郎: 日本人女性における germline pathogenic variants と乳がんリスクの研究 HERPACC 研究より. 第79回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [口演]
- 005 林 櫻松, 中柄昌弘, 細野祥之, 伊藤秀美, 鎌谷洋一郎, 井本逸勢, 岩崎 基, 門脇 孝, 石井秀始, 若井建志, 吉田輝彦, 松田文彦, 久保充明, 菊地正悟, 松尾恵太郎: GWAS による膵がん新規感受性遺伝子 GP2 の同定と機能解析. 第79回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [口演]
- 006 井本逸勢: がんの遺伝医療とゲノム医療. 日本人類遺伝学会第65回大会, 2020, (名古屋), [口演]
- 007 吉村章代, 高磯伸枝, 安立弥生, 片岡愛弓, 杉野香世子, 堀澤七恵, 尾崎友理, 遠藤由香, 福江美咲, 井本逸勢, 岩田広治: 当院における遺伝性乳癌卵巣癌症候群 (HBOC) が確定した乳癌既発症者に対する予防的介入の実施状況. 日本人類遺伝学会第65回大会, 2020, (名古屋), [口演]
- 008 上殿千晴, 藤井亜紀, 田嶋 敦, 佐藤丈寛, 井本逸勢, 佐藤陽一: ゲノムワイド関連解析による血中 inhibin B 値関連遺伝子の同定と遺伝子改変マウスの解析. 日本人類遺伝学会第65回大会, 2020, (名古屋), [口演]
- 009 高磯伸枝, 福江美咲, 吉村章代, 井本逸勢: 遺伝性腫瘍診療における検診体制の構築-がんの予防・早期発見早期治療に向けて-. 日本人類遺伝学会第65回大会, 2020, (名古屋), [口演]
- 010 堀澤七恵, 吉村章代, 高磯伸枝, 安立弥生, 片岡愛弓, 杉野香世子, 尾崎友理, 遠藤由香, 福江美咲, 井本逸勢, 岩田広治: 多科参加型遺伝性腫瘍タスクフォース構築後のサーベイランスの現状と今後の課題-Li-Fraumeni 症候群. 日本人類遺伝学会第65回大会, 2020, (名古屋), [口演]
- 011 片岡愛弓, 吉村章代, 高磯伸枝, 安立弥生, 杉野香世子, 堀澤七恵, 尾崎友理, 遠藤由香, 福江美咲, 井本逸勢, 岩田広治: コンパニオン診断と確定診断目的における BRACAnalysis 検査提案から実施までの期間の比較検討. 日本人類遺伝学会第65回大会, 2020, (名古屋), [口演]

- 012 杉野香世子, 吉村章代, 高磯伸江, 安立弥生, 片岡愛弓, 堀澤七恵, 尾崎友理, 遠藤由香, 福江美咲, 井本逸勢, 岩田広治: 乳癌既発症 HBOC 症例におけるリスク低減手術の適応に関する検討. 日本人類遺伝学会第 65 回大会, 2020, (名古屋), [ポスター]
- 013 遠藤由香, 吉村章代, 高磯伸枝, 安立弥生, 片岡愛弓, 杉野香世子, 堀澤七恵, 尾崎友理, 福江美咲, 井本逸勢, 岩田広治: 多科連携で HBOC の両側乳癌手術とリスク低減 卵管卵巣切除術を同時に施行した 1 例. 日本人類遺伝学会第 65 回大会, 2020, (名古屋), [ポスター]
- 014 尾崎友理, 吉村章代, 高磯伸枝, 安立弥生, 片岡愛弓, 杉野香世子, 堀澤七恵, 遠藤由香, 福江美咲, 井本逸勢, 岩田広治: 遺伝性乳癌卵巣癌症候群の確定診断目的に BRACAnalysis 検査を施行し, 病的バリエントを認めなかった症例への対応. 日本人類遺伝学会第 65 回大会, 2020, (名古屋), [ポスター]
- 015 井本逸勢: 生殖細胞系列多遺伝子パネル検査の結果開示にどうコミットするか. 日本人類遺伝学会第 65 回大会, 2020, (名古屋), [シンポジウム]
- 016 井本逸勢: HBOC の実地臨床における課題 VUS への対応. 第 6 回日本産科婦人科遺伝診療学会, 2020, (名古屋), [口演]
- 017 井本逸勢: HBOC の診断の現状と今後の展開—臨床現場の課題と対応. 日本遺伝子診療学会遺伝子診断・検査技術推進フォーラム 公開シンポジウム 2020, 2021, (東京), [口演]

がん病態生理学分野

- 001 *Kajino R, Fujishita T, Taketo MM, Aoki M.*: Dual role of epithelial MyD88 in Apc-mutant intestinal tumors. The AACR Virtual Annual Meeting II, 2020, (San Diego, USA), [ポスター]
- 002 青木正博, 藤下晃章, 武藤 誠: 大腸がん自然転移マウスモデルを用いたがん幹細胞性規定因子の同定. 第 79 回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [口演]
- 003 青木正博: 大腸がん転移抑制因子 HNRNP1L は p120-catenin をコードする CTNND1 の選択的スプライシングを制御する. 第 24 回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2020, (徳島), [ワークショップ]
- 004 三城恵美, 藤下晃章, 小島 康, 梶尾リエ, 田中 努, 田近正洋, 青木正博: 大腸腫瘍組織における翻訳後修飾変化の解析. 日本プロテオーム学会 2021 年大会, 2020, (徳島), [口演]

分子腫瘍学分野

- 001 村上(渡並)優子, 佐藤綾人, 鈴木浩也, 三井田 孝, 村上浩士, 関戸好孝: 悪性中皮腫原因遺伝子変異に対する新規合成致死標的の探索. 日本薬学会 140 年会, 2020, (京都),

- [口演]
- 002 関戸好孝: 「肺癌・中皮腫の病理とゲノム異常」中皮腫におけるゲノム異常. 第 109 回日本病理学会総会, 2020, (福岡), [シンポジウム]
- 003 佐藤鮎子, 結城美智子, 篠原義康, 竹下順平, 油谷浩幸, 関戸好孝, 辻村 亨: 悪性胸膜中皮腫における NF2 遺伝子異常の解析. 第 109 回日本病理学会総会, 2020, (福岡), [ポスター]
- 004 堀尾芳嗣, 谷田部 恭, 細田和貴, 樋田豊明, 関戸好孝: ALK 陽性肺癌患者から樹立した肺癌細胞 2 株の特徴. 第 60 回日本呼吸器学会学術講演会, 2020, (神戸), [ポスター]
- 005 *Yu An Chen, 佐々達郎, 永江玄太, 上田宏生, 辰野健二, 森下真一, 関戸好孝, 油谷浩幸*: ロングリードシーケンシングを用いたヒト中皮腫の発癌メカニズムの研究. 第 79 回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [口演]
- 006 村上(渡並)優子, 鈴木浩也, 三井田 孝, 阿部 洋, 関戸好孝: 低分子化合物ライブラリーを用いた悪性中皮腫の新規合成致死標的の探索. 第 79 回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [口演]
- 007 鈴木浩也, 山岸良多, 向井智美, 田部陽子, 三井田 孝, 関戸好孝, 村上(渡並)優子: LATS2 変異を有した悪性中皮腫における SMG6 発現抑制による合成致死誘導機構の検討. 第 79 回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [ポスター]
- 008 関戸好孝, 佐藤龍洋: SmgGDS の発現抑制は mTORC1 を抑制し悪性中皮腫の増殖を阻止する. 第 24 回日本がん分子標的治療学会, 2020, (徳島), [ポスター]
- 009 関戸好孝: 悪性胸膜中皮腫における基礎研究 Up-to-date. 第 61 回日本肺癌学会学術集会, 2020, (岡山), [ワークショップ]

システム解析学分野

- 001 *Yamaguchi R*: Data science and artificial intelligence toward genomic precision medicine, The Power of Data Science to Accelerate Health Medical Research. 2020, (東京), [招待講演]
- 002 *Moriyama T, Imoto S, Miyano S, Yamaguchi R*: Theoretical Foundation of the Performance of Phylogeny-Based Somatic Variant Detection. International Symposium of Mathematical Oncology, 2020, (Virtual meeting), [ポスター]
- 003 *Ogawa M, Yokoyama K, Ishii H, Tachibana T, Suzuki T, Okazuka K, Tamura Y, Miyazaki T, Ohwada C, Mizusawa M, Usuki K, Kanamori H, Nakaseko C, Tomikawa T, Akahoshi Y, Nagao Y, Tsukamoto S, Takeuchi M, Sakaida E, Onizuka M, Tanoue S, Yano S, Osanai S, Shinohara A, Tanaka J, Seo S, Aotsuka N, Tsukadad N, Fujisawa S, Yusa N, Kondoh K, Takei T, Nakamura S, Ito M, Kasajima R, Yamamoto M, Shimizu E, Isobe M, Konuma T, Kato S, Yamaguchi R, Imoto S, Takahashi S, Miyano S, Tojo A, Okamoto S*: The impact

of circulating tumor DNA status on acute myeloid leukemia and myelodysplastic syndromes with alloSCT: Interim results of a prospective study. 46th EBMT2020. (Virtual meeting), [口頭発表]

- 004 土方康基, 横山和明, 山口貴世志, 池上恒雄, 山口 類, 井元清哉, 内丸 薫, 宮野 悟, 四柳 宏, 東條有伸, 古川洋一: 当院における標準治療不応進行がん患者を対象としたクリニカルシーケンスの検討. 第79回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [口頭発表]
- 005 鎌谷高志, 平田 真, 植田幸嗣, 片山琴絵, 山口 類, 松原大祐, 藤田征志, 高澤 豊, 山下享子, 中村卓郎, 井元清哉, 宮野 悟, 中川英刀, 松田浩一, 角田達彦: 粘液型脂肪肉腫におけるがん微小環境の免疫学的解析. 第79回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [口頭発表]
- 006 笠島理加, 鈴木理樹, 清水英悟, 玉田嘉紀, 新井田厚司, 山口 類, 井元清哉, 古川洋一, 宮野 悟, 横瀬智之, 宮城洋平: 胎児性肺腫における遺伝子ネットワーク解析. 第79回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [ポスター]
- 007 大津 敬, 笠島理加, 鷺見公太, 廣島幸彦, 片山琴絵, 清水英悟, 山口 類, 井元清哉, 宮野 悟, 河村大輔, 石川俊平, 横瀬智之, 比留間 徹, 宮城洋平: 肉腫患者由来ゼノグラフトのRNA発現解析. 第79回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [ポスター]
- 008 川勝雪乃, 小柳友理子, 大谷隆浩, 谷山祐香里, 尾瀬 功, 松尾恵太郎, 高橋邦彦, 山口 類, 伊藤秀美: がん罹患と社会経済格差: 愛知県がん登録データを用いて. 第79回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [ポスター]
- 009 藤田征志, 山口 類, 有廣光司, 島田 周, 宮野 悟, 山上裕機, 茶山一彰, 垣見和宏, 田中真二, 井元清哉, 中川英刀: 肝臓がんの免疫ゲノム解析. 第79回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [口頭発表]
- 010 古川洋一, 山口貴世志, 笠島理加, 清水英悟, 高根希世子, 山口 類, 井元清哉, 宮野 悟, 池上恒雄: 消化管遺伝性腫瘍の最前線. 第79回日本癌学会学術総会, 2020, (広島), [口頭発表]

腫瘍制御学分野

- 001 小根山千歳: がんにおけるエクソソームの分泌亢進メカニズム. 第72回日本細胞生物学会, 2020, (web), [シンポジウム]
- 002 疋田智也, 小根山千歳: がん細胞由来エクソソームの in vivo イメージング. 第72回日本細胞生物学会, 2020, (web), [ポスター]
- 003 三谷文美絵, 小根山千歳: Src 依存のエクソソーム分泌亢進における SNARE タンパク質の機能. 第72回日本細胞生物学会, 2020, (web), [ポスター]
- 004 疋田智也, 小根山千歳: In vivo imaging of long-term accumulated cancer-derived exosomes by CD63-fused BRET reporter. 第79回日本癌学会学術総会, 2020, (広島・web), [ポスター]

- 005 三谷文美絵, 小根山千歳: The role of SNARE-protein on the Src-mediated upregulation of exosome secretion. 第79回日本癌学会学術総会, 2020, (広島・web), [ポスター]
- 006 疋田智也, 小根山千歳: がん細胞由来エクソソームの in vivo イメージング解析. 第7回日本細胞外小胞学会 2020, (web), [口頭]
- 007 三谷文美絵, 小根山千歳: Src 依存のエクソソーム分泌亢進における SNARE タンパク質の役割. 第7回日本細胞外小胞学会, 2020, (web), [ポスター]
- 008 小根山千歳: がん細胞のエクソソームの分泌亢進機構とその意義. 第93回生化学会, 2020, (web), [シンポジウム]
- 009 小根山千歳: Molecular mechanisms governing exosome biogenesis in cancer cells. 第42回日本分子生物学会年会, 2020, (web), [シンポジウム]
- 010 小根山千歳: エクソソームの量と質を制御するメカニズムの解明. 第42回日本分子生物学会年会, 2020, (web), [フォーラム]
- 011 中山真穂, 小野島大介, 湯川 博, 小根山千歳, 馬場嘉信: エクソソーム産生機構解明に向けた分泌制御因子の解析. 日本化学会第101春季大会, 2021, (web), [ポスター]
- 012 林 建宇, 三谷文美絵, 小根山千歳, 荒井雅吉: 海洋薬用資源からのがんエクソソーム分泌阻害物質の探索. 日本薬学会第141年会, 2021, (広島・web), [ポスター]

腫瘍免疫応答研究分野

- 001 *Kagoya Y*: Epigenetic modification of CAR-T cells for optimal adoptive immunotherapy. 第79回日本癌学会学術集会, 2020, (広島), [招待講演]
- 002 籠谷勇紀: 合成生物学による免疫細胞療法の改良. 第75回日本輸血・細胞治療学会東海支部例会, 2020, (名古屋), [特別講演]
- 003 籠谷勇紀: 免疫工学による CAR-T 細胞の改良開発. 第12回血液疾患免疫療法学会, 2020, (大阪), [シンポジウム講演]
- 004 籠谷勇紀: Elucidation of surface marker profiles to define progenitor exhausted T cells. 第49回日本免疫学会学術集会, 2020, (東京), [口演]
- 005 籠谷勇紀: 遺伝子改変による CAR-T 細胞療法の改良開発. Pediatric Blood Master Conference, 2021, (名古屋), [特別講演]
- 006 籠谷勇紀: 抗腫瘍 T 細胞の機能評価を行う上でのポイント. 第20回日本再生医療学会, 2021, (神戸), [招待講演]

腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 *Matsushita H*: Cancer Immunoediting and Identification of Critical Tumor Neoantigens. 日本肉腫学会オンライン・ライブ特別年次総会, 2020, (千葉), [ランチョンセミナー]

- 002 松下博和：肺癌に対する抗原特異的がんワクチンの開発．第8回南大阪肺癌分子腫瘍研究会，2020，(大阪)，[特別講演]
- 003 松下博和：ネオ抗原の同定と抗原特異的免疫療法の開発．第82回日本血液学会学術集会，2020，(京都)，[教育講演]
- 004 松下博和：ネオアンチゲンを標的としたがん免疫療法．第24回日本がん分子標的治療学会学術集会，2020，(徳島)，[シンポジウム]
- 005 松下博和：腎癌におけるがん免疫療法．第29回泌尿器科分子・細胞研究会，2020，(徳島)，[スポンサーセッション]
- 006 赤塚美樹，勝山直哉，川瀬孝和，西尾信博，楯屋良子，岡村文子，一戸辰夫：不適合 HLA-DPB1*02:01 抗原を標的とした同種移植後細胞免疫療法の検討．第12回日本血液疾患免疫療法学会学術集会，2020，(大阪)，[ポスター]

分子診断トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 梶野泰祐，高橋 隆：A novel long non-coding RNA, TILR, suppresses the apoptosis by inhibiting p53 expression. 日本癌学会学術総会，2020，(広島)，[口演]
- 002 阿部雄一：がんプレジジョンメディスンの構築に向けた臨床プロテオミクス解析基盤の開発．第18回日本質量分析学会中部談話会，2021，(名古屋)，[口演]

がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 *Matsubara Y, Bando H, Ogata T, Nakazawa T, Kato K, Nozawa K, Narita Y, Honda K, Masuishi T, Kadowaki S, Ando M, Tajika M, Muro K, Ebi. H* : Angiogenesis-related factors associated with nivolumab efficacy in patients with advanced gastric cancer after refractory or intolerant to ramucirumab-based therapy. ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium, 2021, (Virtual), [ポスター]
- 002 *Fairchild KC, Floros K, Jacob S, Coon C, Puchalapalli M, Hu B, Dozmorov M, Koblinski J, Smith S, Domson G, Ebi H, Faber AC, Boikos SA* : Evaluation of combined BCL-2/MCL-1 inhibition as a therapeutic approach for synovial sarcoma. ASCO annual meeting, 2020, (Virtual), [ポスター]
- 003 衣斐寛倫：ドライバー遺伝子異常陽性がん治療の新たな局面．日本癌学会学術総会，2020，(広島)，[シンポジウム]
- 004 足立雄太，衣斐寛倫：上皮間葉転換はKRASG12C 遺伝子変異肺癌の初期耐性及び獲得耐性に寄与する。第18回日本臨床腫瘍学会学術集会，2021，(京都)，[口演]

4. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (総長・副総長)

総長

- 001 *Isomura H, Taguchi A, Kajino T, Asai N, Nakatochi M, Kato S, Suzuki K, Yanagisawa K, Suzuki M, Fujishita T, Yamaguchi T, Takahashi M, Takahashi T* : Conditional Ror1 knockout reveals crucial involvement in lung adenocarcinoma development and identifies novel HIF-1 α regulator. *Cancer Sci*, 112(4) : 1614-1623, 2021.
- 002 *Khaledian B, Taguchi A, Shin-Yu K, Kondo-Ida L, Kagaya N, Suzuki M, Kajino T, Yamaguchi T, Shimada Y, Takahashi T* : Inhibition of heat shock protein 90 destabilizes receptor tyrosine kinase ROR1 in lung adenocarcinoma. *Cancer Sci*, 112(3) : 1225-1234, 2021.
- 003 *Shi H, Niimi A, Takeuchi T, Shioyama K, Mizutani Y, Kajino T, Inada K, Hase T, Hatta T, Shibata H, Fukui T, Chen-Yoshikawa TF, Nagano K, Murate T, Kawamoto Y, Tomida S, Takahashi T, Suzuki M* : CEBP γ facilitates lamellipodia formation and cancer cell migration through CERS6 upregulation. *Cancer Sci*, doi : 10. 1111/cas. 14928, 2021.
- 004 *Suzuki M, Cao K, Kato S, Mizutani N, Tanaka K, Arima C, Tai MC, Nakatani N, Yanagisawa K, Takeuchi T, Shi H, Mizutani Y, Niimi A, Taniguchi T, Fukui T, Yokoi K, Wakahara K, Hasegawa Y, Mizutani Y, Iwaki S, Fujii S, Satou A, Tamiya-Koizumi K, Murate T, Kyogashima M, Tomida S, Takahashi T* : CERS6 required for cell migration and metastasis in lung cancer. *J Cell Mol Med*, 24(20) : 11949-11959, 2020.
- 005 *Yamaguchi T, Fujimoto T, Takahashi T* : Method for Efficient Observation of Caveolin-1 in Plasma Membrane by Microscopy Imaging Analysis. *Methods Mol Biol*, 2169 : 43-52, 2020.
- 006 *Ishigaki K, Akiyama M, Kanai M, Takahashi A, Kawakami E, Sugishita H, Sakaue S, Matoba N, Low SK, Okada Y, Terao C, Amariuta T, Gazal S, Kochi Y, Horikoshi M, Suzuki K, Ito K, Koyama S, Ozaki K, Niida S, Sakata Y, Sakata Y, Kohno T, Shiraishi K, Momozawa Y, Hirata M, Matsuda K, Ikeda M, Iwata N, Ikegawa S, Kou I, Tanaka T, Nakagawa H, Suzuki A, Hirota T, Tamari M, Chayama K, Miki D, Mori M, Nagayama S, Daigo Y, Miki Y, Katagiri T, Ogawa O, Obara W, Ito H, Yoshida T, Imoto I, Takahashi T, Tanikawa C, Suzuki T, Sinozaki N, Minami S, Yamaguchi H, Asai S, Takahashi Y, Yamaji K, Takahashi K, Fujioka T, Takata R, Yanai H, Masumoto A, Koretsune Y, Kutsumi H, Higashiyama M, Murayama S, Minegishi N, Suzuki K, Tanno K, Shimizu A, Yamaji T, Iwasaki M, Sawada N, Uemura H, Tanaka K, Naito M, Sasaki M, Wakai K, Tsugane S, Yamamoto M, Yamamoto K, Murakami Y, Nakamura Y, Raychaudhuri S, Inazawa J, Yamauchi T, Kadowaki T, Kubo M, Kamatani Y* : Large-scale genome-wide association study in a Japanese population

identifies novel susceptibility loci across different diseases. *Nat Genet*, 52(7) : 669-679, 2020.

- 007 *Akatsuka S, Li GH, Kawaguchi S, Takahashi T, Yoshihara M, Suyama M, Toyokuni S* : Augmented oxidative stress increases 8-oxoguanine preferentially in the transcriptionally active genomic regions. *Free Radic Res*, 16 : 1-11, 2020.
- 008 *Okazaki Y, Chew SH, Nagai H, Yamashita Y, Ohara H, Jiang L, Akatsuka S, Takahashi T, Toyokuni S* : Overexpression of miR-199/214 is a distinctive feature of iron-induced and asbestos-induced sarcomatoid mesothelioma in rats. *Cancer Sci*, 111(6) : 2016-2027, 2020.
- 009 *Funahashi S, Okazaki Y, Akatsuka S, Takahashi T, Sakumi K, Nakabeppu Y, Toyokuni S* : Mth1 deficiency provides longer survival upon intraperitoneal crocidolite injection in female mice. *Free Radic Res*, 54(2-3) : 195-205, 2020.
- 010 *Okazaki Y, Misawa N, Akatsuka S, Kohyama N, Sekido Y, Takahashi T, Toyokuni S* : Frequent homozygous deletion of Cdkn2a/2b in tremolite-induced malignant mesothelioma in rats. *Cancer Sci*, 111(4) : 1180-1192, 2020.
- 011 *Osumi H, Horiguchi H, Kadomatsu T, Tashiro K, Morinaga J, Takahashi T, Ikeda K, Ito T, Suzuki M, Endo M, Oike Y* : Tumor cell-derived angiopoietin-like protein 2 establishes a preference for glycolytic metabolism in lung cancer cells. *Cancer Sci*, 111(4) : 1241-1253, 2020.

副総長

- 001 *Nagino M, Hirano S, Yoshitomi H, Aoki T, Uesaka K, Unno M, Ebata T, Konishi M, Sano K, Shimada K, Shimizu H, Higuchi R, Wakai T, Isayama H, Okusaka T, Tsuyuguchi T, Hirooka Y, Furuse J, Maguchi H, Suzuki K, Yamazaki H, Kijima H, Yanagisawa A, Yoshida M, Yokoyama Y, Mizuno T, Endo I* : Clinical practice guidelines for the management of biliary tract cancers 2019 : The 3rd English edition. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 28(1) : 26-54, 2021.
- 002 *Nagino M, Ebata T, Mizuno T* : Oncological Superiority of Right-Sided Hepatectomy Over Left-Sided Hepatectomy as Surgery for Klatskin Tumors : Truth or Biased View?. *Ann Surg*, 274 : 31-32, 2021.
- 003 *Nagino M, Ebata T, Yokoyama Y, Igami T, Mizuno T, Yamaguchi J, Onoe S, Watanabe N* : Hepatopancreatoduodenectomy with simultaneous resection of the portal vein and hepatic artery for locally advanced cholangiocarcinoma : Short- and long-term outcomes of superextended surgery. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 28(4) : 376-386, 2021.
- 004 *Nagino M, DeMatteo RP, Lang H, Cherqui D, Malago*

M, Kawakatsu S, DeOliveira ML, Adam R, Aldrighetti L, Boudjema K, Chapman W, Clary B, de Santibañes E, Dong J, Ebata T, Endo I, Geller D, Guglielmi A, Kato T, Lee SG, Lodge P, Nadalin S, Pinna A, Polak W, Soubrane O, Clavien PA : Proposal of a New Comprehensive Notation for Hepatectomy : The "New World" Terminology. *Ann Surg*, 274(1) : 1-3, 2021.

- 005 柳野正人, 江畑智希, 大塚新平 : 【良性胆道狭窄に対する診断と治療 -PSC、IgG4 関連疾患を除く】肝門部領域胆管癌として切除された良性胆管狭窄病変 (総説 / 特集). *日本消化器病学会雑誌*, 117(8) : 679-688, 2020.
- 006 柳野正人 : 継承したい手術手技 (胆) 肝門部領域胆管癌に対する拡大手術 (会議録 / 症例報告). *日本臨床外科学会雑誌*, 81 : 175, 2020.
- 007 柳野正人 : 巻頭言 肝内・肝外, 境界はどこ?. *肝胆膵*, 82(2) : 171-173, 2021.

5. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (病院)

病院長

- 001 **Takizawa K, Ono H, Hasuie N, Takashima A, Minashi K, Boku N, Kushima R, Katayama H, Ogawa G, Fukuda H, Fujisaki J, Oda I, Yano T, Hori S, Doyama H, Hirasawa K, Yamamoto Y, Ishihara R, Tanabe S, Niwa Y, Nakagawa M, Terashima M, Muto M; Gastrointestinal Endoscopy Group (GIESG) and the Stomach Cancer Study Group (SCSG) of Japan Clinical Oncology Group.** : A nonrandomized, single-arm confirmatory trial of expanded endoscopic submucosal dissection indication for undifferentiated early gastric cancer : Japan Clinical Oncology Group study (JCOG1009/1010). *Gastric Cancer*, 24(2) : 479-491, 2021.
- 002 水口昌伸 (日本消化器がん検診学会), 宮川国久, 今武和弘, 大泉晴史, 大黒隆司, 中島滋美, 丹羽康正, 藤谷幹浩, 松浦隆志, 水谷 勝, 日本消化器がん検診学会全国集計委員会 : 平成 29 年度消化器がん検診全国集計 胃がん検診全国集計 内視鏡検診全国集計 大腸がん検診全国集計 超音波検診全国集計 (解説). *日本消化器がん検診学会雑誌*, 59(1) : 79-112, 2021.

消化器内科部

- 001 **Hara K, Okuno N, Haba S, Kuwahara T, Koda H, Mizuno N, Miyano A** : How to perform EUS-guided hepaticogastrostomy easier and safer. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 27(8) : 563-564, 2020.
- 002 **Kuwahara T, Hara K, Mizuno N, Haba S, Okuno N** : Present status of ultrasound elastography for the diagnosis of pancreatic tumors : review of the literature. *J Med Ultrason*, 47(3) : 413-420, 2020.
- 003 **Kuwahara T, Hara K, Mizuno N, Haba S, Okuno N, Koda H, Miyano A, Fumihara D** : Current status of artificial intelligence analysis for endoscopic ultrasonography. *Dig Endosc*, 33(2) : 298-305, 2021.
- 004 **Okuno N, Hara K, Haba S, Kuwahara T, Koda H, Miyano A, Elshair M** : Removal of embedded partially covered self-expandable metal stents in endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy. *Endoscopy*, doi : 10. 1055/a-1252-2530, 2020.
- 005 **Okuno N, Hara K, Mizuno N, Haba S, Kuwahara T, Koda H, Miyano A** : Using a detachable snare, the cowboy method, to troubleshoot stent dysfunction after endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy. *Endoscopy*, 32(6) : 957-966, 2020.
- 006 **Okuno N, Hara K, Mizuno N, Haba S, Kuwahara T, Koda H, Tajika M, Tanaka T, Onishi S, Yamada K, Miyano A,**

- Fumihara D, Elshair M** : Outcomes of Endoscopic Ultrasound-Guided Biliary Drainage in Patients Undergoing Antithrombotic Therapy. *Clin Endosc*, doi : 10. 5946/ce, 2021.
- 007 **Okuno N, Hara K, Haba S, Miyano A, Yanaidani T, Fumihara D, Yoshida M** : Endoscopic necrosectomy using endobronchial ultrasonography and transnasal gastroscopy via the percutaneous route. *Endoscopy*, doi : 10. 1055/a-1388-5811, 2021.
- 008 **Koda H, Hara K, Okuno N, Kuwahara T, Mizuno N, Haba S, Miyano A, Isomoto H** : High-Resolution Probe-Based Confocal Laser Endomicroscopy for Diagnosing Biliary Diseases. *Clin Endosc*, doi : 10. 5946/ce. 2020. 191, 2020.
- 009 **Kurita Y, Hara K, Kuwahara T, Mizuno N, Okuno N, Haba S, Okuno M, Natsume S, Senda Y, Kubota K** : Comparison of prognosis between observation and surgical resection groups with small sporadic non-functional pancreatic neuroendocrine neoplasms without distant metastasis. *J Gastroenterol*, 55(5) : 543-552, 2020.
- 010 **Lee DW, Hara K** : Management of Post-Transplant Anastomotic Stricture Using Self-Expandable Metal Stent. *Clin Endosc*, 53(3) : 261-265, 2020.
- 011 **Shinjo K, Hara K, Nagae G, Umeda T, Katsushima K, Suzuki M, Murofushi Y, Umezumi Y, Takeuchi I, Takahashi S, Okuno Y, Matsuo K, Ito H, Tajima S, Aburatani H, Yamao K, Kondo Y** : A novel sensitive detection method for DNA methylation in circulating free DNA of pancreatic cancer. *PLoS One*, 10 : 15(6) : e0233782, 2020.
- 012 **Lin Y, Nakatochi M, Hosono Y, Ito H, Kamatani Y, Inoko A, Sakamoto H, Kinoshita F, Kobayashi Y, Ishii H, Ozaka M, Sasaki T, Matsuyama M, Sasahira N, Morimoto M, Kobayashi S, Fukushima T, Ueno M, Ohkawa S, Egawa N, Kuruma S, Mori M, Nakao H, Adachi Y, Okuda M, Osaki T, Kamiya S, Wang C, Hara K, Shimizu Y, Miyamoto T, Hayashi Y, Ebi H, Kohmoto T, Imoto I, Kasugai Y, Murakami Y, Akiyama M, Ishigaki K, Matsuda K, Hirata M, Shimada K, Okusaka T, Kawaguchi T, Takahashi M, Watanabe Y, Kuriki K, Kadota A, Okada R, Mikami H, Takezaki T, Suzuki S, Yamaji T, Iwasaki M, Sawada N, Goto A, Kinoshita K, Fuse N, Katsuoka F, Shimizu A, Nishizuka SS, Tanno K, Suzuki K, Okada Y, Horikoshi M, Yamauchi T, Kadowaki T, Yu H, Zhong J, Amundadottir LT, Doki Y, Ishii H, Eguchi H, Bogumil D, Haiman CA, Le Marchand L, Mori M, Risch H, Setiawan VW, Tsugane S, Wakai K, Yoshida T, Matsuda F, Kubo M, Kikuchi S, Matsuo K** : Genome-wide association meta-analysis identifies GP2 gene risk variants for pancreatic cancer. *Nat Commun*, 11(1) : 3175, 2020.
- 013 **Kuraoka N, Hara K, Okuno N, Kuwahara T, Mizuno N, Shimizu Y, Niwa Y, Terai S** : Outcomes of EUS-guided

- choledochoduodenostomy as primary drainage for distal biliary obstruction with covered self-expandable metallic stents. *Endosc Int Open*, 8(7) : E861-E868, 2020.
- 014 **Matsumoto S, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Obata M, Kurita Y, Koda H, Tajika M, Tanaka T, Hirayama Y, Onishi S, Toriyama K, Niwa Y** : Risk factor analysis for adverse events and stent dysfunction of endoscopic ultrasound-guided choledochoduodenostomy. *Dig Endosc*, 32(6) : 957-966, 2020.
- 015 **Chong CCN, Lakhtakia S, Nguyen N, Hara K, Chan WK, Puri R, Almadi MA, Ang TL, Kwek A, Yasuda I, Doi S, Kida M, Wang HP, Cheng TY, Jiang Q, Yang A, Chan AWH, Chan S, Tang R, Iwashita T, Teoh AYB** : Endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition with or without macroscopic on-site evaluation : randomized controlled trial. *Endoscopy*, (10) : 856-863, 2020.
- 016 **Kanno A, Yasuda I, Irisawa A, Hara K, Ashida R, Iwashita T, Takenaka M, Katanuma A, Takikawa T, Kubota K, Kato H, Nakai Y, Ryozaawa S, Kitano M, Isayama H, Kamada H, Okabe Y, Hanada K, Ohtsubo K, Doi S, Hisai H, Shibukawa G, Imazu H, Masamune A** : Adverse events of endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration for histologic diagnosis in Japanese tertiary centers : Multicenter retrospective study. *Dig Endosc*. doi : 10. 1111/den. 13912, 2020.
- 017 **Matsumoto K, Hara K, Yasuda I, Itoi T, Kurumi H, Matsumoto S, Doi S, Honjo M, Takeda Y, Shibuya J** : Usefulness of a target sample check illuminator in the detection of target specimens in endoscopic ultrasound-guided fine-needle biopsy samples : Multicenter prospective study. *Dig Endosc*. Doi : 10. 1111/den. 13903, 2020.
- 018 **Strosberg J, Mizuno N, Doi T, Grande E, Delord JP, Shapira-Frommer R, Bergsland E, Shah M, Fakih M, Takahashi S, Piha-Paul SA, O'Neil B, Thomas S, Lolkema MP, Chen M, Ibrahim N, Norwood K, Hadoux J** : Efficacy and Safety of Pembrolizumab in Previously Treated Advanced Neuroendocrine Tumors : Results From the Phase II KEYNOTE-158 Study. *Clin Cancer Res*, 26(9) : 2124-2130, 2020.
- 019 **Shimoyama R, Hijioka S, Mizuno N, Ogawa G, Kataoka T, Katayama H, Machida N, Honma Y, Boku N, Hamaguchi T, Fukuda H, Terashima M, Kanemitsu Y** : Study protocol for a multi-institutional randomized phase III study comparing combined everolimus plus lanreotide therapy and everolimus monotherapy in patients with unresectable or recurrent gastroenteropancreatic neuroendocrine tumors; Japan Clinical Oncology Group Study JCOG1901 (STARTER-NET study). *Pancreatology*, 20(6) : 1183-1188, 2020.
- 020 **Okuyama H, Ikeda M, Okusaka T, Furukawa M, Ohkawa S, Hosokawa A, Kojima Y, Hara H, Murohisa G, Shioji K, Asagi A, Mizuno N, Kojima M, Yamanaka T, Furuse J** : A Phase II Trial of Everolimus in Patients with Advanced Pancreatic Neuroendocrine Carcinoma Refractory or Intolerant to Platinum-Containing Chemotherapy (NECTOR Trial) *Neuroendocrinology*. *Neuroendocrinology*, 110(11-12) : 988-993, 2020.
- 021 **Kobayashi N, Omae K, Horita Y, Ueno H, Mizuno N, Uesugi K, Sudo K, Ozaka M, Hayashi H, Okano N, Kamei K, Yamaguchi A, Kobayashi S, Suzuki S, Ishihara S, Uchiyama T, Todaka A, Fukutomi** : A. FOLFIRINOX as second-line chemotherapy for advanced pancreatic cancer : A subset analysis of data from a nationwide multicenter observational study in Japan. *Pancreatology*, 20(7) : 1519-1525, 2020.
- 022 **Tanaka H, Hijioka S, Hosoda W, Ueno M, Kobayashi N, Ikeda M, Ito T, Kodama Y, Morizane C, Notohara K, Taguchi H, Kitano M, Komoto I, Tsuji A, Hashigo S, Kanno A, Miyabe K, Takagi T, Ishii H, Kojima Y, Yoshitomi H, Yanagimoto H, Furuse J, Mizuno N** : Pancreatic neuroendocrine carcinoma G3 may be heterogeneous and could be classified into two distinct groups. *Pancreatology*, 20(7) : 1421-1427, 2020.
- 023 **Ueno M, Ikeda M, Sasaki T, Nagashima F, Mizuno N, Shimizu S, Ikezawa H, Hayata N, Nakajima R, Morizane C** : Phase 2 study of lenvatinib monotherapy as second-line treatment in unresectable biliary tract cancer : primary analysis results. *BMC Cancer*, 20(1) : 1105, 2020.
- 024 **Ueno M, Morinaga S, Hashimoto Y, Umemoto K, Sasahira N, Saiura A, Seyama Y, Honda G, Ioka T, Takahashi H, Miyamoto A, Nakamori S, Unno M, Takadate T, Mizuno N, Shimizu Y, Ueno H, Sugiyama M, Fukutomi A, Shimizu S, Okusaka T, Furuse J** : Tolerability of Nab-Paclitaxel Plus Gemcitabine as Adjuvant Setting in Japanese Patients With Resected Pancreatic Cancer : Phase I Study. *Pancreas*, 50(1) : 83-88, 2021.
- 025 **Ioka T, Furuse J, Fukutomi A, Mizusawa J, Nakamura S, Hiraoka N, Ito Y, Katayama H, Ueno M, Ikeda M, Sugimori K, Okano N, Shimizu K, Yanagimoto H, Okusaka T, Ozaka M, Todaka A, Nakamori S, Tobimatsu K, Sata N, Kawashima Y, Hosokawa A, Yamaguchi T, Miyakawa H, Hara H, Mizuno N, Ishii H** : Randomized phase II study of chemoradiotherapy with versus without induction chemotherapy for locally advanced pancreatic cancer : Japan Clinical Oncology Group trial, JCOG1106. *Jpn J Clin Oncol*, 51(2) : 235-243, 2021.
- 026 **Ueno M, Morizane C, Furukawa M, Sakai D, Komatsu Y, Nakai Y, Tsuda M, Ozaka M, Mizuno N, Muto M, Fukutomi A, Ikeda M, Tsuji A, Katanuma A, Moriwaki T, Kajiwara T, Ishii H, Negoro Y, Shimizu S, Nemoto N, Kobayashi S, Makino K, Furuse J** : A randomized, double-blind, phase II study of oral histone deacetylase inhibitor resminostat plus S-1 versus placebo plus S-1 in biliary tract cancers

- previously treated with gemcitabine plus platinum-based chemotherapy. *Cancer Med*, 10(6) : 2088-2099, 2021.
- 027 **Maruki Y, Morizane C, Arai Y, Ikeda M, Ueno M, Ioka T, Naganuma A, Furukawa M, Mizuno N, Uwagawa T, Takahara N, Kanai M, Asagi A, Shimizu S, Miyamoto A, Yukisawa S, Kadokura M, Kojima Y, Furuse J, Nakajima TE, Sudo K, Kobayashi N, Hama N, Yamanaka T, Shibata T, Okusaka T** : Molecular detection and clinicopathological characteristics of advanced/recurrent biliary tract carcinomas harboring the FGFR2 rearrangements : a prospective observational study (PRELUDE Study). *J Gastroenterol*, 56(3) : 297, 2021.
- 028 **Umemoto K, Takahashi H, Morizane C, Yamada I, Shimizu S, Shioji K, Yoshida Y, Motoya M, Mizuno N, Kojima Y, Terashima T, Uesugi K, Ueno M, Furuse J, Akimoto T, Ikeda M** : FOLFIRINOX in advanced pancreatic cancer patients with the double-variant type of UGT1A1 *28 and *6 polymorphism : a multicenter, retrospective study. *Cancer Chemother Pharmacol*, 87(3) : 97-404, 2021.
- 029 **Okano N, Morizane C, Nomura S, Takahashi H, Tsumura H, Satake H, Mizuno N, Tsuji K, Shioji K, Asagi A, Yasui K, Kitagawa S, Kashiwada T, Ishiguro A, Kanai M, Ueno M, Ogura T, Shimizu S, Tobimatsu K, Motoya M, Nakashima K, Ikeda M, Okusaka T, Furuse J** : Phase II clinical trial of gemcitabine plus oxaliplatin in patients with metastatic pancreatic adenocarcinoma with a family history of pancreatic/breast/ovarian/prostate cancer or personal history of breast/ovarian/prostate cancer (FABRIC study). *Int J Clin Oncol*, 25(10) : 1835-1843, 2020.
- 030 **Maruki Y, Morizane C, Arai Y, Ikeda M, Ueno M, Ioka T, Naganuma A, Furukawa M, Mizuno N, Uwagawa T, Takahara N, Kanai M, Asagi A, Shimizu S, Miyamoto A, Yukisawa S, Kadokura M, Kojima Y, Furuse J, Nakajima TE, Sudo K, Kobayashi N, Hama N, Yamanaka T, Shibata T, Okusaka T** : Correction to : Molecular detection and clinicopathological characteristics of advanced/recurrent biliary tract carcinomas harboring the FGFR2 rearrangements : a prospective observational study (PRELUDE Study). *J Gastroenterol*, 56(3) : 297, 2021.
- 031 **Kurita Y, Kuwahara T, Hara K, Mizuno N, Okuno N, Matsumoto S, Obata M, Koda H, Tajika M, Shimizu Y, Nakajima A, Kubota K, Niwa Y** : Features of chronic pancreatitis by endoscopic ultrasound influence the diagnostic accuracy of endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration of small pancreatic lesions. *Dig Endosc*, 2(3) : 99-408, 2020.
- 032 **Ishikawa T, Kawashima H, Ohno E, Suhara H, Hayashi D, Hiramatsu T, Matsubara H, Suzuki T, Kuwahara T, Ishikawa E, Shimoyama Y, Kinoshita F, Hirooka Y, Fujishiro M** : Usefulness of endoscopic ultrasound-guided fine-needle biopsy for the diagnosis of autoimmune pancreatitis using a 22-gauge Franseen needle : a prospective multicenter study. *Endoscopy*, 52(11) : 978-985, 2020.
- 033 **Shimizu Y, Kuwahara T** : Response to the letter entitled : "Comment on New Model for Predicting Malignancy in Patients With Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm by Shimuzi et al.". *Ann Surg*, doi : 10. 1097/SLA. 0000000000004739, 2021.
- 034 **原 和生** : 小さな非機能性膵 NEN に対する EUS-FNA の重要性. *m 3. com WEB テキスト*, 2020.
- 035 **原 和生** : 胆道系疾患に対する Interventional EUS. 第 31 回日本消化器内視鏡学会東海セミナーテキスト, 59-63, 2020.
- 036 **原 和生** : 膵疾患に対する内視鏡診断と治療. 第 44 回日本消化器内視鏡学会セミナー テキスト, 2020.
- 037 **桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ** : 【内視鏡下採取検体を用いた膵疾患バイオマーカー探索】バイオマーカー解析による充実性腫瘍の鑑別診断. *胆と膵*, 4 : 273-277, 2020.
- 038 **桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 清水泰博** : 【EUS の現状と将来】診断 人工知能 (Deep learning) を用いた IPMN 良悪性診断の現状. *肝胆膵*, 80 : 427-433, 2020.
- 039 **桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 孝田博輝, 清水泰博** : 【胆膵疾患の最新画像診断】深層学習 (Deep learning) を用いた IPMN 良悪性診断. *胆と膵*, 41 : 801-806, 2020.
- 040 **桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 孝田博輝, 清水泰博** : 【癌早期発見・早期診断の New Era】人工知能 (deep learning) を用いた IPMN 良悪性診断の現状. *消化器・肝臓内科*, 8 : 157-163, 2020.
- 041 **桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ** : 【これ一冊ですべてわかる消化器超音波検査】(第 III 章) 胆膵領域 胆膵領域における超音波エラストグラフィの役割. *臨床消化器内科*, 35 : 1057-1062, 2020.
- 042 **桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 清水泰博** : 【IPMN 大全】悪性予測 (切除適応) AI を用いた自動診断の現状. *胆と膵*, 41 : 1319-1322, 2020.
- 043 **桑原崇通, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 原 和生** : 【進化する EUS】EUS と AI. *消化器内視鏡*, 32 : 1677-1679, 2020.
- 044 **奥野のぞみ, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 孝田博輝, 宮野 亮, 原 和生** : 【これ一冊ですべてわかる消化器超音波検査】(第 I 章) 撮像方法 (経腹壁超音波および超音波内視鏡検査) 超音波内視鏡下生検の基本. *臨床消化器内科*, 35 : 930-934, 2020.
- 045 **奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生** : 【つつい教えたくなる、とっておきのコツ】胆膵 診断 コンベックス型の診断の基礎は、これ! *消化器内視鏡*, 33 : 334-336, 2021.
- 046 **宮野 亮, 奥野のぞみ, 原 和生, 孝田博輝, 桑原崇通, 羽場 真, 水野伸匡** : 術前進展度診断に苦慮した肝内胆管癌の 1 例. *胆道*, 34 : 610, 2020.
- 047 **孝田博輝, 奥野のぞみ, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通,**

- 宮野 亮, 文原大貴, 原 和生 : 【胆膵疾患の最新画像診断】共焦点レーザー内視鏡を用いた胆膵疾患診断. 胆と膵, 41 : 771-779, 2020.
- 048 孝田博輝, 奥野のぞみ, 栗田裕介, 小畑雅寛, 松本慎平, 桑原崇通, 水野伸匡, 原 和生 : 胆道鏡による内視鏡診断が困難であった IgG4 関連硬化性胆管炎の 1 例. 肝胆膵治療研究会誌, 16 : 89, 2020.
- 049 岡崎和一, 川 茂幸, 神澤輝実, 池浦 司, 糸井隆夫, 伊藤鉄英, 乾 和郎, 入澤篤志, 内田一茂, 大原弘隆, 窪田賢輔, 児玉裕三, 清水京子, 殿塚亮祐, 中沢貴宏, 西野隆義, 能登原憲司, 藤永康成, 正宗 淳, 山本 洋, 渡辺貴之, 下瀬川 徹, 白鳥敬子, 川野充弘, 西山利正, 竹山宜典, 井上 大, 入江裕之, 岩崎栄典, 植木敏晴, 上原 剛, 菅野 敦, 洪 繁, 阪上順一, 新倉則和, 多田 稔, 濱野英明, 平野賢二, 廣岡芳樹, 増田充弘, 水野伸匡, 吉田仁 : 自己免疫性膵炎診療ガイドライン 2020. 膵臓, 35 : 465-550, 2020.
- 050 北野雅之, 森実千種, 脇岡 範, 松林宏行, 蘆田玲子, 池浦 司, 伊藤鉄英, 神澤輝実, 川口喬久, 河邊 顕, 小杉真司, 児玉裕三, 清水京子, 高橋秀明, 谷内田真一, 寺島健志, 鳥嶋雅子, 花田敬士, 古川 徹, 古川正幸, 古瀬純司, 真口宏介, 眞鳥喜幸, 水野伸匡, 水間正道, 水本雅己, 吉田岳市, 和田慶太, 高折恭一 : 家族性膵癌高危険群のサーベイランス法 (エキスパート・コンセンサス) 日本膵臓学会家族性膵癌レジストリ委員会・家族性膵癌に関する小班会議. 膵臓, 35 : 322-330, 2020.

内視鏡部

- 001 Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Yamada K, Abe T, Higaki E, Hosoi T, Inaba Y, Muro K, Shimizu M, Niwa Y : Prognostic Impact of Sarcopenic Obesity after Neoadjuvant Chemotherapy Followed by Surgery in Elderly Patients with Esophageal Squamous Cell Carcinoma. J Clin Med, 9(9) : 2974, 2020.
- 002 Onishi S, Tajika M, Bando H, Matsubara Y, Hosoda W, Muro K, Niwa Y : Ursodeoxycholic acid and bezafibrate were useful for steroid-refractory, immune-related hepatitis : a case report. J Med Case Rep, 14(1) : 230, 2020.
- 003 Kato K, Narita Y, Mitani S, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Muro K : Efficacy of Cytotoxic Agents After Progression on Anti-PD-(L)1 Antibody for Pre-treated Metastatic Gastric Cancer. Anticancer Res, 40(4) : 2247-2255, 2020.
- 004 Matsumoto S, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Obata M, Kurita Y, Koda H, Tajika M, Tanaka T, Hirayama Y, Onishi S, Toriyama K, Niwa Y : Risk factor analysis for adverse events and stent dysfunction of endoscopic ultrasound-guided choledochoduodenostomy. Dig Endosc, 32(6) : 957-966, 2020.
- 005 Taniguchi H, Uehara K, Nakayama G, Nakayama H, Aiba

- T, Hattori N, Kataoka M, Nakano Y, Kawase Y, Okochi O, Matsuoka H, Utsunomiya S, Sakamoto E, Mori Y, Umeda S, Shikano T, Komori K, Tajika M, Kadowaki S, Muro K, Yatabe Y : Tumor Location Is Associated With the Prevalence of Braf And Pik3ca Mutations in Patients With Wild-Type Ras Colorectal Cancer : A Prospective Multi-Center Cohort Study in Japan. Transl Oncol, 13(7) : 100786, 2020.
- 006 Okuno N, Hara K, Mizuno N, Haba S, Kuwahara T, Koda H, Tajika M, Tanaka T, Onishi S, Yamada K, Miyano A, Fumihara D, Elshair M : Outcomes of Endoscopic Ultrasound-Guided Biliary Drainage in Patients Undergoing Antithrombotic Therapy. Clin Endosc, doi : 10.5946/ce.2020.194, 2021.
- 007 Mitani S, Kadowaki S, Komori A, Kondoh C, Oze I, Kato K, Masuishi T, Honda K, Narita Y, Taniguchi H, Ando M, Tanaka T, Tajika M, Muro K : A Phase II Study of Modified FOLFOX6 for Advanced Gastric Cancer Refractory to Standard Therapies. Adv Ther, 37(6) : 2853-2864, 2020.
- 008 Ouchi A, Toriyama K, Kinoshita T, Tanaka T, Shimizu Y, Niwa Y, Tajika M, Komori K : Variations in clinical features and oncologic behaviors of T1 colorectal cancer according to tumor location. Int J Clin Oncol, 25(6) : 1130-1136, 2020.
- 009 Koyanagi YN, Suzuki E, Imoto I, Kasugai Y, Oze I, Ugai T, Iwase M, Usui Y, Kawakatsu Y, Sawabe M, Hirayama Y, Tanaka T, Abe T, Ito S, Komori K, Hanai N, Tajika M, Shimizu Y, Niwa Y, Ito H, Matsuo K : Across-Site Differences in the Mechanism of Alcohol-Induced Digestive Tract Carcinogenesis : An Evaluation by Mediation Analysis. Cancer Res, 80(7) : 1601-1610, 2020.
- 010 Miyagi S, Ishikawa E, Nakamura M, Shimada K, Yamamura T, Furukawa K, Tanaka T, Mabuchi S, Tsuyuki Y, Kohno K, Sakakibara A, Satou A, Kato S, Fujishiro M, Nakamura S : Reappraisal of Primary Epstein-Barr Virus (EBV)-positive Diffuse Large B-Cell Lymphoma of the Gastrointestinal Tract : Comparative Analysis Among Immunosuppressed and Nonimmunosuppressed Stage I and II-IV Patients. Am J Surg Pathol, 44(9) : 1173-1183, 2020.
- 011 Abe T, Higaki E, Hosoi T, Nagao T, Bando H, Kadowaki S, Muro K, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y, Shimizu Y : Long-Term Outcome of Patients with Locally Advanced Clinically Unresectable Esophageal Cancer Undergoing Conversion Surgery after Induction Chemotherapy with Docetaxel Plus Cisplatin and 5-Fluorouracil. Ann. Surg Oncol, 28(2) : 712-721, 2021.
- 012 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正 : 【大腸疾患アトラス update】腫瘍、腫瘍様病変 悪性上皮性腫瘍 扁平上皮癌. 消化器内視鏡, 32(増刊) : 36-37, 2020.
- 013 山本博徳, 阿部 孝, 石黒信吾, 内田恵一, 川崎優子, 熊谷秀規, 斉田芳久, 佐野 寧, 竹内洋司, 田近正洋, 中島

健, 阪埜浩司, 船坂陽子, 堀伸一郎, 山口達郎, 吉田輝彦, 坂本博次, 石川秀樹, 岩間毅夫, 岡崎康司, 斎藤 豊, 松浦成昭, 武藤倫弘, 富田尚裕, 秋山卓士, 山本敏樹, 石田秀行, 中山佳子: 小児・成人のための Peutz-Jeghers 症候群診療ガイドライン (2020 年版). 遺伝性腫瘍, 20(2): 59-78, 2020.

- 014 前田章光, 檜垣栄治, 鶴岡秀一, 高野裕佑, 水野知奈美, 稲熊一英, 梶田正樹, 田近正洋: シスプラチンによる非乏尿性急性腎障害に対して透析療法を必要とした 1 症例. 日本病院薬剤師会雑誌, 56(6): 656-662, 2020.

呼吸器内科部

- 001 **Hida T, Yamaguchi T**: Advances in immunotherapy for stage III non-small cell lung cancer: moving immune checkpoint inhibitors to the front lines concurrently with chemoradiotherapy? *J Thorac Dis*, 12(8): 4549-4552, 2020.
- 002 **Kuroda H, Nakada T, Oya Y, Takahashi Y, Matsusita H, Sakakura N**: Clinical adjustability of radiological tools in patients with surgically resected cT1N0-staged non-small-cell lung cancer from the long-term survival evaluation. *J Thorac Dis*, 12(11): 6655-6662, 2020.
- 003 **Ito K, Murotani K, Kubo A, Kunii E, Taniguchi H, Shindoh J, Asada K, Imaizumi K, Takahashi K, Karayama M, Okuno M, Inui N, Hataji O, Morikawa S, Hayai S, Suda T, Abe T, Tsuda T, Yamaguchi T, Kimura T, Oya Y, Yoshida Y, Hida T**: Propensity score analysis of overall survival between first- and second-generation EGFR-TKIs using real-world data. *Cancer Science*, 111(10): 3705-3713, 2020.
- 004 **Seto T, Hayashi H, Satouchi M, Goto Y, Niho S, Nogami N, Hida T, Takahashi T, Sakakibara Konishi J, Morise M, Nagasawa T, Suzuki M, Ohkura M, Fukuhara K, Holger T, Gerson P, Nishio M**: Lorlatinib in previously treated anaplastic lymphoma kinase-rearranged non-small cell lung cancer: Japanese subgroup analysis of a global study. *Cancer Science*, 111(10): 3726-3738, 2020.
- 005 **Kagawa Y, Furuta H, Uemura T, Watanabe N, Shimizu J, Horio Y, Kuroda H, Inaba Y, Kodaira T, Masago K, Fujita S, Niimi A, Hida T**: Efficacy of local therapy for oligoprogressive disease after programmed cell death 1 blockade in advanced non-small cell lung cancer. *Cancer Science*, 111(12): 4442-4452, 2020.
- 006 **Satouchi M, Nosaki K, Takahashi T, Nakagawa K, Aoe K, Kurata T, Sekine A, Horiike A, Fukuhara T, Sugawara S, Umemura S, Saka H, Okamoto I, Yamamoto N, Sakai H, Kishi K, Katakami N, Horinouchi H, Hida T, Okamoto S, Atagi S, Ohira T, Han S. R, Noguchi K, Ebiana V, Hotta K**: First-line pembrolizumab vs chemotherapy in metastatic non-small-cell lung cancer: KEYNOTE-024 Japan subset. *Cancer Science*, 111(12): 4480-4489, 2020.
- 007 **Kanaji N, Shimizu J, Sakai K, Ueda Y, Miyawaki H, Watanabe N, Uemura T, Hida T, Inoue T, Watanabe N, Oohara Y, Dobashi H, Kato M, Kadowaki N**: Clinical features of patients with small cell lung cancer and idiopathic pulmonary fibrosis treated with chemotherapy or chemoradiotherapy. *Ther Adv Respir Dis*, 14: 1753466620963866, 2020.
- 008 **Kato R, Hayashi H, Chiba Y, Miyawaki E, Shimizu J, Ozaki T, Fujimoto D, Toyozawa R, Nakamura A, Kozuki T, Tanaka K, Teraoka S, Usui K, Nishino, K, Hataji O, Ota K, Ebi N, Saeki S, Akazawa Y, Okuno M, Yamamoto N, Nakagawa K**: Propensity score-weighted analysis of chemotherapy after PD-1 inhibitors versus chemotherapy alone in patients with non-small cell lung cancer (WJOG10217L). *J Immunother Cancer*, 8(1). pii: jitc-2019-000350, 2020.
- 009 **Liang W, Cai K, Chen C, Chen H, Chen Q, Fu J, Hu J, Jiang T, Jiao W, Li S, Liu C, Liu D, Liu W, Liu Y, Ma H, Pan X, Qiao G, Tian H, Wei L, Zhang Y, Zhao X, Zhou C, Zhu Y, Zhong R, Li F, Rosell R, Provencio M, Massarelli E, Antonoff M. B, Hida T, Perrot M. D, Lin S. H, Maio M. D, Rossi A, Ruyscher D. D, Ramirez R. A, Demoke W. C. M, Camidge D. R, Guibert N, Califano E, Wang Q, Ren, Caicun Z, He J**: Expert consensus on neoadjuvant immunotherapy for non-small cell lung cancer. *Transl Lung Cancer Res*, 9(6): 2696-2715, 2020.
- 010 **Morita R, Okishio K, Shimizu J, Saito H, Sakai H, Young H. K, Hataji O, Yomota M, Nishio M, Aoe K, Kanai O, Kumagai T, Kibata K, Tsukamoto H, Oizumi S, Fujimoto D, Tanaka H, Mizuno K, Masuda T, Kozuki T, Haku T, Suzuki H, Okamoto I, Hoshiyama H, Ueda J, Ohe Y**: Real-world effectiveness and safety of nivolumab in patients with non-small cell lung cancer: A multicenter retrospective observational study in Japan. *Lung Cancer*, 140: 8-18, 2020.
- 011 **Okishio K, Morita R, Shimizu J, Saito H, Sakai H, Young H. K, Hataji O, Yomota M, Nishio M, Aoe K, Kanai O, Kumagai T, Kibata K, Tsukamoto H, Oizumi S, Fujimoto D, Tanaka H, Mizuno K, Masuda T, Kozuki T, Haku T, Suzuki H, Okamoto I, Hoshiyama H, Yada N, Ohe Y**: Nivolumab treatment of elderly Japanese patients with non-small cell lung cancer: subanalysis of a real-world retrospective observational study (CA209-9CR). *ESMO Open*, 5(4): e000656, 2020.
- 012 **Oya Y, Kuroda H, Nakada T, Takahashi Y, Sakakura N, Hida T**: Efficacy of Immune Checkpoint Inhibitor Monotherapy for Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer with ALK Rearrangement. *Int J Mol Sci*, 21(7): 2623, 2020.
- 013 **Seto K, Masago K, Fujita S, Haneda M, Horio Y, Hida T, Kuroda H, Hosoda W, Okubo K**: Targeted RNA sequencing with touch imprint cytology samples for non-small cell lung cancer patients. *Thorac Cancer*, 11(7): 1827-1834, 2020.
- 014 **Tsuchiya M, Horio Y, Funazaki H, Aogi K, Miyauchi K, Arai Y,**

- Takahashi M* : Impact of gender and employment type on job loss among cancer survivors. *Jpn J Clin Oncol*, 9;50(7) : 766-771, 2020.
- 015 *Wolf J, Seto T, Han J-Y, Reguart N, Garon E. B, Groen H. J. M, Tan D. S. W, Hida T, Jonge M. D, Orlov S. V, Smit E. F, Souquet P. J, Vansteenkiste J, Hochmair M, Felip E, Nishio M, Thomas M, Ohashi K, Toyozawa R, Overbeck T. R, Marinis F. D, Kim T-M, Laack E, Robeva A, Mouhaer S. L, Waldron-Lynch M, Sankaran B, Balbin O. A, Cui X, Giovannini M, Akimov M, Heist R. S* : Capmatinib in MET Exon 14-Mutated or MET-Amplified Non-Small-Cell Lung Cancer. *N Engl J Med*, 383(10) : 944-957, 2020.
- 016 *Yatabe Y, Sunami K, Goto K, Nishio K, Aragane N, Ikeda S, Inoue A, Kinoshita I, Kimura H, Sakamoto T, Satouchi M, Shimizu J, Tsuta K, Toyooka S, Nishino K, Hatanaka Y, Matsumoto S, Mikubo M, Yokose T, Dosaka-Akita H* : Multiplex gene-panel testing for lung cancer patients. *Pathol Int*, 70(12) : 921-931, 2020.
- 017 *Itoh N, Shimizu J, Murakami H, Hida T* : Pulmonary infections mimicking malignancy on bronchoscopy : A retrospective single-center study in Japan. *J Gen Fam Med*, 22(1) : 38-42, 2020.
- 018 *Ito K, Yamanaka T, Hayashi H, Hattori Y, Nishino K, Kobayashi H, Oya Y, Yokoyama T, Seto T, Azuma K, Fukui T, Kozuki T, Nakamura A, Tanaka K, Hirano K, Yokoi T, Daga H, Sakata S, Fujimoto D, Mori M, Maeno K, Aoki T, Tamura A, Miura S, Watanabe S, Akamatsu H, Hataji O, Suzuki K, Hontsu S, Azuma K, Bessho A, Kubo A, Okuno M, Nakagawa K, Yamamoto N* : Sequential therapy of crizotinib followed by alectinib for non-small cell lung cancer harbouring anaplastic lymphoma kinase rearrangement (WJOG9516L) : A multicenter retrospective cohort study. *Eur J Cancer*, 145 : 183-193, 2020.
- 019 *Shimizu J, Masago K, Saito H, Nishino K, Kurata T, Itoh Y, Yoshimura Y, Yabuki Y, Dosaka-Akita H* : Biomarker testing for personalized, first-line therapy in advanced nonsquamous non-small cell lung cancer patients in the real world setting in Japan : a retrospective, multicenter, observational study (the BRAVE study). *Ther Adv Med Oncol*, 12 : 1758835920904522, 2020.
- 020 *Furuta H, Araki M, Masago K, Sagase Y, Fujita S, Seto K, Simizu J, Horio Y, Sasaki E, Hosoda W, Katayama R, Okuno Y, Hida T* : Novel Resistance Mechanisms Including L1196Q, P1094H, and R1248_D1249 Insertion in Three Patients With NSCLC After ALK Tyrosine Kinase Inhibitor Treatment. *Journal of Thoracic Oncology*, 16, (3), P477-482, 2021.
- 021 *Horio Y, Sato Y, Tachibana H, Hosoda W, Shimizu J, Hida T* : Successful bronchial arterial infusion chemotherapy combined with radiotherapy for an endobronchial metastasis after resection of small cell lung cancer. *Respirol Case Rep*, 9(4) : e00728, 2021.
- 022 *Fujimoto D, Miura S, Yoshimura K, Wakuda K, Oya Y, Yokoyama T, Yokoi T, Asao T, Tamiya M, Nakamura A, Yoshioka H, Haratani K, Teraoka S, Tokito T, Murakami S, Tamiya A, Itoh S, Yokouchi H, Watanabe S, Yamaguchi O, Tomii K, Yamamoto N* : Pembrolizumab plus chemotherapy-induced pneumonitis in chemo-naïve patients with non-squamous non-small cell lung cancer : A multicentre, retrospective cohort study. *Eur J Cancer*, 20;150 : 63-72, 2021.
- 023 *Yamaguchi T, Shimizu J, Oya Y, Horio Y, Hida T* : Drug-Induced Liver Injury in a Patient with Nonsmall Cell Lung Cancer after the Self-Administration of Fenbendazole Based on Social Media Information. *Case Rep Oncol*, 14(2) : 886-891, 2021.
- 024 *Oya Y, Yoshida T, Asada K, Oguri T, Inui N, Morikawa S, Ito K, Kimura T, Kunii E, Matsui T, Kubo A, Kato T, Abe T, Tsuda T, Hida T* : Clinical utility of liquid biopsy for EGFR driver, T790M mutation and EGFR amplification in plasma in patients with acquired resistance to afatinib. *BMC Cancer*, 21(1) : 57, 2021.

血液・細胞療法部

- 001 *Konuma T, Kanda J, Yamasaki S, Harada K, Shimomura Y, Terakura S, Mizuno S, Uchida N, Tanaka M, Doki N, Ozawa Y, Nakamae H, Sawa M, Matsuoka KI, Morishige S, Maruyama Y, Ikegame K, Kimura T, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M* : Single Cord Blood Transplantation Versus Unmanipulated Haploidentical Transplantation for Adults with Acute Myeloid Leukemia in Complete Remission. *Transplant Cell Ther*. 2021 Apr;27(4) : 334. e1-334. e11. doi : 10. 1016/j. jtct. 2021. 01. 023. Epub 2021 Jan 28. PMID : 33836881.
- 002 *Mizuno S, Takami A, Kawamura K, Arai Y, Kondo T, Kawata T, Uchida N, Marumo A, Fukuda T, Tanaka M, Ozawa Y, Yoshida S, Ota S, Takada S, Sawa M, Onizuka M, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M* : Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation for Adolescent and Young Adult Patients with Acute Myeloid Leukemia. *Transplant Cell Ther*. 2021 Apr;27(4) : 314. e1-314. e10. doi : 10. 1016/j. jtct. 2020. 12. 013. Epub 2021 Feb 8. PMID : 33836873.
- 003 *Ueda N, Konuma T, Aoki J, Takahashi S, Ozawa Y, Mori T, Ota S, Eto T, Takada S, Yoshioka S, Shiratori S, Kako S, Onizuka M, Fukuda T, Kanda Y, Atsuta Y, Yanada M* : Prognostic Impact of the Fractionation of Total Body Irradiation for Patients with Acute Myeloid Leukemia Undergoing Myeloablative Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation. *Transplant Cell Ther*. 2021 Feb;27(2) : 185. e1-185. e6. doi : 10. 1016/j. jtct. 2020. 10. 018. Epub 2020 Dec 13. PMID : 33830037.
- 004 *Yanada M* : The evolving concept of indications for

- allogeneic hematopoietic cell transplantation during first complete remission of acute myeloid leukemia. *Bone Marrow Transplant.* 2021 Mar 8. doi : 10. 1038/s41409-021-01247-4. Epub ahead of print. PMID : 33686251.
- 005 **Yanada M, Uchida N, Ichinohe T, Fukuda T, Kanda J, Kanda Y, Atsuta Y, Nakasone H** : Does one model fit all? Predicting non-relapse mortality after allogeneic hematopoietic cell transplantation. *Bone Marrow Transplant.* 2021 Mar 3. doi : 10. 1038/s41409-021-01236-7. Epub ahead of print. PMID : 33658644.
- 006 **Isoke M, Konuma T, Masuko M, Uchida N, Miyakoshi S, Sugio Y, Yoshida S, Tanaka M, Matsuhashi Y, Hattori N, Onizuka M, Aotsuka N, Kouzai Y, Wake A, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M** : Single cord blood transplantation for acute myeloid leukemia patients aged 60 years or older : a retrospective study in Japan. *Ann Hematol.* 2021 Feb 23. doi : 10. 1007/s00277-021-04464-5. Epub ahead of print. PMID : 33624134.
- 007 **Yanada M, Konuma T, Yamasaki S, Kondo T, Fukuda T, Shingai N, Sawa M, Ozawa Y, Tanaka M, Uchida N, Nakamae H, Katayama Y, Matsuoka KI, Kimura T, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Yano S** : Relapse of acute myeloid leukemia after allogeneic hematopoietic cell transplantation : clinical features and outcomes. *Bone Marrow Transplant.* 2021 May;56(5) : 1126-1133. doi : 10. 1038/s41409-020-01163-z. Epub 2020 Dec 2. PMID : 33268829.
- 008 **Yamasaki S, Mori J, Kanda J, Imahashi N, Uchida N, Doki N, Tanaka M, Katayama Y, Eto T, Ozawa Y, Takada S, Onizuka M, Hino M, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Yanada M** : Effect of allogeneic HCT from unrelated donors in AML patients with intermediate- or poor-risk cytogenetics : a retrospective study from the Japanese Society for HCT. *Ann Hematol.* 2020 Dec;99(12) : 2927-2937. doi : 10. 1007/s00277-020-04261-6. Epub 2020 Sep 17. PMID : 32940726.
- 009 **Minamiguchi H, Fujita H, Atsuta Y, Asou N, Sakura T, Ueda Y, Sawa M, Dobashi N, Taniguchi Y, Suzuki R, Uchino Y, Tomita A, Tamaki S, Hagihara M, Fujimaki K, Yanada M, Maeda Y, Iwanaga M, Usui N, Kobayashi Y, Ohtake S, Kiyoi H, Matsumura I, Miyazaki Y, Naoe T, Takeshita A** : Predictors of early death, serious hemorrhage, and differentiation syndrome in Japanese patients with acute promyelocytic leukemia. *Ann Hematol.* 2020 Dec;99(12) : 2787-2800. doi : 10. 1007/s00277-020-04245-6. Epub 2020 Sep 2. PMID : 32879992.
- 010 **Yanada M, Konuma T, Mizuno S, Saburi M, Shinohara A, Tanaka M, Marumo A, Sawa M, Uchida N, Ozawa Y, Onizuka M, Yoshioka S, Nakamae H, Kondo T, Kimura T, Kanda J, Fukuda T, Atsuta Y, Nakasone H, Yano S** : Predicting non-relapse mortality following allogeneic hematopoietic cell transplantation during first remission of acute myeloid leukemia. *Bone Marrow Transplant.* 2021. Feb;56(2) : 387-394. doi : 10. 1038/s41409-020-01032-9. Epub 2020 Aug 14. PMID : 32796950.
- 011 **Miyao K, Terakura S, Kimura F, Konuma T, Miyamura K, Yanada M, Kako S, Morishima S, Uchida N, Toya T, Ozawa Y, Fukuda T, Tanaka M, Sawa M, Takada S, Yoshida S, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Kanda J** : Updated Comparison of 7/8 HLA Allele-Matched Unrelated Bone Marrow Transplantation and Single-Unit Umbilical Cord Blood Transplantation as Alternative Donors in Adults with Acute Leukemia. *Biol Blood Marrow Transplant.* 2020 Nov;26(11) : 2105-2114. doi : 10. 1016/j. bbmt. 2020. 08. 001. Epub 2020 Aug 9. PMID : 32784070.
- 012 **Mizuno S, Yanada M, Kawamura K, Masuko M, Uchida N, Ozawa Y, Iwato K, Ohashi K, Ikegame K, Kim SW, Tanaka M, Eto T, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Yano S, Takami A** : Allogeneic hematopoietic cell transplantation efficacy in patients with Philadelphia chromosome-positive acute myeloid leukemia in complete remission. *Bone Marrow Transplant.* 2021 Jan;56(1) : 232-242. doi : 10. 1038/s41409-020-01011-0. Epub 2020 Jul 31. PMID : 32737447.
- 013 **Inoue H, Taji H, Yamada K, Iriyama C, Saito T, Kato H, Yanada M, Yamamoto K, Matsukawa N** : Dasatinib-induced Reversible Demyelinating Peripheral Neuropathy and Successful Conversion to Nilotinib in Chronic Myelogenous Leukemia. *Intern Med.* 2020 Oct 1;59(19) : 2419-2421. doi : 10. 2169/internalmedicine. 4824-20. Epub 2020 Jun 30. PMID : 32611965; PMCID : PMC7644482.
- 014 **Kurosawa S, Yamaguchi H, Yamaguchi T, Fukunaga K, Yui S, Kanamori H, Usuki K, Uoshima N, Yanada M, Takeuchi J, Mizuno I, Kanda J, Okamura H, Yano S, Tashiro H, Shindo T, Chiba S, Tomiyama J, Inokuchi K, Fukuda T** : The prognostic impact of FLT3-ITD, NPM1 and CEBPa in cytogenetically intermediate-risk AML after first relapse. *Int J Hematol.* 2020 Aug;112(2) : 200-209. doi : 10. 1007/s12185-020-02894-x. Epub 2020 Jun 3. PMID : 32495317.
- 015 **Takeshita A, Asou N, Atsuta Y, Furumaki H, Sakura T, Ueda Y, Sawa M, Dobashi N, Taniguchi Y, Suzuki R, Nakagawa M, Tamaki S, Hagihara M, Fujimaki K, Minamiguchi H, Fujita H, Yanada M, Maeda Y, Usui N, Kobayashi Y, Kiyoi H, Ohtake S, Matsumura I, Naoe T, Miyazaki Y** : Impact of CD56 Continuously Recognizable as Prognostic Value of Acute Promyelocytic Leukemia : Results of Multivariate Analyses in the Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)-APL204 Study and a Review of the Literature. *Cancers (Basel).* 2020 Jun 1;12(6) : 1444. doi : 10. 3390/cancers12061444. PMID : 32492981; PMCID : PMC7352829.
- 016 **Yanada M, Takami A, Yamasaki S, Arai Y, Konuma T, Uchida N, Najima Y, Fukuda T, Tanaka M, Ozawa Y, Ikegame K, Takanashi M, Ichinohe T, Okamoto S, Atsuta Y, Yano S** : Allogeneic hematopoietic cell transplantation for adults

- with acute myeloid leukemia conducted in Japan during the past quarter century. *Ann Hematol.* 2020 Jun;99(6) : 1351-1360. doi : 10. 1007/s00277-020-04051-0. Epub 2020 May 4. PMID : 32363416.
- 017 **Kida M, Usuki K, Uchida N, Fukuda T, Katayama Y, Kondo T, Eto T, Matsuoka KI, Matsuhashi Y, Ota S, Sawa M, Miyamoto T, Ichinohe T, Kimura T, Atsuta Y, Takami A, Miyazaki Y, Yano S, Ishiyama K, Yanada M, Aoki J** : Outcome and Risk Factors for Therapy-Related Myeloid Neoplasms Treated with Allogeneic Stem Cell Transplantation in Japan. *Biol Blood Marrow Transplant.* 2020 Aug;26(8) : 1543-1551. doi : 10. 1016/j. bbmt. 2020. 04. 004. Epub 2020 Apr 19. PMID : 32320746.
- 018 **Yanada M, Fukuda T, Tanaka M, Ota S, Toya T, Mori T, Uchida N, Ozawa Y, Nakamae H, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Yano S** : Long-term results of reduced- intensity conditioning allogeneic hematopoietic cell transplantation for older patients with acute myeloid leukemia : a retrospective analysis of 10-year follow-up data. *Bone Marrow Transplant.* 2020 Oct;55(10) : 2008-2016. doi : 10. 1038/s41409-020-0868-7. Epub 2020 Mar 20. PMID : 32203266.
- 019 **Yamamoto S, Tomizawa D, Kudo K, Hasegawa D, Taga T, Yanada M, Kondo T, Nakazawa Y, Eto T, Inoue M, Kato K, Atsuta Y, Ishida H.** : Hematopoietic stem cell transplantation for pediatric acute promyelocytic leukemia in Japan. *Pediatr Blood Cancer.* 2020 May;67(5) : e28181. doi : 10. 1002/pbc. 28181. Epub 2020 Jan 21. PMID : 31965692.
- 020 **Ri M, Kasai M, Kohno A, Kondo M, Sawa M, Kinoshita T, Sugiura I, Miura Y, Yamamoto K, Saito TI, Ozawa Y, Matsushita T, Kato H** : *A survey of blood transfusion errors in Aichi Prefecture in Japan* : Identifying major lapses threatening the safety of transfusion recipients. *Transfus Apher Sci.* 59 : 102735, 2020.
- 021 **Sakurai M, Okamoto S, Matsumura I, Murakami S, Takizawa M, Waki M, Hirano D, Watanabe-Nakaseko R, Kobayashi N, Iino M, Mitsui H, Ishikawa Y, Takahashi N, Kawaguchi T, Suzuki R, Yamamoto K, Kizaki M, Ohnishi K, Naoe T, Akashi K; New TARGET investigators** : Treatment outcomes of chronic-phase chronic myeloid leukemia with resistance and/or intolerance to a 1st-line tyrosine kinase inhibitor in Japan : the results of the New TARGET study 2nd-line. *Int J Hematol.* 111 : 812-825, 2020.
- 022 **Chatani S, Hasegawa T, Kato S, Murata S, Sato Y, Yamaura H, Yamamoto K, Yatabe Y, Inaba Y** : Image-guided core needle biopsy in the diagnosis of malignant lymphoma : comparison with surgical excision biopsy. *Eur J Radiol.* 2020 Jun;127 : 108990. PMID : 32304929
- 023 **DiNardo CD, Jonas BA, Pullarkat V, Thirman MJ, Garcia JS, Wei AH, Konopleva M, Döhner H, Letai A, Fenaux P, Koller E, Havelange V, Leber B, Esteve J, Wang J, Pejsa V, Hájek R, Porkka K, Illés Á, Lavie D, Lemoli RM, Yamamoto K, Yoon SS, Jang JH, Yeh SP, Turgut M, Hong WJ, Zhou Y, Potluri J, Pratz KW** : Azacitidine and Venetoclax in Previously Untreated Acute Myeloid Leukemia. *N Engl J Med.* 383 : 617-629, 2020.
- 024 **Inoue H, Taji H, Yamada K, Iriyama C, Saito T, Kato H, Yanada M, Yamamoto K, Matsukawa N** : Dasatinib-induced Reversible Demyelinating Peripheral Neuropathy and Successful Conversion to Nilotinib in Chronic Myelogenous Leukemia. *Intern Med.* 59 : 2419-2421, 2020.
- 025 **Kagami Y, Yamamoto K, Shibata T, Tobinai K, Imaizumi Y, Uchida T, Shimada K, Minauchi K, Fukuhara N, Kobayashi H, Yamauchi N, Tsujimura H, Hangaishi A, Tominaga R, Suehiro Y, Yoshida S, Inoue Y, Suzuki S, Tokuhira M, Kusumoto S, Kuroda J, Yakushijin Y, Takamatsu Y, Kubota Y, Nosaka K, Morishima S, Nakamura S, Ogura M, Maruyama D, Hotta T, Morishima Y, Tsukasaki K, Nagai H** : R-CHOP-14 versus R-CHOP-14/CHASER for upfront autologous transplantation in diffuse large B-cell lymphoma : JCOG0908 study. *Cancer Sci.* 111 : 3770-3779, 2020.
- 026 **Ono T, Takahashi N, Kizaki M, Kawaguchi T, Suzuki R, Yamamoto K, Ohnishi K, Naoe T, Matsumura I** : Prognostic effect of comorbidities in patients with chronic myeloid leukemia treated with a tyrosine kinase inhibitor. *Cancer Sci.* 111 : 3714-3725, 2020.
- 027 **Maruyama D, Terui Y, Yamamoto K, Fukuhara N, Choi I, Kuroda J, Ando K, Hattori A, Tobinai K** : Final results of a phase II study of nivolumab in Japanese patients with relapsed or refractory classical Hodgkin lymphoma. *Jpn J Clin Oncol.* 50 : 1265-1273, 2020.
- 028 **Fukuhara N, Kinoshita T, Yamamoto K, Nagai H, Izutsu K, Yamamoto G, Bhargava P, Rajakumaraswamy N, Humeniuk R, Mathias A, Xing G, Fukui M, Tobinai K** : Phase 1b study to investigate the safety and tolerability of idelalisib in Japanese patients with relapsed/refractory follicular lymphoma and chronic lymphocytic leukemia. *J Jpn J Clin Oncol.* 50(12) : 1395-1402, 2020.
- 029 **Kinoshita T, Hatake K, Yamamoto K, Higuchi Y, Murakami S, Terui Y, Yokoyama M, Maruyama D, Makita S, Hida Y, Saito T, Tobinai K** : Safety and pharmacokinetics of polatuzumab vedotin in Japanese patients with relapsed/refractory B-cell non-Hodgkin lymphoma : a phase 1 dose-escalation study. *Jpn J Clin Oncol.* 51(1) : 70-77, 2021.
- 030 **Hatake K, Chou T, Doi T, Terui Y, Kato H, Hirose T, Seo S, Pourdehnad M, Ogaki Y, Fujimoto H, Hagner PR, Yamamoto K** : A phase I, multicenter, dose-escalation study of avadomide in adult Japanese patients with advanced malignancies. *Cancer Sci.* 112 : 331-338, 2021.
- 031 **Ohmachi K, Kinoshita T, Tobinai K, Ogawa G, Mizutani T, Yamauchi N, Fukuhara N, Uchida T, Yamamoto K, Miyazaki K, Tsukamoto N, Iida S, Utsumi T, Yoshida I, Imaizumi Y,**

- Tokunaga T, Yoshida S, Masaki Y, Murayama T, Yakushijin Y, Suehiro Y, Nosaka K, Dobashi N, Kuroda J, Takamatsu Y, Maruyama D, Ando K, Ishizawa K, Ogura M, Yoshino T, Hotta T, Tsukasaki K, Nagai H* : Japan Clinical Oncology Group : A randomized phase 2/3 study of R-CHOP vs CHOP combined with dose-dense rituximab for DLBCL : the JCOG0601 trial. *Blood Adv.* 25 : 984-993, 2021.
- 032 *Izutsu K, Yamamoto K, Kato K, Ishikawa T, Fukuhara N, Terui Y, Choi I, Humphrey K, Kim SY, Okubo S, Ogawa N, Nishimura Y, Salem AH, Maruyama D* : Phase 1/2 study of venetoclax, a BCL-2 inhibitor, in Japanese patients with relapsed or refractory chronic lymphocytic leukemia and small lymphocytic lymphoma. *Int J Hematol.* 113 : 370-380, 2021.
- 033 上田格弘, 山本一仁 : 【話題】 低リスクアグレッシブ B 細胞リンパ腫に対して R-CHOP を減量できるか. *血液内科*, 81(6) : 227-831, 2020
- 034 山本一仁 : マントル細胞リンパ腫 若年者マントル細胞リンパ腫の治療. 金倉謙 監修, 木崎昌弘, 鈴木律朗, 神田喜伸, 大森司, 山崎宏人 編集 EBM 血液疾患の治療 2021-2022 (中外医学社) : pp282-288, 2021.
- 035 柳田正光 : Monosomal karyotype を有する急性骨髄性白血病の臨床的特徴. *血液内科* 80(4) : 495-499, 2020.
- 036 加藤春美 : Rituximab 維持療法 (PRIMA) の長期成績 科学評論社 *血液内科* 80(5), 2020.
- 037 加藤春美 : 高齢者濾胞性リンパ腫に対する治療方針と注意点 科学評論社 *血液内科* 81(2), 2020.
- Trastuzumab Beyond Progression in Patients With HER2-Positive Advanced Gastric or Gastroesophageal Junction Cancer : WJOG7112G (T-ACT Study). *J Clin Oncol*, 10;38(17) : 1919-1927, 2020.
- 004 *Kato K, Narita Y, Mitani S, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Muro K* : Efficacy of Cytotoxic Agents After Progression on Anti-PD-(L)1 Antibody for Pre-treated Metastatic Gastric Cancer. *Anticancer Res.* 40(4) : 2247-2255, 2020.
- 005 *Bando H, Kotani D, Tsushima T, Hara H, Kadowaki S, Kato K, Chin K, Yamaguchi K, Kageyama SI, Hojo H, Nakamura M, Tachibana H, Wakabayashi M, Fukutani M, Togashi Y, Fuse N, Nishikawa H, Kojima T* : TENERGY : multicenter phase II study of Atezolizumab monotherapy following definitive Chemoradiotherapy with 5-FU plus Cisplatin in patients with unresectable locally advanced esophageal squamous cell carcinoma. *BMC Cancer*, 20(1) : 336, 2020.
- 006 *Moriwaki T, Fukuoka S, Masuishi T, Takashima A, Kumekawa Y, Kajiwara T, Yamazaki K, Esaki T, Makiyama A, Denda T, Hatachi Y, Suto T, Sugimoto N, Enomoto M, Ishikawa T, Kashiwada T, Oki E, Komatsu Y, Tsuji A, Tsuchihashi K, Sakai D, Ueno H, Tamura T, Yamashita K, Shimada Y* : Prognostic scores for evaluating the survival benefit of regorafenib or trifluridine/tipiracil in patients with metastatic colorectal cancer : an exploratory analysis of the REGOTAS study. *Int J Clin Oncol*, 25(4) : 614-621, 2020.
- 007 *Kang YK, Bang YJ, Kondo S, Chung HC, Muro K, Dussault I, Helwig C, Osada M, Doi T* : Safety and Tolerability of Bintrafusp Alfa, a Bifunctional Fusion Protein Targeting TGF- β and PD-L1, in Asian Patients with Pretreated Recurrent or Refractory Gastric Cancer. *Clin Cancer Res.* 26(13) : 3202-3210, 2020.
- 008 *Kawai S, Fukuda N, Yamamoto S, Mitani S, Omae K, Wakatsuki T, Kato K, Kadowaki S, Takahari D, Boku N, Muro K, Machida N* : Retrospective observational study of salvage line ramucirumab monotherapy for patients with advanced gastric cancer. *BMC Cancer*, 20(1) : 338, 2020.
- 009 *Iwase M, Ando M, Aogi K, Aruga T, Inoue K, Shimomura A, Tokunaga E, Masuda N, Yamauchi H, Yamashita T, Iwata H* : Long-term survival analysis of addition of carboplatin to neoadjuvant chemotherapy in HER2-negative breast cancer. *Breast Cancer Res Treat*, 180(3) : 687-694, 2020.
- 010 *Kato K, Doki Y, Ura T, Hamamoto Y, Kojima T, Tsushima T, Hironaka S, Hara H, Kudo T, Iwasa S, Muro K, Yasui H, Minashi K, Yamaguchi K, Ohtsu A, Kitagawa Y* : Long-term efficacy and predictive correlates of response to nivolumab in Japanese patients with esophageal cancer. *Cancer Sci*, 111(5) : 1676-1684, 2020.
- 011 *Nomura M, Oze I, Masuishi T, Yokota T, Satake H, Iwasawa S, Kato K, Andoh M* : Multicenter prospective phase II trial

薬物療法部

- 001 *Chen LT, Satoh T, Ryu MH, Chao Y, Kato K, Chung HC, Chen JS, Muro K, Kang WK, Yeh KH, Yoshikawa T, Oh SC, Bai LY, Tamura T, Lee KW, Hamamoto Y, Kim JG, Chin K, Oh DY, Minashi K, Cho JY, Tsuda M, Sameshima H, Kang YK, Boku N* : A phase 3 study of nivolumab in previously treated advanced gastric or gastroesophageal junction cancer (ATTRACTION-2) : 2-year update data. *Gastric Cancer*, 23(3) : 510-519, 2020.
- 002 *Nakajima TE, Yamaguchi K, Boku N, Hyodo I, Mizusawa J, Hara H, Nishina T, Sakamoto T, Shitara K, Shinozaki K, Katayama H, Nakamura S, Muro K, Terashima M* : Randomized phase II/III study of 5-fluorouracil/l-leucovorin versus 5-fluorouracil/l-leucovorin plus paclitaxel administered to patients with severe peritoneal metastases of gastric cancer (JCOG1108/WJOG7312G). *Gastric Cancer*, 23(4) : 677-688, 2020.
- 003 *Makiyama A, Sukawa Y, Kashiwada T, Kawada J, Hosokawa A, Horie Y, Tsuji A, Moriwaki T, Tanioka H, Shinozaki K, Uchino K, Yasui H, Tsukuda H, Nishikawa K, Ishida H, Yamanaka T, Yamazaki K, Hironaka S, Esaki T, Boku N, Hyodo I, Muro K* : Randomized, Phase II Study of

- of nivolumab in patients with unresectable or metastatic mucosal melanoma. *Int J Clin Oncol*, 25(5) : 972-977, 2020.
- 012 **Kotani D, Bando H, Taniguchi H, Masuishi T, Komatsu Y, Yamaguchi K, Nakajima T, Satoh T, Nishina T, Esaki T, Nomura S, Takahashi K, Iida S, Matsuda S, Motonaga S, Fuse N, Sato A, Fujii S, Ohtsu A, Ebi H, Yoshino T** : BIG BANG study (EPOC1703) : multicentre, proof-of-concept, phase II study evaluating the efficacy and safety of combination therapy with binimetinib, encorafenib and cetuximab in patients with BRAF non-V600E mutated metastatic colorectal cancer. *ESMO Open*, 5(1) : e000624, 2020.
- 013 **Mitani S, Kadowaki S, Komori A, Kondoh C, Oze I, Kato K, Masuishi T, Honda K, Narita Y, Taniguchi H, Ando M, Tanaka T, Tajika M, Muro K** : A Phase II Study of Modified FOLFOX6 for Advanced Gastric Cancer Refractory to Standard Therapies. *Adv Ther*, 37(6) : 2853-2864, 2020.
- 014 **Kadota T, Tsukada Y, Ito M, Katayama H, Mizusawa J, Nakamura N, Ito Y, Bando H, Ando M, Onaya H, Fukuda H, Kanemitsu Y** : A phase III randomized controlled trial comparing surgery plus adjuvant chemotherapy with preoperative chemoradiotherapy followed by surgery plus adjuvant chemotherapy for locally recurrent rectal cancer : Japan Clinical Oncology Group study JCOG1801 (RC-SURVIVE study). *Jpn J Clin Oncol*, 50(8) : 953-957, 2020.
- 015 **Kang YK, Chin K, Chung HC, Kadowaki S, Oh SC, Nakayama N, Lee KW, Hara H, Chung JJ, Tsuda M, Park SH, Hosaka H, Hironaka S, Miyata Y, Ryu MH, Baba H, Hyodo I, Bang YJ, Boku N** : S-1 plus leucovorin and oxaliplatin versus S-1 plus cisplatin as first-line therapy in patients with advanced gastric cancer (SOLAR) : a randomised, open-label, phase 3 trial. *Lancet Oncol*, 21(8) : 1045-1056, 2020.
- 016 **Taniguchi H, Uehara K, Nakayama G, Nakayama H, Aiba T, Hattori N, Kataoka M, Nakano Y, Kawase Y, Okochi O, Matsuoka H, Utsunomiya S, Sakamoto E, Mori Y, Umeda S, Shikano T, Komori K, Tajika M, Kadowaki S, Muro K, Yatabe Y** : Tumor Location Is Associated With the Prevalence of Braf And Pik3ca Mutations in Patients with Wild-Type Ras Colorectal Cancer : A Prospective Multi-Center Cohort Study in Japan. *Transl Oncol*, 13(7) : 100786, 2020.
- 017 **Narita Y, Kadowaki S, Muro K** : Immune checkpoint inhibitor plus anti-HER2 therapy : a new standard for HER2-positive oesophagogastric cancer? . *Lancet Oncol*, 21(6) : 741-743, 2020.
- 018 **Masuishi T, Nakajima TE, Yamazaki K, Hironaka S, Kudo C, Yoshimura K, Muro K** : WJOG10517G : a multicenter Phase II study of mFOLFOX6 in gastric cancer patients with severe peritoneal metastases. *Future Oncol*, 16(20) : 1417-1424, 2020.
- 019 **Murono K, Nozawa H, Nagata H, Ishimaru K, Sonoda H, Emoto S, Kaneko M, Sasaki K, Otani K, Kawai K, Muro K, Ishihara S** : Efficacy of intraperitoneally administered paclitaxel for colorectal cancer with peritoneal metastases. *Int J Colorectal Dis*, 35(10) : 1945-1949, 2020.
- 020 **Sakai D, Taniguchi H, Sugimoto N, Tamura T, Nishina T, Hara H, Esaki T, Denda T, Sakamoto T, Okuda H, Satoh T, Tsushima T, Makiyama A, Tsuda T, Hosokawa A, Kuramochi H, Tokunaga S, Moriwaki T, Yasui H, Ishida H, Tsuji A, Otsu S, Shimokawa H, Baba E, Sato M, Matsumoto S, Ozaki Y, Shinozaki K, Tamagawa H, Goto M, Kadowaki S, Fujii H, Koh Y, Yamazaki K, Hironaka S, Kishimoto J, Boku N, Hyodo I, Muro K** : Randomised phase II study of panitumumab plus irinotecan versus cetuximab plus irinotecan in patients with KRAS wild-type metastatic colorectal cancer refractory to fluoropyrimidine, irinotecan and oxaliplatin (WJOG 6510G). *Eur J Cancer*, 135 : 11-21, 2020.
- 021 **Hirata K, Hamamoto Y, Ando M, Imamura CK, Yoshimura K, Yamazaki K, Hironaka S, Muro K** : Weekly paclitaxel plus ramucirumab versus weekly nab-paclitaxel plus ramucirumab for unresectable advanced or recurrent gastric cancer with peritoneal dissemination refractory to first-line therapy-the P-SELECT trial (WJOG10617G)-a randomised phase II trial by the West Japan Oncology Group. *BMC Cancer*, 20 (1) : 548, 2020.
- 022 **Masuishi T, Taniguchi H, Komori A, Mitani S, Narita Y, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Muro K** : Phase I Study of Alternate-Day Administration of S-1, Oral Leucovorin, and Bevacizumab for Refractory Metastatic Colorectal Cancer. *Oncologist*, 25(11) : e1614-e1620, 2020.
- 023 **Taniguchi H, Yamanaka T, Sakai D, Muro K, Yamazaki K, Nakata S, Kimura H, Ruff P, Kim TW, Peeters M, Price T** : Efficacy of panitumumab and cetuximab in patients with colorectal cancer previously treated with bevacizumab; a combined analysis of individual patient data from ASPCCCT and WJOG6510G. *Cancers (Basel)*, 12(7) : 1715, 2020.
- 024 **Miyo M, Kato T, Yoshino T, Yamanaka T, Bando H, Satake H, Yamazaki K, Taniguchi H, Oki E, Kotaka M, Oba K, Miyata Y, Muro K, Komatsu Y, Baba H, Tsuji A** : Protocol of the QUATTRO-II study : a multicenter randomized phase II study comparing CAPOXIRI plus bevacizumab with FOLFOXIRI plus bevacizumab as a first-line treatment in patients with metastatic colorectal cancer. *BMC Cancer*, 20(1) : 687, 2020.
- 025 **Abe T, Higaki E, Hosoi T, Nagao T, Bando H, Kadowaki S, Muro K, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y, Shimizu Y** : Long-Term Outcome of Patients with Locally Advanced Clinically Unresectable Esophageal Cancer Undergoing Conversion Surgery after Induction Chemotherapy with

- Docetaxel Plus Cisplatin and 5-Fluorouracil. *Ann Surg Oncol*, 28(2) : 712-721, 2021.
- 026 **Hosokawa A, Yamazaki K, Matsuda C, Ueda S, Kusaba H, Okamura S, Tsuda M, Tamura T, Shinozaki K, Tsushima T, Tsuda T, Shirakawa T, Yamashita H, Morita S, Hironaka S, Muro K** : Morphologic response to chemotherapy containing bevacizumab in patients with colorectal liver metastases : A post hoc analysis of the WJOG4407G phase III study. *Medicine (Baltimore)*, 99(36) : e22060, 2020.
- 027 **Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Yamada K, Abe T, Higaki E, Hosoi T, Inaba Y, Muro K, Shimizu M, Niwa Y** : Prognostic impact of sarcopenic obesity after neoadjuvant chemotherapy followed by surgery in elderly patients with esophageal squamous cell carcinoma. *J Clin Med*, 9(9) : 2974, 2020.
- 028 **Narita Y, Shoji H, Kawai S, Mizukami T, Nakamura M, Moriwaki T, Yamanaka T, Sunakawa Y, Kawakami H, Nishina T, Misumi T, Muro K** : REVIVE study : a prospective observational study in chemotherapy after nivolumab therapy for advanced gastric cancer. *Future Oncol*, 17(8) : 869-875, 2021.
- 029 **Izawa N, Shitara K, Yonesaka K, Yamanaka T, Yoshino T, Sunakawa Y, Masuishi T, Denda T, Yamazaki K, Moriwaki T, Okuda H, Kondoh C, Nishina T, Makiyama A, Baba H, Yamaguchi H, Nakamura M, Hyodo I, Muro K, Nakajima TE** : Early Tumor Shrinkage and Depth of Response in the Second-Line Treatment for KRAS exon2 Wild-Type Metastatic Colorectal Cancer : An Exploratory Analysis of the Randomized Phase 2 Trial Comparing Panitumumab and Bevacizumab in Combination with FOLFIRI (WJOG6210G). *Target Oncol*, 15(5) : 623-633, 2020.
- 030 **Kojima T, Shah MA, Muro K, Francois E, Adenis A, Hsu CH, Doi T, Moriwaki T, Kim SB, Lee SH, Bennouna J, Kato K, Shen L, Enzinger P, Qin SK, Ferreira P, Chen J, Giroto G, de la Fouchardiere C, Senellart H, Al-Rajabi R, Lordick F, Wang R, Suryawanshi S, Bhagia P, Kang SP, Metges JP** : KEYNOTE-181 Investigators : Randomized phase III KEYNOTE-181 study of pembrolizumab versus chemotherapy in advanced esophageal cancer. *J Clin Oncol*, 38(35) : 4138-4148, 2020.
- 031 **Watanabe M, Tachimori Y, Oyama T, Toh Y, Matsubara H, Ueno M, Kono K, Uno T, Ishihara R, Muro K, Numasaki H, Tanaka K, Ozawa S, Murakami K, Usune S, Takahashi A, Miyata H** : Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2013. ; Registration Committee for Esophageal Cancer of the Japan Esophageal Society. *Esophagus*, 18(1) : 1-24, 2020.
- 032 **Arai H, Kawahira M, Yasui H, Masuishi T, Muro K, Nakajima TE** : Second-line chemotherapy using taxane in patients with advanced gastric cancer who presented with severe peritoneal metastasis : a multicenter retrospective study. *Int J Clin Oncol*, 26(2) : 355-363, 2021.
- 033 **Miura Y, Ando M, Yamazaki K, Hironaka S, Boku N, Muro K, Hyodo I** : Time-dependent discrepancies between physician-assessed and patient-reported oxaliplatin-induced peripheral neuropathy in patients with metastatic colorectal cancer who received mFOLFOX6 plus bevacizumab : a post hoc analysis (WJOG4407GSS2). *Support Care Cancer*, 29(7) : 3715-3723, 2021.
- 034 **Minatogawa H, Izawa N, Kawaguchi T, Miyaji T, Shimomura K, Honda K, Iihara H, Ohno Y, Inada Y, Arioka H, Morita H, Hida H, Sugawara M, Katada C, Nawata S, Ishida H, Tsuboya A, Tsuda T, Yamaguchi T, Nakajima TE** : Study protocol for SPARED trial : randomised non-inferiority phase III trial comparing dexamethasone on day 1 with dexamethasone on days 1-4, combined with neurokinin-1 receptor antagonist, palonosetron and olanzapine (5 mg) in patients receiving cisplatin-based chemotherapy. *BMJ Open*, 10(12) : e041737, 2020.
- 035 **Yamada Y, Muro K, Takahashi K, Baba H, Komatsu Y, Satoh T, Goto M, Mishima H, Watanabe M, Sakata Y, Morita S, Shimada Y, Takenaka N, Hirooka T, Sugihara K** : Impact of sex and histology on the therapeutic effects of fluoropyrimidines and oxaliplatin plus bevacizumab for patients with metastatic colorectal cancer in the SOFT trial. *Glob Health Med*, 2(4) : 240-246, 2020.
- 036 **Kito Y, Satake H, Taniguchi H, Yamada T, Horie Y, Esaki T, Denda T, Yasui H, Izawa N, Masuishi T, Moriwaki T, Mori K, Yamazaki K** : Phase Ib study of FOLFOXIRI plus ramucirumab as first-line treatment for patients with metastatic colorectal cancer. *Cancer Chemother Pharmacol*, 86(2) : 277-284, 2020.
- 037 **Kobayashi S, Takahashi S, Takahashi N, Masuishi T, Shoji H, Shinozaki E, Yamaguchi T, Kojima M, Gotohda N, Nomura S, Yoshino T, Taniguchi H** : Survival Outcomes of Resected BRAF V600E Mutant Colorectal Liver Metastases : A Multicenter Retrospective Cohort Study in Japan. *Ann Surg Oncol*, 27(9) : 3307-3315, 2020.
- 038 **Ogata T, Narita Y, Misawa K, Hosoda W, Muro K** : Marked improvement of oral intake with nivolumab monotherapy in a patient with microsatellite instability-high gastric cancer with insufficient oral intake. *Clin Case Rep*, 9(1) : 50-56, 2020.
- 039 **Onishi S, Tajika M, Bando H, Matsubara Y, Hosoda W, Muro K, Niwa Y** : Ursodeoxycholic acid and bezafibrate were useful for steroid-refractory, immune-related hepatitis : a case report. *J Med Case Rep*, 14(1) : 230, 2020.
- 040 **Nozawa K, Narita Y, Hosoda W, Muro K** : Dramatic Response in a Patient with Metastatic Gastric Cancer Using Trifluridine/Tipiracil after Rapid Disease Progression while on Nivolumab. *Case Rep Oncol*, 13(3) :

- 1381-1386, 2020.
- 041 **Masuishi T, Tsuji A, Kotaka M, Nakamura M, Kochi M, Takagane A, Shimada K, Denda T, Segawa Y, Tanioka H, Hara H, Sagawa T, Watanabe T, Takahashi T, Negoro Y, Manaka D, Fujita H, Suto T, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M** : Phase 2 study of irinotecan plus cetuximab rechallenge as third-line treatment in KRAS wild-type metastatic colorectal cancer : JACCRO CC-08. *Br J Cancer*, 123(10) : 1490-1495, 2020.
- 042 **Nakajima TE, Kadowaki S, Minashi K, Nishina T, Yamanaka T, Hayashi Y, Izawa N, Muro K, Hironaka S, Kajiwara T, Kawakami Y** : Multicenter Phase I/II Study of Nivolumab Combined with Paclitaxel Plus Ramucirumab as Second-line Treatment in Patients with Advanced Gastric Cancer. *Clin Cancer Res*, 27(4) : 1029-1036, 2021.
- 043 **Nakayama G, Takano N, Taniguchi H, Ishigure K, Yokoyama H, Teramoto H, Hashimoto R, Sakai M, Ishiyama A, Kinoshita T, Hayashi N, Nakamura M, Hattori N, Sato Y, Umeda S, Uehara K, Aiba T, Sonohara F, Hayashi M, Kanda M, Kobayashi D, Tanaka C, Yamada S, Koike M, Fujiwara M, Murotani K, Ando M, Ando Y, Muro K, Kadera Y** : Randomised phase II trial of capecitabine plus oxaliplatin with continuous versus intermittent use of oxaliplatin as adjuvant chemotherapy for stage II/III colon cancer (CCOG-1302 study). *Eur J Cancer*, 144 : 61-71, 2021.
- 044 **Cascinu S, Bodoky G, Muro K, Van Cutsem E, Oh SC, Folprecht G, Ananda S, Grotto G, Wainberg ZA, Miron MLL, Ajani J, Wei R, Liepa AM, Carlesi R, Emig M, Ohtsu A** : Tumor Response and Symptom Palliation from RAINBOW, a Phase III Trial of Ramucirumab Plus Paclitaxel in Previously Treated Advanced Gastric Cancer. *Oncologist*, 26(3) : e414-e424, 2021.
- 045 **Yamaguchi K, Shimada Y, Hironaka S, Sugimoto N, Komatsu Y, Nishina T, Omuro Y, Tamura T, Piao Y, Homma G, Jen MH, Liepa AM, Muro K** : Quality of Life Associated with Ramucirumab Treatment in Patients with Advanced Gastric Cancer in Japan : Exploratory Analysis from the Phase III RAINBOW Trial. *Clin Drug Investig*, 41(1) : 53-64, 2021.
- 046 **Hasegawa H, Taniguchi H, Nakamura Y, Kato T, Fujii S, Ebi H, Shiozawa M, Yuki S, Masuishi T, Kato K, Izawa N, Moriwaki T, Oki E, Kagawa Y, Denda T, Nishina T, Tsuji A, Hara H, Esaki T, Nishida T, Kawakami H, Sakamoto Y, Miki I, Okamoto W, Yamazaki K, Yoshino T** : FMS-like tyrosine kinase 3 (FLT3) amplification in patients with metastatic colorectal cancer. *Cancer Sci*, 112(1) : 314-322, 2021.
- 047 **Takahashi M, Kato K, Okada M, Chin K, Kadowaki S, Hamamoto Y, Doki Y, Kubota Y, Kawakami H, Ogata T, Hara H, Muto M, Nakashima Y, Ishihara R, Tsuda M, Motoyama S, Kodani M, Kitagawa Y** : Nivolumab versus chemotherapy in Japanese patients with advanced esophageal squamous cell carcinoma : a subgroup analysis of a multicenter, randomized, open-label, phase 3 trial (ATTRACTION-3). *Esophagus*, 18(1) : 90-99, 2021.
- 048 **Nishikawa D, Suzuki H, Beppu S, Terada H, Sawabe M, Kadowaki S, Sone M, Hanai N** : Eosinophil prognostic scores for patients with head and neck squamous cell carcinoma treated with nivolumab. *Cancer Sci*, 112(1) : 339-346, 2021.
- 049 **Kawakami H, Hironaka S, Esaki T, Chayama K, Tsuda M, Sugimoto N, Kadowaki S, Makiyama A, Machida N, Hirano H, Hirata K, Hara H, Yabusaki H, Komatsu Y, Muro K** : An Investigator-Initiated Phase 2 Study of Nivolumab Plus Low-Dose Ipilimumab as First-Line Therapy for Microsatellite Instability-High Advanced Gastric or Esophagogastric Junction Cancer (NO LIMIT, WJOG13320G/CA209-7W7). *Cancers (Basel)*, 13(4) : 805, 2021.
- 050 **Suzuki S, Takahashi A, Ishikawa T, Akazawa K, Katai H, Isobe Y, Miyashiro I, Ono H, Tanabe S, Fukagawa T, Muro K, Nunobe S, Kadowaki S, Suzuki H, Irino T, Usune S, Miyata H, Kakeji Y** : Registration Committee of the Japanese Gastric Cancer Association : Surgically treated gastric cancer in Japan : 2011 annual report of the national clinical database gastric cancer registry. *Gastric Cancer*, 24(3) : 545-566, 2021.
- 051 **Chida K, Kotani D, Moriwaki T, Fukuoka S, Masuishi T, Takashima A, Kumekawa Y, Kajiwara T, Yamazaki K, Komoda M, Makiyama A, Denda T, Hatachi Y, Suto T, Sugimoto N, Enomoto M, Ishikawa T, Kashiwada T, Ando K, Yuki S, Okita Y, Kusaba H, Sakai D, Okamoto K, Tamura T, Yamashita K, Goshō M, Shimada Y** : Survival Benefit of Crossover Administration of Regorafenib and Trifluridine/Tipiracil Hydrochloride for Patients With Metastatic Colorectal Cancer : Exploratory Analysis of a Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum Multicenter Observational Study (REGOTAS). *Front Oncol*, 11 : 576036, 2021.
- 052 **Kamphues C, Kadowaki S, Amini N, van den Berg I, Wang J, Andreatos N, Sakamoto Y, Ogura T, Kakuta M, Pikouli A, Geka D, Daitoku N, Theochari M, Buettner S, Akiyama T, Antoniou E, Pikoulis E, Theodoropoulos G, Imai K, Ijzermans JNM, Margonis GA, Akagi K, Kreis ME** : The interplay of KRAS mutational status with tumor laterality in non-metastatic colorectal cancer : An international, multi-institutional study in patients with known KRAS, BRAF, and MSI status. *J Surg Oncol*, 123(4) : 1005-1014, 2021.
- 053 **門脇重憲, 室 圭** : 【がん免疫療法の最前線】他領域における免疫療法のupdate「胃癌」. *JOHNS* 36 巻 4 号, 東京医学社 : 467-472, 2020.
- 054 **能澤一樹, 室 圭** : 免疫チェックポイント阻害薬の概要. *臨牀消化器内科* Vol. 35 No. 5 : 463-470, 2020.
- 055 **室 圭** : 消化器癌におけるがん免疫療法の進展. *がん免疫療法* Vol. 4 No. 1, メディカルレビュー社 : 10-17, 2020.

- 056 坂東英明：MSS 消化管がんに対する免疫チェックポイント阻害薬の臨床開発と展望。腫瘍内科 第 25 巻第 6 号，科学評論社：635-642, 2020.
- 057 舩石俊樹：BRAF・HER2 陽性大腸がんの治療開発の現状と展望。腫瘍内科 第 25 巻第 6 号，科学評論社：667-673, 2020.
- 058 松原裕樹，室 圭：免疫チェックポイント阻害薬。見えてきた臨床ケア図鑑 消化器ビジュアルナーシング 改訂第 2 版，学研メディカル秀潤社：120-124, 2020.
- 059 室 圭：日経ドラッグインフォメーション プレミアム版 No275, 日経 B P：005, 2020.
- 060 室 圭：Lower G. I./Colon and Rectum Cancer 大腸癌 大腸癌における各種希少遺伝子異常の診断と治療。癌と化学療法 Vol. 47 第 11 号，癌と化学療法社：1557-1558, 2020.
- 061 能澤一樹：大腸癌治療におけるサルコペニアとがん悪液質。癌と化学療法 Vol. 47 第 11 号，癌と化学療法社：1547-1551, 2020.
- 062 中澤泰子，坂東英明：I。MSI-H/dMMR 大腸癌の診断と治療。癌と化学療法 Vol. 47 第 11 号，癌と化学療法社：1559-1564, 2020.
- 063 緒方貴次，舩石俊樹：III。融合遺伝子陽性大腸癌の診断と治療。癌と化学療法 Vol. 47 第 11 号，癌と化学療法社：1570-1575, 2020.
- 064 緒方貴次，成田有季哉，室 圭：MSI-high 固形癌に対する免疫チェックポイント阻害薬治療と当院における MSI 検査体制。臨床外科 第 75 巻 第 8 号，医学書院：958-966, 2020.
- 065 門脇重憲：胃がん化学療法の臨床開発と展望。明日の臨床 2020 Vol. 32 No. 1, 愛知保険医協会：1-8, 2020.
- 066 門脇重憲：抗がん剤をいつやめるか？ どうやめるか？。「胃がん」第 1 版，日本医事新報社：56-63, 2020.
- 067 熊西亮介，坂東英明：各種がんにおける薬物療法トピックス -大腸がん-。現代医学，67 巻 2 号，公益社団法人愛知県医師会：18-24, 2020.
- 068 室 圭：オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：2021.
- 069 能澤一樹，成田有季哉：トラスツズマブ デルクステカン。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：70-72, 2021.
- 070 坂東英明：パクリタキセル (nab-パクリタキセル)/ラムシルマブ。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：108-111, 2021.
- 071 加藤恭子，舩石俊樹：レゴラフェニブ。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：143-144, 2021.
- 072 能澤一樹，坂東英明：ペムプロリズマブ。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：170-174, 2021.
- 073 松原裕樹：シスプラチン/エトポシド。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：175-176, 2021.
- 074 熊西亮介，門脇重憲：食道癌一次治療。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：184-190, 2021.
- 075 熊西亮介，門脇重憲：食道癌化学放射線療法。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：191-198, 2021.
- 076 熊西亮介，門脇重憲：食道癌二次治療以降 (化学療法)。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：199-204, 2021.
- 077 中澤泰子，門脇重憲：胃癌一次治療 HER2 陰性 (化学療法)。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：209-217, 2021.
- 078 熊西亮介，成田有季哉：胃癌二次治療 化学療法。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：222-230, 2021.
- 079 緒方貴次，成田有季哉：胃癌二次治療 分子標的薬。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：231-241, 2021.
- 080 緒方貴次，成田有季哉：胃癌三次治療以降。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：242-250, 2021.
- 081 能澤一樹，舩石俊樹：大腸癌一次治療 VEGF 阻害薬。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：259-264, 2021.
- 082 松原裕樹，舩石俊樹：大腸癌二次治療。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：273-279, 2021.
- 083 中澤泰子，舩石俊樹：GIST 一次治療。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：315-318, 2021.
- 084 中澤泰子，舩石俊樹：GIST 二次治療以降。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：319-321, 2021.
- 085 本多和典：irAE。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：327, 2021.
- 086 松原裕樹，坂東英明：食道。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：330-337, 2021.
- 087 緒方貴次，成田有季哉：胃癌。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：338-350, 2021.
- 088 松原裕樹，坂東英明：大腸癌。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：351-356, 2021.
- 089 能澤一樹，室 圭：アナモレリン。オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法改訂 5 版，南山堂：391, 2021.
- 090 室 圭：消化器癌に対する免疫療法の現状と展望。消化器疾患最新の治療 2021-2022, 南江堂：10-14, 2021.
- 091 緒方貴次，坂東英明：ESMO meeting report 2) 消化管がん。腫瘍内科 第 27 巻第 2 号，科学評論社：204-211, 2021.
- 092 安藤正志：原発不明がん，医学と看護社：2021.

臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 **Noë M, Niknafs N, Fischer CG, Hackeng WM, Beleva Guthrie V, Hosoda W, Debeljak M, Papp E, Adleff V, White JR, Luchini C, Pea A, Scarpa A, Butturini G, Zamboni G, Castelli P, Hong SM, Yachida S, Hiraoka N, Gill AJ, Samra JS, Offerhaus GJA, Hoorens A, Verheij J, Jansen C, Adsay NV, Jiang W, Winter J, Albores-Saavedra J, Terris B, Thompson ED, Roberts NJ, Hruban RH, Karchin R, Scharpf RB, Brosens LAA, Velculescu VE, Wood LD** : Genomic characterization of malignant progression in neoplastic pancreatic cysts. *Nat Commun*, 14;11(1) : 4085, 2020.
- 002 **Furuta H, Araki M, Masago K, Sagae Y, Fujita S, Seto K, Shimizu J, Horio Y, Sasaki E, Hosoda W, Katayama R, Okuno Y, Hida T** : Novel Resistance Mechanisms Including L1196Q, P1094H, and R1248_D1249 Insertion in Three Patients With NSCLC After ALK Tyrosine Kinase Inhibitor Treatment. *J Thorac Oncol*, 6 : S1556-0864(20)30803-0, 2020 .
- 003 **Kagawa Y, Furuta H, Uemura T, Watanabe N, Shimizu J, Horio Y, Kuroda H, Inaba Y, Kodaira T, Masago K, Fujita S, Niimi A, Hida T** : Efficacy of local therapy for oligoprogressive disease after programmed cell death 1 blockade in advanced non-small cell lung cancer. *Cancer Sci*, 111(12) : 4442-4452, 2020.
- 004 **Masago K, Seto K, Fujita S, Sasaki E, Hosoda W, Kuroda H** : Long-term recurrence of completely resected non-small cell lung cancer . *JTO Clinical and Research Reports*, 1(3) : 100076, 2020.
- 005 **Shimizu J, Masago K, Saito H, Nishino K, Kurata T, Itoh Y, Yoshimura Y, Yabuki Y, Dosaka-Akita H** : Biomarker testing for personalized, first-line therapy in advanced nonsquamous non-small cell lung cancer patients in the real world setting in Japan : a retrospective, multicenter, observational study (the BRAVE study). *Ther Adv Med Oncol*, 22;12 : 1758835920904522, 2020.
- 006 **Ishikawa E, Nakamura M, Shimada K, Tanaka T, Satou A, Kohno K, Sakakibara A, Furukawa K, Yamamura T, Miyahara R, Nakamura S, Kato S, Fujishiro M** : Prognostic impact of PD-L1 expression in primary gastric and intestinal diffuse large B-cell lymphoma. *J Gastroenterol*. 2020 Jan;55(1) : 39-50, 2020. .
- 007 **Eladl AE, Shimada K, Suzuki Y, Takahara T, Kato S, Kohno K, Elsayed AA, Wu CC, Tokunaga T, Kinoshita T, Sakata-Yanagimoto M, Nakamura S, Satou A** : EBV status has prognostic implication among young patients with angioimmunoblastic T-cell lymphoma. *Cancer Med*, 9(2) : 678-688, 2020.
- 008 **Kohno K, Sakakibara A, Iwakoshi A, Hasegawa M, Adachi S, Ishikawa E, Suzuki Y, Shimada S, Nakaguro M, Shimoyama Y, Takahara T, Takahashi E, Ohashi A, Satou A, Kato S, Asano N, Nakamura S** : Syncytial variant of classic Hodgkin lymphoma : Four cases diagnosed with the aid of CD274/programmed cell death ligand 1 immunohistochemistry. *Pathol Int*, 2020 Feb;70(2) : 108-115, 2020.
- 009 **Sakakibara A, Kohno K, Iwakoshi A, Moritani S, Fujishiro A, Kito K, Suzuki Y, Shimada S, Nakaguro M, Shimoyama Y, Takahara T, Takahashi E, Ohashi A** : Diagnostic utility of programmed cell death ligand 1 (clone SP142) in mediastinal composite lymphoma : A report of two cases, 2020.
- 010 **Seto K, Haneda M, Masago K, Fujita S, Kato S, Sasaki E, Hosoda W, Murakami Y, Kuroda H, Horio Y, Hida T, Okubo K, Yatabe Y** : Negative reactions of BRAF mutation-specific immunohistochemistry to non-V600E mutations of BRAF. *Pathol Int*, 70(5) : 253-261, 2020.
- 011 **Kohno K, Suzuki Y, Elsayed AA, Sakakibara A, Takahara T, Satou A, Kato S, Nakamura S, Asano N** : Immunohistochemical Assessment of the Diagnostic Utility of PD-L1 (Clone SP142) for Methotrexate-Associated Lymphoproliferative Disorders With an Emphasis of Neoplastic PD-L1 (Clone SP142)-Positive Classic Hodgkin Lymphoma Type. *Am J Clin Pathol*, 15;153(5) : 571-582, 2020.
- 012 **Chatani S, Hasegawa T, Kato S, Murata S, Sato Y, Yamaura H, Yamamoto K, Yatabe Y, Inaba Y** : Image-guided core needle biopsy in the diagnosis of malignant lymphoma : comparison with surgical excision biopsy. *Eur J Radiol*, 127 : 108990, 2020.
- 013 **Miyagi S, Ishikawa E, Nakamura M, Shimada K, Yamamura T, Furukawa K, Tanaka T, Mabuchi S, Tsuyuki Y, Kohno K, Sakakibara A, Satou A, Kato S, Fujishiro M, Nakamura S** : Reappraisal of Primary Epstein-Barr Virus (EBV)-positive Diffuse Large B-Cell Lymphoma of the Gastrointestinal Tract : Comparative Analysis Among Immunosuppressed and Nonimmunosuppressed Stage I and II-IV Patients. *Am J Surg Pathol*, 44(9) : 1173-1183, 2020.
- 014 **Suzuki Y, Kohno K, Matsue K, Sakakibara A, Ishikawa E, Shimada S, Shimada K, Mabuchi S, Takahara T, Kato S, Nakamura S, Satou A** : PD-L1 (SP142) expression in neoplastic cells predicts a poor prognosis for patients with intravascular large B-cell lymphoma treated with rituximab-based multi-agent chemotherapy. *Cancer Med*, 9(13) : 4768-4776, 2020.
- 015 **Sakakibara A, Kohno K, Ishikawa E, Suzuki Y, Shimada S, Eladl AE, Elsayed AA, Daroontum T, Satou A, Takahara T, Ohashi A, Takahashi E, Kato S, Nakamura S, Asano N** : Age-related EBV-associated B-cell lymphoproliferative disorders and other EBV + lymphoproliferative diseases : New insights into immune escape and immunodeficiency through staining with anti-PD-L1 antibody clone SP142. *Pathol Int*, 70(8) : 481-492, 2020.

016 Yamashita D, Shimada K, Kohno K, Kogure Y, Kataoka K, Takahara T, Suzuki Y, Satou A, Sakakibara A, Nakamura S, Asano N, Kato S : PD-L1 expression on tumor or stromal cells of nodal cytotoxic T-cell lymphoma : A clinicopathological study of 50 cases. *Pathol Int*, 70(8) : 513-522, 2020.

017 Kato S, Yamashita D, Nakamura S : Nodal EBV+ cytotoxic T-cell lymphoma : A literature review based on the 2017 WHO classification. *J Clin Exp Hematop*, 60(2) : 30-36, 2020.

018 Suzuki M, Cao K, Kato S, Mizutani N, Tanaka K, Arima C, Tai MC, Nakatani N, Yanagisawa K, Takeuchi T, Shi H, Mizutani Y, Niimi A, Taniguchi T, Fukui T, Yokoi K, Wakahara K, Hasegawa Y, Mizutani Y, Iwaki S, Fujii S, Satou A, Tamiya-Koizumi K, Murate T, Kyogashima M, Tomida S, Takahashi T : CERS6 required for cell migration and metastasis in lung cancer. *J Cell Mol Med*, 24(20) : 11949-11959, 2020.

019 Matsui T, Sakakura N, Koyama S, Nakanishi K, Sasaki E, Kato S, Hosoda W, Murakami Y, Kuroda H, Yatabe Y : Comparison of Surgical Outcomes Between Invasive Mucinous and Non-Mucinous Lung Adenocarcinoma. *Ann Thorac Surg*, 23 : S0003-4975(20) 32001-4, 2020.

020 Eizuka M, Osakabe M, Sato A, Fujita Y, Tanaka Y, Otsuka K, Sasaki A, Matsumoto T, Suzuki H, Sugai T : Dysregulation of microRNA expression during the progression of colorectal tumors. *Pathol Int*, 70(9) : 633-643, 2020.

021 Fujita Y, Uesugi N, Sugimoto R, Eizuka M, Toya Y, Akasaka R, Matsumoto T, Sugai T : Analysis of clinicopathological and molecular features of crawling-type gastric adenocarcinoma. *Diagn Pathol*, 17; 15(1) : 111, 2020.

022 Sugai T, Uesugi N, Habano W, Sugimoto R, Eizuka M, Fujita Y, Osakabe M, Toya Y, Suzuki H, Matsumoto T : The clinicopathological and molecular features of sporadic gastric foveolar type neoplasia. *Virchows Arch*, 477(6) : 835-844, 2020.

023 Toya Y, Fujita Y, Sugai T, Matsumoto T : Endoscopic submucosal dissection for adenocarcinoma arising from ectopic gastric mucosa in the cervical esophagus. *Dig Liver Dis*, 52(9) : 1053, 2020.

024 Ebi H, Bando H, Taniguchi H, Sunakawa Y, Okugawa Y, Hatanaka Y, Hosoda W, Kumamoto K, Nakatani K, Yamazaki K : Japanese Society of Medical Oncology Clinical Guidelines : Molecular Testing for Colorectal Cancer Treatment, 4th edition. *Cancer Sci*, 111(10) : 3962-3969, 2020.

025 尾関順子, 羽佐田香代, 野中綾子, 渡邊佳奈, 井上麻衣, 松田千秋, 後藤謙介, 岡田恭孝, 小池孝一 : 「生検材料のフローサイトで判定困難となった原因についての検討」. *日本検査血液学会雑誌* 第 21 巻学術集會号 : 31, 2020.

026 柴田典子, 平松可帆, 二村元子, 細田和貴 : 「遺伝子検査の精度保証を考える」- 病理組織検体と細胞診検体を用い

た固形腫瘍がん遺伝子検査の立場から. *日本染色体遺伝子検査学会誌* 38(1) : 3-10, 2020.

頭頸部外科部

001 Ueda K, Murase T, Nagao T, Kusafuka K, Urano M, Yamamoto H, Nakaguro M, Taguchi KI, Masaki A, Hirai H, Kawakita D, Tsukahara K, Hato N, Nagao T, Fujimoto Y, Sakurai K, Hanai N, Kano S, Onitsuka T, Okami K, Nibu KI, Tada Y, Kawata R, Inagaki H : Central pathology review of salivary gland adenoid cystic carcinoma. *Head Neck*, 42(8) : 1721-1727, 2020.

002 Yokota T, Homma A, Kiyota N, Tahara M, Hanai N, Asakage T, Matsuura K, Ogawa T, Saito Y, Sano D, Kodaira T, Motegi A, Yasuda K, Takahashi S, Tanaka K, Onoe T, Okano S, Imamura Y, Ariizumi Y, Hayashi R; *Japan Clinical Oncology Group (JCOG) Head and Neck Cancer Study Group* : Immunotherapy for squamous cell carcinoma of the head and neck. *Jpn J Clin Oncol*, 50(10) : 1089-1096, 2020.

003 Kawakita D, Murase T, Ueda K, Kano S, Tada Y, Tsukahara K, Okami K, Onitsuka T, Fujimoto Y, Matoba T, Sakurai K, Nagao T, Hanai N, Kawata R, Hato N, Nibu KI, Urano M, Taguchi KI, Nakaguro M, Kusafuka K, Yamamoto H, Nagao T, Inagaki H : The impact of clinicopathological factors on clinical outcomes in patients with salivary gland adenoid cystic carcinoma : a multi-institutional analysis in Japan. *Int J Clin Oncol*, 25(10) : 1774-1785, 2020.

004 Yen CJ, Kiyota N, Hanai N, Takahashi S, Yokota T, Iwae S, Shimizu Y, Hong RL, Goto M, Kang JH, Li WSK, Ferris RL, Gillison M, Endo T, Jayaprakash V, Tahara M : Two-year follow-up of a randomized phase III clinical trial of nivolumab vs. the investigator's choice of therapy in the Asian population for recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck (CheckMate 141). *Head Neck*, 42(10) : 2852-62, 2020.

005 Nabuurs CH, Kievit W, Labb? N, Leemans CR, Smit CFGM, van den Brekel MWM, Pauw RJ, van der Laan BFAM, Jansen JC, Lacko M, Braunius WW, Morita S, Wierzbicka M, Matoba T, Hanai N, Takes RP, Kunst HPM : Evaluation of the modified Pittsburgh classification for predicting the disease-free survival outcome of squamous cell carcinoma of the external auditory canal. *Head Neck*, 42(12) : 3609-3622, 2020.

006 Okumura Y, Nakano S, Murase T, Ueda K, Kawakita D, Nagao T, Kusafuka K, Urano M, Yamamoto H, Kano S, Tsukahara K, Okami K, Nagao T, Hanai N, Iwai H, Kawata R, Tada Y, Nibu KI, Inagaki H : Prognostic impact of CRTC1/3-MAML2 fusions in salivary gland mucoepidermoid carcinoma : A multi-institutional retrospective study. *Cancer Sci*, 111(11) : 4195-4204, 2020.

007 Nishikawa D, Suzuki H, Beppu S, Terada H, Sawabe M,

- Kadowaki S, Sone M, Hanai N** : Eosinophil prognostic scores for patients with head and neck squamous cell carcinoma treated with nivolumab. *Cancer Sci*, 112(1) : 339-346, 2020.
- 008 **Suzuki H, Tamaki T, Tsuzuki H, Nishio M, Nishikawa D, Beppu S, Hanai N** : Association between treatment package time and clinical predictors in oropharyngeal cancer. *Medicine (Baltimore)*, 99(39) : e22244, 2020.
- 009 **Hanai N, Shimizu Y, Kariya S, Yasumatsu R, Yokota T, Fujii T, Tsukahara K, Yoshida M, Hanyu K, Ueda T, Hirakawa H, Takahashi S, Ono T, Sano D, Yamauchi M, Watanabe A, Omori K, Yamazaki T, Monden N, Kudo N, Arai M, Sakurai D, Asakage T, Doi I, Yamada T, Homma A** : Effectiveness and safety of nivolumab in patients with head and neck cancer in Japanese real-world clinical practice : a multicenter retrospective clinical study. *Int J Clin Oncol*, 26(3) : 494-506, 2021.
- 010 **Okano S, Homma A, Kiyota N, Tahara M, Hanai N, Asakage T, Matsuura K, Ogawa T, Saito Y, Sano D, Kodaira T, Motegi A, Yasuda K, Takahashi S, Tanaka K, Onoe T, Yokota T, Imamura Y, Ariizumi Y, Akimoto T, Hayashi R** : Induction chemotherapy in locally advanced squamous cell carcinoma of the head and neck. *Jpn J Clin Oncol*, 51(2) : 173-179, 2021.
- 011 **Shiga K, Nibu KI, Fujimoto Y, Asakage T, Homma A, Mitani H, Ogawa T, Okami K, Murono S, Hirano S, Ueda T, Hanai N, Tsukahara K, Ota I, Yoshimoto S, Shinozaki T, Iwae S, Katagiri K, Saito D, Kiyota N, Tahara M, Takahashi F, Hayashi R** : Multi-institutional Survey of Squamous Cell Carcinoma of the External Auditory Canal in Japan. *Laryngoscope*, 131(3) : E870-E874, 2021.
- 012 **Morita N, Murase T, Ueda K, Nagao T, Kusafuka K, Nakaguro M, Urano M, Taguchi KI, Yamamoto H, Kano S, Tada Y, Tsukahara K, Okami K, Onitsuka T, Fujimoto Y, Kawakita D, Sakurai K, Nagao T, Hanai N, Kawata R, Hato N, Otsuki N, Nibu KI, Inagaki H** : Pathological evaluation of tumor grade for salivary adenoid cystic carcinoma : a proposal of an objective grading system. *Cancer Sci*, 12(3) : 1184-1195, 2021.
- 013 **Hagiwara S, Sasaki E, Hasegawa Y, Suzuki H, Nishikawa D, Beppu S, Terada H, Sawabe M, Takahashi M, Hanai N** : Serum CD109 levels reflect the node metastasis status in head and neck squamous cell carcinoma. *Cancer Med*, 10(4) : 1335-1346, 2021.
- 014 **Ogawa M, Osaga S, Shiraki N, Kawakita D, Hanai N, Tamaki T, Tsukahara S, Kawaguchi T, Urano M, Shibamoto Y** : Utility of CT texture analysis to differentiate olfactory neuroblastoma from sinonasal squamous cell carcinoma. *Sci Rep*, 11(1) : 4679, 2021.
- 015 **Suzuki H, Sasaki E, Nakamura R, Sawabe M, Hagiwara S, Hyodo I, Hanai N** : Recurrent ameloblastoma with both hypercalcemia and BRAF mutation : A case report. *Clin Case Rep*, 8(12) : 3463-3467, 2020.
- 016 **西川大輔, 花井信広** : 【頭頸部癌免疫療法の最前線】頭頸部癌の免疫療法の有害事象とその対策. *ENTONI*, 246 : 25-33, 2020.
- 017 **花井信広** : 【エキスパートに学ぶ手術記録の描き方】頭頸部領域 頸部郭清術. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科*, 92(8) : 640-645, 2020.
- 018 **花井信広** : 再発または遠隔転移を有する頭頸部癌治療の新たな選択肢. *日耳鼻 専門医通信*, 123 : 1204-1206, 2020.
- 019 **花井信広** : 乳び漏/リンパ漏に対するトラブルシューティング. *頭頸部外科*, 30(2)167-171, 2020.
- 020 **鈴木秀典** : 喉頭下咽頭癌における画像的予後因子は何か? *臨床放射線*, 65(8) : 797-802, 2020.
- 021 **西川大輔** : 【AIとロボット手術】頭頸部におけるロボット手術 愛知県がんセンターにおける経口のロボット支援手術導入. *JOHNS*, 36(12) : 1657-1660, 2020.

形成外科部

- 001 **Nakamura R, Takanari K, Nakamura Y, Kambe K, Hishida M, Ebisawa K, Fujimoto Y, Fujii M, Kamei Y** : Increased Defect Size is Associated with Increased Complication Rate after Free Tissue Transfer for Midanterior Skull-Base Reconstruction. *J Neurol Surg B Skull Base*, 81, 2, 121-127, 2020.
- 002 **Okumura S, Hyodo I, Iwata H, Kamei Y** : Immediate one-stage implant-based breast reconstruction without the use of acellular dermal matrix in Japanese breast cancer patients. *Breast Cancer*, 27, 4, 759-764, 2020.
- 003 **Nakamura Y, Takanari K, Nakamura R, Ono M, Uchibori T, Hishida M, Murotani K, Ebisawa K, Akagawa K, Kamei Y** : Correlation between blood flow, tissue volume and microvessel density in the flap. *Nagoya J Med Sci*, 82, 2, 291-300, 2020.
- 004 **Nakamura Y, Takanari K, Ebisawa K, Uchibori T, Kambe M, Ochiai M, Oishi M, Suzuki H, Kamei Y** : Usefulness of a U-shaped vascular clamp for end-to-side anastomosis to the internal jugular vein. *J Plast Reconstr Aesthet Surg*, 27; S1748-6815 (20) 30400-9, 2020.
- 005 **Uchibori T, Takanari K, Nakamura R, Kambe M, Ebisawa K, Nakamura Y, Mogi K, Kamei Y** : Multiple Thrombi during Microvascular Anastomosis Caused by Decreased Antithrombin Activity : A Case Report. *Plast Reconstr Surg Glob Open*, 8, 6, e2872, 2020
- 006 **高成啓介, 内堀貴文, 中村 優, 神戸未来, 蛭沢克己, 落合美奈, 亀井 謙** : 形成外科領域におけるロボット手術の未来. *形成外科*, 63, 3, 379-386, 2020.
- 007 **高成啓介, 亀井 謙** : 【形成外科の最前線】Robot-assisted microsurgeryの最前線(解説/特集), *医学のあゆみ*, 274, 11, 1092-1097, 2020.
- 008 **高成啓介** : 【形成外科 NEXT 次世代の本音】形成外科医

の教育について. 形成外科, 63, 12, 1548-49, 2020.

- 009 伊藤弘幸, 高成啓介, 中村 優, 蛭沢克己, 神戸未来, 内堀貴文, 宮永 亨, 新井英介, 西田佳弘, 亀井 謙: 膝蓋骨および大腿四頭筋の広範欠損に対して大腿筋膜付き前外側大腿皮弁による機能的再建を行った1例, 日本形成外科学会誌, 40, 9, 489-496, 2020.
- 010 内堀貴文, 高成啓介, 神戸未来, 蛭沢克己, 中村 優, 宮永 亨, 伊藤弘幸, 亀井 謙: ナビゲーションシステム支援下に行った顔面骨形成術の経験. 形成外科, 63, 2, 206-214, 2020.

呼吸器外科部

- 001 **Kuroda H, Nakada T, Oya Y, Takahashi Y, Shirai S, Matsui T, Nakanishi K, Matsusita H, Sakakura N.** : Computed tomography and positron emission tomography-staged cN0 non-small cell lung cancer. Video-Assisted Thoracic Surgery, <http://dx.doi.org/10.21037/vats>, 2020.
- 002 **Kuroda H, Nakada T, Oya Y, Takahashi Y, Matsusita H, Sakakura N** : Clinical adjustability of radiological tools in patients with surgically resected cT1N0-staged non-small-cell lung cancer from the long-term survival evaluation. J Thorac Dis, 12(11) : 6655-6662, 2020.
- 003 **Sakakura N, Nakada T, Takahashi Y, Kuroda H** : An extended modification of transmanubrial osteomuscular sparing approach : salvage resection for recurrent superior sulcus lung cancer after definitive chemoradiotherapy. J Thorac Dis, 13(1) : 417-419, 2021.
- 004 **Sakakura N, Kuroda H** : The cranial-side parietal pleura pick-up method and the edge closure technique as a closure method for open thoracotomy. J Thorac Dis, 12(9) : 5053-5055, 2020.
- 005 **Sakakura N, Mizuno T, Kuroda H, Sakao Y** : Primary pneumonectomy, pneumonectomy after induction therapy, and salvage pneumonectomy : a comparison of surgical and prognostic outcomes. J Thorac Dis, 12(5) : 2672-2682, 2020.
- 006 **Sakakura N, Nakai A, Suda H, Nakada T, Matsui T, Nakanishi K, Shirai S, Nakada J, Horio Y, Oya Y, Takahashi Y, Kuroda H** : Life-threatening massive bleeding in the pulmonary trunk adjacent to the right ventricular outflow tract during the resection of a large mediastinal germ cell tumor : proposed safety measures in the absence of cardiovascular surgeons : a case report. Mediastinum. , 2021;. <https://med.amegroups.com/article/view/5989>, in press.
- 007 **Nakada T, Shirai S, Oya Y, Takahashi Y, Sakakura N, Ohtsuka T, Kuroda H** : Four Hours Postoperative Mobilization is Feasible After Thoracoscopic Anatomical Pulmonary Resection. World J Surg, 45(2) : 631-637, 2021.
- 008 **Takahashi Y, Suzuki S, Hamada K, Nakada T, Oya Y,**

Sakakura N, Matsushita H, Kuroda H : Sarcopenia is poor risk for unfavorable short- and long-term outcomes in stage I non-small cell lung cancer. Ann Transl Med, 9(4) : 325, 2021.

- 009 **Matsui T, Takahashi Y, Nakada T, Matsushita H, Oya Y, Sakakura N, Kuroda H** : Efficacy of Xenon Light With Indocyanine Green for Intersegmental Visibility in Thoracoscopic Segmentectomy. J Surg Res, 259 : 39-46, 2021.
- 010 **Sugita Y, Kuroda H, Sakata S, Sakao Y, Okubo K.** : How preserved regional pulmonary function after thoracoscopic segmentectomy in clinical stage I non-small cell lung cancers in right upper lobe. Gen Thorac Cardiovasc Surg, 69(6) : 960-966, 2021

乳腺科部

- 001 **Schmid P, Rugo HS, Adams S, Schneeweiss A, Barrios CH, Iwata H, Diéras V, Henschel V, Molinero L, Chui SY, Maiya V, Husain A, Winer EP, Loi S, Emens LA** : IMpassion130 Investigators. Atezolizumab plus nab-paclitaxel as first-line treatment for unresectable, locally advanced or metastatic triple-negative breast cancer (IMpassion130) : updated efficacy results from a randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial. Lancet Oncol, 21(1) : 44-59. doi : 10.1016/S1470-2045(19)30689-8, 2020.
- 002 **Shimizu Y, Tsuji K, Ochi E, Arai H, Okubo R, Kuchiba A, Shimazu T, Sakurai N, Narisawa T, Ueno T, Iwata H, Matsuoka Y** : Study Protocol for a Nationwide Questionnaire Survey of Physical Activity Among Breast Cancer Survivors in Japan. BMJ Open, 20(10(1) : e032871. doi : 10.1136/bmjopen-2019-032871, 2020.
- 003 **Inokuchi M, Kutomi G, Kijima Y, Sakai T, Sawaki M, Shien T, Hanamura N, Yano K, Wada N, Saji S, Iwata H** : The Japanese Breast Cancer Society clinical practice guidelines for surgical treatment of breast cancer, 2018 edition. Breast Cancer, 27(1) : 4-8, 2020.
- 004 **Coleman R, Finkelstein DM, Barrios C, Martin M, Iwata H, Hegg R, Glaspy J, Periañez AM, Tonkin K, Deleu I, Sohn J, Crown J, Delaloue S, Dai T, Zhou Y, Jandial D, Chan A** : Adjuvant denosumab in early breast cancer (D-CARE) : an international, multicenter, randomised, controlled, phase 3 trial. Lancet Oncol, 21(1) : 60-72, 2020.
- 005 **Schmid P, Rugo HS, Adams S, Schneeweiss A, Barrios CH, Iwata H, Diéras V, Henschel V, Molinero L, Chui SY, Maiya V, Husain A, Winer EP, Loi S, Emens LA** : IMpassion130 Investigators. Atezolizumab plus nab-paclitaxel as first-line treatment for unresectable, locally advanced or metastatic triple-negative breast cancer (IMpassion130) : updated efficacy results from a randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial. Lancet Oncol, 21(1) :

- 44-59, 2020.
- 006 **Iwata H, Saji S, Ikeda M, Inokuchi M, Uematsu T, Toyama T, Horii R, Yamauchi C** : The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines, 2018 edition : the tool for shared decision making between doctor and patient. *Breast Cancer*, 27(1) : 1-3, 2020.
- 007 **Uematsu T, Nakashima K, Kikuchi M, Kubota K, Suzuki A, Nakano S, Hirokaga K, Yamaguchi K, Saji S, Iwata H** : The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines for Breast Cancer Screening and Diagnosis, 2018 Edition. *Breast Cancer*, 27(1) : 17-24, 2020.
- 008 **Terada M, Yoshimura A, Sawaki M, Hattori M, Naomi G, Kotani H, Adachi Y, Iwase M, Kataoka A, Sugino K, Mori M, Horisawa N, Ozaki Y, Iwata H** : Patient-reported outcomes and objective assessments with arm measurement and bioimpedance analysis for lymphedema among breast cancer survivors. *Breast Cancer Res Treat*, 179(1) : 91-100, 2020.
- 009 **Modi S, Saura C, Yamashita T, Park YH, Kim SB, Tamura K, Andre F, Iwata H, Ito Y, Tsurutani J, Sohn J, Denduluri N, Perrin C, Aogi K, Tokunaga E, Im SA, Lee KS, Hurvitz SA, Cortes J, Lee C, Chen S, Zhang L, Shahidi J, Yver A, Krop I** : DESTINY-Breast01 Investigators. Trastuzumab Deruxtecan in Previously Treated HER2-Positive Breast Cancer. *N Engl J Med*, 382(7) : 610-621, 2020.
- 010 **Shien T, Iwata H** : Adjuvant and Neoadjuvant Therapy for Breast Cancer. *Jpn. J. Clin. Oncol*, 50(3) : 225-229, 2020.
- 011 **Gondo N, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Kotani H, Adachi Y, Kataoka A, Sugino K, Mori M, Horisawa N, Terada M, Ozaki Y, Iwata H** : Impact of BMI for Clinical Outcomes in Japanese Breast Cancer Patients. *Jpn. Clin. Onco*, 50(3) : 230-240, 2020.
- 012 **Iwase M, Ando M, Aogi K, Aruga T, Inoue K, Shimomura A, Tokunaga E, Masuda N, Yamauchi H, Yamashita T, Iwata H** : Long-term Survival Analysis of Addition of Carboplatin to Neoadjuvant Chemotherapy in HER2-negative Breast Cancer. *Breast Cancer Res Treat*, 180(3) : 687-694, 2020.
- 013 **Park YH, Senkus-Konefka E, Im SA, Pentheroudakis G, Saji S, Gupta S, Iwata H, Mastura MY, Dent R, Lu YS, Yin Y, Smruti BK, Toyama T, Malwinder S, Lee SC, Tseng LM, Kim JH, Kim TY, Suh KJ, Cardoso F, Yoshino T, Douillard JY** : Pan-Asian Adapted ESMO Clinical Practice Guidelines for the Management of Patients With Early Breast Cancer : A KSMO-ESMO Initiative Endorsed by CSCO, ISMPO, JSMO, MOS, SSO and TOS. *Ann. Oncol*, 31(4) : 451-469, 2020.
- 014 **Adams S, Diéras V, Barrios CH, Winer EP, Schneeweiss A, Iwata H, Loi S, Patel S, Henschel V, Chui SY, Rugo HS, Emens LA, Schmid P** : Patient-reported Outcomes From the Phase III IMpassion130 Trial of Atezolizumab Plus Nab-Paclitaxel in Metastatic Triple-Negative Breast Cancer. *Ann Oncol*, 31(5) : 582-589, 2020.
- 015 **Shimoi T, Sagara Y, Hara F, Toyama T, Iwata H** : First-line Endocrine Therapy for Postmenopausal Patients With Hormone Receptor-Positive, HER2-negative Metastatic Breast Cancer : A Systematic Review and Meta-Analysis. *Breast Cancer*, 27(3) : 340-346, 2020.
- 016 **Yoshinami T, Koizumi K, Nagai SE, Toyama T, Iwata H** : Dose-dense Adjuvant Chemotherapy : A Systematic Review and Meta-Analysis of the Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guideline, 2018 Edition. *Breast Cancer*, 27(3) : 334-339, 2020.
- 017 **Miyashita M, Hattori M, Takano T, Toyama T, Iwata H** : Risks and Benefits of Bevacizumab Combined With Chemotherapy for Advanced or Metastatic Breast Cancer : A Meta-Analysis of Randomized Controlled Trials. *Breast Cancer*, 27(3) : 347-354, 2020.
- 018 **Shimoi T, Nagai SE, Yoshinami T, Takahashi M, Arioka H, Ishihara M, Kikawa Y, Koizumi K, Kondo N, Sagara Y, Takada M, Takano T, Tsurutani J, Naito Y, Nakamura R, Hattori M, Hara F, Hayashi N, Mizuno T, Miyashita M, Yamashita N, Yamanaka T, Saji S, Iwata H, Toyama T** : The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines for Systemic Treatment of Breast Cancer, 2018 Edition. *Breast Cancer*, 27(3) : 322-331, 2020.
- 019 **Im SA, Xu B, Li W, Robson M, Ouyang Q, Yeh DC, Iwata H, Park YH, Sohn JH, Tseng LM, Goessl C, Wu W, Masuda N** : Olaparib Monotherapy for Asian Patients With a Germline BRCA Mutation and HER2-negative Metastatic Breast Cancer : OlympiAD Randomized Trial Subgroup Analysis. *Sci Rep*, 29;10(1) : 8753, 2020.
- 020 **Rugo HS, André F, Yamashita T, Cerda H, Toledano I, Stemmer SM, Jurado JC, Juric D, Mayer I, Ciruelos EM, Iwata H, Conte P, Campone M, Wilke C, Mills D, Lteif A, Miller M, Gaudenzi F, Loibl S** : Time Course and Management of Key Adverse Events During the Randomized Phase III SOLAR-1 Study of PI3K Inhibitor Alpelisib Plus Fulvestrant in Patients With HR-positive Advanced Breast Cancer. *Ann. Oncol*, 31(8) : 1001-1010, 2020.
- 021 **Modi S, Park H, Murthy RK, Iwata H, Tamura K, Tsurutani J, Moreno-Aspitia A, Doi T, Sagara Y, Redfern C, Krop IE, Lee C, Fujisaki Y, Sugihara M, Zhang L, Shahidi J, Takahashi S** : Antitumor Activity and Safety of Trastuzumab Deruxtecan in Patients With HER2-Low-Expressing Advanced Breast Cancer : Results From a Phase Ib Study. *J Clin Onco*, 38(17) : 1887-1896, 2020.
- 022 **Shigematsu H, Fujisawa T, Shien T, Iwata H** : Omitting Surgery for Early Breast Cancer Showing Clinical Complete Response to Primary Systemic Therapy. *Jpn. J. Clin. Oncol*, 50(6) : 629-634, 2020.
- 023 **Hackshaw MD, Danysh HE, Singh J, Ritchey ME, Ladner A, Taitt C, Camidge DR, Iwata H, Powell CA** : Incidence of

- pneumonitis/interstitial Lung Disease Induced by HER2-targeting Therapy for HER2-positive Metastatic Breast Cancer. *Breast Cancer Res Treat*, doi : 10. 1007/s10549-020-05754-8. Online ahead of print, 2020.
- 024 **Adachi Y, Okumura S, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Gondo N, Kotani H, Iwase M, Kataoka A, Sugino K, Horisawa N, Ozaki Y, Endo Y, Sakamoto S, Iwata H** : Effects of Neoadjuvant Chemotherapy on Operative Adverse Events and Chemotherapy and Radiotherapy in Patients Undergoing Immediate Breast Reconstruction. *Breast Cancer*, 27(4) : 716-723, 2020.
- 025 **Gondo N, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Kotani H, Adachi Y, Kataoka A, Sugino K, Horisawa N, Ozaki Y, Endo Y, Iwata H** : Utility of Regional Nodal Irradiation in Japanese Patients With Breast Cancer With 1-3 Positive Nodes After Breast-Conserving Surgery and Axillary Lymph-Node Dissection. *Mol Clin Oncol*, 13(1) : 48-53, 2020.
- 026 **Okumura S, Hyodo I, Iwata H, Kamei Y** : Immediate One-Stage Implant-Based Breast Reconstruction Without the Use of Acellular Dermal Matrix in Japanese Breast Cancer Patients. *Breast Cancer*, 27(4) : 759-764, 2020.
- 027 **Yamashiro H, Iwata H, Masuda N, Yamamoto N, Nishimura R, Ohtani S, Sato N, Takahashi M, Kamio T, Yamazaki K, Saito T, Kato M, Lee T, Kuroi K, Takano T, Yasuno S, Morita S, Ohno S, Toi M** : JBCRG-C01 Collaborative Group. Outcomes of Trastuzumab Therapy in HER2-positive Early Breast Cancer Patients : Extended Follow-Up of JBCRG-cohort Study 01. *Breast Cancer*, 27(4) : 631-641, 2020.
- 028 **Ozaki Y, Yoshimura A, Sawaki M, Hattori M, Gondo N, Kotani H, Adachi Y, Kataoka A, Sugino K, Horisawa N, Endo Y, Nozawa K, Sakamoto S, Iwata H** : Mechanisms and anatomical risk factors of pneumothorax after Bevacizumab use : A case report. *World J Clin Oncol*, 24;11(7) : 504-509, 2020.
- 029 **Takahashi M, Masuda N, Nishimura R, Inoue K, Ohno S, Iwata H, Hashigaki S, Muramatsu Y, Umeyama Y, Toi M** : Palbociclib-letrozole as First-Line Treatment for Advanced Breast Cancer : Updated Results From a Japanese Phase 2 Study. *Cancer Med*, 9(14) : 4929-4940, 2020.
- 030 **Tsuda H, Tsugawa K, Akiyama F, Horii R, Kurosuni M, Moriya T, Takano T, Takei H, Nakayama T, Miyagi Y, Yamauchi C, Yamashita T, Aogi K, Mukai H, Sugie T, Iwata H, Masuda S** : Correction To : Histological Classification of Breast Tumors in the General Rules for Clinical and Pathological Recording of Breast Cancer (18th Edition). *Breast Cancer*, 27(4) : 792, 2020.
- 031 **Maeda A, Irie K, Hashimoto N, Fukushima S, Ando H, Okada A, Ebi H, Kajita M, Iwata H, Sawaki M** : Serum concentration of the CKD4/6 inhibitor abemaciclib, but not of creatinine, strongly predicts hematological adverse events in patients with breast cancer : a preliminary report. *Invest New Drugs*, doi : 10. 1007/s10637-020-00994-3. Online ahead of print, 2020.
- 032 **Masuda N, Mukai H, Inoue K, Rai Y, Ohno S, Ohtani S, Shimizu C, Hashigaki S, Muramatsu Y, Umeyama Y, Iwata H, Toi M** : Analysis of subsequent therapy in Japanese patients with hormone receptor-positive/human epidermal growth factor receptor 2-negative advanced breast cancer who received palbociclib plus endocrine therapy in PALOMA 2 and 3. *Breast Cancer*, doi : 10. 1007/s12282-020-01162-4. Online ahead of print, 2020.
- 033 **Chan A, Moy B, Mansi J, Ejlersen B, Holmes FA, Chia S, Iwata H, Gnani M, Loibl S, Barrios CH, Somali I, Smichkoska S, Martinez N, Alonso MG, Link JS, Mayer IA, Cold S, Murillo SM, Senecal F, Inoue K, Ruiz-Borrego M, Hui R, Denduluri N, Patt D, Rugo HS, Johnston SRD, Bryce R, Zhang B, Xu F, Wong A, Martin M** : ExteNET Study Group. Clin. Final Efficacy Results of Neratinib inHER2-positive Hormone Receptor-positive Early-stage Breast Cancer From the Phase III ExteNET Trial. *Breast Cancer*, S1526-8209(20)30258-5, 2020.
- 034 **Yoshimura A, Yokoyama S, Iwata H, Takaiso N, Nomizu T, Arai M, Nakamura S** : Incidence of contralateral and ipsilateral breast cancer and prognosis in BRCA1/2 pathogenic variant carriers based on the Japanese HBOC Consortium registration. *J Hum Genet*, doi : 10. 1038/s10038-020-00850-5. Online ahead of print. PMID : 33037391, 2020.
- 035 **André F, Ciruelos EM, Juric D, Loibl S, Campone M, Mayer IA, Rubovszky G, Yamashita T, Kaufman B, Lu YS, Inoue K, Pápai Z, Takahashi M, Ghaznawi F, Mills D, Kaper M, Miller M, Conte PF, Iwata H, Rugo HS** : Alpelisib plus fulvestrant for PIK3CA-mutated, hormone receptor-positive, human epidermal growth factor receptor-2negative advanced breast cancer : final overall survival results from SOLAR-1. *Ann Oncol*, 25 : S0923-7534(20)43166-7, 2020.
- 036 **Noguchi E, Shien T, Iwata H** : Current status of PD-1/PD-L1 blockade immunotherapy in breast cancer. *Jpn J Clin Oncol*, hyaa230. doi : 10. 1093/jcco/hyaa230. Online ahead of print, 2020.
- 037 **Sagara Y, Mori M, Yamamoto S, Eguchi K, Iwatani T, Naito Y, Kogawa T, Tanaka K, Kotani H, Yasojima H, Ozaki Y, Noguchi E, Miyasita M, Kondo N, Niikura N, Toi M, Shien T, Iwata H** : Current status of advance care planning and End-of-life communication of patients with advanced and metastatic breast cancer. *Oncologist*, doi : 10. 1002/onco. 13640. Online ahead of print, 2020.
- 038 **Cortes J, Cescon DW, Rugo HS, Nowecki Z, Im SA, Yusoff MM, Gallardo C, Lipatov O, Barrios CH, Holgado E, Iwata H, Masuda N, Otero MT, Gokmen E, Loi S, Guo Z, Zhao J, Aktan G, Karantzis V, Schmid P** : KEYNOTE-355

Investigators. Pembrolizumab plus chemotherapy versus placebo plus chemotherapy for previously untreated locally recurrent inoperable or metastatic triple-negative breast cancer (KEYNOTE-355) : a randomised, placebo-controlled, double-blind, phase 3 clinical trial. *Lancet*, 396(10265) : 1817-1828, 2020.

039 **Sawaki M, Taira N, Uemura Y, Saito T, Baba S, Kobayashi K, Kawashima H, Tsuneizumi M, Sagawa N, Bando H, Takahashi M, Yamaguchi M, Takashima T, Nakayama T, Kashiwaba M, Mizuno T, Yamamoto Y, Iwata H, Kawahara T, Ohashi Y, Mukai H** : Randomized Controlled Trial of Trastuzumab With or Without Chemotherapy for HER2-Positive Early Breast Cancer in Older Patients. *J Clin Oncol*, 38 : 3743-3752, 2020.

040 **Sawaki M, Yamada A, Kumamaru H, Miyata H, Nakayama K, Shimizu C, Miyashita M, Honma N, Taira N and Saji S** : Clinicopathological characteristics, practical treatments, prognosis, and clinical issues of older breast cancer patients in Japan. *Breast Cancer*, 28 : 1-8, 2021.

041 **Elizabeth A, Mittendorf E. A, Zhang H, Barrios C. H, Saji S, Jung K. H, Hegg R, Koehler A, Sohn J, Iwata H, Tellli M. L, Ferrario C, Punie K, Penault-Llorca F, Patel S, Nguyen A, Liste-Hermoso D, Maiya V, Molinero R, Chui S. Y, Harbeck N** : Neoadjuvant atezolizumab in combination with sequential nab-paclitaxel and anthracycline-based chemotherapy versus placebo and chemotherapy in patients with early-stage triple-negative breast cancer (IMpassion031) : a randomised, double-blind, phase 3 trial. *Lancet*, 396 : 1090-10, 2020.

042 **Hackshaw M. D, Danysh H. E, Singh J, Ritchey M. E, Ladner A, Taitt C, Camidge D. R, Iwata H, Powell C. A** : Incidence of pneumonitis/interstitial lung disease induced by HER2 targeting therapy for HER2 positive metastatic breast cancer. *Breast Cancer Research and Treatment*, 183 : 23-39, 2020.

043 **Yoshimura A** : Incidence of contralateral and ipsilateral breast cancers and prognosis in BRCA1/2 pathogenic variant carriers based on the Japanese HBOC Consortium registration. *Journal of Human Genetics*, 4 : 379-387, 2020.

044 **Adachi Y** : Effects of neoadjuvant chemotherapy on operative adverse events and chemotherapy and radiotherapy in patients undergoing immediate breast reconstruction. *Breast Cancer*, 716-723, 2020.

045 **Ozaki Y** : Mechanisms and anatomical risk factors of pneumothorax after Bevacizumab use : A case report. *World J Clin Oncol*, 11 : 504-509, 2020.

046 **澤木正孝** : 高齢者のHER2陽性乳がん術後に対して、術後薬物療法にはどのような治療が推奨されるか。腫瘍内科, 26 : 529-533, 2020.

047 **服部正也, 岩田広治** : PARP 阻害剤。腫瘍内科, 25 : 5 : 522-528, 2020.

消化器外科部

001 **Koyanagi N Y, Suzuki E, Imoto I, Kasugai Y, Oze I, Ugai T, Iwase M, Usui Y, Kawakatsu Y, Sawada M, Hirayama Y, Tanaka T, Abe T, Ito S, Komori K, Hanai N, Tajika M, Shimizu Y, Niwa Y, Ito H, Matsuo K** : Across-Site Differences in the Mechanism of Alcohol-induced Digestive Tract Carcinogenesis : An Evaluation by Mediation Analysis. *Cancer Res*, 80 : 1601-1610, 2020.

002 **Chatani S, Sato Y, Murata S, Hasegawa T, Yamaura H, Natsume S, Senda Y, Shimizu Y, Inaba Y** : Percutaneous Drainage via the Blind End of the Jejunal Limb for Biliary Leakage After Pancreaticoduodenectomy. *Cardiovasc Intervent Radiol*, 43 : 1561-1563, 2020.

003 **Tsukamoto S, Fujita S, Ota M, Mizusawa J, Shida D, Kanemitsu Y, Ito M, Shiomi A, Komori K, Ohue M, Akazai Y, Shiozawa M, Yamaguchi T, Bando H, Tsuchida A, Okumura S, Akagi Y, Takiguchi N Saida Y, Akasu T, Moriya Y** : Colorectal Cancer Study Group of Japan _Clinical Oncology Group : Long-term follow-up the randomized trial of mesorectal excision with or without lateral lymph node dissection in rectal cancer(JCOG0212). *Br J Surg*, 107 : 586-594, 2020.

004 **Ouchi A, Shida D, Hamaguchi T, Takashima A, Ito Y, Ueno H, Ishiguro M, Takii Y, Ikeda S, Ohue M, Fujita S, Shiozawa M, Kataoka K, Ito M, Tsukada Y, Akagi T, Inomata M, Shimada Y, Kanemitsu Y** : Challenges of improving treatment outcomes for colorectal and anal cancers in Japan : teh Colorectal Cancer Study Group(CCSG) of the Japan Clinical Oncology Group(JCOG). *Jpn Clin Oncol*, 50 : 368-378, 2020.

005 **Kurita Y, Hara K, Kuwahara T, Mizuno N, Okuno N, Haba S, Okuno M, Natsume S, Senda Y, Kubota K, Nakajima A, Niwa Y, Shimizu Y** : Comparison of prognosis between observation and surgical resection groups with small sporadic non-functional pancreatic neuroendocrine neoplasms without distant metastasis. *J Gastroenterol*, 55 : 543-552, 2020.

006 **Terashima M, Yoshikawa T, Boku N, Ito S, Tsuburaya A, Iwasaki Y, Fukagawa T, Tokunaga M, Sano T, Sasako M** : Stomach Cancer Study Group, Japan Clinic Oncology group : Current status of perioperative chemotherapy for locally advanced gastric cancer and JCOG perspectives. *Jpn J Clin Oncol*, 50 : 528-534, 2020.

007 **Taniguchi H, Uehara K, Nakayama G, Nakayama H, Aiba T, Hattori N, Kataoka M, Nakano Y, Kawase Y, Okochi O, Matsuoka H, Utsunomiya S, Sakamoto E, Mori Y, Umeda S, Shikano T, Komori K, Tajika M, Kadowaki S, Muro K, Yatabe Y** : Tumor Location is Associated With the Prevalence of Braf And Pik3ca Mutations in Patients with Wild-Type Ras Colorectal Cancer : A Prospective Multi-Center Cohort Study in Japan. *Transl Oncol*, 13 : 100786, 2020.

- 008 **Higaki E, Fukaya M, Miyata K, Kawai R, Abe T** : Successful two-stage operation for esophageal necrosis due to proton beam therapy followed by sorafenib in a case of large hepatocellular carcinoma. *Surg Case Rep*, 6 : 138, 2020.
- 009 **Ouchi A, Toriyama K, Kinoshita T, Shimizu Y, Niwa Y, Tajika M, Komori K** : Variations in Clinical Features and Oncologic Behaviors of T1 Colorectal Cancer According to Tumor Location. *Int J Clin Oncol*, 25 : 1130-1136, 2020.
- 010 **Shimizu Y, Hijioka S, Hirono S, Kin T, Ohtsuka T, Kanno A, Koshita S, Hanada K, Kitano M, Inoue H, Itoi T, Ueki T, Matsuo K, Yanagisawa A, Yamaue H, Sugiyama M, Okazaki K** : New Model for Predicting Malignancy in Patients With Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm. *Ann Surg*, 272 : 155-162, 2020.
- 011 **Satoi S, Yamamoto T, Uchida K, Fujii T, Kin Toshifumi, Hirano S, Hanada K, Itoi T, Murakami Y, Igarashi H, Eguchi H, Kuroki T, Shimizu Y, Tani M, Tanno S, Tsuji Y, Hirooka Y, Masamune A, Shimokawa T, Yamaue H, Okazaki K, Committee of Clinical Research, Japan Pancreas Society** : Optimal Treatment for Octogenarians With Resectable and Borderline Resectable Pancreatic Ductal Adenocarcinoma: A Multicenter Retrospective Study. *Pancreas*, 49 : 837-844, 2020.
- 012 **Nakanishi K, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Shimizu D, Tanaka C, Kobayashi D, Fujiwara M, Murotani K, Kodera Y** : Propensity-score-matched analysis of a multi-institutional dataset to compare postoperative complications between Billroth I and Roux-en-Y reconstructions after distal Gastrectomy. *Gastric Cancer*, 23 : 734-745, 2020.
- 013 **Yamamoto S, Kato K, Daiko H, Kojima T, Hara H, Abe T, Tsubosa Y, Na-gashima K, Aoki K, Mizoguchi Y, Kitano S, Yachida S, Shiba S, Kitagawa Y** : Feasibility study of nivolumab as neoadjuvant chemotherapy for locally esophageal carcinoma : FRONTIER (JCOG1804E). *Future Oncology*, 16 : 1351-1357, 2020.
- 014 **Hayashi T, Yoshikawa T, Sakamaki K, Nishikawa K, Fujitani K, Tanabe K, Misawa K, Matsui T, Miki A, Hiroshi N, Fukunaga T, Kimura Y, Hihara J** : Primary results of a randomized two-by-two factorial phase II trial comparing neoadjuvant chemotherapy with two and four courses of cisplatin/S-1 and docetaxel/cisplatin/S-1 as neoadjuvant chemotherapy for advanced gastric cancer. *Ann Gastroenterol Surg*, 4 : 540-548, 2020.
- 015 **Sawaki K, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Tanaka C, Kobayashi D, Fujiwara M, Murotani K, Kodera Y** : Survival times are similar among patients with peritoneal, hematogenous, and nodal recurrences after curative resections for gastric cancer. *Cancer Med*, 9 : 5392-5399, 2020.
- 016 **Kawakami J, Abe T, Higaki E, Hosoi T, Fukaya M, Komori K, Ito S, Nakatochi M, Nagino M, Shimizu Y** : Scheduled intravenous acetaminophen versus nonsteroidal anti-inflammatory drugs (NSAIDs) for better short-term outcomes after esophagectomy for esophageal cancer. *Surgery Today*, 50 : 1168-1175, 2020.
- 017 **Takatsu J, Higaki E, Hosoi T, Yoshida M, Yamamoto M, Abe T, Shimizu Y** : Clinical benefits of a swallowing intervention for esophageal cancer patients after esophagectomy. *Dis Esophagus*, 10. 1093/dote/ doaa094, 2020.
- 018 **Ogata T, Narita Y, Misawa K, Hosoda W, Muro K** : Marked improvement of oral intake with nivolumab monotherapy in a patient with microsatellite instability-high gastric cancer with insufficient oral intake. *Clin Case Rep*, 9 : 50-56, 2020.
- 019 **Nakamura S, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Tanaka C, Kobayashi D, Fujiwara M, Murotani K, Kodera Y** : Accurate Risk Stratification of Patients with Node-Positive Gastric Cancer by Lymph Node Ratio. *World J Surg*, 44 : 4184-4192, 2020.
- 020 **Shimizu Y, Kuwahara T** : Response to the letter entitled : "Comment on New Model for Predicting Malignancy in Patients With Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm by Shimizu et al". *Annals of Surgery*, 10. 1097/SLA. 0000000000004739, 2021.
- 021 **Iwasaki Y, Terashima M, Mizusawa J, Katayama H, Nakamura K, Katai H, Yoshikawa T, Ito S, Kaji M, Kimura Y, Hirao M, Yamada M, Kurita A, Takagi M, Sang-W Lee, Takagane A, Yabusaki H, Hihara J, Boku N, Sano T, Sasako M** : Gastrectomy with or without neoadjuvant S-1 plus cisplatin for type 4 or large type 3 gastric cancer (JCOG0501) : an open-label, phase 3, randomized controlled trial. *Gastric Cancer*, 24 : 492-502, 2021.
- 022 **Tokunaga M, Kurokawa Y, Machida R, Sato Y, Takiguchi S, Doki Y, Yabusaki H, Watanabe M, Hato S, Nakamori M, Ito S, Yoshikawa T, Terashima M** : Impact of postoperative complications on survival outcomes in patients with gastric cancer : exploratory analysis of a randomized controlled JCOG1001 trial. *Gastric Cancer*, 24 : 214-223, 2021.
- 023 **Komori K, Tsukushi S, Yoshida M, Kinoshita T, Oshiro T, Ouchi A, Ito S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Okuno M, Hosoi T, Kawakatsu S, Kunitomo A, Oki S, Suenaga Y, Maeda S, Nagao T, Dei H, Numata Y, Aritake T, Tawada K, Shimizu Y** : Aggressive and frequent resection of recurrences in retroperitoneal sarcoma contributes to long-term survival. *Langenbeck's Archives of Surgery*, 10. 1007/ s00423-020-02062-z, 2021.
- 024 **Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Kunitomo A, Ito S, Abe T, Shimizu Y** : Possibilities for and limits of upfront

- surgical strategy with lateral pelvic node dis-section for low rectal cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 51 : 713-721, 2021.
- 025 **Uchino T, Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Sano T, Shimizu Y** : The prognostic relevance of primary tumor sidedness to surgical treatment for recurrent colon cancer. *Surgery Today*, 51 : 94-100, 2021.
- 026 **Hara H, Mizusawa J, Hironaka S, Kato K, Daiko H, Abe T, Nakamura K, Ando N, Kitagawa Y** : Influence of preoperative chemotherapy-induced leukopenia on survival in patients with esophageal squamous cell carcinoma : exploratory analysis of JCOG9907. *Esophagus*, 18 : 41-48, 2021.
- 027 **Miki Y, Tokunaga M, Mori K, Fukushima N, Misawa K, Nishikawa K, Fujitani K, Ohira M, Tanizawa Y, Bando E, Terashima M** : A Randomized Phase II Study to Evaluate Prolonged Prophylactic Antivascular Drug Treatment for Patients with Elevated Drain Amylase Concentration After Gastrectomy with D2 Lymph Node Dissection (REDUCED2). *World J Surg*, 45 : 1135-1143, 2021.
- 028 **Abe T, Higaki E, Hosoi T, Nagao T, Bando H, Kadowaki S, Muro K, Tanaka T, Niwa Y, Shimizu Y** : Long-Term Outcome of Patients with Locally Advanced Clinically Unresectable Esophageal Cancer Undergoing Conversion Surgery after Induction Chemotherapy with Docetaxel Plus Cisplatin and 5-Fluorouracil. *Ann Surg Oncol*, 28 : 712-721, 2021.
- 029 **Maeda S, Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Abe T, Shimizu Y** : Risk factors for peristomal skin disorders associated with temporary ileostomy construction. *Surgery Today*, 51 : 1152-1157, 2021.
- 030 **Aritake T, Higaki E, Abe T, Hara K, Suenaga Y, Kunitomo A, Oki S, Nagao T, Hosoi T, Ito S, Komori K, Shimizu Y** : Bronchial fistula and esophageal stricture following endoscopic trans-gastric drainage for a mediastinal pancreatic pseudocyst. *Clin J Gastroenterol*, 14 : 466-470, 2021.
- 031 **Yang HK, Ji J, Han SU, Terashima M, Li G, Kim HH, Law S, Shabbir A, Song KY, Hyung WJ, Kosai NR, Kono K, Misawa K, Yabusaki H, Kinoshita T, Lau PC, Kim YW, Rao JR, Ng E, Yamada T, Yoshida K, Park DJ, Tai BC, So JBY, EXPEL study group** : Extensive peritoneal lavage with saline after curative gastrectomy for gastric cancer (EXPEL) : a multicentre randomised controlled trial. *Lancet Gastroenterol Hepatol*, 6 : 120-127, 2021.
- 032 **Ito Y, Fujitani K, Sakamaki K, Ando M, Kawabata R, Tanizawa Y, Yoshikawa T, Yamada T, Hirao M, Yamada M, Hihara J, Fukushima R, Choda Y, Kodera Y, Teshima S, Shinohara H, Kondo M** : QOL assessment after palliative surgery for malignant bowel obstruction caused by peritoneal dissemination of gastric cancer : a prospective multicenter observational study. *Gastric Cancer*, 10, 1007/s10120-021-01179-4, 2021.
- 033 **三澤一成, 林 雄一郎, 森 健策** : 【実践！手術が上達するトレーニング法ー Offthe Job Training の最新動向】手術シミュレーションの実際 患者データに基づく手術シミュレーション 上部消化管. *臨床外科*, 75 : 450-457, 2020.
- 034 **原 和生, 羽場 真, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 孝田博輝, 清水泰博** : 〈胆道専門医講座 胆道癌の減黄と管理〉(第2回)内視鏡的胆管ドレナージ 内視鏡医の立場から. *胆道*, 34 : 237-243, 2020.
- 035 **三澤一成, 沼田佳久, 伊藤友一, 伊藤誠二, 小森康司, 清水泰博** : 【内視鏡外科手術に必要な局所解剖 - 食道・胃】腹腔鏡下胃全摘術に必要な膵尾部周囲の局所解剖 No. 11d を中心に. *手術*, 74 : 889-896, 2020.
- 036 **小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 國友愛奈, 伊藤誠二, 安部哲也, 清水泰博** : 【進行直腸癌のベストプラクティス】術前側方リンパ節転移陽性症例の治療方針と術式. *外科*, 82 : 717-723, 2020.
- 037 **小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 國友愛奈, 清水泰博** : 特集 大腸外科手術におけるトラブルシューティングII、腸管・他臓器損傷 3) 大腸癌手術における尿管損傷の予防と対処法. *手術*, 74 : 1159-1166, 2020.
- 038 **桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 孝田博輝, 清水泰博** : 【胆膵疾患の最新画像診断】深層学習 (Deep learning) を用いた IPMN 良悪性診断. *胆と膵*, 41 : 801-806, 2020.
- 039 **桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 孝田博輝, 清水泰博** : 【癌早期発見・早期診断の New Era】人工知能 (deep learning) 「を用いた IPMN 良悪性診断の現状. *消化器・肝臓内科*, 8 : 157-163, 2020.
- 040 **李 文達, 林 雄一郎, 小田昌宏, 北坂孝幸, 三澤一成, 森 健策** : 空間情報を考慮した自己教師あり学習を用いたステレオ腹腔鏡画像からの深度推定 (Spatial Information Considered Self-Supervised Depth Estimation Based on Image Pairs from Stereo Lap-roscope. *日本医用画像工学会大会予稿集*, 39 : 602-605, 2020.
- 041 **日比裕太, 林 雄一郎, 北坂孝幸, 伊東隼人, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策** : 広範囲の隣接関係を考慮したグラフニューラルネットワークを用いた腹部動脈血管名自動命名の検討. *日本医用画像工学会大会予稿集*, 39 : 268-271, 2020.
- 042 **盛満慎太郎, 山本翔太, 北坂孝幸, 林 雄一郎, 小田昌宏, 竹下修由, 伊藤雅昭, 三澤一成, 森 健策** : Dilated convolution を用いた FCN による腹腔鏡動画像からの血管領域抽出. *日本医用画像工学会大会予稿集*, 39 : 230-233, 2020.
- 043 **伊藤誠二** : 【ガイドラインには書いていないー胃癌治療の CQ】術前補助化学療法後の今 術前補助化学療法後の大動脈周囲リンパ節郭清の意義. *臨床外科*, 75 : 1182-1184, 2020.
- 044 **前田真吾, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 大内 晶, 清水泰博, 細田和貴** : 虫垂腫瘍との鑑別が困難であった虫垂

- 間膜デスマイド腫瘍の1例. 日本臨床外科学会雑誌, 81 : 2062-2066, 2020.
- 045 中郡聡夫, 夏目誠治, 岸和田昌之, 吉富秀幸, 須藤研太郎 : 膝癌における Conversion Surgery(座談会). 膝・胆道癌 Frontier, 8 : 410, 2020.
- 046 清水泰博, 脇岡 範, 山上裕樹, 廣野誠子, 真口宏介, 金俊文, 柳澤昭夫 : 【IPMN 大全】悪性予測(切除適応)新しい IPMN 悪性予測モデルの作成. 胆と膵, 41 : 1313-1317, 2020.
- 047 桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 清水泰博 : 【IPMN 大全】悪性予測(切除適応)AIを用いた自動診断の現状(EUS 画像). 胆と膵, 41 : 1319-1322, 2020.
- 048 夏目誠治 : 【「たとえばなし」でわかりやすさ日本一 Dr. なつめのマンガ講義 術後バイタルサインのみかた・整えかた】体温のみかた・整えかた. 消化器ナーシング, 26 : 6-15, 2021.
- 049 夏目誠治 : 【「たとえばなし」でわかりやすさ日本一 Dr. なつめのマンガ講義 術後バイタルサインのみかた・整えかた】尿量と水分バランスのみかた・整えかた. 消化器ナーシング, 26 : 16-24, 2021.
- 050 夏目誠治 : 【「たとえばなし」でわかりやすさ日本一 Dr. なつめのマンガ講義 術後バイタルサインのみかた・整えかた】呼吸と酸素状態のみかた・整えかた. 消化器ナーシング, 26 : 25-34, 2021.
- 051 夏目誠治 : 【「たとえばなし」でわかりやすさ日本一 Dr. なつめのマンガ講義 術後バイタルサインのみかた・整えかた】疼痛のみかた・整えかた(創の痛み ver.). 消化器ナーシング, 26 : 35-43, 2021.
- 052 夏目誠治 : 【「たとえばなし」でわかりやすさ日本一 Dr. なつめのマンガ講義 術後バイタルサインのみかた・整えかた】疼痛のみかた・整えかた(創ではない痛み ver.). 消化器ナーシング, 26 : 44-53, 2021.

整形外科部

- 001 Hamada S, Nishida Y, Takanari K, Ota T, Urakawa H, Ikuta K, Sakai T, Tsukushi S, Kamei Y, Ishiguro N. : Functional evaluation following deltoid muscle resection in patients with soft tissue sarcoma. Jpn J Clin Oncol, 9;50(7) : 772-778, 2020.
- 002 Nagano A, Matsumoto S, Kawai A, Okuma T, Hiraga H, Matsumoto Y, Nishida Y, Yonemoto T, Hosaka M, Takahashi M, Yoshikawa H, Kunisada T, Asanuma K, Naka N, Emori M, Kubo T, Kawashima H, Kawamoto T, Yokoyama R, Tsukushi S, Sato K, Okamoto T, Hiraoka K, Morioka H, Tanaka K, Takagi T, Iwamoto Y, Ozaki T. : Osteosarcoma in patients over 50 years of age : Multi-institutional retrospective analysis of 104 patients. J Orthop Sci, 25(2) : 319-323, 2020.
- 003 Ogura K, Uehara K, Akiyama T, Shinoda Y, Iwata S, Tsukushi S, Kobayashi E, Hirose T, Yonemoto T, Endo M, Tanzawa

Y, Nakatani F, Kawano H, Tanaka S, Kawai A. : Minimal clinically important differences in Toronto Extremity Salvage Score for patients with lower extremity sarcoma. J Orthop Sci, 25(2) : 315-318, 2020.

- 004 Fujihara N, Fujihara Y, Hamada S, Yoshida M, Tsukushi S. : Current practice patterns of osteoporosis treatment in cancer patients and effects of therapeutic interventions in a tertiary center. PLoS One, 2021, 11;16(3), 2021.
- 005 筑紫 聡 : 肉腫 - 基礎 - 臨床の最新知見 - 骨盤悪性骨腫瘍の治療成績. 日本臨床, 78 増刊号 5 : 551-556, 2020.
- 006 筑紫 聡 : 希少がん - がん治療の新たな課題 - 脂肪肉腫. 日本臨床, 79 増刊号 1 : 491-495, 2021.

リハビリテーション部

- 001 Takatsu J, Higaki E, Hosoi T : Clinical benefits of a swallowing intervention for esophageal cancer patients after esophagectomy. Dis Esophagus, 34(5) : doaa094, 2020.

泌尿器科部

- 001 Ishihara M, Tono Y, Miyahara Y, Muraoka D, Harada N, Kageyama S, Sasaki T, Hori Y, Soga N, Uchida K, Shiraiishi T, Sato E, Kanda H, Mizuno T, Webster GA, Ikeda H, Katayama N, Sugimura Y, Shiku H : First-in-human phase I clinical trial of the NY-ESO-1 protein cancer vaccine with NOD2 and TLR9 stimulants in patients with NY-ESO-1-expressing refractory solid tumors. Cancer Immunol Immunother, 69 : 663-675, 2020.
- 002 Ishihara M, Kageyama S, Miyahara Y, Ishikawa T, Ueda S, Soga N, Naota H, Mukai K, Harada N, Ikeda H, Shiku H : MAGE-A4, NY-ESO-1 and SAGE mRNA expression rates and co-expression relationships in solid tumours. BMC cancer, 20 : 606, 2020.
- 003 Kawada H, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Murata S, Hasegawa T, Ogura Y, Soga N, Arai Y : Stenting Using the Rendezvous Technique for Postoperative Ureteral Complications in Cancer Patients, Cardiovasc Intervent Radiol, 43 : 1486, 2020.
- 003 曾我倫久人 : 前立腺がんの診断と治療 労務安全衛生(かながわ), 65 : 12, 2020

婦人科部

- 001 Nishio S, Murotani K, Nakao S, Takenaka M, Suzuki S, Aoki Y, Todo Y, Hosaka M, Nakai H, Katabuchi H, Nishi H, Takekuma M, Mikami M, Enomoto T : Investigation of clinicopathological features of vulvar cancer in 1068

- patients : A Japanese Gynecologic Oncology Group (JGOG) nationwide survey study. *Gynecol Oncol*, 159(2) : 449-455, 2020.
- 002 **Takekuma M, Takahashi F, Mabuchi S, Kudaka W, Horie K, Ikeda M, Shikama A, Mitsuhashi A, Nagao S, Suzuki S, Mizuno M, Nishio S, Tokunaga H, Ota Y, Kasamatsu T, Kitagawa R, Toita T, Kobayashi H, Ishikawa M, Yaegashi N** : Propensity score-matched analysis of systemic chemotherapy versus salvage hysterectomy for persistent cervical cancer after definitive radiotherapy/concurrent chemoradiotherapy. *BMC Cancer*. 30;20(1) : 1169, 2020.
- 003 **Nagai T, Ishida C, Nakamura T, Iwase A, Mori M, Murase T, Bayasula, Osuka S, Takikawa S, Goto M, Kotani T, Kikkawa F** : Focal Adhesion Kinase-Mediated Sequences, Including Cell Adhesion, Inflammatory Response, and Fibrosis, as a Therapeutic Target in Endometriosis. *Reprod Sci*. 27(7) : 1400-1410, 2020.
- 004 **Shimizu Y, Suzuki S, Ukai M, Hattori S, Yoshikawa N, Kajiyama H** : The Prognostic Significance of Peritumoral Lymphocytes' Band-like Structure in Type II Endometrial Cancer. *Anticancer Res*, 41(1) : 249-258, 2021.
- 005 **Tamauchi S, Suzuki S, Xuboya C, Yoshihara M, Yoshida K, Ikeda Y, Yoshikawa N, Kajiyama H, Kikkawa F** : Establishment of a patient-derived xenograft model and cell line of malignant transformation of mature cystic teratoma of the ovary. *J Obstet Gynaecol Res*, 47(2) : 713-719, 2021.
- 006 **Ukai M, Yokoi A, Yoshida K, Suzuki S, Shibata K, Kikkawa F, Nakatsura T, Kajiyama H** : Extracellular miRNAs as Predictive Biomarkers for Glypican-3-Derived Peptide Vaccine Therapy Response in Ovarian Clear Cell Carcinoma. *Cancers (Basel)*. 1;13(3) : 550, 2021.
- 007 **坪内寛文, 茂木一将, 坂田 純, 森 正彦, 福江美咲, 高磯伸枝, 細田和貴, 井本逸勢** : 当院における遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する腹腔鏡下リスク低減卵管卵巣摘出術の経験. *遺伝性腫瘍*, 20(3) : 160-167, 2020.
- 008 **西野翔吾, 坪内寛文, 坂田 純, 森 正彦, 鈴木史朗** : 当院における遺伝性乳癌卵巣癌症候群 (HBOC) 患者に対する腹腔鏡下リスク低減卵管卵巣摘出術 (RRSO) の取り組み 令和2年度診療報酬改定をふまえて. *東海産科婦人科学会雑誌*, 57 : 277-284, 2021.

脳神経外科部

その他誌上への発表

- 001 **灰本章一** : 脳神経外科専門医への道「脊髄腫瘍」. *脳神経外科速報*, 30 : 1000-1005, 2020.

放射線診断・I V R部

- 001 **Sato Y, Inaba Y, Aramaki T, Sone M, Morita Y, Nishiofuku H, Tanaka T, Miyazaki M, Matsueda K, Arai Y** : Hepatic arterial infusion chemotherapy of 5-fluorouracil for patients with unresectable liver metastases from colorectal cancer refractory to standard systemic chemotherapy; a multicenter retrospective study. *oncology*, 98(5) : 267-272, 2020.
- 002 **Umakoshi N, Arai Y, Inaba Y, Sone M, Sugawara S, Itoh C, Hasegawa T, Onishi Y** : Transhepatic placement of metallic biliary stent for internal drainage of persistent liver abscesses. *J Vasc Interv Radiol*, 31(6) : 1000-1004, 2020.
- 003 **Hasegawa T, Kuroda H, Chatani S, Furuya Y, Sato Y, Iwamasa H, Asai T, Yashiro H, Matsushima S, Inaba Y** : Comparison of radiopaque dye materials for localization of pulmonary nodules before video-assisted thoracic surgery. *J Thorac Dis*, 12(5) : 2070-2076, 2020.
- 004 **Kawada H, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Murata S, Hasegawa T, Ogura Y** : Stenting using the rendezvous technique for postoperative ureteral complications in cancer patients. *Cardiovasc Intervent Radiol*, 43(10) : 1486-1491, 2020.
- 005 **Hasegawa T, Sato Y, Kuroda H, Chatani S, Murata S, Yamaura H, Kato M, Onaya H, Inaba Y** : Clinical outcomes and techniques for radiofrequency ablation of lung tumors smaller than 1 cm. *Interventional Radiology*, 5(2) : 94-102, 2020.
- 006 **Sato Y, Hasegawa T, Chatani S, Murata S, Inaba Y** : Percutaneous radiofrequency ablation for liver tumors : technical tips. *Interventional Radiology* 5(2) : 50-57, 2020.
- 007 **Hasegawa T, Takaki H, Kodama H, Yamanaka T, Takao M, Inaba Y, Yamakado K** : Response to pulmonary metastasectomy for colorectal cancer ; randomized controlled trial *Radiology*, 298(1) : E54-E55, 2021.
- 008 **Sato Y, Hara K, Okuno N, Murata S, Hasegawa T, Morinaga H, Kimbara Y, Imai Y, Yamaura H, Inaba Y** : Endoscopic necrosectomy through a self-expandable metallic stent placed percutaneously for walled-off pancreatic necrosis. *Int J Gastrointest Interv*, 9(3) : 128-131, 2020.
- 009 **Shimohira M, Sato Y, Yasumoto T, Kodama Y, Masada T, Inaba Y, Yamakado K** : Arterial embolization using microspheres for hypervascular liver metastases refractory to standard treatments : A multicenter prospective clinical trial. *Cardiovasc Intervent Radiol*, 44(3) : 392-400, 2020.
- 010 **Sato Y, Chatani S, Hasegawa T, Murata S, Kuwahara T, Hara K, Shimizu Y, Inaba Y** : Percutaneous metallic stent placement for malignant afferent loop syndrome via the blind end of the jejunal limb after biliary reconstruction. *Int J Gastrointest Interv*, 10(1) : 23-27, 2021.

- 011 **Nagasawa K, Iwata M, Nihashi T, Terasawa T** : Diagnostic accuracy yield and comparative effectiveness of whole-body computed tomography in blunt trauma; A protocol for systematic review and meta-analysis . *Medicine(Baltimore)*, 15 : 100(2) : e24205, 2021.
- 012 **Chatani S, Sato Y, Murata S, Hasegawa T, Yamaura H, Natsume S, Senda Y, Shimazu Y, Inaba Y** : Percutaneous drainage via the blind end of the jejunal llib for biliary leakage after pancreaticoduodenectomy . *Cadiovasc Intervent Radiol*, 43(10) : 1561-1563, 2020.
- 013 **Chatani S, Hasegawa T, Kato S, Murata S, Sato Y, Yamaura H, Yamamoto K, Yatabe Y, Inaba Y** : Image-guided core needle biopsy in the diagnosis of malignant lymphoma; comparison with surgical excision biopsy . *Eur J Radiol*, 127 : 108990, 2020.
- 014 **Chatani S, Inaba Y, Murata S, Hasegawa T, Sato Y, Yamaura H, Onishi S, Ouchi A, Komori K** : Submucosal tunnel formation as a complication caused by long intestinal tube insertion : A case report . *Interventional Radiology* 5(3) : 141-144, 2020.
- 015 **Kagawa Y, Furuta H, Uemura T, Watanabe N, Shimizu J, Horio Y, Kuroda H, Inaba Y, Kodaira T, Masago K, Fujita S, Niimi A, Hida T** : Efficacy of local therapy for oligoprogressive disease after programmed cell death 1 blockade in advanced non-small cell lung cancer . *Cancer Sci*, 111(12) : 4442-4452, 2020.
- 016 **Kudo M, Tsuchiya K, Kato N, Hagihara A, Numata K, Aikata H, Inaba Y, Kondo S, Motomura K, Furuse J, Ikeda M, Morimoto M, Achira M, Kuroda S, Kimura A** : Cabozantinib in Japanese patients with advanced hepatocellular carcinoma; a phase 2 multicenter study. *J Gastroenterol*, 56(2) : 181-190, 2021.
- 017 **Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Yamada K, Abe T, Higaki E, Hosoi T, Inaba Y, Muro K, Shimizu M, Niwa Y** : Prognostic impact of sarcopenic obesity after neoadjuvant chemotherapy followed by surgery in elderly patients with esophageal squamous cell carcinoma . *J Clin Med*, 15;9(9) : 2974, 2020.
- 018 **Onishi Y, Yoshioka T, Arai Y, Inaba Y, Saito H, Aramaki T, Anai H, Sone M** : Randomized controlled study to compare uncovered stent Versus covered stent as percutaneous endoprosthesis for malignant biliary obstruction(JIVROSG-0207) . *Am J Clin Med*, 43(11) : 784-787, 2020.
- 019 **Sato Y, Chatani S, Hasegawa T, Murata S, Inaba Y** : Techniques for percutaneous transesophageal gastrotubing . *Int J Gastrointest Interv* , 10(2) : 49-53, 2021.
- 020 **Chatani S, Sato Y, Okuno N, Hasegawa T, Murata S, Yamaura H, Hara K, Shimizu Y, Inaba Y** : Percutaneous transsplenic obliteration of ectopic varices following pancreaticoduodenectomy with portal vein resection and splenic vein ligation . *Int J Gastrointest Interv* , 10(2) : 77-80, 2021.
- 021 **佐藤洋造, 長谷川貴章, 村田慎一, 稲葉吉隆** : 適応疾患・病態と手技 急性胆嚢炎に対する non-vascular IVR. *救急医学* 44(4) : 420-425, 2020.
- 022 **村田慎一, 茶谷祥平, 佐藤洋造, 稲葉吉隆** : 肝細胞がん 3) 肝動脈化学塞栓療法. *THE GI FOREFRONT* 16(2) : 54-58, 2020.
- 023 **村田慎一, 稲葉吉隆** : 中心静脈ポートの留置と管理. *臨床外科* 76 (2) : 149-153, 2021.
- 024 **前田章光, 稲葉吉隆, 保坂彰子, 長谷川貴章, 長谷川彩子, 稲熊一英, 梶田正樹** : エピルピシンを用いた肝動脈化学塞栓療法実施時における抗がん剤曝露調査. *日本病院薬剤師会雑誌* 56(12) : 1458-1463, 2020.
- 025 **佐藤洋造, 茶谷祥平, 長谷川貴章, 村田慎一, 稲葉吉隆** : Medical oncologist が知っておくべき肝胆膵領域における緩和的 IVR. *腫瘍内科* 27(2) : 233-238, 2021.
- 026 **稲葉吉隆, 村田慎一, 前田章光** : IVR に必要な基礎知識 動注抗がん剤. IVR のすべて, メジカルビュー社, 63-67, 2021.
- 027 **佐藤洋造, 稲葉吉隆** : 肝悪性腫瘍に対する経動脈治療 転移性肝がん (TACE). IVR のすべて, メジカルビュー社, 90-95, 2021.
- 028 **稲葉吉隆, 佐藤洋造** : 肝悪性腫瘍に対する経動脈治療 肝動注リザーバー. IVR のすべて, メジカルビュー社, 96-102, 2021.

放射線治療部

- 001 **Nishimura Y, Ishikura S, Shibata T, Kodaira T, Ito Y, Tsuchiya K, Murakami Y, Saitoh JI, Akimoto T, Nakata K, Yoshimura M, Teshima T, Toshiyasu T, Ota Y, Ishikawa K, Shimizu H, Minemura T, Nakamura K, Hiraoka M** : A phase II study of adaptive two-step intensity-modulated radiation therapy (IMRT) with chemotherapy for locoregionally advanced nasopharyngeal cancer (JCOG1015). *Int J Clin Oncol*, 25(7) : 1250-59, 2020.
- 002 **Ito M, Kodaira T, Koide Y, Okuda T, Mizumatsu S, Oshima Y, Takeuchi A, Mori T, Abe S, Asai A, Suzuki K** : Role of high-dose salvage radiotherapy for oligometastases of the localised abdominal/pelvic lymph nodes : a retrospective study. *BMJ Cancer* , 20 : 540, 2020.
- 003 **Kagawa Y, Furuta H, Uemura T, Watanabe N, Shimizu J, Horio Y, Kuroda H, Inaba Y, Kodaira T, Masago K, Fujita S, Niimi A, Hida** : Efficacy of local therapy for oligoprogressive disease after programmed cell death 1 blockade in advanced non-small cell lung cancer. *Cancer Sci*, 111(12) : 4442-52, 2020.
- 004 **Yokota T, Homma A, Kiyota N, Tahara M, Hanai N, Asakage T, Matsuura K, Ogawa T, Saito Y, Sano D, Kodaira T, Motegi A, Yasuda K, Takahashi S, Tanaka K, Onoe T, Okano**

- S, Imamura Y, Ariizumi Y, Hayashi R** : Japan Clinical Oncology Group (JCOG) Head and Neck Cancer Study Group. Immunotherapy for squamous cell carcinoma of the head and neck. *Jpn J Clin Oncol*, 50(10) : 1089-96, 2020.
- 005 **Takahiro Aoyama , Koichiro Uto, Hidetoshi Shimizu, Mitsuhiro Ebara, Tomoki Kitagawa, Hiroyuki Tachibana, Kojiro Suzuki, Takeshi Kodaira** : Physical and dosimetric characterization of thermoset shape memory bolus developed for radiotherapy. *Medial Phys* 47(12) : 6103-6112, 2020.
- 006 **Aoyama T, Shimizu H, Sasaki K, Ando M, Kaneda N, Tachibana H, Suzuki K, Kodaira T** : A Relationship Between Cervical Vertebrae Twisting and Cranial Angle in Head and Neck Radiotherapy. *In Vivo*. 2020 34(5) : 2401-2406, 2020.
- 007 **Murakami N, Mori T, Machida R, Kodaira T, Ito Y, Shikama N, Konishi K, Matsumoto Y, Murakami Y, Nakamura N, Yamashita H, Yoroza A, Yoshimura M, Inoue K, Nozaki M, Ishikura S, Itami J, Nishimura Y, Kagami Y** : Prognostic Value of Epithelial Cell Adhesion Molecules in T1-2N0M0 Glottic Cancer Laryngoscope. Online ahead of print, doi : 10.1002/lary.29348, 2020.
- 008 **Nishio T, Nakamura M, Okamoto H, Kito S, Minemura T, Ozawa S, Kumazaki Y, Ishikawa M, Tohyama N, Kurooka M, Nakashima T, Shimizu H, Suzuki R, Ishikura S, Nishimura Y** : An overview of the medical-physics-related verification system for radiotherapy multicenter clinical trials by the Medical Physics Working Group in the Japan Clinical Oncology Group-Radiation Therapy Study Group. *J Radiat Res*, rraa089. doi : 10.1093/jrr/rraa089. Epub ahead of print. PMID : 32989445, 2020.
- 009 **Furuya T, Young K. Lee, Ben R. Archibald-Heeren, Mikel Byrne, Bruno Bosco, Jun H. Phua, Shimizu H, Hashimoto S, Tanaka H, Sahgal A, Karasawa K** : Evaluation of multi-institutional end-to-end testing for post-operative spine stereotactic body radiation therapy. *Physics and Imaging in Radiation Oncology*, 16 : 61-68. doi : 10.1016/j.phro.2020.09.005, 2020.
- 010 **Nakamura K, Aoyama T, Kaneda N, Otsuji M, Minami Y, Sakuragi A, Nakamura M** : Effect of X-ray dose rates higher than 8 Gy/min on the functioning of cardiac implantable electronic devices. *J Radiat Res*, 22:61(3) : 419-425. doi : 10.1093/jrr/rraa016. PMID : 32253430; PMCID : PMC7299257, 2020.
- 011 **Yokota T, Ota Y, Fujii H, Kodaira T, Shimokawa M, Nakashima T, Monden N , Homma A , Ueda S, Akimoto T** : Real-world clinical outcomes and prognostic factors in Japanese patients with recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of head and neck treated with chemotherapy plus cetuximab : a prospective observation study (JROSG12-2). *Int J Clin Oncol* , 26(2) : 316-325, 2021.
- 012 **Okano S, Homma A, Kiyota N, Tahara M, Hanai N, Asakage T, Matsuura K, Ogawa T, Saito Y, Sano D, Kodaira T, Motegi A, Yasuda K, Takahashi S, Tanaka K, Onoe T, Yokota T, Imamura Y, Ariizumi Y, Akimoto T** : Ryuichi Hayashi. Induction chemotherapy in locally advanced squamous cell carcinoma of the head and neck. *Jpn J Clin Oncol*. 51(2) : 173-9, 2021.
- 013 **Shimizu H, Sasaki K, Aoyama T, Tachibana H, Tanaka H, Koide Y, Iwata T, Kitagawa T, Kodaira T** : Examination of the best head tilt angle to reduce the parotid gland dose maintaining a safe level of lens dose in whole-brain radiotherapy using the four-field box technique. *J Appl Clin Med Phys* , 22(2) : 49-57, 2021.
- 014 **Yasui K, Omachi C, Nagata J, Toshito T, Shimizu H, Aoyama T, Hayashi N** : Dosimetric response of a glass dosimeter in proton beams : LET-dependence and correction factor. *Phys Med*, Jan;81 : 147-154. doi : 10.1016/j.ejpm.2020.12.001. Epub 2021 Jan 15. PMID : 33461027, 2021.
- 015 **Yogo K, Misawa M, Shimizu M, Shimizu H, Kitagawa T, Hirayama R, Ishiyama H, Furukawa T, Yasuda H** : Effect of Gold Nanoparticle Radiosensitization on Plasmid DNA Damage Induced by High-Dose-Rate Brachytherapy. *Int J Nanomedicine*, Jan 14;16 : 359-370. doi : 10.2147/IJN.S292105. PMID : 33469290; PMCID : PMC7813456, 2021.
- 016 **Kato H, Taji H, Kodaira T, Kinoshita T, Yamamoto K** : Long-term engraftment stability of umbilical cord blood cells preserved in -135 ° C mechanical freezers. *Leuk Research* in press, 2021.
- 017 **Shimizu H, Sasaki K, Aoyama T, Iwata T, Kitagawa T, Kodaira T** : Lung dose reduction in patients with stage III non-small-cell lung cancer using software that estimates patient-specific dose reduction feasibility. *Med Phys* in press, 2021.
- 018 **Tsukita Y, Yamamoto T, Mayahara H, Hata A, Takeda Y, Nakayama H, Tanaka S, Uchida J, Usui K, Toyoda T, Tamiya M, Morimoto M, Oya Y, Kodaira T, Miyauchi E, Jingu K, Sugiura H** : Intensity-modulated radiation therapy with concurrent chemotherapy followed by durvalumab for stage III non-small cell lung cancer : a multi-center retrospective study. *Radiotherapy and Oncology* in press, 2021.
- 019 **Horio Y, Sato Y, Tachibana H, Hosoda W, Shimizu J, Hida T** : Successful bronchial arterial infusion chemotherapy combined with radiotherapy for an endobronchial metastasis after resection of small cell lung cancer. *Respirol Case Rep*, Mar 4;9(4), 2021.
- 020 **古平 毅** : 放射線治療計画ガイドライン. 日本放射線腫瘍学会 金原出版 頭頸部, IV 上咽頭癌 : 97-104, XII CTV アトラス 109-116, 2020.

緩和ケア部

- 001 下山理史：【WHO がん疼痛ガイドライン大きく改訂!!!】痛みの評価法。緩和ケア，31：53-57, 2021.
- 002 山本 亮，木澤義之，永山 淳，上村恵一，下山理史：新指針に基づいた緩和ケア研修会前後での他職種も含めた緩和ケアの知識・困難感の変化。Palliative Care Research, 16：73-78, 2021.

精神腫瘍科部

学会誌への発表

- 001 小森康永：ドゥルーズとナラティヴの密やかな関係、家族療法研究，37(1)：33-39, 2020.
- 002 小森康永：パラレルチャートを書こう（第7回）広島献神、家族療法研究，37(1)：45-49, 2020.
- 003 小森康永：パラレルチャートを書こう（第8回）うなぎのおんがえし、家族療法研究，37(3)：246-248, 2020.
- 004 小森康永：海外文献紹介 ケート・ワインガルテン：リフレクションというアートほか、家族療法研究，37(3)：258-263, 2020.

その他誌上への発表

- 001 小森康永：シシリー・ソングースとホスピスのこころ、春陽堂，2020.
- 002 A. グッドヘッドとN. ハートレー（編）みんなのスピリチュアリティ：シシリー・ソングース、トータルペインの現在（小森康永ほか訳）：北大路書房，2020.
- 003 K. P. エリソンとM. ワインガスト（編）人生の終わりに学ぶ観想の智慧：死の床で目覚めよという声を聞く（小森康永ほか訳）：北大路書房，2020.

看護部

- 001 Aoyama H：Society of Swallowing and Dysphagia of Japana：Position Statement on Dysphagia Management during the COVID-19 Outbreak- Nursing care-. Auris Nasus Larynx, 2020.
- 002 青山寿昭：新型コロナウイルス感染症流行期における嚥下障害診療指針 看護の留意点。嚥下医学会，2020.
- 003 青山寿昭：新型コロナウイルス感染症流行期における嚥下障害診療指針 看護の留意点 第二版。嚥下医学会，2020.
- 004 青山寿昭：頭頸部癌マスターガイド。メディカ出版，2021.
- 005 久保 知：頭頸部がんマスターガイド，メディカ出版：140-174, 2021.
- 006 久保 知：骨盤領域に放射線療法を受けた女性患者のセキシュアリティに関わる体験と対処行動。日本がん看護学会誌 34(34), 2020.

薬剤部

- 001 Maeda A, Irie K, Hashimoto N, Fukushima S, Ando H, Okada A, Ebi H, Kajita M, Iwata H, Sawaki M：Serum concentration of the CKD4/6 inhibitor abemaciclib, but not of creatinine, strongly predicts hematological adverse events in patients with breast cancer：a preliminary report. Invest New Drugs. 39(1)：272-277, 2021.
- 002 Maeda A, Yoshida H, Inoue H, Ejiri M, Yamaguchi S, Kushihara H, Yamamoto Y, Ando Y, Sato Y, Tashiro Y, Hasegawa A, Takahara Y, Mizutani M, Oze I, Shimizu J：Effects of 5-mg dose of olanzapine for breakthrough nausea and vomiting in patients receiving carboplatin-based chemotherapy：a prospective trial. Annals of Palliative Medicine. 10(3); 2699-2708, 2021.
- 003 前田章光，檜垣栄治，鶴岡秀一，高野裕佑，水野知奈美，稲熊一英，梶田正樹，田近正洋：シスプラチンによる非乏尿性急性腎障害に対して透析療法を必要とした1症例。日本病院薬剤師会雑誌。56(6)：656-62, 2020.
- 004 前田章光，稲葉吉隆，保坂彰子，長谷川貴章，長谷川彩子，稲熊一英，梶田正樹：エビルピシンを用いた肝動脈化学塞栓療法実施時における抗がん剤曝露調査。日本病院薬剤師会雑誌。56(12)：1458-63, 2020.

6. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (研究所)

がん情報・対策研究分野

- 001 *Takeuchi T, Kitamura Y, Sobue T, Utada M, Ozasa K, Sugawara Y, Tsuji I, Hori M, Sawada N, Tsugane S, Koyanagi YN, Ito H, Wang C, Tamakoshi A, Wada K, Nagata C, Shimazu T, Mizoue T, Matsuo K, Naito M, Tanaka K, Inoue M; Research Group for the Development, Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan.* : Impact of reproductive factors on breast cancer incidence : Pooled analysis of nine cohort studies in Japan. *Cancer Med*, 10(6) : 2153-2163, 2021.
- 002 *Fujii R, Hishida A, Nishiyama T, Nakatochi M, Matsuo K, Ito H, Nishida Y, Shimanoe C, Nakamura Y, Turin TC, Suzuki S, Watanabe M, Ibusuki R, Takezaki T, Mikami H, Nakamura Y, Ikezaki H, Murata M, Kuriki K, Kuriyama N, Matsui D, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Tsukamoto M, Tamura T, Kubo Y, Kondo T, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K, Wakai K* : Assessing the relationship between high-sensitivity C-reactive protein and kidney function employing mendelian randomization in a Japanese community based J-MICC Study. *J Epidemiol*, 2021
- 003 *Kawakatsu Y, Koyanagi YN, Oze I, Kasugai Y, Morioka H, Yamaguchi R, Ito H, Matsuo K* : Association between Socioeconomic Status and Digestive Tract Cancers : A Case-Control Study. *Cancers (Basel)*, 12(11) : 3258, 2020.
- 004 *Tamura T, Kuriyama N, Koyama T, Ozaki E, Matsui D, Kadomatsu Y, Tsukamoto M, Kubo Y, Okada R, Hishida A, Sasakabe T, Kawai S, Naito M, Takashima N, Kadota A, Tanaka K, Hara M, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Takezaki T, Shimoshikiryo I, Ikezaki H, Murata M, Oze I, Ito H, Mikami H, Nakamura Y, Kuriki K, Arisawa K, Uemura H, Takeuchi K, Wakai K* : Association between plasma levels of homocysteine, folate, and vitamin B(12), and dietary folate intake and hypertension in a cross-sectional study. *Sci Rep*, 10(1) : 18499, 2020.
- 005 *Kramer I, Hooning MJ, Mavaddat N, Hauptmann M, Keeman R, Steyerberg EW, Giardiello D, Antoniou AC, Pharoah PDP, Canisius S, Abu-Ful Z, Andrulis IL, Anton-Culver H, Aronson KJ, Augustinsson A, Becher H, Beckmann MW, Behrens S, Benitez J, Bermisheva M, Bogdanova NV, Bojesen SE, Bolla MK, Bonanni B, Brauch H, Bremer M, Brucker SY, Burwinkel B, Castela JE, Chan TL, Chang-Claude J, Chanoock SJ, Chenevix-Trench G, Choi JY, Clarke CL; NBCS Collaborators, Collée JM, Couch FJ, Cox A, Cross SS, Czene K, Daly MB, Devilee P, Dörk T, Dos-Santos-Silva I, Dunning AM, Dwek M, Eccles DM, Evans DG, Fasching PA, Flyger H, Gago-Dominguez M, García-Closas M, García-Sáenz JA, Giles GG, Goldgar DE, González-Neira A, Haiman CA, Håkansson N, Hamann U, Hartman M, Heemskerk-Gerritsen BAM, Hollestelle A, Hopper JL, Hou MF, Howell A; ABCTB Investigators; kConFab Investigators, Ito H, Jakimovska M, Jakubowska A, Janni W, John EM, Jung A, Kang D, Kets CM, Khusnutdinova E, Ko YD, Kristensen VN, Kurian AW, Kwong A, Lambrechts D, Le Marchand L, Li J, Lindblom A, Lubiński J, Mannermaa A, Manoochehri M, Margolin S, Matsuo K, Mavroudis D, Meindl A, Milne RL, Mulligan AM, Muranen TA, Neuhausen SL, Nevanlinna H, Newman WG, Olshan AF, Olson JE, et al.* : Breast Cancer Polygenic Risk Score and Contralateral Breast Cancer Risk. *Am J Hum Genet*, 107(5) : 837-848, 2020.
- 006 *Masuda T, Ito H, Hirata J, Sakaue S, Ueda Y, Kimura T, Takeuchi F, Murakami Y, Matsuda K, Matsuo K, Okada Y* : Fine Mapping of the Major Histocompatibility Complex Region and Association of the HLA-B*52 : 01 Allele With Cervical Cancer in Japanese Women. *JAMA Netw Open*, 3(10), 2020.
- 007 *Suzuki T, Nakamura Y, Matsuo K, Oze I, Doi Y, Narita A, Shimizu A, Imaeda N, Goto C, Matsui K, Nakatochi M, Miura K, Takashima N, Kuriki K, Shimanoe C, Tanaka K, Ikezaki H, Murata M, Ibusuki R, Takezaki T, Koyanagi Y, Ito H, Matsui D, Koyama T, Mikami H, Nakamura Y, Suzuki S, Nishiyama T, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Takeuchi K, Tamura T, Okada R, Kubo Y, Momozawa Y, Kubo M, Kita Y, Wakai K; J-MICC Research Group.* : A genome-wide association study on fish consumption in a Japanese population-the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort study. *Eur J Clin Nutr*, 75(3) : 480-488, 2021.
- 008 *Shimatani K, Ito H, Matsuo K, Tajima K, Takezaki T* : Cumulative cigarette tar exposure and lung cancer risk among Japanese smokers. *Jpn J Clin Oncol*. 50(9) : 1009-1017, 2020.
- 009 *Akter S, Islam Z, Mizoue T, Sawada N, Ihira H, Tsugane S, Koyanagi YN, Ito H, Wang C, Tamakoshi A, Wada K, Nagata C, Tanaka K, Kitamura Y, Utada M, Ozasa K, Sugawara Y, Tsuji I, Shimazu T, Matsuo K, Naito M, Tanaka K, Inoue M.* : Smoking and colorectal cancer : A pooled analysis of 10 population-based cohort studies in Japan. *Int J Cancer*, 148(3) : 654-664, 2021.
- 010 *Ho WK, Tan MM, Mavaddat N, Tai MC, Mariapun S, Li J, Ho PJ, Dennis J, Tyrer JP, Bolla MK, Michailidou K, Wang Q, Kang D, Choi JY, Jamaris S, Shu XO, Yoon SY, Park SK, Kim SW, Shen CY, Yu JC, Tan EY, Chan PMY, Muir K, Lophatananon A, Wu AH, Stram DO, Matsuo K, Ito H, Chan CW, Ngeow J, Yong WS, Lim SH, Lim GH, Kwong A, Chan TL, Tan SM, Seah J, John EM, Kurian AW, Koh WP, Khor CC, Iwasaki M, Yamaji T, Tan KMV, Tan KTB, Spinelli JJ, Aronson KJ, Hasan SN, Rahmat K, Vijayanathan A, Sim X, Pharoah PDP, Zheng W, Dunning AM, Simard J, van*

- Dam RM, Yip CH, Taib NAM, Hartman M, Easton DF, Teo SH, Antoniou AC* : European polygenic risk score for prediction of breast cancer shows similar performance in Asian women. *Nat Commun*, 11(1) : 3833, 2020.
- 011 *Usui Y, Ito H, Koyanagi Y, Shibata A, Matsuda T, Katanoda K, Maeda Y, Matsuo K* : Changing trend in mortality rate of multiple myeloma after introduction of novel agents : A population-based study. *Int J Cancer*, 147(11) : 3102-3109, 2020.
- 012 *Lin Y, Nakatochi M, Hosono Y, Ito H, Kamatani Y, Inoko A, Sakamoto H, Kinoshita F, Kobayashi Y, Ishii H, Ozaka M, Sasaki T, Matsuyama M, Sasahira N, Morimoto M, Kobayashi S, Fukushima T, Ueno M, Ohkawa S, Egawa N, Kuruma S, Mori M, Nakao H, Adachi Y, Okuda M, Osaki T, Kamiya S, Wang C, Hara K, Shimizu Y, Miyamoto T, Hayashi Y, Ebi H, Kohmoto T, Imoto I, Kasugai Y, Murakami Y, Akiyama M, Ishigaki K, Matsuda K, Hirata M, Shimada K, Okusaka T, Kawaguchi T, Takahashi M, Watanabe Y, Kuriki K, Kadota A, Okada R, Mikami H, Takezaki T, Suzuki S, Yamaji T, Iwasaki M, Sawada N, Goto A, Kinoshita K, Fuse N, Katsuoka F, Shimizu A, Nishizuka SS, Tanno K, Suzuki K, Okada Y, Horikoshi M, Yamauchi T, Kadowaki T, Yu H, Zhong J, Amundadottir LT, Doki Y, Ishii H, Eguchi H, Bogumil D, Haiman CA, Le Marchand L, Mori M, Risch H, Setiawan VW, Tsugane S, Wakai K, Yoshida T, Matsuda F, Kubo M, Kikuchi S, Matsuo K* : Genome-wide association meta-analysis identifies GP2 gene risk variants for pancreatic cancer. *Nat Commun*, 11(1) : 3175, 2020.
- 013 *Liu J, Prager-van der Smissen WJC, Collée JM, Bolla MK, Wang Q, Michailidou K, Dennis J, Ahearn TU, Aittomäki K, Ambrosone CB, Andrulis IL, Anton-Culver H, Antonenkova NN, Arndt V, Arnold N, Aronson KJ, Augustinsson A, Auvinen P, Becher H, Beckmann MW, Behrens S, Bermisheva M, Bernstein L, Bogdanova NV, Bogdanova-Markov N, Bojesen SE, Brauch H, Brenner H, Briceno I, Brucker SY, Brüning T, Burwinkel B, Cai Q, Cai H, Campa D, Canzian F, Castela JE, Chang-Claude J, Chanock SJ, Choi JY, Christiaens M, Clarke CL; NBCS Collaborators, Couch FJ, Czene K, Daly MB, Devilee P, Dos-Santos-Silva I, Dwek M, Eccles DM, Eliassen AH, Fasching PA, Figueroa J, Flyger H, Fritschi L, Gago-Dominguez M, Gapstur SM, García-Closas M, García-Sáenz JA, Gaudet MM, Giles GG, Goldberg MS, Goldgar DE, Guénel P, Haiman CA, Håkansson N, Hall P, Harrington PA, Hart SN, Hartman M, Hillemanns P, Hopper JL, Hou MF, Hunter DJ, Huo D; ABCTB Investigators, Ito H, Iwasaki M, Jakimovska M, Jakubowska A, John EM, Kaaks R, Kang D, Keeman R, Khusnutdinova E, Kim SW, Kraft P, Kristensen VN, Kurian AW, Le Marchand L, Li J, Lindblom A, Lophatananon A, Luben RN, Lubiński J, Mannermaa A, Manoochchri M, Manoukian S, Margolin S, Mariapun S, et al* : Germline HOXB13 mutations p. G84E and p. R217C do not confer an increased breast cancer risk. *Sci Rep*, 10(1) : 9688, 2020.
- 014 *Yang JJ, Yu D, Shu XO, Freedman ND, Wen W, Rahman S, Abe SK, Saito E, Gupta PC, He J, Tsugane S, Gao YT, Xiang YB, Yuan JM, Tomata Y, Tsuji I, Sugawara Y, Matsuo K, Ahn YO, Park SK, Chen Y, Pan WH, Pednekar M, Gu D, Sawada N, Cai H, Li HL, Koh WP, Wang R, Zhang S, Kanemura S, Ito H, Shin MH, Wu PE, Yoo KY, Ahsan H, Chia KS, Boffetta P, Inoue M, Kang D, Potter JD, Zheng W* : Quantifying the association of low-intensity and late initiation of tobacco smoking with total and cause-specific mortality in Asia. *Tob Control*, 30(3) : 328-335, 2021.
- 015 *Ishigaki K, Akiyama M, Kanai M, Takahashi A, Kawakami E, Sugishita H, Sakaue S, Matoba N, Low SK, Okada Y, Terao C, Amariuta T, Gazal S, Kochi Y, Horikoshi M, Suzuki K, Ito K, Koyama S, Ozaki K, Niida S, Sakata Y, Sakata Y, Kohno T, Shiraishi K, Momozawa Y, Hirata M, Matsuda K, Ikeda M, Iwata N, Ikegawa S, Kou I, Tanaka T, Nakagawa H, Suzuki A, Hirota T, Tamari M, Chayama K, Miki D, Mori M, Nagayama S, Daigo Y, Miki Y, Katagiri T, Ogawa O, Obara W, Ito H, Yoshida T, Imoto I, Takahashi T, Tanikawa C, Suzuki T, Sinozaki N, Minami S, Yamaguchi H, Asai S, Takahashi Y, Yamaji K, Takahashi K, Fujioka T, Takata R, Yanai H, Masumoto A, Koretsune Y, Kutsumi H, Higashiyama M, Murayama S, Minegishi N, Suzuki K, Tanno K, Shimizu A, Yamaji T, Iwasaki M, Sawada N, Uemura H, Tanaka K, Naito M, Sasaki M, Wakai K, Tsugane S, Yamamoto M, Yamamoto K, Murakami Y, Nakamura Y, Raychaudhuri S, Inazawa J, Yamauchi T, Kadowaki T, Kubo M, Kamatani Y* : Large-scale genome-wide association study in a Japanese population identifies novel susceptibility loci across different diseases. *Nat Genet*, 52(7) : 669-679, 2020.
- 016 *Tsutsui A, Taniyama Y, Ohno Y* : Driving to Childhood Cancer Hub Hospitals : A Study on Hospital Accessibility in Japan. *Asian Pac J Cancer Prev*, 21(6) : 1725-1730, 2020.
- 017 *Iwase M, Matsuo K, Nakatochi M, Oze I, Ito H, Koyanagi Y, Ugai T, Kasugai Y, Hishida A, Takeuchi K, Okada R, Kubo Y, Shimanoe C, Tanaka K, Ikezaki H, Murata M, Takezaki T, Nishimoto D, Kuriyama N, Ozaki E, Suzuki S, Watanabe M, Mikami H, Nakamura Y, Uemura H, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Kita Y, Takashima N, Nagino M, Momozawa Y, Kubo M, Wakai K* : Differential Effect of Polymorphisms on Body Mass Index Across the Life Course of Japanese : The Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *J Epidemiol*, 31(3) : 172-179, 2021.
- 018 *Koyanagi YN, Suzuki E, Imoto I, Kasugai Y, Oze I, Ugai T, Iwase M, Usui Y, Kawakatsu Y, Sawabe M, Hirayama Y, Tanaka T, Abe T, Ito S, Komori K, Hanai N, Tajika M, Shimizu Y, Niwa Y, Ito H, Matsuo K* : Across-Site Differences in the Mechanism of Alcohol-Induced Digestive Tract Carcinogenesis : An Evaluation by Mediation Analysis. *Cancer Res*, 80(7) : 1601-1610, 2020.

- 019 **Taniyama Y, Tabuchi T, Ohno Y, Morishima T, Okawa S, Koyama S, Miyashiro I** : Hospital Surgical Volume and 3-Year Mortality in Severe Prognosis Cancers : A Population-Based Study Using Cancer Registry Data. *J Epidemiol*, 31(1) : 52-58, 2021.
- 020 **Shinjo K, Hara K, Nagae G, Umeda T, Katsushima K, Suzuki M, Murofushi Y, Umezū Y, Takeuchi I, Takahashi S, Okuno Y, Matsuo K, Ito H, Tajima S, Aburatani H, Yamao K, Kondo Y** : A novel sensitive detection method for DNA methylation in circulating free DNA of pancreatic cancer. *PLoS One*, 15(6) : e0233782, 2020.
- 021 **Usui Y, Matsuo K, Oze I, Ugai T, Koyanagi Y, Maeda Y, Ito H, Hishida A, Takeuchi K, Tamura T, Tsukamoto M, Kadomatsu Y, Hara M, Nishida Y, Shimoshikiryo I, Takezaki T, Ozaki E, Matsui D, Watanabe I, Suzuki S, Watanabe M, Nakagawa-Senda H, Mikami H, Nakamura Y, Arisawa K, Uemura H, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Ikezaki H, Murata M, Nakatochi M, Momozawa Y, Kubo M, Wakai K** : Impact of PSCA Polymorphisms on the Risk of Duodenal Ulcer. *J Epidemiol*, 31(1) : 12-20, 2021.
- 022 **Masaoka H, Matsuo K, Oze I, Ito H, Naito M, Wada K, Nagata C, Nakayama T, Kitamura Y, Sadakane A, Tamakoshi A, Tsuji I, Sugawara Y, Sawada N, Mizoue T, Inoue M, Tanaka K, Tsugane S, Shimazu T** : Alcohol Drinking and Bladder Cancer Risk From a Pooled Analysis of Ten Cohort Studies in Japan. *J Epidemiol*, 30(7) : 309-313, 2020.
- 023 **Suga K, Imoto I, Ito H, Naruto T, Goji A, Osumi K, Tokaji N, Homma Y, Ono A, Ichihara Y, Shono M, Mori T, Urushihara M, Nakagawa R, Hayabuchi Y, Kagami S** : Next-generation sequencing for the diagnosis of patients with congenital multiple anomalies and / or intellectual disabilities. *J Med Invest*, 246-249, 2020.
- 024 **Okawa S, Tabuchi T, Morishima T, Koyama S, Taniyama Y, Miyashiro I** : Hospital volume and postoperative 5-year survival for five different cancer sites : A population-based study in Japan. *Cancer Sci*, 111(3) : 985-993, 2020.
- Koge J, Takita W, Hashikawa T, Funakoshi Y, Kondo D, Kamata T, Tsujimoto A, Matsushita T, Murai H, Matsuo K, Kitazono T, Kira J** : Clopidogrel response predicts thromboembolic events associated with coil embolization of unruptured intracranial aneurysms : A prospective cohort study. *PLoS One*, 16(4) : e0249766, 2021.
- 003 **Takeuchi T, Kitamura Y, Sobue T, Utada M, Ozasa K, Sugawara Y, Tsuji I, Hori M, Sawada N, Tsugane S, Koyanagi YN, Ito H, Wang C, Tamakoshi A, Wada K, Nagata C, Shimazu T, Mizoue T, Matsuo K, Naito M, Tanaka K, Inoue M; Research Group for the Development, Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan** : Impact of reproductive factors on breast cancer incidence : Pooled analysis of nine cohort studies in Japan. *Cancer Med*, Mar10(6) : 2153-2163, 2021.
- 004 **Suzuki T, Nakamura Y, Doi Y, Narita A, Shimizu A, Imaeda N, Goto C, Matsui K, Kadota A, Miura K, Nakatochi M, Tanaka K, Hara M, Ikezaki H, Murata M, Takezaki T, Nishimoto D, Matsuo K, Oze I, Kuriyama N, Ozaki E, Mikami H, Nakamura Y, Watanabe M, Suzuki S, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Kuriki K, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K, Kita Y, Wakai K; J-MICC Research Group** : A genome-wide association study on confection consumption in a Japanese population : the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *Br J Nutr*, 26 : 1-9, 2021.
- 005 **Fujii R, Hishida A, Nishiyama T, Nakatochi M, Matsuo K, Ito H, Nishida Y, Shimano C, Nakamura Y, Turin TC, Suzuki S, Watanabe M, Ibusuki R, Takezaki T, Mikami H, Nakamura Y, Ikezaki H, Murata M, Kuriki K, Kuriyama N, Matsui D, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Tsukamoto M, Tamura T, Kubo Y, Kondo T, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K, Wakai K** : Assessing the relationship between high-sensitivity C-reactive protein and kidney function employing mendelian randomization in a Japanese community based J-MICC Study. *J Epidemiol*, 20, 2021.
- 006 **Suzuki S, Goto A, Nakatochi M, Narita A, Yamaji T, Sawada N, Katagiri R, Iwagami M, Hanyuda A, Hachiya T, Sutoh Y, Oze I, Koyanagi YN, Kasugai Y, Taniyama Y, Ito H, Ikezaki H, Nishida Y, Tamura T, Mikami H, Takezaki T, Suzuki S, Ozaki E, Kuriki K, Takashima N, Arisawa K, Takeuchi K, Tanno K, Shimizu A, Tamiya G, Hozawa A, Kinoshita K, Wakai K, Sasaki M, Yamamoto M, Matsuo K, Tsugane S, Iwasaki M** : Body mass index and colorectal cancer risk : A Mendelian randomization study. *Cancer Sci*, 112(4) : 1579-1588, 2021.
- 007 **Morra A, Jung AY, Behrens S, Keeman R, Ahearn TU, Anton-Culver H, Arndt V, Augustinsson A, Auvinen PK, Beane Freeman LE, Becher H, Beckmann MW, Blomqvist C, Bojesen SE, Bolla MK, Brenner H, Briceno I, Brucker SY, Camp NJ, Campa D, Canzian F, Castela JE, Chanock SJ, Choi JY, Clarke CL, Couch FJ, Cox A, Cross SS, Czene K, Dörk T, Dunning AM, Dwek M, Easton DF, Eccles DM, Egan**

がん予防研究分野

- 001 **Yang JJ, Yu D, Shu XO, Wen W, Rahman S, Abe S, Saito E, Gupta PC, He J, Tsugane S, Gao YT, Yuan JM, Koh WP, Sadakane A, Tomata Y, Tsuji I, Sugawara Y, Matsuo K, Ahn YO, Park SK, Chen Y, Inoue M, Kang D, Zheng W** : Reduction in total and major cause-specific mortality from tobacco smoking cessation : a pooled analysis of 16 population-based cohort studies in Asia. *Int J Epidemiol*, 5 : dyab087, 2021.
- 002 **Higashi E, Matsumoto S, Nakahara I, Hatano T, Ishii A, Sadamasa N, Ohta T, Ishihara T, Tokunaga K, Ando M, Chihara H, Furuta K, Hashimoto T, Tanaka K, Sonoda K,**

- KM, Evans DG, Fasching PA, Flyger H, Gago-Dominguez M, Gapstur SM, García-Sáenz JA, Gaudet MM, Giles GG, Grip M, Guénel P, Haiman CA, Håkansson N, Hall P, Hamann U, Han SN, Hart SN, Hartman M, Heyworth JS, Hoppe R, Hopper JL, Hunter DJ, Ito H, Jager A, Jakimovska M, Jakubowska A, Janni W, Kaaks R, Kang D, Kapoor PM, Kitahara CM, Koutros S, Kraft P, Kristensen VN, Lacey JV, Lambrechts D, Le Marchand L, Li J, Lindblom A, Lubiński J, Lush M, Mannermaa A, Manoochehri M, Margolin S, Mariapun S, Matsuo K, Mavroudis D, Milne RL, Muranen TA, Newman WG, Noh DY, Nordestgaard BG, Obi N, Olshan AF, Olsson H, Park-Simon TW, Petridis C, Pharoah PDP, Plaseska-Karanfilska D, Presneau N, Rashid MU, Rennert G, Rennert HS, Rhenius V, Romero A, Saloustros E, et al* : Breast Cancer Risk Factors and Survival by Tumor Subtype : Pooled Analyses from the Breast Cancer Association Consortium. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 30(4) : 623-642, 2021.
- 008 *Iwase M, Matsuo K, Koyanagi YNY, Ito H, Tamakoshi A, Wang C, Utada M, Ozasa K, Sugawara Y, Tsuji I, Sawada N, Tanaka S, Nagata C, Kitamura Y, Shimazu T, Mizoue T, Naito M, Tanaka K, Inoue M* : Alcohol consumption and breast cancer risk in Japan : A pooled analysis of eight population-based cohort studies. *Int J Cancer*, 148(11) : 2736-2747, 2021.
- 009 *Nakano N, Utsunomiya A, Matsuo K, Yoshida N, Seto M, Ohshima K, Fujiwara H, Fuji S, Takatsuka Y, Ito A, Miyamoto T, Suehiro Y, Nakamae H, Sawayama Y, Yuasa M, Miyazaki Y, Ota S, Imada K, Fukuda T, Ichinohe T, Atsuta Y, Kato K* : Chromosomal defects and survival in patients with adult T-cell leukemia/lymphoma after allogeneic HSCT. *Blood Adv*, 5(2) : 475-486, 2021.
- 010 *Blechter B, Wong JYY, Agnes Hsiung C, Hosgood HD, Yin Z, Shu XO, Zhang H, Shi J, Song L, Song M, Zheng W, Wang Z, Caporaso N, Burdette L, Yeager M, Berndt SI, Teresa Landi M, Chen CJ, Chang GC, Hsiao CF, Tsai YH, Chen KY, Huang MS, Su WC, Chen YM, Chien LH, Chen CH, Yang TY, Wang CL, Hung JY, Lin CC, Perng RP, Chen CY, Chen KC, Li YJ, Yu CJ, Chen YS, Chen YH, Tsai FY, Jie Seow W, Bassig BA, Hu W, Ji BT, Wu W, Guan P, He Q, Gao YT, Cai Q, Chow WH, Xiang YB, Lin D, Wu C, Wu YL, Shin MH, Hong YC, Matsuo K, Chen K, Pik Wong M, Lu D, Jin L, Wang JC, Seow A, Wu T, Shen H, Fraumeni JF, Yang PC, Chang IS, Zhou B, Chanock SJ, Rothman N, Chatterjee N, Lan Q* : Sub-multiplicative interaction between polygenic risk score and household coal use in relation to lung adenocarcinoma among never-smoking women in Asia. *Environ Int*, 147 : 105975, 2021.
- 011 *Oka Y, Hamada M, Nakazawa Y, Muramatsu H, Okuno Y, Higasa K, Shimada M, Takeshima H, Hanada K, Hirano T, Kawakita T, Sakaguchi H, Ichimura T, Ozono S, Yuge K, Watanabe Y, Kotani Y, Yamane M, Kasugai Y, Tanaka M, Suganami T, Nakada S, Mitsutake N, Hara Y, Kato K, Mizuno S, Miyake N, Kawai Y, Tokunaga K, Nagasaki M, Kito S, Isoyama K, Onodera M, Kaneko H, Matsumoto N, Matsuda F, Matsuo K, Takahashi Y, Mashimo T, Kojima S, Ogi T* : Digenic mutations in ALDH2 and ADH5 impair formaldehyde clearance and cause a multisystem disorder, AMeD syndrome. *Sci Adv*, 6(51) : eabd7197, 2020.
- 012 *Suzuki H, Nakamura Y, Matsuo K, Imaeda N, Goto C, Narita A, Shimizu A, Takashima N, Matsui K, Miura K, Nakatochi M, Hishida A, Tamura T, Kadomatsu Y, Okada R, Nishida Y, Shimanoe C, Nishimoto D, Takezaki T, Oze I, Ito H, Ikezaki H, Murata M, Matsui D, Ozaki E, Mikami H, Nakamura Y, Suzuki S, Watanabe M, Arisawa K, Uemura H, Kuriki K, Momozawa Y, Kubo M, Kita Y, Takeuchi K, Wakai K* : A genome-wide association study in Japanese identified one variant associated with a preference for a Japanese dietary pattern. *Eur J Clin Nutr*, 75(6) : 937-945, 2021.
- 013 *Yin X, Kim K, Suetsugu H, Bang SY, Wen L, Koido M, Ha E, Liu L, Sakamoto Y, Jo S, Leng RX, Otomo N, Laurynenka V, Kwon YC, Sheng Y, Sugano N, Hwang MY, Li W, Mukai M, Yoon K, Cai M, Ishigaki K, Chung WT, Huang H, Takahashi D, Lee SS, Wang M, Karino K, Shim SC, Zheng X, Miyamura T, Kang YM, Ye D, Nakamura J, Suh CH, Tang Y, Motomura G, Park YB, Ding H, Kuroda T, Choe JY, Li C, Niuro H, Park Y, Shen C, Miyamoto T, Ahn GY, Fei W, Takeuchi T, Shin JM, Li K, Kawaguchi Y, Lee YK, Wang Y, Amano K, Park DJ, Yang W, Tada Y, Yamaji K, Shimizu M, Atsumi T, Suzuki A, Sumida T, Okada Y, Matsuda K, Matsuo K, Kochi Y; Japanese Research Committee on Idiopathic Osteonecrosis of the Femoral Head, Kottyan LC, Weirauch MT, Parameswaran S, Eswar S, Salim H, Chen X, Yamamoto K, Harley JB, Ohmura K, Kim TH, Yang S, Yamamoto T, Kim BJ, Shen N, Ikegawa S, Lee HS, Zhang X, Terao C, Cui Y, Bae SC* : Meta-analysis of 208370 East Asians identifies 113 susceptibility loci for systemic lupus erythematosus. *Ann Rheum Dis*, 80(5) : 632-40, 2020.
- 014 *Jin K, Hung RJ, Thomas S, Le Marchand L, Matsuo K, Seow A, Shen H, Kok WP, Yuan JM, Wu M, Li L, Zhao JK, Zhang ZF* : Hormonal factors in association with lung cancer among Asian women : A pooled analysis from the International Lung Cancer Consortium. *Int J Cancer*, 148(9) : 2241-2254, 2021.
- 015 *Kawakatsu Y, Koyanagi YN, Oze I, Kasugai Y, Morioka H, Yamaguchi R, Ito H, Matsuo K* : Association between Socioeconomic Status and Digestive Tract Cancers : A Case-Control Study. *Cancers (Basel)*, 12(11) : 3258, 2020.
- 016 *Dingler FA, Wang M, Mu A, Millington CL, Oberbeck N, Watcham S, Pontel LB, Kamimae-Lanning AN, Langevin F, Nadler C, Cordell RL, Monks PS, Yu R, Wilson NK, Hira A, Yoshida K, Mori M, Okamoto Y, Okuno Y, Muramatsu H, Shiraishi Y, Kobayashi M, Moriguchi T, Osumi T, Kato*

- M, Miyano S, Ito E, Kojima S, Yabe H, Yabe M, Matsuo K, Ogawa S, Göttgens B, Hodkinson MRG, Takata M, Patel KJ* : Two Aldehyde Clearance Systems Are Essential to Prevent Lethal Formaldehyde Accumulation in Mice and Humans. *Mol Cell*, 80(6) : 996-1012. e9, 2020.
- 017 *Masuda T, Ito H, Hirata J, Sakaue S, Ueda Y, Kimura T, Takeuchi F, Murakami Y, Matsuda K, Matsuo K, Okada Y* : Fine Mapping of the Major Histocompatibility Complex Region and Association of the HLA-B*52 : 01 Allele With Cervical Cancer in Japanese Women. *JAMA Netw Open*, 3(10) : e2023248, 2020.
- 018 *Kramer I, Hooning MJ, Mavaddat N, Hauptmann M, Keeman R, Steyerberg EW, Giardiello D, Antoniou AC, Pharoah PDP, Canisius S, Abu-Ful Z, Andrulis IL, Anton-Culver H, Aronson KJ, Augustinsson A, Becher H, Beckmann MW, Behrens S, Benitez J, Bermisheva M, Bogdanova NV, Bojesen SE, Bolla MK, Bonanni B, Brauch H, Bremer M, Brucker SY, Burwinkel B, Castelao JE, Chan TL, Chang-Claude J, Chanock SJ, Chenevix-Trench G, Choi JY, Clarke CL; NBCS Collaborators, Collée JM, Couch FJ, Cox A, Cross SS, Czene K, Daly MB, Devilee P, Dörk T, Dos-Santos-Silva I, Dunning AM, Dwek M, Eccles DM, Evans DG, Fasching PA, Flyger H, Gago-Dominguez M, García-Closas M, García-Sáenz JA, Giles GG, Goldgar DE, González-Neira A, Haiman CA, Håkansson N, Hamann U, Hartman M, Heemskerk-Gerritsen BAM, Hollestelle A, Hopper JL, Hou MF, Howell A; ABCTB Investigators; kConFab Investigators, Ito H, Jakimovska M, Jakubowska A, Janni W, John EM, Jung A, Kang D, Kets CM, Khusnutdinova E, Ko YD, Kristensen VN, Kurian AW, Kwong A, Lambrechts D, Le Marchand L, Li J, Lindblom A, Lubiński J, Mannermaa A, Manoochehri M, Margolin S, Matsuo K, Mavroudis D, Meindl A, Milne RL, Mulligan AM, Muranen TA, Neuhausen SL, Nevanlinna H, Newman WG, Olshan AF, Olson JE, et al* : Breast Cancer Polygenic Risk Score and Contralateral Breast Cancer Risk. *Am J Hum Genet*, 107(5) : 837-848, 2020.
- 019 *Ong JS, Derks EM, Eriksson M, An J, Hwang LD, Easton DF, Pharoah PP, Berchuck A, Kelemen LE, Matsuo K, Chenevix-Trench G, Hall P, Bojesen SE, Webb PM, MacGregor S* : Evaluating the role of alcohol consumption in breast and ovarian cancer susceptibility using population-based cohort studies and two-sample Mendelian randomization analyses. *Int J Cancer*, 148(6) : 1338-1350, 2021.
- 020 *Sugita J, Kamimura T, Ishikawa T, Ota S, Eto T, Kuroha T, Miyazaki Y, Kumagai H, Matsuo K, Akashi K, Taniguchi S, Harada M, Teshima T* : Reduced dose of posttransplant cyclophosphamide in HLA-haploidentical peripheral blood stem cell transplantation. *Bone Marrow Transplant*, 56(3) : 596-604, 2021.
- 021 *Takeuchi K, Naito M, Kawai S, Tsukamoto M, Kadomatsu Y, Kubo Y, Okada R, Nagayoshi M, Tamura T, Hishida A, Nakatochi M, Sasakabe T, Hashimoto S, Eguchi H, Momozawa Y, Ikezaki H, Murata M, Furusyo N, Tanaka K, Hara M, Nishida Y, Matsuo K, Ito H, Oze I, Mikami H, Nakamura Y, Kusakabe M, Takezaki T, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Suzuki S, Nishiyama T, Watanabe M, Koyama T, Ozaki E, Watanabe I, Kuriki K, Kita Y, Ueshima H, Matsui K, Arisawa K, Uemura H, Katsuura-Kamano S, Nakamura S, Narimatsu H, Hamajima N, Tanaka H, Wakai K* : Study profile of the Japan Multi-institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study. *J Epidemiol*, 2020.
- 022 *Suzuki T, Nakamura Y, Matsuo K, Oze I, Doi Y, Narita A, Shimizu A, Imaeda N, Goto C, Matsui K, Nakatochi M, Miura K, Takashima N, Kuriki K, Shimanoe C, Tanaka K, Ikezaki H, Murata M, Ibusuki R, Takezaki T, Koyanagi Y, Ito H, Matsui D, Koyama T, Mikami H, Nakamura Y, Suzuki S, Nishiyama T, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Takeuchi K, Tamura T, Okada R, Kubo Y, Momozawa Y, Kubo M, Kita Y, Wakai K; J-MICC Research Group* : A genome-wide association study on fish consumption in a Japanese population-the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort study. *Eur J Clin Nutr*, 75(3) : 480-488, 2021.
- 023 *Kawakatsu S, Ebata T, Watanabe N, Onoe S, Yamaguchi J, Mizuno T, Igami T, Yokoyama Y, Matsuo K, Nagino M* : Mild Prognostic Impact of Postoperative Complications on Long-Term Survival of Perihilar Cholangiocarcinoma. *Ann Surg*, 2020.
- 024 *Di Credico G, Polesel J, Dal Maso L, Pauli F, Torelli N, Luce D, Radoš L, Matsuo K, Serraino D, Brennan P, Holcatova I, Ahrens W, Lagiou P, Canova C, Richiardi L, Healy CM, Kjaerheim K, Conway DI, Macfarlane GJ, Thomson P, Agudo A, Znaor A, Franceschi S, Herrero R, Toporcov TN, Moyses RA, Muscat J, Negri E, Vilensky M, Fernandez L, Curado MP, Menezes A, Daudt AW, Koifman R, Wunsch-Filho V, Olshan AF, Zevallos JP, Sturgis EM, Li G, Levi F, Zhang ZF, Morgenstern H, Smith E, Lazarus P, La Vecchia C, Garavello W, Chen C, Schwartz SM, Zheng T, Vaughan TL, Kelsey K, McClean M, Benhamou S, Hayes RB, Purdue MP, Gillison M, Schantz S, Yu GP, Chuang SC, Boffetta P, Hashibe M, Yuan-Chin AL, Edefonti V* : Alcohol drinking and head and neck cancer risk : the joint effect of intensity and duration. *Br J Cancer*, 123(9) : 1456-1463, 2020.
- 025 *Akter S, Islam Z, Mizoue T, Sawada N, Ihira H, Tsugane S, Koyanagi YN, Ito H, Wang C, Tamakoshi A, Wada K, Nagata C, Tanaka K, Kitamura Y, Utada M, Ozasa K, Sugawara Y, Tsuji I, Shimazu T, Matsuo K, Naito M, Tanaka K, Inoue M* : Smoking and colorectal cancer : A pooled analysis of 10 population-based cohort studies in Japan. *Int J Cancer*, 148(3) : 654-664, 2021.
- 026 *Ho WK, Tan MM, Mavaddat N, Tai MC, Mariapun S, Li J, Ho PJ, Dennis J, Tyrer JP, Bolla MK, Michailidou K, Wang Q, Kang D, Choi JY, Jamaris S, Shu XO, Yoon SY, Park SK, Kim SW, Shen CY, Yu JC, Tan EY, Chan PMY, Muir K, Lophatananon A, Wu AH, Stram DO, Matsuo K, Ito H, Chan*

- CW, Ngeow J, Yong WS, Lim SH, Lim GH, Kwong A, Chan TL, Tan SM, Seah J, John EM, Kurian AW, Koh WP, Khor CC, Iwasaki M, Yamaji T, Tan KMV, Tan KTB, Spinelli JJ, Aronson KJ, Hasan SN, Rahmat K, Vijayanathan A, Sim X, Pharoah PDP, Zheng W, Dunning AM, Simard J, van Dam RM, Yip CH, Taib NAM, Hartman M, Easton DF, Teo SH, Antoniou AC* : European polygenic risk score for prediction of breast cancer shows similar performance in Asian women. *Nat Commun*, 11(1) : 3833, 2020.
- 027 *Brhane Y, Yang P, Christiani DC, Liu G, McLaughlin JR, Brennan P, Shete S, Field JK, Tardón A, Kohno T, Shiraishi K, Matsuo K, Bossé Y, Amos CI, Hung RJ* : Genetic Determinants of Lung Cancer Prognosis in Never Smokers : A Pooled Analysis in the International Lung Cancer Consortium. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 29(10) : 1983-1992, 2020.
- 028 *Shiratori S, Sugita J, Ota S, Kasahara S, Ishikawa J, Tachibana T, Hayashi Y, Yoshimoto G, Eto T, Iwasaki H, Harada M, Matsuo K, Teshima T; Japan Study Group for Cell Therapy and Transplantation (JSCT)* : Low-dose anti-thymocyte globulin for GVHD prophylaxis in HLA-matched allogeneic peripheral blood stem cell transplantation. *Bone Marrow Transplant*, 56(1) : 129-136, 2021.
- 029 *Ara T, Hashimoto D, Hayase E, Noizat C, Kikuchi R, Hasegawa Y, Matsuda K, Ono S, Matsuno Y, Ebata K, Ogasawara R, Takahashi S, Ohigashi H, Yokoyama E, Matsuo K, Sugita J, Onozawa M, Okumura R, Takeda K, Teshima T* : Intestinal goblet cells protect against GVHD after allogeneic stem cell transplantation via Lypd8. *Sci Transl Med*, 12(550) : eaaw0720, 2020.
- 030 *Lin Y, Nakatochi M, Hosono Y, Ito H, Kamatani Y, Inoko A, Sakamoto H, Kinoshita F, Kobayashi Y, Ishii H, Ozaka M, Sasaki T, Matsuyama M, Sasahira N, Morimoto M, Kobayashi S, Fukushima T, Ueno M, Ohkawa S, Egawa N, Kuruma S, Mori M, Nakao H, Adachi Y, Okuda M, Osaki T, Kamiya S, Wang C, Hara K, Shimizu Y, Miyamoto T, Hayashi Y, Ebi H, Kohmoto T, Imoto I, Kasugai Y, Murakami Y, Akiyama M, Ishigaki K, Matsuda K, Hirata M, Shimada K, Okusaka T, Kawaguchi T, Takahashi M, Watanabe Y, Kuriki K, Kadota A, Okada R, Mikami H, Takezaki T, Suzuki S, Yamaji T, Iwasaki M, Sawada N, Goto A, Kinoshita K, Fuse N, Katsuoka F, Shimizu A, Nishizuka SS, Tanno K, Suzuki K, Okada Y, Horikoshi M, Yamauchi T, Kadowaki T, Yu H, Zhong J, Amundadottir LT, Doki Y, Ishii H, Eguchi H, Bogumil D, Haiman CA, Le Marchand L, Mori M, Risch H, Setiawan VW, Tsugane S, Wakai K, Yoshida T, Matsuda F, Kubo M, Kikuchi S, Matsuo K* : Genome-wide association meta-analysis identifies GP2 gene risk variants for pancreatic cancer. *Nat Commun*, 11(1) : 3175, 2020.
- 031 *Bravi F, Lee YA, Hashibe M, Boffetta P, Conway DI, Ferraroni M, La Vecchia C, Edefonti V; INHANCE Consortium investigators* : Lessons learned from the INHANCE consortium : An overview of recent results on head and neck cancer. *Oral Dis*, 27(1) : 73-93, 2021.
- 032 *Liu J, Prager-van der Smissen WJC, Collée JM, Bolla MK, Wang Q, Michailidou K, Dennis J, Ahearn TU, Aittomäki K, Ambrosone CB, Andrulis IL, Anton-Culver H, Antonenkova NN, Arndt V, Arnold N, Aronson KJ, Augustinsson A, Auvinen P, Becher H, Beckmann MW, Behrens S, Bermisheva M, Bernstein L, Bogdanova NV, Bogdanova-Markov N, Bojesen SE, Brauch H, Brenner H, Briceno I, Brucker SY, Brüning T, Burwinkel B, Cai Q, Cai H, Campa D, Canzian F, Castela JE, Chang-Claude J, Chanock SJ, Choi JY, Christiaens M, Clarke CL; NBCS Collaborators, Couch FJ, Czene K, Daly MB, Devilee P, Dos-Santos-Silva I, Dwek M, Eccles DM, Eliassen AH, Fasching PA, Figueroa J, Flyger H, Fritschi L, Gago-Dominguez M, Gapstur SM, García-Closas M, García-Sáenz JA, Gaudet MM, Giles GG, Goldberg MS, Goldgar DE, Guénel P, Haiman CA, Håkansson N, Hall P, Harrington PA, Hart SN, Hartman M, Hillemanns P, Hopper JL, Hou MF, Hunter DJ, Huo D; ABCTB Investigators, Ito H, Iwasaki M, Jakimovska M, Jakubowska A, John EM, Kaaks R, Kang D, Keeman R, Khusnutdinova E, Kim SW, Kraft P, Kristensen VN, Kurian AW, Le Marchand L, Li J, Lindblom A, Lophatananon A, Luben RN, Lubiński J, Mannermaa A, Manoochchri M, Manoukian S, Margolin S, Mariapun S, et al* : Germline HOXB13 mutations p. G84E and p. R217C do not confer an increased breast cancer risk. *Sci Rep*, 10(1) : 9688, 2020.
- 033 *Yang JJ, Yu D, Shu XO, Freedman ND, Wen W, Rahman S, Abe SK, Saito E, Gupta PC, He J, Tsugane S, Gao YT, Xiang YB, Yuan JM, Tomata Y, Tsuji I, Sugawara Y, Matsuo K, Ahn YO, Park SK, Chen Y, Pan WH, Pednekar M, Gu D, Sawada N, Cai H, Li HL, Koh WP, Wang R, Zhang S, Kanemura S, Ito H, Shin MH, Wu PE, Yoo KY, Ahsan H, Chia KS, Boffetta P, Inoue M, Kang D, Potter JD, Zheng W* : Quantifying the association of low-intensity and late initiation of tobacco smoking with total and cause-specific mortality in Asia. *Tob Control*, 30(3) : 328-335, 2021.
- 034 *Shinjo K, Hara K, Nagae G, Umeda T, Katsushima K, Suzuki M, Murofushi Y, Umezū Y, Takeuchi I, Takahashi S, Okuno Y, Matsuo K, Ito H, Tajima S, Aburatani H, Yamao K, Kondo Y* : A novel sensitive detection method for DNA methylation in circulating free DNA of pancreatic cancer. *PLoS One*, 15(6) : e0233782, 2020.
- 035 *Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Uemura H, Tien NV, Hishida A, Tamura T, Kubo Y, Tsukamoto M, Tanaka K, Hara M, Takezaki T, Nishimoto D, Koyama T, Ozaki E, Suzuki S, Nishiyama T, Kuriki K, Kadota A, Takashima N, Ikezaki H, Murata M, Oze I, Matsuo K, Mikami H, Nakamura Y, Takeuchi K, Wakai K* : Association of Dietary Acid Load with the Prevalence of Metabolic Syndrome among Participants in Baseline Survey of the Japan Multi-

- Institutional Collaborative Cohort Study. *Nutrients*, 12(6) : 1605, 2020.
- 036 **Koyama T, Kuriyama N, Ozaki E, Tomida S, Uehara R, Nishida Y, Shimanoe C, Hishida A, Tamura T, Tsukamoto M, Kadomatsu Y, Oze I, Matsuo K, Mikami H, Nakamura Y, Ibusuki R, Takezaki T, Suzuki S, Nishiyama T, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Uemura H, Katsuura-Kamano S, Ikezaki H, Murata M, Takeuchi K, Wakai K; Japan Multi-institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study Group** : Sedentary Time is Associated with Cardiometabolic Diseases in A Large Japanese Population : A Cross-Sectional Study. *J Atheroscler Thromb*, 27(10) : 1097-1107, 2020.
- 037 **Mori M, Hira A, Yoshida K, Muramatsu H, Okuno Y, Shiraishi Y, Anmae M, Yasuda J, Tadaka S, Kinoshita K, Osumi T, Noguchi Y, Adachi S, Kobayashi R, Kawabata H, Imai K, Morio T, Tamura K, Takaori-Kondo A, Yamamoto M, Miyano S, Kojima S, Ito E, Ogawa S, Matsuo K, Yabe H, Yabe M, Takata M** : Pathogenic mutations identified by a multimodality approach in 117 Japanese Fanconi anemia patients. *Haematologica*, 105(4) : 1166-1167, 2020.
- 038 **Nakayama A, Nakatochi M, Kawamura Y, Yamamoto K, Nakaoka H, Shimizu S, Higashino T, Koyama T, Hishida A, Kuriki K, Watanabe M, Shimizu T, Ooyama K, Ooyama H, Nagase M, Hidaka Y, Matsui D, Tamura T, Nishiyama T, Shimanoe C, Katsuura-Kamano S, Takashima N, Shirai Y, Kawaguchi M, Takao M, Sugiyama R, Takada Y, Nakamura T, Nakashima H, Tsunoda M, Danjoh I, Hozawa A, Hosomichi K, Toyoda Y, Kubota Y, Takada T, Suzuki H, Stiburkova B, Major TJ, Merriman TR, Kuriyama N, Mikami H, Takezaki T, Matsuo K, Suzuki S, Hosoya T, Kamatani Y, Kubo M, Ichida K, Wakai K, Inoue I, Okada Y, Shinomiya N, Matsuo H; Japan Gout Genomics Consortium (Japan Gout)** : Subtype-specific gout susceptibility loci and enrichment of selection pressure on ABCG2 and ALDH2 identified by subtype genome-wide meta-analyses of clinically defined gout patients. *Ann Rheum Dis*, 79(5) : 657-665, 2020.
- 039 **Iwase M, Matsuo K, Nakatochi M, Oze I, Ito H, Koyanagi Y, Ugai T, Kasugai Y, Hishida A, Takeuchi K, Okada R, Kubo Y, Shimanoe C, Tanaka K, Ikezaki H, Murata M, Takezaki T, Nishimoto D, Kuriyama N, Ozaki E, Suzuki S, Watanabe M, Mikami H, Nakamura Y, Uemura H, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Kita Y, Takashima N, Nagino M, Momozawa Y, Kubo M, Wakai K** : Differential Effect of Polymorphisms on Body Mass Index Across the Life Course of Japanese : The Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *J Epidemiol*, 31(3) : 172-179, 2021.
- 040 **Koyanagi YN, Suzuki E, Imoto I, Kasugai Y, Oze I, Ugai T, Iwase M, Usui Y, Kawakatsu Y, Sawabe M, Hirayama Y, Tanaka T, Abe T, Ito S, Komori K, Hanai N, Tajika M, Shimizu Y, Niwa Y, Ito H, Matsuo K** : Across-Site Differences in the Mechanism of Alcohol-Induced Digestive Tract Carcinogenesis : An Evaluation by Mediation Analysis. *Cancer Res*, 80(7) : 1601-1610, 2020.
- 041 **Masaoka H, Matsuo K, Oze I, Ito H, Naito M, Wada K, Nagata C, Nakayama T, Kitamura Y, Sadakane A, Tamakoshi A, Tsuji I, Sugawara Y, Sawada N, Mizoue T, Inoue M, Tanaka K, Tsugane S, Shimazu T** : Alcohol Drinking and Bladder Cancer Risk From a Pooled Analysis of Ten Cohort Studies in Japan. *J Epidemiol*, 30(7) : 309-313, 2020.
- 042 **Shimizu Y, Hijioka S, Hirono S, Kin T, Ohtsuka T, Kanno A, Koshita S, Hanada K, Kitano M, Inoue H, Itoi T, Ueki T, Matsuo K, Yanagisawa A, Yamaue H, Sugiyama M, Okazaki K** : New Model for Predicting Malignancy in Patients With Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm. *Ann Surg*, 272(1) : 155-162, 2020.

分子遺伝学分野

- 001 **Pooh RK, Machida M, Imoto I, Arai EN, Ohashi H, Takeda M, Shimokawa O, Fukuta K, Shiozaki A, Saito S, Chiyo H**. Fetal megalencephaly with cortical dysplasia at 18 gestational weeks related to paternal UPD mosaicism with PTEN mutation. *Genes (Basel)*, 12(3) : 358, 2021.
- 002 **Higgins J, Dalgleish R, den Dunnen JT, Barsh G, Freeman PJ, Cooper DN, Cullinan S, Davies KE, Dorkins H, Gong L, Imoto I, Klein TE, Korf B, Misra A, Paalman MH, Ratzel S, Reichardt JKV, Rehm HL, Tokunaga K, Weck KE, Cutting GR**. Nomenclature of DNA variants in submitted manuscripts : guidance for journals. *Hum Mutat.* , 42(1) : 3-7, 2021.
- 003 **Suga K, Imoto I, Ito H, Naruto T, Goji A, Osumi K, Tokaji N, Homma Y, Ono A, Ichihara Y, Shono M, Mori T, Urushihara M, Nakagawa R, Hayabuchi Y, Kagami S**. Next-generation sequencing for the diagnosis of patients with congenital multiple anomalies and / or intellectual disabilities. *J Med Invest.* , 67(5, 6) : 246-249, 2020.
- 004 **Tsuchiya M, Yamada T, Akaishi R, Hamanoue H, Hirasawa A, Hyodo M, Imoto I, Kosho T, Kurosawa K, Murakami H, Nakatani K, Nomura F, Sasaki A, Shimizu K, Tamai M, Umemura H, Watanabe A, Yoshida A, Yoshihashi H, Yotsumoto J, Kosugi S**. Attitudes toward and current status of disclosure of secondary findings from next-generation sequencing : A nation-wide survey of clinical genetics professionals in Japan. *J Hum Genet.* , 65 : 1045-1053, 2020.
- 005 **Sato Y, Tajima A, Kiguchi M, Kogusuri S, Fujii A, Sato T, Nozawa S, Yoshiike M, Naka-Mieno M, Kojo K, Uchida M, Tsuchiya H, Yamasaki K, Imoto I, Yamauchi A, Iwamoto T**. Genome-wide association study of semen volume, sperm concentration, testis size, and plasma inhibin B levels. *J Hum Genet*, 65(8) : 683-691, 2020.

- 006 **Osumi K, Suga K, Ono A, Goji A, Mori T, Kinoshita Y, Sugano M, Toda Y, Urushihara M, Nakagawa R, Hayabuchi Y, Imoto I, Kagami S.** Molecular diagnosis of an infant with TSC2/PKD1 contiguous gene syndrome. *Hum Genome Var.* 7 : 21, 2020.
- 007 **Ishigaki K, Akiyama M, Kanai M, Takahashi A, Kawakami E, Sugishita H, Sakaue S, Matoba N, Low SK, Okada Y, Terao C, Amariuta T, Gazal S, Kochi Y, Horikoshi M, Suzuki K, Ito K, Koyama S, Ozaki K, Niida S, Sakata Y, Sakata Y, Kohno T, Shiraishi K, Momozawa Y, Hirata M, Matsuda K, Ikeda M, Iwata N, Ikegawa S, Kou I, Tanaka T, Nakagawa H, Suzuki A, Hirota T, Tamari M, Chayama K, Miki D, Mori M, Nagayama S, Daigo Y, Miki Y, Katagiri T, Ogawa O, Obara W, Ito H, Yoshida T, Imoto I, Takahashi T, Tanikawa C, Suzuki T, Sinozaki N, Minami S, Yamaguchi H, Asai S, Takahashi Y, Yamaji K, Takahashi K, Fujioka T, Takata R, Yanai H, Masumoto A, Koretsune Y, Kutsumi H, Higashiyama M, Murayama S, Minegishi N, Suzuki K, Tanno K, Shimizu A, Yamaji T, Iwasaki M, Sawada N, Uemura H, Tanaka K, Naito M, Sasaki M, Wakai K, Tsugane S, Yamamoto M, Yamamoto K, Murakami Y, Nakamura Y, Raychaudhuri S, Inazawa J, Yamauchi T, Kadowaki T, Kubo M, Kamatani Y.** Large-scale genome-wide association study in a Japanese population identifies novel susceptibility loci across different diseases. *Nat Genet.* 52(7) : 669-679, 2020.
- 008 **Lin Y, Nakatochi M, Hosono Y, Ito H, Kamatani Y, Inoko A, Sakamoto H, Kinoshita F, Kobayashi Y, Ishii H, Ozaka M, Sasaki T, Matsuyama M, Sasahira N, Morimoto M, Kobayashi S, Fukushima T, Ueno M, Ohkawa S, Egawa N, Kuruma S, Mori M, Nakao H, Adachi Y, Okuda M, Osaki T, Kamiya S, Wang C, Hara K, Shimizu Y, Miyamoto T, Hayashi Y, Ebi H, Kohmoto T, Imoto I, Kasugai Y, Murakami Y, Akiyama M, Ishigaki K, Matsuda K, Hirata M, Shimada K, Okusaka T, Kawaguchi T, Takahashi M, Watanabe Y, Kuriki K, Kadota A, Okada R, Mikami H, Takezaki T, Suzuki S, Yamaji T, Iwasaki M, Sawada N, Goto A, Kinoshita K, Fuse N, Katsuoka F, Shimizu A, Nishizuka SS, Tanno K, Suzuki K, Okada Y, Horikoshi M, Yamauchi T, Kadowaki T, Yu H, Zhong J, Amundadottir LT, Doki Y, Ishii H, Eguchi H, Bogumil D, Haiman CA, Le Marchand L, Mori M, Risch H, Setiawan VW, Tsugane S, Wakai K, Yoshida T, Matsuda F, Kubo M, Kikuchi S, Matsuo K.** Genome-wide association meta-analysis identifies GP2 gene risk variants for pancreatic cancer. *Nat Commun.* 11(1) : 3175, 2020.
- 009 **Ichihara A, Yasue A, Mitsui SN, Arai D, Minegishi Y, Oyadomari S, Imoto I, Tanaka E.** The C-terminal region including the MH6 domain of Msx1 regulates skeletal development. *Biochem Biophys Res Commun.* 526(1) : 62-69, 2020.
- 010 **Koyanagi Y, Suzuki E, Imoto I, Kasugai Y, Isao Oze I, Ugai T, Iwase M, Usui Y, Kawakatsu Y, Sawabe M, Hirayama Y, Tanaka T, Abe T, Ito S, Komori K, Hanai N, Tajika M, Shimizu Y, Niwa Y, Ito H, Matsuo K.** Across-site differences in the mechanism of alcohol-induced digestive tract carcinogenesis : an evaluation by mediation analysis. *Cancer Res.* 80(7) : 1601-1610, 2020.
- 011 **Kohmoto T, Masuda K, Shoda K, Takahashi R, Ujiro S, Tange S, Ichikawa D, Otsuji E, Imoto I.** Claudin-6 is a single prognostic marker and functions as a tumor-promoting gene in a subgroup of intestinal type gastric cancer. *Gastric Cancer.* 23(3) : 403-417, 2020.
- 012 **井本逸勢, 高磯伸枝** : 腫瘍遺伝学と遺伝性腫瘍の基礎. *遺伝子医学.* 10(2) : 130-136, 2020.
- 013 **井本逸勢, 福江美咲** : 2. 染色体異常の診断. *小児科臨床.* 73(5) : 565-570, 2020.
- 014 **井本逸勢** : がんのクリニカルシーケンスから次世代の治療戦略へ. *家族性腫瘍.* 20(1) : 9-12, 2020.
- 015 **坪内寛文, 茂木一将, 坂田 純, 森 正彦, 福江美咲, 高磯伸枝, 細田和貴, 井本逸勢** : 当院における遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する腹腔鏡下リスク低減卵巣摘出術の経験. *家族性腫瘍.* 20(3) : 160-167, 2020.
- 016 **井本逸勢, 福江美咲, 高磯伸枝** : がん遺伝子パネル検査の現状と展望. *癌と化学療法.* 48(1) : 7-11, 2021.

がん病態生理学分野

【原著】

- 001 **Kajino-Sakamoto R, Fujishita T, Taketo MM, Aoki M.** : Synthetic lethality between MyD88 loss and mutations in Wnt/ β -catenin pathway in intestinal tumor epithelial cells. *Oncogene.* 40 : 408-420, 2021.
- 002 **Tanigawa S, Fujita M, Moyama C, Ando S, Ii H, Kojima Y, Fujishita T, Aoki M, Takauchi H, Yamanaka T, Takahashi Y, Hashimoto N, Nakata S.** : Inhibition of Gli2 suppresses tumorigenicity in glioblastoma stem cells derived from a de novo murine brain cancer model. *Cancer Gene Ther.* Online ahead of print, 2021.

分子腫瘍学分野

- 001 **Natsume A, Aoki K, Ohka F, Maeda S, Hirano M, Adilijiang A, Motomura K, Sumi M, Nishikawa R, Narita Y, Muragaki Y, Maruyama T, Ito T, Beppu T, Nakamura H, Kayama T, Sato S, Nagane M, Mishima K, Nakasu Y, Kurisu K, Yamasaki F, Sugiyama K, Onishi T, Iwadata Y, Terasaki M, Kobayashi H, Matsumura A, Ishikawa E, Sasaki H, Mukasa A, Matsuo T, Hirano H, Kumabe T, Shinoura N, Hashimoto N, Aoki T, Asai A, Abe T, Yoshino A, Arakawa Y, Asano K, Yoshimoto K, Shibui S, Okuno Y, Wakabayashi T; and Members of Japan Clinical Oncology Group Brain Tumor Study Group (JCOG-BTSG)** : Genetic analysis in patients with newly diagnosed glioblastomas treated with interferon-beta

plus temozolomide in comparison with temozolomide alone. *J Neurooncol*, 148 : 17-27, 2020.

- 002 **Shimizu H, Motomura K, Ohka F, Aoki K, Tanahashi K, Hirano M, Chalise L, Nishikawa T, Yamaguchi J, Wakabayashi T, Natsume A** : Multiple metastases to the bone and bone marrow from a 1p/19q-codeleted and IDH2-mutant anaplastic oligodendroglioma : a case report and literature review. *Neuro-Oncology Advances*, 2 : vdaa101, 2020.
- 003 **Shimizu H, Motomura K, Ohka F, Aoki K, Tanahashi K, Hirano M, Chalise L, Nishikawa T, Yamaguchi J, Yoshida J, Natsume A, Wakabayashi T** : Long-term survival in patients with primary intracranial germ cell tumors treated with surgery, platinum-based chemotherapy, and radiotherapy : a single-institution study. *J Neurosurg*, 1-9, 2020.
- 004 **Kaneda A, Seike T, Danjo T, Nakajima T, Otsubo N, Yamaguchi D, Tsuji Y, Hamaguchi K, Yasunaga M, Nishiya Y, Suzuki M, Saito JI, Yatsunami R, Nakamura S, Sekido Y, Mori K** : The novel potent TEAD inhibitor, K-975, inhibits YAP1/TAZ-TEAD protein-protein interactions and exerts an anti-tumor effect on malignant pleural mesothelioma. *Am J Cancer Res*, 10 : 4399-4415, 2020.
- 005 **Motomura K, Chalise L, Shimizu H, Yamaguchi J, Nishikawa T, Ohka F, Aoki K, Tanahashi K, Hirano M, Wakabayashi T, Natsume A** : Intraoperative seizure outcome of levetiracetam combined with perampanel therapy in patients with glioma undergoing awake brain surgery. *J Neurosurg*, 1-10, 2021.
- 006 **Goto S, Sakoda Y, Adachi K, Sekido Y, Yano S, Eto M, Tamada K** : Enhanced anti-tumor efficacy of IL-7/CCL19-producing human CAR-T cells in orthotopic and patient-derived xenograft tumor models. *Cancer Immunol Immunother*, Online ahead of print, 2021.
- 007 **Fukuoka T, Kato A, Hirano M, Ohka F, Aoki K, Awaya T, Adilijiang A, Sachi M, Tanahashi K, Yamaguchi J, Motomura K, Shimizu H, Nagashima Y, Ando R, Wakabayashi T, Lee-Liu D, Larrain J, Nishimura Y, Natsume A** : Neurod4 converts endogenous neural stem cells to neurons with synaptic formation after spinal cord injury. *iScience*, 24 : 102074, 2021.
- 008 **Sato T, Mukai S, Ikeda H, Mishiro-Sato E, Akao K, Kobayashi T, Hino O, Shimono W, Shibagaki Y, Hattori S, Sekido Y** : Silencing of SmgGDS, a novel mTORC1 inducer that binds to RHEBs, inhibits malignant mesothelioma cell proliferation. *Mol Cancer Res*, 19 : 921-931, 2021.

システム解析学分野

- 001 **Park H, Maruhashi K, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S** : Global gene network exploration based on explainable

artificial intelligence approach. *PLoS One*. 15(11) : e0241508, 2020.

- 002 **Park H, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S** : Automatic sparse principal component analysis. *Canadian Journal of Statistics*. 2020.
- 003 **Hijikata Y, Yokoyama K, Yokoyama N, Matsubara Y, Shimizu E, Nakashima M, Yamagishi M, Ota Y, Lim LA, Yamaguchi R, Ito M, Tanaka Y, Denda T, Tani K, Yotsuyanagi H, Imoto S, Miyano S, Uchimaru K, Tojo A** : Successful Clinical Sequencing by Molecular Tumor Board in an Elderly Patient With Refractory Sézary Syndrome. *JCO Precision Oncology*, 4 : 534-60, 2020.
- 004 **Ishida S, Kato K, Tanaka M, Odamaki T, Kubo R, Mitsuyama E, Xiao JZ, Yamaguchi R, Uematsu S, Imoto S, Miyano S** : Genome-wide association studies and heritability analysis reveal the involvement of host genetics in the Japanese gut microbiota. *Commun Biol*. 3(1) : 686, 2020.
- 005 **Matsushita H, Hasegawa K, Oda K, Yamamoto S, Asada K, Karasaki T, Yabuno A, Nishijima A, Nejo T, Kobayashi Y, Sato S, Ikeda Y, Miyai M, Takahashi Y, Yamaguchi R, Fujiwara K, Aburatani H, Kakimi K** : Neoantigen load and HLA-class I expression identify a subgroup of tumors with a T-cell-inflamed phenotype and favorable prognosis in homologous recombination-proficient high-grade serous ovarian carcinoma. *J Immunother Cancer*. 8(1), 2020.
- 006 **Kawakatsu Y, Koyanagi YN, Oze I, Kasugai Y, Morioka H, Yamaguchi R, Ito H, Matsuo K** : Association between Socioeconomic Status and Digestive Tract Cancers : A Case-Control Study. *Cancers*. 12(11), 2020.
- 007 **Imoto S, Hasegawa T, Yamaguchi R** : Data science and precision health care. *Nutr Rev*. 78(Supplement_3) : 53-7, 2020.
- 008 **Hasegawa T, Hayashi S, Shimizu E, Mizuno S, Niida A, Yamaguchi R, Miyano S, Nakagawa H, Imoto S** : Neoantimon : a multifunctional R package for identification of tumor-specific neoantigens. *Bioinformatics*. 36(18) : 4813-6, 2020.
- 009 **Adachi Y, Ito K, Hayashi Y, Kimura R, Tan TZ, Yamaguchi R, Ebi H** : Epithelial-to-Mesenchymal Transition is a Cause of Both Intrinsic and Acquired Resistance to KRAS G12C Inhibitor in KRAS G12C-Mutant Non-Small Cell Lung Cancer. *Clin Cancer Res*. 26(22) : 5962-73, 2020.
- 010 **Sato N, Kakuta M, Hasegawa T, Yamaguchi R, Uchino E, Murashita K, Nakaji S, Imoto S, Yanagita M, Okuno Y** : Metagenomic profiling of gut microbiome in early chronic kidney disease. *Nephrol Dial Transplant*. gfaa172, 2020.
- 011 **Zhang YZ, Akdemir A, Tremmel G, Imoto S, Miyano S, Shibuya T, Yamaguchi R** : Nanopore basecalling from a perspective of instance segmentation. *BMC Bioinformatics*. 21(Suppl 3) : 136, 2020.
- 012 **Li CH, Prokopec SD, Sun RX, Yousif F, Schmitz N, Subtypes PT, Clinical T, Boutros PC, PCAWG Consortium** : Sex

- differences in oncogenic mutational processes. *Nat Commun.* 11(1) : 4330, 2020.
- 013 **Bailey MH, Meyerson WU, Dursi LJ, Wang LB, Dong G, Liang WW, Weerasinghe A, Li S, Kelso S, Group MCW, group Pnsmcmw, Saksena G, Ellrott K, Wendl MC, Wheeler DA, Getz G, Simpson JT, Gerstein MB, Ding L, PCAWG Consortium** : Retrospective evaluation of whole exome and genome mutation calls in 746 cancer samples. *Nat Commun.* 11(1) : 4748, 2020.
- 014 **Fujimoto K, Kimura Y, Shimohigoshi M, Satoh T, Sato S, Tremmel G, Uematsu M, Kawaguchi Y, Usui Y, Nakano Y, Hayashi T, Kashima K, Yuki Y, Yamaguchi K, Furukawa Y, Kakuta M, Akiyama Y, Yamaguchi R, Crowe SE, Ernst PB, Miyano S, Kiyono H, Imoto S, Uematsu S** : Metagenome Data on Intestinal Phage-Bacteria Associations Aids the Development of Phage Therapy against Pathobionts. *Cell Host Microbe.* 28(3) : 380-9 e9, 2020.
- 015 **Johmura Y, Yamanaka T, Omori S, Wang TW, Sugiura Y, Matsumoto M, Suzuki N, Kumamoto S, Yamaguchi K, Hatakeyama S, Takami T, Yamaguchi R, Shimizu E, Ikeda K, Okahashi N, Mikawa R, Suematsu M, Arita M, Sugimoto M, Nakayama KI, Furukawa Y, Imoto S, Nakanishi M** : Senolysis by glutaminolysis inhibition ameliorates various age-associated disorders. *Science.* 2021;371(6526) : 265-70. Epub 2021/01/16. doi : 10. 1126/science. abb5916. PubMed PMID : 33446552.
- 016 **Fujimoto K, Kimura Y, Allegretti JR, Yamamoto M, Zhang YZ, Katayama K, Tremmel G, Kawaguchi Y, Shimohigoshi M, Hayashi T, Uematsu M, Yamaguchi K, Furukawa Y, Akiyama Y, Yamaguchi R, Crowe SE, Ernst PB, Miyano S, Kiyono H, Imoto S, Uematsu S** : Functional Restoration of Bacteriomes and Viromes by Fecal Microbiota Transplantation. *Gastroenterology.* 160(6) : 2089-102 e12, 2021, 2021.

腫瘍制御学分野

- 001 **Hikita T, Miyata M, Watanabe R, Oneyama C.** : In vivo imaging of long-term accumulated cancer-derived exosomes by CD63-fused BRET reporter. *Scientific Reports.* 10(1) : 16616, 2020.
- 002 **Watanabe R, Miyata M, Oneyama C.** : Rictor promotes tumor progression of rapamycin-insensitive triple-negative breast cancer cells. *Biochem Biophys Res Commun.* 531(4) : 636-642, 2020.
- 003 **Nishimura T, Oyama T, Hu HT, Fujioka T, Hanawa-Suetsugu K, Ikeda K, Yamada S, Kawana H, Saigusa D, Ikeda H, Kurata R, Oono-Yakura K, Kitamata M, Kida K, Hikita T, Mizutani K, Yasuhara K, Mimori-Kiyosue Y, Oneyama C, Kurimoto K, Hosokawa Y, Aoki J, Takai Y, Arita M, Suetsugu S.** : Filopodium-derived vesicles produced by MIM

- enhance the migration of recipient cells. *Dev Cell.* 56(6) : 842-859, 2021.
- 004 **Aoki R, Oneyama C, Aoki K.** : Oncogenic mutation or overexpression of oncogenic KRAS or BRAF is not sufficient to confer oncogene addiction. *PLoS One.* 16(4) : e0249388, 2021.
- 005 **小根山千歳** : チロシンキナーゼ : 分子標的薬を極める . 産科と婦人科 , 診断と治療社 2020.

腫瘍免疫応答研究分野

学会誌への発表

- 001 **Kagoya Y, Guo T, Yeung B, Saso K, Anczurowski M, Wang CH, Murata K, Sugata K, Saijo H, Matsunaga Y, Ohashi Y, Butler MO, Hirano N.** Genetic Ablation of HLA Class I, Class II, and the T-cell Receptor Enables Allogeneic T Cells to Be Used for Adoptive T-cell Therapy. *Cancer Immunol Res.* 8 : 926-936, 2020.

その他誌上への発表

- 001 **籠谷勇紀** : 遺伝子変化による養子免疫細胞療法の改良 . 実験医学 , 124 : 2914-2919, 2020.
- 002 **籠谷勇紀** : CAR-T 細胞の遺伝子変化 . 医学のあゆみ , 275 : 4-8, 2020.
- 003 **籠谷勇紀** : 造血幹細胞移植と細胞療法の展開 2) CAR-T 細胞療法の課題克服に向けた研究開発の動向 . 腫瘍内科 , 26 : 1-6, 2020

腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 **Sato Y, Mori K, Hirano K, Yagi K, Kobayashi Y, Nagaoka K, Hosoi A, Matsushita H, Kakimi K, Seto Y.** : Adoptive $\gamma \delta$ T-cell transfer alone or combined with chemotherapy for the treatment of advanced cancer. *Cytotherapy.* 23(5) : 423-432, 2021.
- 002 **Takahashi Y, Suzuki S, Hamada K, Nakada T, Oya Y, Sakakura N, Matsushita H, Kuroda H.** : Sarcopenia is poor risk for unfavorable short- and long-term outcomes in stage I non-small cell lung cancer. *Ann Transl Med.* 9(4) : 325, 2021.
- 003 **Matsui T, Takahashi Y, Nakada T, Matsushita H, Oya Y, Sakakura N, Kuroda H.** : Efficacy of Xenon Light With Indocyanine Green for Intersegmental Visibility in Thoracoscopic Segmentectomy. *J Surg Res.* 259 : 39-46, 2021.
- 004 **Yabuno A, Matsushita H, Hamano T, Tan TZ, Shintani D, Fujieda N, Tan DSP, Huang RY, Fujiwara K, Kakimi K, Hasegawa K.** : Identification of serum cytokine clusters associated with outcomes in ovarian clear cell carcinoma. *Sci Rep.* 10(1) : 18503, 2020.

- 005 *Sato Y, Wada I, Odaira K, Hosoi A, Kobayashi Y, Nagaoka K, Karasaki T, Matsushita H, Yagi K, Yamashita H, Fujita M, Watanabe S, Kamatani T, Miya F, Mineno J, Nakagawa H, Tsunoda T, Takahashi S, Seto Y, Kakimi K* : Integrative immunogenomic analysis of gastric cancer dictates novel immunological classification and the functional status of tumor-infiltrating cells. *Clin Transl Immunology*. 9(10) : e1194, 2020.
- 006 *Kakimi K, Matsushita H, Masuzawa K, Karasaki T, Kobayashi Y, Nagaoka K, Hosoi A, Ikemura S, Kitano K, Kawada I, Manabe T, Takehara T, Ebisudani T, Nagayama K, Nakamura Y, Suzuki R, Yasuda H, Sato M, Soejima K, Nakajima J* : Adoptive transfer of zoledronate-expanded autologous V γ 9V δ 2 T-cells in patients with treatment-refractory non-small-cell lung cancer : a multicenter, open-label, single-arm, phase 2 study. *J Immunother Cancer*. 8(2) : e001185, 2020.
- 007 *Shinohara S, Takahashi Y, Demachi-Okamura A, Matsushita H* : Identification of neoantigens and development of antigen-specific immunotherapy. *Rinsho Ketsueki* 61(9) : 1433-1439, 2020.

分子診断トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 *Barua R, Mizuno K, Tashima Y, Ogawa M, Takeuchi H, Taguchi A, Okajima T*. Bioinformatics and Functional Analyses Implicate Potential Roles for EOGT and L-fringe in Pancreatic Cancers. *Molecules*, 26 : 882, 2021.
- 002 *Isomura H, Taguchi A, Kajino T, Asai N, Nakatochi M, Kato S, Suzuki K, Yanagisawa K, Suzuki M, Fujishita T, Yamaguchi T, Takahashi M, Takahashi T*. Conditional Ror1 knockout reveals crucial involvement in lung adenocarcinoma development and identifies novel HIF-1 α regulator. *Cancer Sci*, 112 : 1614-1623, 2021.
- 003 *Khaledian B, Taguchi A, Shin-Ya K, Kondo-Ida L, Kagaya N, Suzuki M, Kajino T, Yamaguchi T, Shimada Y, Takahashi T*. Inhibition of heat shock protein 90 destabilizes receptor tyrosine kinase ROR1 in lung adenocarcinoma. *Cancer Sci*, 112 : 1225-1234, 2021.
- 004 *Myojin Y, Kodama T, Maesaka K, Motooka D, Sato Y, Tanaka S, Abe Y, Ohkawa K, Mita E, Hayashi Y, Hikita H, Sakamori R, Tatsumi T, Taguchi A, Eguchi H, Takehara T*. ST6GAL1 Is a Novel Serum Biomarker for Lenvatinib-Susceptible FGF19-Driven Hepatocellular Carcinoma. *Clin Cancer Res*, 27 : 1150-1161, 2021.
- 005 *Shimura T, Dayde D, Wang H, Okuda Y, Iwasaki H, Ebi M, Kitagawa M, Yamada T, Yamada T, Hanash SM, Taguchi A, Kataoka H*. Novel urinary protein biomarker panel for early diagnosis of gastric cancer. *Br J Cancer*, 123 : 1656-1664, 2020.
- 006 *Chen B, Dragomir MP, Fabris L, Bayraktar R, Knutsen E,*

- Liu X, Tang C, Li Y, Shimura T, Ivkovic TC, Cruz De Los Santos M, Anfossi S, Shimizu M, Shah MY, Ling H, Shen P, Multani AS, Pardini B, Burks JK, Katayama H, Reineke LC, Huo L, Syed M, Song S, Ferracin M, Oki E, Fromm B, Ivan C, Bhuvaneshwar K, Gusev Y, Mimori K, Menter D, Sen S, Matsuyama T, Uetake H, Vasilescu C, Kopetz S, Parker-Thornburg J, Taguchi A, Hanash SM, Girnita L, Slaby O, Goel A, Varani G, Gagea M, Li C, Ajani JA, Calin GA*. The Long Noncoding RNA CCAT2 Induces Chromosomal Instability Through BOP1-AURKB Signaling. *Gastroenterology*, 159 : 2146-2162, 2020.
- 007 *Sugimoto A, Abe Y, Watanabe T, Hosokawa K, Adachi J, Tomonaga T, Iwatani Y, Murata T, Fujimuro M*. The FAT10 post-translational modification is involved in the lytic replication of Kaposi's sarcoma-associated herpesvirus. *J Virol*, 95 : e02194-20, 2020.

がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 *Adachi Y, Ito K, Hayashi Y, Kimura R, Tan TZ, Ymaguchi R, Ebi H* : Epithelial-to-Mesenchymal Transition is a Cause of Both Intrinsic and Acquired Resistance to KRAS G12C Inhibitor in KRAS G12C-Mutant Non-Small Cell Lung Cancer. *Clinical Cancer Research*. 26 : 5962-5973, 2020.
- 002 *Ebi H, Bando H, Taniguchi H, Sunakawa Y, Okugawa Y, Hatanaka Y, Hosoda W, Kumamoto K, Nakatani K, Yamazaki K* : Japanese Society of Medical Oncology Clinical Guidelines : Molecular Testing for Colorectal Cancer Treatment, 4th edition. *Cancer Science*, 111 : 3962-3969, 2020.
- 003 *Kotani D, Bando H, Taniguchi H, Masuishi T, Komatsu Y, Yamaguchi K, Nakajima T, Satoh T, Nishina T, Esaki T, Nomura S, Takahashi K, Iida S, Matsuda S, Motonaga S, Fuse N, Sato A, Fujii S, Ohtsu A, Ebi H, Yoshino T* : BIG BANG study (EPOC1703) : multicentre, proof-of-concept, phase II study evaluating the efficacy and safety of combination therapy with binimetinib, encorafenib and cetuximab in patients with BRAF non-V600E mutated metastatic colorectal cancer. *ESMO open*, 5 : e000624, 2020.
- 004 *Maeda A, Irie K, Hashimoto N, Fukushima S, Ando H, Okada A, Ebi H, Kajita M, Iwata H, Sawaki M* : Serum concentration of the CKD4/6 inhibitor abemaciclib, but not of creatinine, strongly predicts hematological adverse events in patients with breast cancer : a preliminary report. *Invest New Drugs*, 39 : 272-277, 2020.
- 005 *Lin Y, Nakatochi M, Hosono Y, Ito H, Kamatani Y, Inoko A, Sakamoto H, Kinoshita F, Kobayashi Y, Ishii H, Ozaka M, Sasaki T, Matsuyama M, Sasahira N, Morimoto M, Kobayashi S, Fukushima T, Ueno M, Ohkawa S, Egawa N, Kuruma S,*

Mori M, Nakao H, Adachi Y, Okuda M, Osaki T, Kamiya S, Wang C, Hara K, Shimizu Y, Miyamoto T, Hayashi Y, Ebi H, Kohmoto T, Imoto I, Kasugai Y, Murakami Y, Akiyama M, Ishigaki K, Matsuda K, Hirata M, Shimada K, Okusaka T, Kawaguchi T, Takahashi M, Watanabe Y, Kuriki K, Kadota A, Okada R, Mikami H, Takezaki T, Suzuki S, Yamaji T, Iwasaki M, Sawada N, Goto A, Kinoshita K, Fuse N, Katsuoka F, Shimizu A, Nishizuka SS, Tanno K, Suzuki K, Okada Y, Horikoshi M, Yamauchi T, Kadowaki T, Yu H, Zhong J, Amundadottir LT, Doki Y, Ishii H, Eguchi H, Bogumil D, Haiman CA, Le Marchand L, Mori M, Risch H, Setiawan VW, Tsugane S, Wakai K, Yoshida T, Matsuda F, Kubo M, Kikuchi S, Matsuo K : Genome-wide association meta-analysis identifies GP2 gene risk variants for pancreatic cancer. *Nature Communications*, 11 : 3175, 2020.

006 衣斐寛倫 : MAPK シグナル経路を標的とする分子標的治療、がん分子標的治療 18, 193-198, 2021.

007 衣斐寛倫 : Driver 遺伝子に対し期待される新規薬剤 (6) 変異 KRAS に対する阻害薬、腫瘍内科 25 : 509-514, 2020.

008 足立雄太 : RAF/MEK 耐性 . 腫瘍内科 , 25 : 552-558, 2020.

